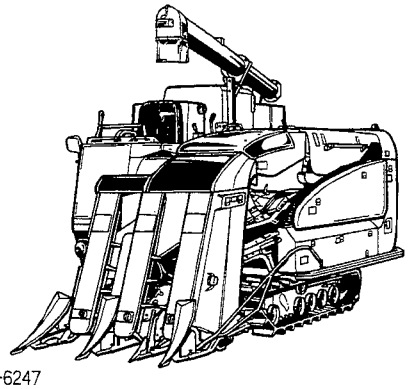
クボタコンバイン

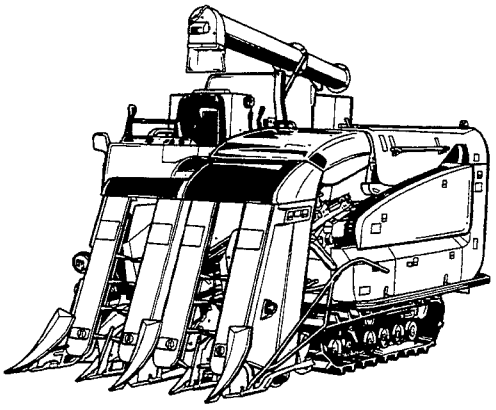
取扱説明書

スカイロードプロ

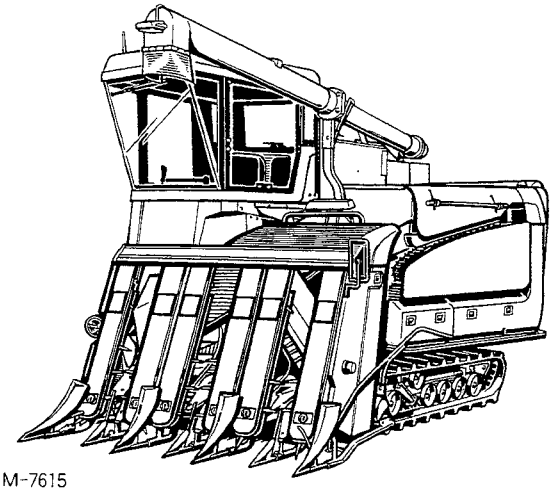
SR 35・40・45・50 55・65・75



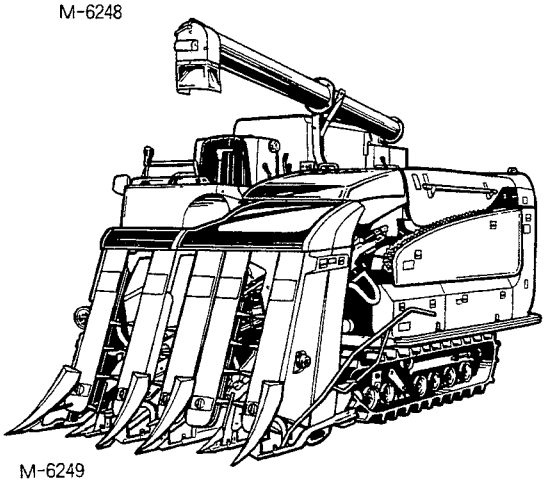
M-6247



M-6248



M-7615



M-6249

安全宣言
安全はクボタの願い

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですのでよく理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

ホーン

エンジン回転数“低速”

エンジン回転数“高速”

ウインカランプの操作方向

ヘッドランプ

ヘッドランプと作業灯

アンローダの移動方向，
車高移動の方向

エンジン停止

ブレーキ

燃料

水温

エンジン油圧

バッテリ充電

ウインカランプの作動を
点滅で示す

専門用語の説明

- グロー …… エンジンの始動を容易にするための予熱
- パワーステアリングレバー …… 油圧式の操向操作レバーと刈取部昇降レバー
- スピンターン …… 左右のクローラが互いに反対方向に駆動される旋回
- ソフトターン …… 左右のクローラの回転差で方向を変える旋回
- 超音波センサ …… 非接触で刈取部の高さを検出するセンサ
- デバイダ …… こくかんを分けすくい上げる部分
- ドレーン（プラグ） …… エンジンオイル・トランスミッションオイルの排油栓，ラジエータの水を抜く栓
- 刈取り一方クラッチ …… 前進のときに刈取部を駆動し，後進のとき刈取部の駆動を断つ部品
- ＨＳＴ …… 油圧式の無段変速装置
- アジャスト …… 調節を意味する
- 主変速レバー …… **“前進”** **“後進”**の切換え及びそのスピードをコントロールするレバー
- イージーチェッカ …… 詰まりなどのトラブルの箇所を表示する部分
- １番スクリュ …… 精選されたこく粒を横搬送するスクリュコンベア
- ２番スクリュ …… 粗選されたこく粒やわらくずを横搬送するスクリュコンベア
- チャフシーブ …… こく粒を粗選する桟状の板
- トウミ …… 選別風を発生させるファン
- グレンシーブ …… こく粒を精選するあみ体
- 送じん調節レバー …… こぎ胴内の作物移動速度を調節するレバー
- 排じん調節 …… 選別されたわらくずの排出に抵抗をかける板
- こぎ胴 …… 脱こくするドラム
- フィードチェーン …… 稲を狭持搬送するチェーンコンベア
- 縦スクリュ …… 精選されたこく粒を縦搬送するスクリュコンベア
- こぎ胴オープン …… こぎ胴を上に上げる機構
- 揺動板（シーブケース） …… 揺動運動してこく粒を選別する装置
- アンローダ …… グレンタンクから**“もみ”**を排出するスクリュコンベア

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は本製品の正しい取扱い方法，簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいてじゅうぶん理解され，お買上げの製品がすぐれた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになったあとも製品に近接して保存し，わからないことがあったときには取出してお読みください。なお，品質・性能向上あるいは安全上，使用部品の変更を行なうことがあります。その際には，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げの販売店に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

59700-8552-1

■注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ **危険**：注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。

⚠ **警告**：注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ **注意**：注意事項を守らないと，ケガを負うおそれのあるものを示します。

重要：注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補足：その他，使用上役立つ補足説明を示します。

本製品の使用目的について

本製品は，稲・麦の刈取り・収穫用の作業機としてご使用ください。
使用目的以外の作業や改造はしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は，保証の対象になりませんのでご注意ください。（詳細はサービスブックをご覧ください。）

仕様について

この取扱説明書では，仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買上げの製品の仕様をお確かめのうえ，お間違いのないようお願いいたします。

なお，説明は**“SR75GSSDR仕様”**を基本とし，**“SR75GSSDR仕様”**と取扱いが異なる場合はそのつど追加説明してあります。従って，機種及び仕様区分によっては付いていない装置の説明もあります。

【例】　SR75 G SSDR M T LW Q

①　②　③　④　⑤　⑥　⑦

①エンジン出力(PS)によって……
- “SR75”　“SR65”
- “SR55”　“SR50”
- “SR45”　“SR40”
- “SR35”

②
- グレンタンク仕様…… “G仕様”
- “G2仕様” (SR40·35)
- ホッパ仕様…… 表示なし(SR40·35)

③諸装置の仕様によって……（別表参照）
- “SSDR仕様”
- “SD仕様”
- “D仕様” (SR40)

④
- 自動車体水平制御装置付き(ニューマジカルモンロー)…… “M仕様”

⑤走行部の旋回方式によって
- ●スピン／ソフトターン式…… “T仕様”
- ●ブレーキターン式…… 表示なし

⑥クローラによって
- ●ロングワイドエリア形クローラ…… “LW仕様”
- ●ワイドエリア形クローラ…… “W仕様”

⑦キャビン付き…… “Q仕様”

⑧作物適応範囲(草丈の全長)によって
- ●550～1300（mm）…… 標準仕様
- ●500～1200（mm）…… “H仕様”

諸装置＼仕様		D	SD	SSDR	備考
自動化装置	自動こぎ深さ制御	○	○	○	
	自動方向制御	—	○	○	
	自動車速制御	—	○	○	
	自動刈高さ制御	—	—	○	
	自動脱こく制御	—	○	○	
	自動車体水平制御	○	※	○	※選択仕様
	自動レール制御	—	—	○	
	ポジピタ機能(刈取部ワンタッチ昇降)	—	○	○	
	刈取りオートクラッチ	—	○	○	
	エンジン正逆転ファン	—	○	○	SR75·65のみ
	自動エンジン停止	○	○	○	
	アンローダ自動旋回制御【G仕様】	○	○	○	
グレンタンク張出し開閉装置【G·G2仕様】		—	○	○	SR75·45【G】
		○	○	○	SR40·35【G2】
バイブロシャッタ【G仕様】		—	○	○	
集中注油装置（電動）		○	○	○	
防じんカバー		—	—	○	

コンバインを安全にしかも上手にご使用していただくため，この取扱説明書は次の手順で構成されていますので，基本操作から刈取り作業まで順番に理解習得してください。

まずは安全確保をしましょう

1．**⚠安全に作業するために：**安全作業をしていただくために基本的注意事項や警告ラベル・注意ラベルの機械への貼付け位置と警告・注意事項を解説していますのでよく読んで理解し，必ず守ってください。

動かす前に諸装置を理解しましょう

2．**諸装置の説明：**諸装置のはたらきをまず理解し，間違った操作をしないでください。

動かす前に機械の健康診断をしましょう

3．**運転前の点検：**作業中のトラブル防止のため，毎作業前の点検内容を理解し，必ず実施してください。

最初にエンジンの安全基本操作を体得しましょう

4．**エンジンの始動と停止：**機体の突然の発進をさせないため，エンジンの始動手順と停止を体得してください。

次にコンバインの安全走行のための基本操作を体得しましょう

5．**コンバインの運転：**

(1)安全に機体を前進・後進・停車させる基本操作を体得してください。

(2)毎作業前に点検を必ず実施してください。

(3)コンバインをほ場へ安全に移動させるため，安全装置の取付けや各装置の脱着や固定作業，トラックへの安全な積込み・積降しと輸送方法を理解し，必ず守ってください。

自動装置でコンバインの性能を最大に発揮させましょう

6．**自動装置の使い方：**各種自動装置のはたらきと扱いかたを体得してください。

では実際にほ場で刈取り作業を始めてみましょう

7．**上手な収穫作業のしかた：**作業前の諸装置の取付け，作物とほ場条件にあった各部の正しい調整，安全で正しい刈取り作業を体得してください。

よく働いた機械をいたわりましょう

8．**メンテナンス：**機械を長持ちさせるために，刈取りシーズン前後・長期格納時の注意事項や定期点検の要領を理解・実施し，来シーズンに備えてください。

コンバインがもしもの不調のときは

9．**コンバインの不調と処置：**異常や故障かな？と思われたとき，現象に応じて，処置をしてください。

目　次

⚠安全に作業するために…… ⚠-1

1. 安全作業をするため次のことがら
　　を必ず守ってください。 …… ⚠-1
2. ⚠表示ラベルと貼付け位置 …… ⚠-14
3. ⚠表示ラベルの手入れ …… ⚠-24

サービスと保証について …… 1

ご相談窓口 …… 1
機体方向説明 …… 2

諸装置の説明 …… 3

スイッチとメータパネル …… 3
メインスイッチ …… 4
コンビネーションスイッチ …… 4
ホーンスイッチ …… 4
コンバインメータ …… 4
イージーチェッカ …… 5
レベルメータ …… 6
運転装置 …… 7
主変速レバー …… 8
副変速レバー …… 8
アクセルレバー …… 8
パワーステアリングレバー …… 8
水平操作レバー【M仕様】 …… 9
ポジピタスイッチ …… 9
駐車ブレーキペダル …… 9
脱こくクラッチレバー …… 9
刈取りクラッチレバー …… 10
もみ排出クラッチレバー …… 10
わら作業切換えレバー …… 10
非常エンジン停止レバー …… 10
旋回切換えレバー【T仕様】 …… 11
刈取り掻込みペダル …… 11
手動こぎ深さスイッチ …… 11
アンローダレバー …… 11
自動装置 …… 12
エンジン正逆転ファン機構【SR65･75】 … 13
自動脱こく制御装置 …… 13
自動こぎ深さ制御装置 …… 13
刈取りオートクラッチ機構 …… 13
自動方向制御装置 …… 14
グレンタンク張出し開閉リモコンスイッチ
　【SR35G2･40G2･45･75】 …… 14
アンローダ自動旋回制御装置【G仕様】 … 14
自動刈高さ制御装置【SSDR仕様】 …… 15
自動車速制御装置 …… 15
自動車体水平制御装置【M仕様】 …… 15
自動レール制御装置【SSDR仕様】 …… 16
自動エンジン停止装置 …… 16

運転前の点検 …… 17

日常点検項目 …… 17
燃料の点検 …… 18
エンジンオイルの点検 …… 18
ラジエータ冷却水の点検 …… 18
エアクリーナの清掃 …… 19
イージーチェッカの点検 …… 19
防じんあみの点検 …… 19
ラジエータフィンの点検 …… 19
オイルクーラフィンの点検 …… 20
左サイドカバー内の清掃 …… 20
マフラ排気管の清掃 …… 20
集中注油装置による注油箇所 …… 20

エンジンの始動と停止 …… 24

エンジンの始動 …… 24
1. 駐車ブレーキをかける …… 24
2. 非常エンジン停止レバーを確認する …… 24
3. 各種レバー位置を確認する …… 25
4. メインスイッチの操作 …… 25
寒冷時のエンジン始動 …… 26
エンジンの停止 …… 27
燃料切れ後の再始動のしかた …… 27

コンバインの運転 …… 28

新車時の扱いかた …… 28
初期50時間のならし運転 …… 28
発進 …… 28
1. シートの調整 …… 28
2. バックミラーの調整 …… 28
3. ホーンスイッチの操作 …… 28
4. エンジンを始動する …… 28
5. 刈取部を上げる …… 29
6. 走行速度の選択 …… 29
7. 駐車ブレーキの解除 …… 29

8. コンビネーションスイッチの操作 …… 29
9. 発進と走行 …… 30
停車 …… 30
停車のしかた …… 30
エンジン運転中の異常点検 …… 31
1. コンバインメータによる点検 …… 31
2. イージーチェッカによる点検 …… 31
移動走行前の準備 …… 32
トラックへの積込み・積降し …… 34
輸送時の注意 …… 35

自動装置の使いかた …… 36

エンジン正逆転ファンの使いかた【SR65·75】 …… 36
自動切換えスイッチの使いかた …… 36
自動方向制御の使いかた …… 36
自動こぎ深さ制御の使いかた …… 37
自動レール制御の使いかた【SSDR仕様】… 38
自動刈高さ制御の使いかた【SSDR仕様】… 38
自動車速制御の使いかた …… 39
自動車体水平制御の使いかた【M仕様】 … 40
自動脱こく制御の使いかた …… 41
アンローダ自動旋回制御の使いかた …… 42
グレンタンク張出し開閉リモコンスイッチの使いかた【SR35G2·40G2·45·75】… 42

上手な収穫作業のしかた …… 43

コンバイン作業ができる作物とほ場の条件 …… 43
作物の条件 …… 43
ほ場の条件 …… 43
コンバイン作業前の準備 …… 44
ほ場の手刈り …… 44
手刈り作業を少なくする刈りかた【SSDR仕様】 …… 44
旋回切換えレバーの選択【T仕様】 …… 45
刈取りオートクラッチ機構の取扱い …… 45
グレンタンクの取扱い …… 45
左分草かんの取扱い …… 46
排わら処理装置の選択 …… 46
リヤシュートの取扱い …… 46
拡散装置の取扱い【拡散付きカッタ仕様】 …… 47
作物条件に応じた各部の調整 …… 48
引起し爪高さの調整 …… 48
右爪ガイドの調整 …… 48
デバイダの調節方法 …… 48
引起し変速・副変速の選定 …… 48
分草ガイドの取付けかた …… 49
穂先ガイドの取外し調整について【SR75】… 49
こぎ深さ調整について【H仕様】 …… 49
各プレートの取付け …… 50
グレンタンク排出調整板の調整 …… 51
予備作業灯用電源の使いかた …… 51
コンバイン作業について …… 51
作業中の注意事項 …… 51
アクセルレバー操作のしかた …… 51
パワーステアリングレバー操作のしかた … 51
ポジピタスイッチ操作のしかた …… 52
副変速レバー操作のしかた …… 53
脱こくクラッチレバー操作のしかた …… 53
脱こく部の操作のしかた …… 53
刈取りクラッチレバー操作のしかた …… 54
刈取部の条合わせのしかた …… 54
ほ場内での旋回のしかた …… 55
あぜぎわ刈取り作業のしかた …… 55
刈取り方法 …… 56
刈取り作業の手順 …… 56
ほ場の大きさによる刈りかた …… 56
手刈りの脱こくのしかた …… 57
こく粒排出作業のしかた …… 57
カッタの取扱いについて …… 59
カッタ作業とドロッパ作業・ばら落し作業の切換え …… 59
切断長切換えのしかた …… 59
コンバイン作業の注意事項 …… 59
イージーチェッカによる点検 …… 59
オーバヒート時の注意事項 …… 60
刈取り作業中の注意事項 …… 60
アンローダが詰まった場合 …… 60
けん引フックについて …… 61
1日の作業終了後の注意事項 …… 61

メンテナンス …… 62

定期点検と処置 …… 62
定期点検と調整一覧表 …… 63
定期交換一覧表 …… 65
点検・給油（水）一覧表 …… 68
各部の開閉のしかた …… 69
エンジンルームオープン …… 69
こぎ胴オープン …… 69
グレンタンクオープン …… 70
カッタオープン …… 71

各部の脱着のしかた …… 72
刈取部の脱着 …… 72
シーブケーススライドの脱着 …… 73
カッタ部の脱着 …… 75
機内の掃除のしかた …… 76
掃除口の箇所 …… 77
バッテリのメンテナンス …… 78
バッテリの点検と交換 …… 78
各部グリース・オイルの補給 …… 80
刈取部 …… 80
脱こく部 …… 80
刈取り一方クラッチのグリース …… 80
車体水平制御アーム軸受け部への
グリース【M仕様】及びトラック
ローラ部のオイル …… 81
アンローダ部へのグリース …… 81
脱こくチェーン駆動ケースのオイル …… 82
定期点検と調整 …… 83
エンジンオイルの点検と交換 …… 83
トランスミッションケースオイル
の点検と交換 …… 84
油圧オイルタンクオイルの点検と交換 …… 84
レール台ブッシュ部への注油 …… 84
ラジエータホースの点検 …… 85
フューエルパイプの締付け点検 …… 85
オイルドレーンゴムホースの締付け点検 … 85
ファン駆動ベルトの点検・調整 …… 86
防じんあみ，ラジエータフィン，
オイルクーラフィンの清掃 …… 86
インレットパイプ類の締付け点検 …… 87
駐車ブレーキ関係 …… 87
パワーブレーキワイヤの調整 …… 87
脱こくクラッチの調整 …… 88
刈取りオートクラッチワイヤ及び
刈取りクラッチの調整 …… 88
排わら切換えワイヤの調整 …… 89
ワイヤハーネス，バッテリ
⊕コードの点検 …… 89
電気配線とヒューズの点検・交換 …… 90
ランプ(電球)の点検 …… 90
ホーンスイッチの点検 …… 90
ケーブル(メータケーブル)の点検 …… 91
クローラテンションの調整 …… 91
各部のベルト調整 …… 92
突起付きベルトの調整 …… 93
グレンタンク駆動ベルト・
もみ排出クラッチワイヤの調整 …… 94
拡散駆動ベルトの調整
【拡散付きカッタ仕様】 …… 95
右穂先チェーンの調整【SR55·65·75】 …… 95
左穂先チェーン・
中穂先チェーンの調整 …… 95
引起しチェーンの調整 …… 95
刈刃の調整 …… 96
左株元チェーンの調整 …… 97
右株元チェーンの調整 …… 97
株元供給チェーンの調整 …… 97
中株元チェーンの調整【SR55·65·75】 …… 97
深さチェーンの調整 …… 98
フィードチェーンの調整 …… 98
排わら株元チェーンの調整 …… 98
排わら穂先チェーンの調整 …… 98
排わらチェーン押えの調整 …… 98
樹脂受あみ
(弓金・取付けボルト含む)の点検 …… 99
カッタ刃の調整 …… 100
切断軸・供給軸のナット増締め …… 102
定期交換 …… 103
エアクリーナエレメントの交換 …… 103
ホース・パイプ類の交換 …… 103
フューエルフィルタの交換 …… 104
エンジンオイルフィルタ
カートリッジの交換 …… 104
インレットパイプ類の交換 …… 105
駐車ブレーキワイヤの交換 …… 105
駐車ブレーキシューの交換 …… 105
パワーブレーキワイヤの交換 …… 105
脱こくクラッチワイヤの交換 …… 105
刈取りクラッチワイヤの交換 …… 105
刈取りオートクラッチワイヤの交換 …… 106
もみ排出クラッチワイヤの交換 …… 106
排わら切換えワイヤの交換 …… 106
HSTオイルフィルタ及び
油圧オイルフィルタ
カートリッジの交換 …… 106
HST吸入フィルタの洗浄・交換 …… 107
ケーブル(メータケーブル)の交換 …… 107
足回り部品の定期交換 …… 107
駆動スプロケットの交換 …… 107
突起付きベルトの交換 …… 108
カッタ駆動ベルトの交換 …… 108
拡散駆動ベルトの交換
【拡散付きカッタ仕様】 …… 108
右穂先チェーンの交換 …… 108
左穂先チェーンの交換 …… 108

引起しチェーンの交換 …… 108
引起し爪の交換 …… 108
引起し65ローラの交換 …… 108
引起しスライドレールの交換 …… 109
引起しテンションスプロケットの交換 … 109
引起しクッションゴムの交換 …… 109
左株元チェーンの交換 …… 109
右株元チェーンの交換 …… 109
株元供給チェーンの交換 …… 109
中穂先チェーンの交換【SR55･65･75】… 109
中株元チェーンの交換【SR55･65･75】… 109
深さチェーンの交換 …… 109
フィードチェーンの交換 …… 110
排わら株元チェーンの交換 …… 110
排わら穂先チェーンの交換 …… 110
排わらチェーン押えの交換 …… 110
刈刃の交換 …… 110
株元センサの交換 …… 111
穂先センサ(1・2)の交換 …… 111
わら切刃の交換 …… 111
排わら穂先搬送爪の交換 …… 112
こぎ歯の交換 …… 112
ツース(2番コテイバ)の交換 …… 112
スクリュ軸(2番タテ)の交換 …… 113
フロントハンプの交換 …… 114
樹脂受あみの交換
(弓金・取付けボルト含む) …… 114
打抜きあみの交換 …… 114
グレンタンク駆動ベルトの交換 …… 114
縦スクリュ軸の交換 …… 115
カッタ刃の交換のしかた …… 115
長期格納のしかた …… 118
各部の清掃と補修 …… 118
ラジエータ冷却水 …… 118
バッテリ …… 119
各種レバー類とその他 …… 119
使用者が行なってはいけない修理 119
使用済廃棄物の処分について …… 119
コンバインの不調と処置 ……**120**
付表 ……**130**
主要諸元 …… 130
付属部品 …… 148
特別付属品(別売) …… 148
消耗部品 …… 150
型式検査(国検)成績表 …… 164
クボタ純オイル …… 171
ラットガード …… 172

⚠ 安全に作業するために

必ず読んでください。

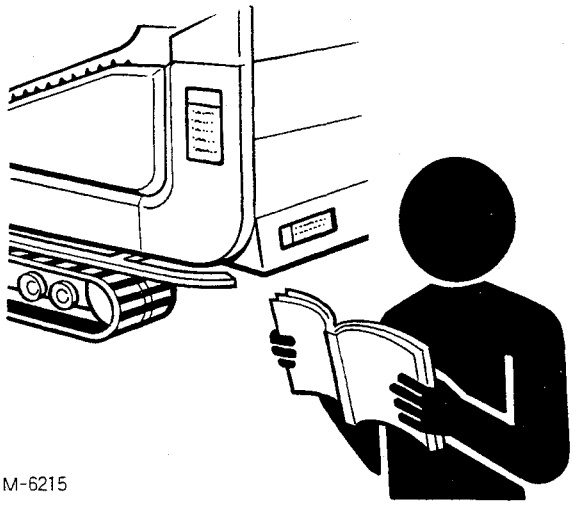
本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業していただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠危険・⚠警告・⚠注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

1．安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください。

安全指示順守

■本書及び機械の警告ラベル・注意ラベルをよく読み理解してください。

- 警告ラベル・注意ラベルはいつもきれいにしておいてください。
- 破損・紛失したときは，注文して再度貼付けてください。
- 正しい運転，作業方法を覚えてください。
- 製品を勝手に改造しないでください。安全性をそこなったり，機能や寿命低下の原因になります。
- 本書記載事項以外についても，安全には細心の注意を払ってください。



M-6215

適格者運転

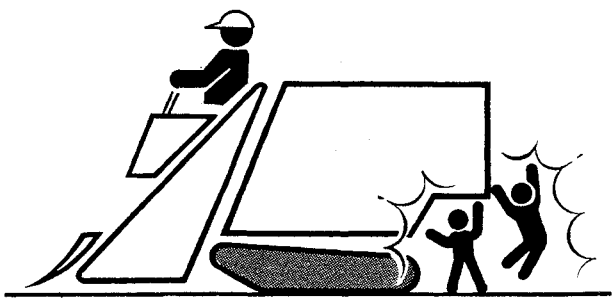
■運転操作には的確な判断が必要です。

- お酒を飲んでいる方，睡眠不足の方，妊娠中のご婦人，16才未満の方，過労，病気の人は使用しないでください。
- 初めて運転する人は，操作に慣れるまで低速で運転してください。

M-6216

子供が近づくのは危険

■点検・整備中及び収穫作業中，機械に子供を近づけないでください。みえないところでコンバインにさわったり，かくれたりして危険です。



M-6217

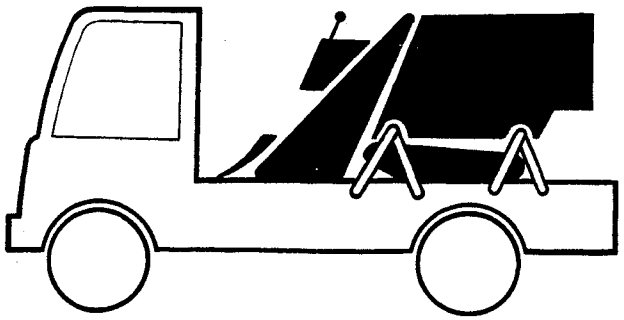
⚠ 安全に作業するために

移動走行

■道路を走行するときは，小型特殊自動車の法規を守り安全運転をしてください。

- 小型特殊自動車の型式認定を取得(ナンバプレート取付)していない場合や結束機・スイスイデバイダ・キャノピを装着しているコンバインは，**“道路運送車両法”**に適合していないので公道を走ることができません。移動するときはトラック輸送(**“移動走行について”**の項参照)してください。

■公道を走行するときは，“大型特殊自動車”の運転免許証を必ず所持してください。

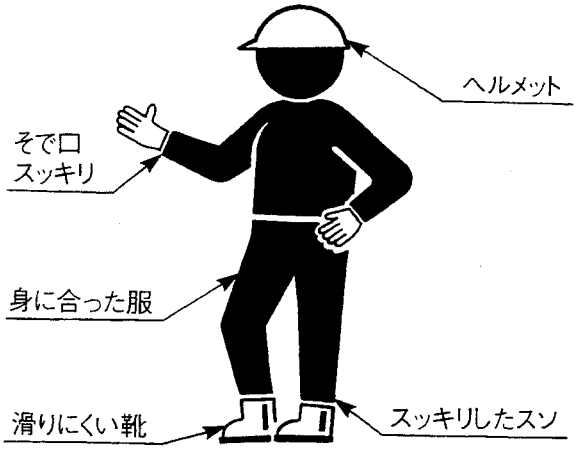


M-6218

安全な服装

■運転者・補助者とも作業に適した服を着用してください。

- レバーや作動部に誤って引っ掛かり，ケガをすることがありますのでだぶついた服は，着用しないでください。
  また，そで口はきっちりと止めてください。
- はち巻き，首巻き，腰タオルの着用は禁止です。
- サンダル，スリッパなどの履物の着用は禁止です。



M-6219

排気ガスに注意

■エンジンの排気ガスは有毒です。

- 屋内で運転するときは，適切な換気をしてください。
- 排気管を屋外に延長するか，ドアや窓を開け，外気がじゅうぶん入るようにしてください。

F-8842

燃料の取扱いは安全に—火気厳禁

■燃料は非常に燃えやすく危険です。取扱いにはじゅうぶん注意してください。

- 燃料補給するときはエンジンを必ず止めてください。
- 燃料補給中は火気厳禁です。くわえタバコや裸火照明は近づけないでください。
- 燃料やオイルをこぼしたときは，きれいにふきとってください。

B-1499

定期点検整備

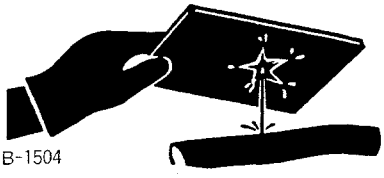
■１年ごとに定期点検整備を受け，各部の保守をしてください。

- フューエルパイプ，ラジエータホース，オイルドレーンゴムホースは２年ごとに交換してください。（**“定期交換”**の項参照）
- 電気配線は毎年点検してください。（**“定期点検と調整”**の項参照）

■高圧噴油が皮ふに浸入すると危険です。

- 燃料噴射管や油圧パイプなどからの高圧油のもれは厚紙や板などを使って点検してください。高圧噴油に直接，手や体を触れないようにしてください。
  もし，高圧噴油に触れた場合，直ちに医者の診断を受けてください。油が皮ふに浸入した場合，数時間以内に取除かないと壊疽(えそ)にかかるおそれがあります。

F-8847



B-1504

⚠ 安全に作業するために

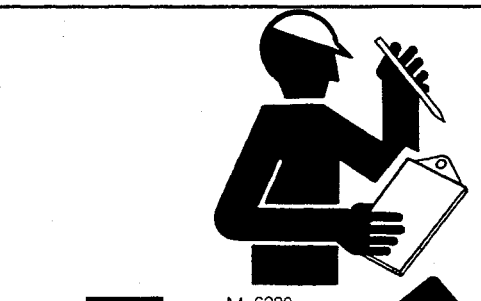
作業前点検（日常点検）の実施

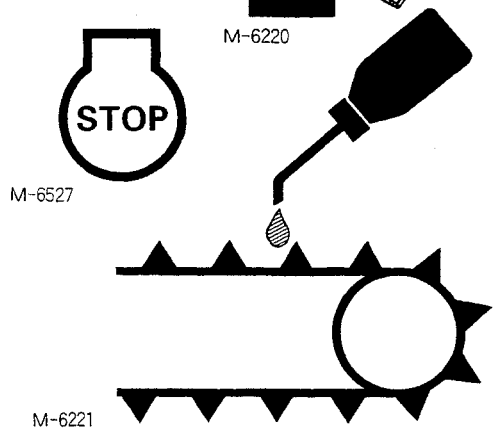
■運転の前には点検項目（“日常点検項目”の項参照）の点検をしてください。異常があれば整備してから運転してください。

■点検・整備・調整・掃除・給油・グリースアップするときはエンジンを必ず止めてください。

- 脱こくクラッチ・刈取りクラッチは**“切”**にし，駐車ブレーキを掛けてください。
- マフラ部周辺・ベルトカバー内・配線部・バッテリ周辺にわらくずがたまっていると火災の原因となりますのできれいに取除いてください。
- 燃料・オイル・グリースは指定のものを使ってください。

■取外した安全カバー，保護カバーは必ず取付けて作業してください。


M-6220



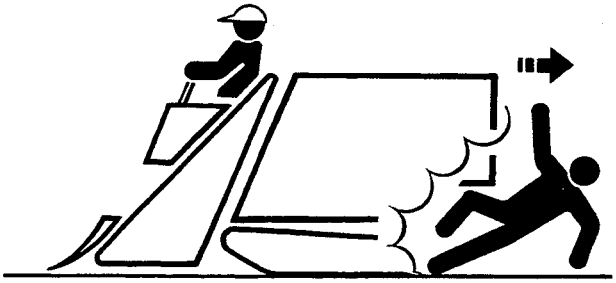
M-6527

M-6221

機械を動かす場合は安全に注意

■機械を動かす場合は周囲の安全に気をつけてください。

- エンジンを始動するときは，運転座席に必ず座って，変速レバーを**“中立”**にし各クラッチを**“切”**にし，ホーンを鳴らすなどの合図をしてください。
- 機械を発進するときや各クラッチを入れるときは，ホーンを鳴らすなどの合図をして，機械に人を近づけないでください。
- 前進・後進・旋回するときは，必ず周囲の安全を確認してください。


M-6236

安全なトラック輸送

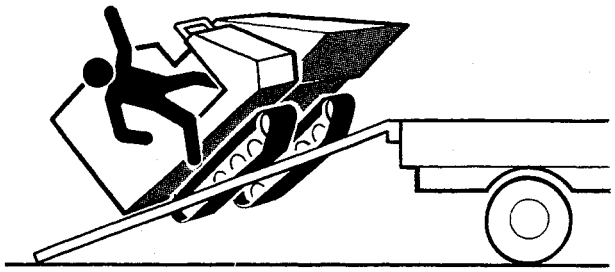
■積込み・積降しはトラックの駐車ブレーキをしっかり掛けてください。

■トラックへの積込み・積降しは，平地を選んで，最低速で行なってください。

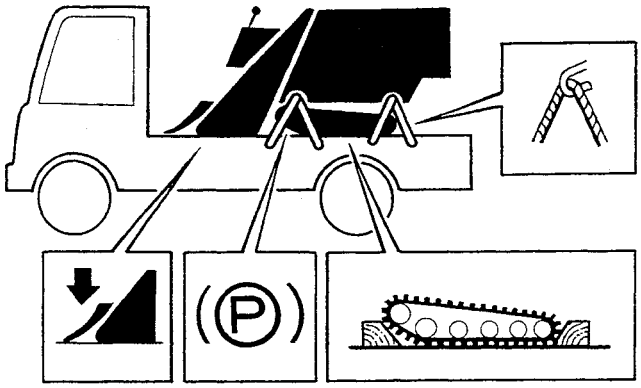
- あゆみ板はフックが付いているものを使用し，トラックの荷台に段差のないように確実に掛けてください。また，あゆみ板は段差の４倍以上の長さで，すべり止めがあり，強度がじゅうぶんある基準にあったものを使ってください。
- あゆみ板は平行において，安定していることを確認してください。
- グレンタンク内・ホッパ内のもみは空にしておいてください。
- M仕様(自動車体水平制御)は機体を一番下げた状態にしてください。
- 積込みは前進で，積降しは後進で行なってください。
- あゆみ板の途中でパワーステアリングレバー・副変速レバー・駐車ブレーキを操作すると，機械の移動方向が変化したり，急降下，落下する危険がありますので操作しないでください。方向を変えるときは，いったん地上又は荷台にもどって方向を修正し，再度上り下りし直してください。

■トラックの上では刈取部を床まで降し駐車ブレーキを掛け，車止めをし，ロープでしっかり床に固定します。

- 防じんカバーが開いていると風圧で破損・脱落のおそれがありますので，必ず閉じてください。
- グレンタンクのアンローダはアンローダ支えを下げて収納し，バンドで固定してください。（延長アンローダの場合は折りたたんでください。）
- 輸送中の急発進・急ブレーキ・急ハンドルは積荷が動いて危険ですから，絶対しないでください。



M-6223



M-6224

あゆみ板の基準

長　さ		トラックの荷台の高さの４倍以上
幅	SR75以外	60cm以上
	SR75	65cm以上
数　量		２枚
強度	SR75以外	１枚が2800kg以上の重量に耐えうる
	SR75	１枚が3000kg以上の重量に耐えうる

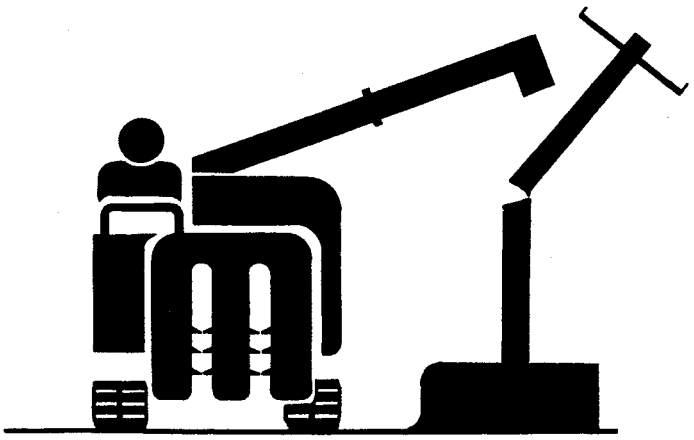
▲ 安全に作業するために

安全な移動走行

■補助デッキ・左分草かんを収納して機体幅をせまくしてください。

- 刈取部の先にデバイダカバーを取付けてください。
- アンローダを下げ，アンローダ支えに収納してバンドを掛け，浮上がりを防いでください。
- 各作業クラッチを切り，運転者以外乗らないでください。
- M仕様(自動車体水平制御)は，機体を一番下げた状態にしてください。

■もみはすべて排出，又は降ろしてください。

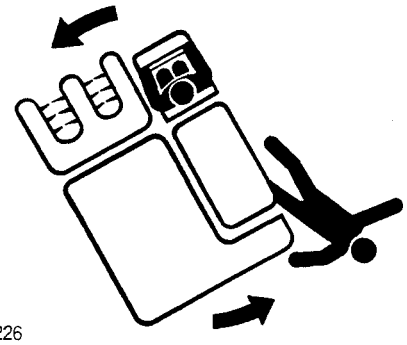


M-6225

高速走行の場合の注意

■高速走行するときに，急激なパワーステアリングレバーの操作をすると急旋回し危険です。

- 方向を変えるときは速度を低速にしてください。

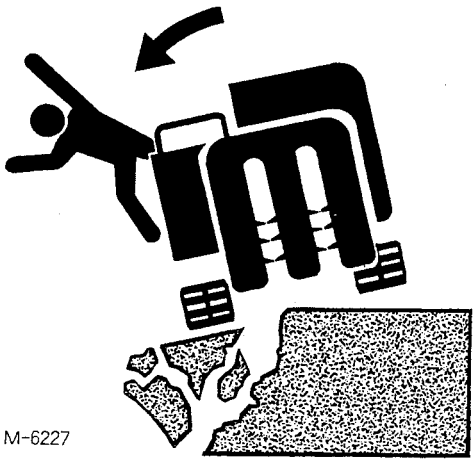


M-6226

転倒・転落注意

■転倒・転落は重大事故になります。

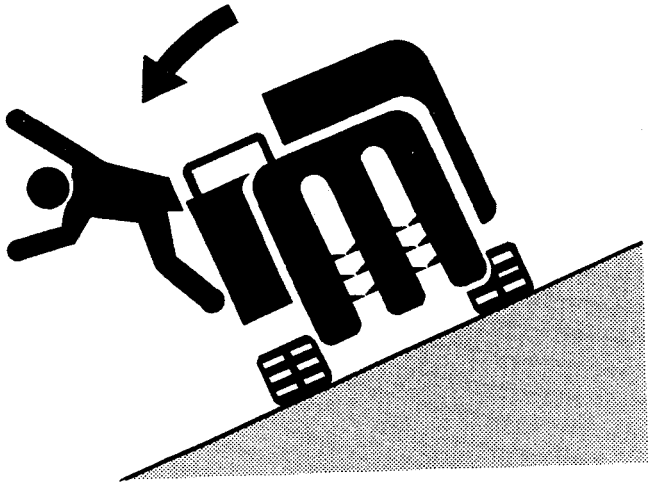
- 溝・穴・土手の近くは路肩が弱いことがあり，コンバインの重みでくずれる場合がありますので，走行しないでください。
- 道幅に余裕がなく高所にある道路（土手）で運転を誤ると，転落して死亡事故になることがありますので走行しないでください。
- 刈取り作業時以外(特にあぜ越時，移動走行時，運搬時，格納時)は，**“もみ”**をすべて排出，又は降ろして各作業クラッチを**“切”**にし，M仕様(自動車体水平制御)は，機体を一番下げた状態にしてください。



M-6227

■坂道走行・ほ場の出入口・傾斜地作業は転倒・転落の危険があります。注意しましょう。

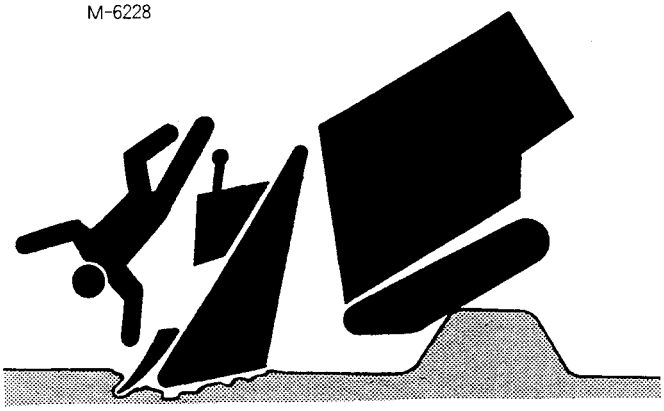
- 坂道の途中や傾斜地では速度を落としペダル・変速レバー・パワーステアリングレバーを操作しないでください。
- 斜め走行は危険です。機械を傾斜の方向に合わせた作業（走行）をしてください。
- 坂道・傾斜地で旋回はしないでください。



M-6228

■10cm以上の段差のあるところでは，段差の4倍以上の長さですべり止めがある基準に合ったあゆみ板を使ってください。

- 低速で段差に直角に進入してください。
- 途中でペダル・変速レバー・パワーステアリングレバーの操作はしないでください。



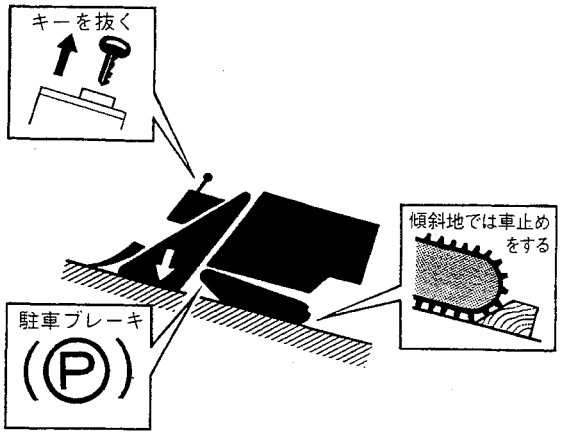
M-6229

⚠ 安全に作業するために

安全な駐車のしかた

■駐車するとき(運転席を離れるとき)は，駐車ブレーキを掛け，刈取部を地面に当るまで降しキーを抜いてください。

- 傾斜地に駐車するときは，車止めをしてください。



M-6230

運転者以外の搭乗禁止

■運転者以外の人を乗せて運転しないでください。

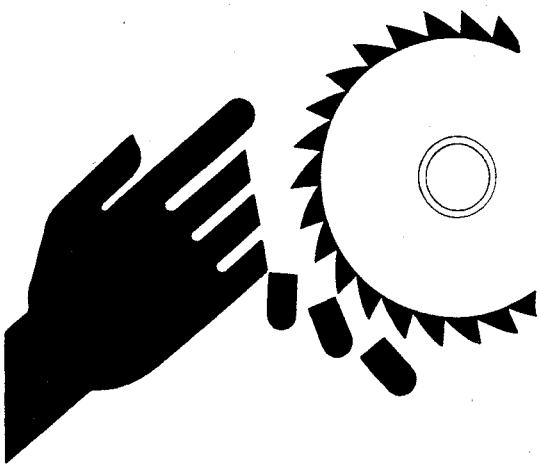
- ふり落とされたり，障害物にぶつかったりすることがあり危険です。
- 運転者は動いているコンバインにとび乗ったり，とび降りたりしないでください。

M-6231

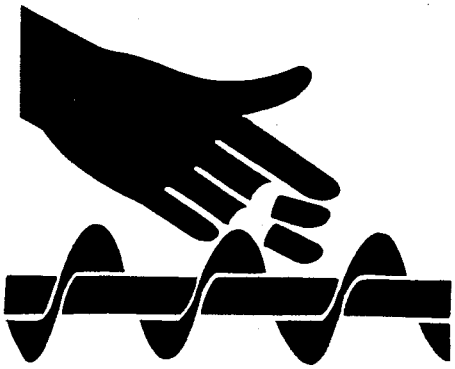
安全な収穫作業

■異常に気づいたらすぐエンジンを止めてください。

- 危険な作動部が多くありますので運転中にわらの巻付きや詰まりを取除くことはしないでください。エンジンを必ず止めて処置してください。
- カッタや結束機にわらが詰まったときは，すぐ各クラッチを切りエンジンを止めて処置してください。
- カッタに詰まったわらなどを取除くときは，厚手の手袋をして，少しずつ取ってください。素手で刃先には触れないでください。
- ベルトカバー・チェーンカバーなどの内部には危険な回転物があります。カバーの下に手を入れたり，カバーを外したままで運転しないでください。
- 各部の掃除口，点検窓の内部には高速回転物があり危険です。掃除口や点検窓を開けるときはエンジンを必ず止めてください。

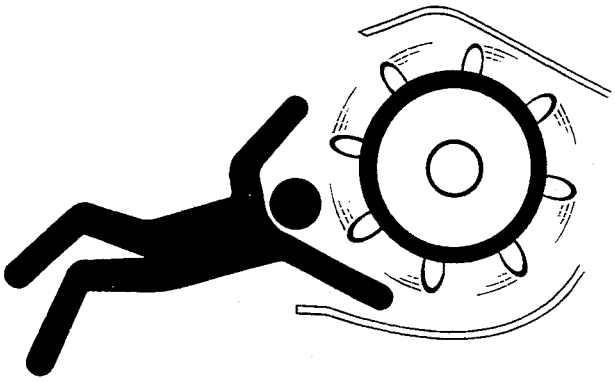


M-6232



M-6233

■こぎ胴をオープン・エンジンルームをオープン・カッタをオープン・グレンタンクをオープン・結束機をオープンしたままエンジン・脱こく機・カッタを回転させると非常に危険です。各部をオープンしたままエンジンを始動してはいけません。また，エンジン回転中は各部をオープンしてはいけません。



M-6234

▲ 安全に作業するために

安全な手こぎ作業

■コンバインの走行部・刈取部を止めて手と腕をチェーンの外側に位置させ，わらを少量ずつ送り込むこと。

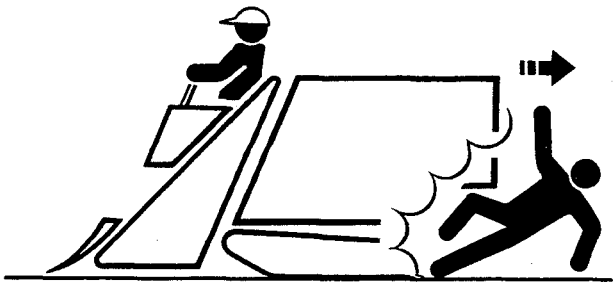
- そで口がスッキリした服で，手袋は使用しないでください。

M-6235

共同作業の安全確保

■補助者は運転席からみえにくい位置にいることがあります。補助者の安全にも配慮してください。

- エンジン始動時，各クラッチを入れるときはホーンで合図し，補助者のＯＫをもらってください。
- 補助者がコンバインに近づくときは，運転者に知らせることを徹底させてください。

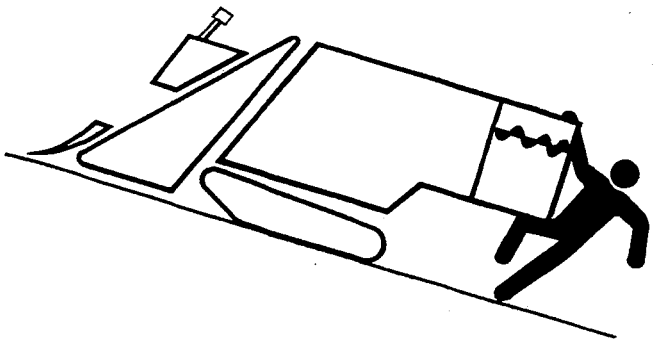


M-6236

オープン注意

■こぎ胴，カッタ，結束機，エンジンルーム，グレンタンクをオープンするときは，エンジンを必ず止めて，平たんな場所で行なってください。

- 傾斜地でオープンすると，開閉時にいきおいよく動いて，機体の変形やケガをするおそれがあります。



M-6464

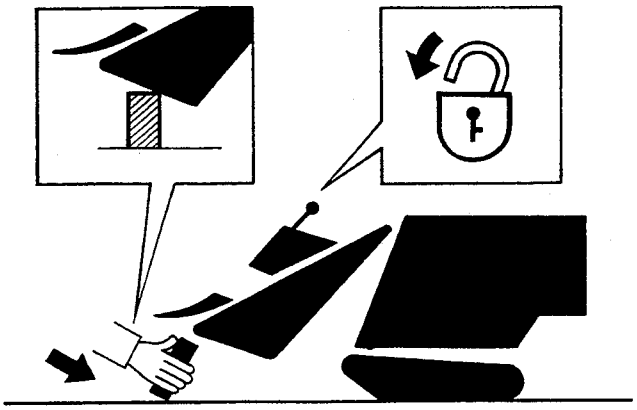
安全な点検・整備

■点検・整備は水平で平たんな場所で行なってください。

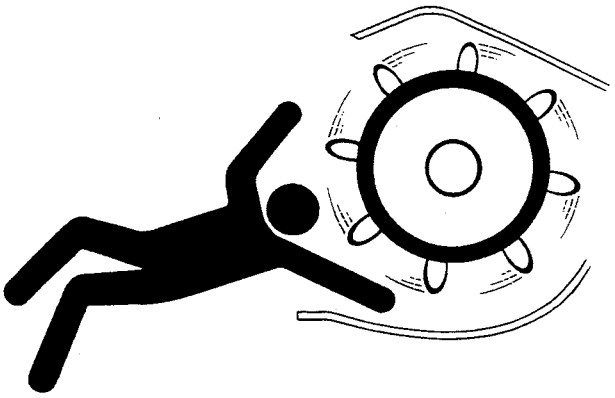
■エンジンをかけたままでの点検・整備・清掃は危険です。エンジンを必ず止めて，駐車ブレーキを掛けてください。

- 刈取部を上げて点検・調整・清掃をするとき，昇降部をロックするとともに，落下防止の歯止めをしてください。
- 刈取部の下へもぐったり，足や手をつっこんだりしないでください。
- 刈取部の刈刃・カッタ部のカッタ刃を交換するときは手袋を着用し，刃先に手が触れないようにしてください。

■こぎ胴をオープン・エンジンルームをオープン・カッタをオープン・グレンタンクをオープン・結束機をオープンしたままエンジン・脱こく機・カッタを回転させると非常に危険です。各部をオープンしたままエンジンを始動してはいけません。また，エンジン回転中は各部をオープンしてはいけません。



M-6237



M-6234

⚠ 安全に作業するために

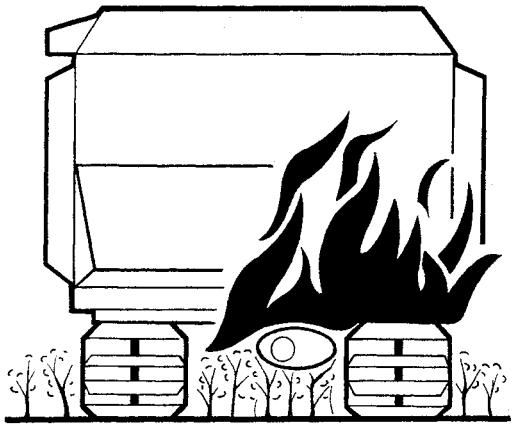
火災防止

■わらくずは燃えやすく注意が必要です。

- エンジン本体・マフラ周辺・ベルトカバー内側配線部・バッテリ周辺にわらくずがたまっていると危険です。作業前，作業後に点検しきれいに取除いてください。
- 運転後わらくずの上や枯れた雑草の上に停車すると，火災のおそれがありますのでさけてください。

■機体にカバー（おおい）をかけるときは，エンジン・マフラが冷えてからかけてください。停止直後にカバーをかけると火災のおそれがあります。

■電気配線の被覆が破れるとショートして火災が発生するおそれがあります。点検をして破れている部分は修理が必要です。



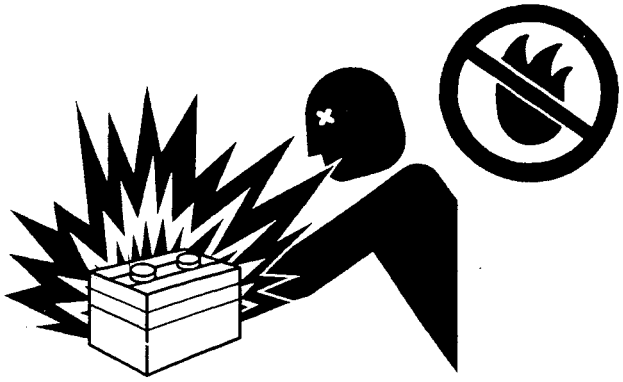
M-6238

バッテリの取扱い注意

■バッテリのガスは爆発のおそれがあります。

- バッテリの近くに裸火（マッチ，ライター，タバコの火など）を近づけたり，ケーブルのショートによるスパークをさせないでください。

■バッテリはエンジン始動用ですから，他の用途には使わないでください。



F-8836

■バッテリの充電時，交換時は，バッテリの注意ラベルをよく読んでください。

- バッテリを取外すときは，最初にマイナス（⊖）側のケーブルを取外してください。
  バッテリを取付けるときは，最初にプラス（⊕）側のケーブルをプラス（⊕）側の端子に取付けてください。
- 充電は，機械から取外して行なってください。
- 密閉状態で充電を行なうと破裂するおそれがあり危険です。
- 指定外のバッテリは使わないでください。

■バッテリ液（希硫酸）に触れると危険です。

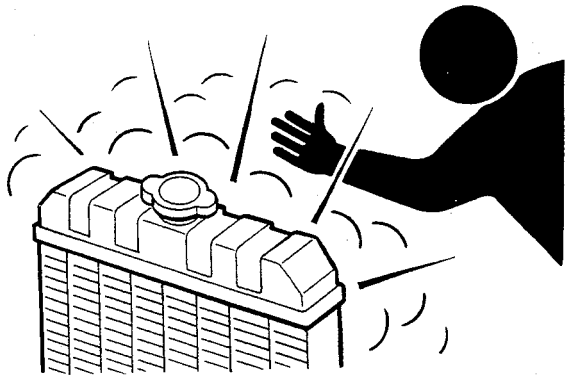
- 目，皮ふ，衣服についたときは，すぐに水でよく洗ってください。
- 目に入ったときは，水でよく洗った後，医師に治療を受けてください。

M-6465

ヤケド防止

■過熱された冷却水あるいは蒸気が皮ふに触れるとヤケドします。

- 運転後のエンジン・ラジエータ・リザーブタンク中の冷却水は，過熱，加圧され高温あるいは蒸気になっています。エンジン停止後30分以上経過してからエンジンルームを開け，ラジエータキャップを徐々にゆるめて蒸気の圧力を抜いてから作業してください。



B-1503

■高温の油が皮ふに触れるとヤケドをします。

- 運転中エンジンオイル・油圧オイルは高温になります。エンジン・ホース・配管およびその他の部品も高温になっています。また残圧による油のふき出しやプラグ・ネジのとび出しによるケガのおそれがあるためじゅうぶんに温度が下がって，残圧がないことを確かめて整備してください。

■エンジン本体・マフラ・排気管も高温になります。運転中及び停止直後は触れないでください。

B-1502

このコンバインを他人に貸すときは

■取扱説明書をよく読んでいただくとともに，取扱い方法・安全な使いかたを説明して，安全な作業ができるように指導を行なってください。

⚠ 安全に作業するために

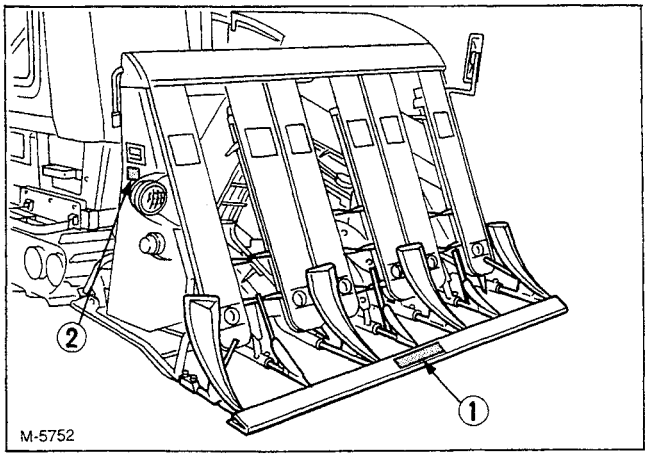
2．⚠表示ラベルと貼付け位置

①品番　59700-4332-2

⚠注意	デバイダ先端に当たるとケガをするおそれがあるので、移動するときは必ず本品を取り付けること。

②品番　53981-6432-1

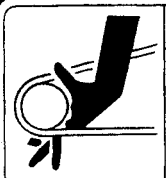
⚠ 注　　意
中に回転物がありケガをするので、 点検・調整時はエンジンを必ず止めること。 点検・調整後はカバーを必ず取付けること。



①品番　59700-2136-2

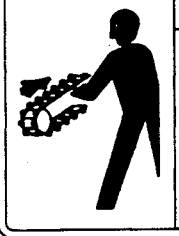
⚠注意	人に当たりケガをさせるおそれがあるので、移動するときは必ず収納すること。

②品番　53981-6436-2



⚠ 注　　意
1．回転物に接触するとケガをするおそれがあるので、カバーの下側に手を入れないこと。 2．点検・調整時はエンジンを必ず止めること。 3．点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

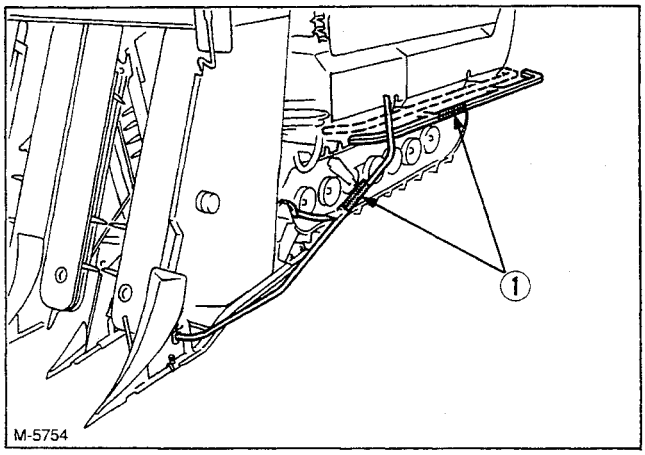
③品番　53981-6435-2

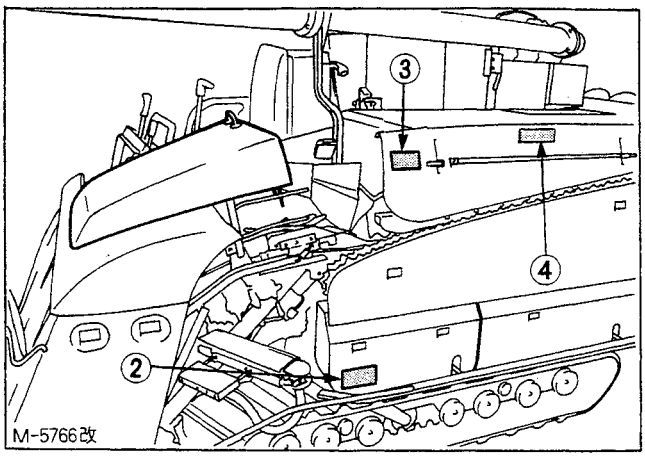


⚠ 警　　告
1．わら等の巻付き・詰まり除去のときは、エンジンを必ず止めること。 2．手こぎ作業で、手・腕をチェーンにはさまれてケガをするおそれがあるので、下記を守ること。 ・平坦な所で走行部・刈取部を止めること。 ・手・腕をチェーンの外側に位置させ、わらを少しづつ送り込むこと。

④品番　53982-6431-1

⚠ 警　　告
中で扱歯が高速で回転しているので、接触するとケガをします。扱胴オープンするときにはエンジンを必ず止めること。





①品番　53981-6432-1

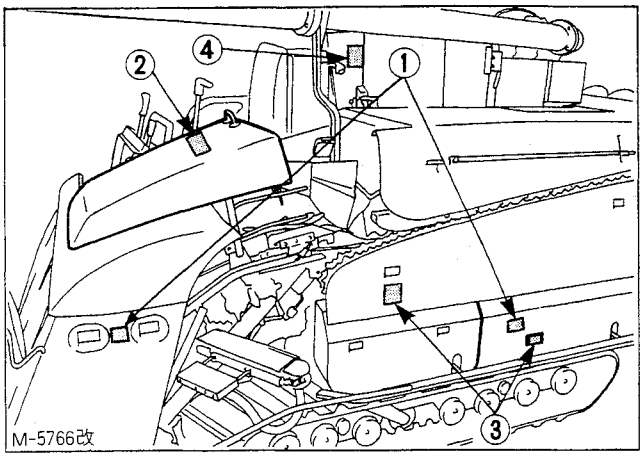
⚠ 注　　意

**中に回転物がありケガをするので、
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。**

②品番　52000-7917-2

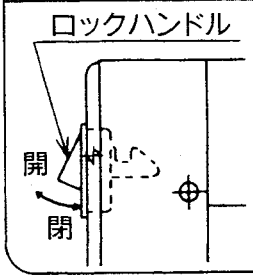
⚠ 注　意

トラックで輸送するときは，風圧でカバーが浮き破損・脱落し，ケガをさせるおそれがあるので，刈取部を下げて，ボウジンカバーを閉じ，ロープ等で浮き上がりを防ぐこと。



③品番　57745-5319-1

⚠注意



**1.このカバーを閉じる場合、ロックハンドルを必ず閉位置にすること。
2.ロックが確実にされていないと、落下し危険です。**

④品番　58071-8173-1

⚠ 注 意

1.手をはさみ，ケガをするおそれがあるので，アンローダササエの上に手を置かないこと。

2.アンローダ先端が大きく動き，ケガをするおそれがあるので，アンローダの作用範囲に人がいるときは，アンローダを動かさないこと。

①品番　53690-3129-2

⚠ 注　意

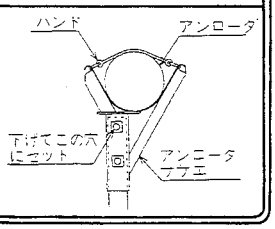
中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手を入れないこと。

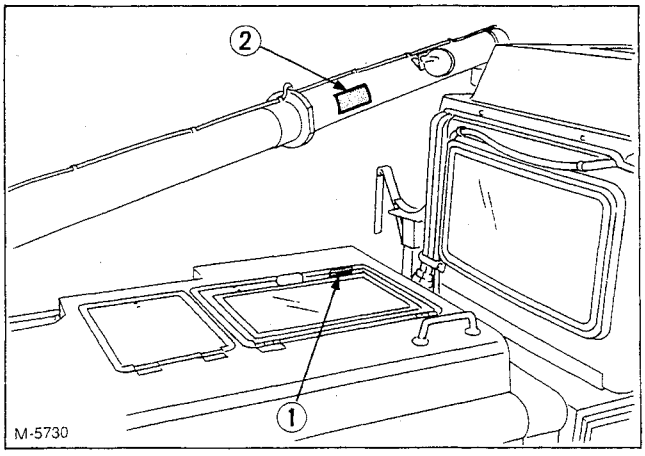
②品番　58062-7113-3

⚠ 注　　意

あぜ越え，移動走行時及びトラック等で輸送する場合，アンローダがササエから外れると人や物に当たり，ケガや損傷のおそれがあるのでアンローダは必ず，次の通りに収納固定すること。

**1.アンローダササエを下げてセットする。
2.アンローダを収納する。
3.アンローダが浮き上がらないようバンドで確実に固定する。**





⚠ 安全に作業するために

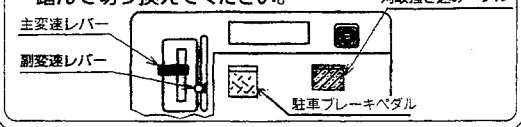
①品番　59700-4381-4

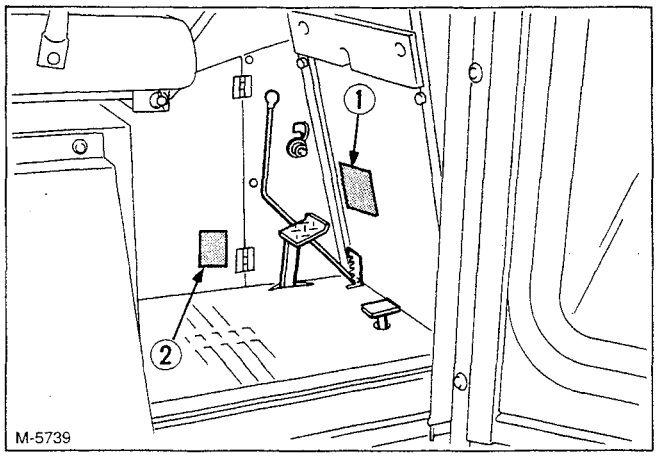
⚠ 注　意

1.主変速レバーが「停止位置にない」ときに刈取掻き込みペダルをはなすと、急発進してケガをするおそれがあるので主変速レバーを必ず「停止」にすること。
2.刈取掻き込みペダルを傾斜地やあゆみ板の上で踏むと暴走するので踏まないこと。

刈取掻き込みペダルの使用方法

1. 刈取掻き込みペダルは、エンジン回転2000rpm以上で使用してください。
2. あぜ際で機体を停止したまま穀稈を掻き込むときだけ、下記の手順に従って操作してください。
①刈取クラッチ・脱こくクラッチを「入」のまま主変速レバーを「停止」にする。
②刈取掻き込みペダルをいっぱい踏み込み続ける。
③刈取部が穀稈を掻き込むまで主変速レバーを前進側へゆっくり倒す。
④主変速レバーを「停止」に戻す。
⑤掻き込み作業が終わったら刈取掻き込みペダルをはなす。
3. 副変速レバーおよび旋回切り換えレバーが切り換えにくい場合は、刈取掻き込みペダルをいっぱい踏んで切り換えてください。





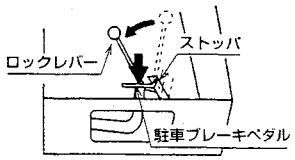
②品番　59700-4323-5

⚠ 注　意

1.駐車ブレーキをかけるときは，副変速レバーを必ず「中立以外の位置」に入れること。
※副変速レバーが「中立」では，油圧ロックが作動しないため，坂道で駐車ブレーキを解除すると暴走し危険です。
2.坂道で駐車するときは，暴走を防ぐため，必ず車止めをすること。

駐車ブレーキの取り扱い

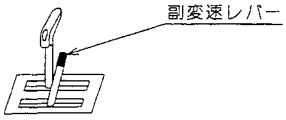
主変速レバーを完全に停止位置に戻してから，駐車ブレーキペダルを強くいっぱいに踏んでロックレバーで駐車ブレーキペダルに必ずストッパをかけてください。

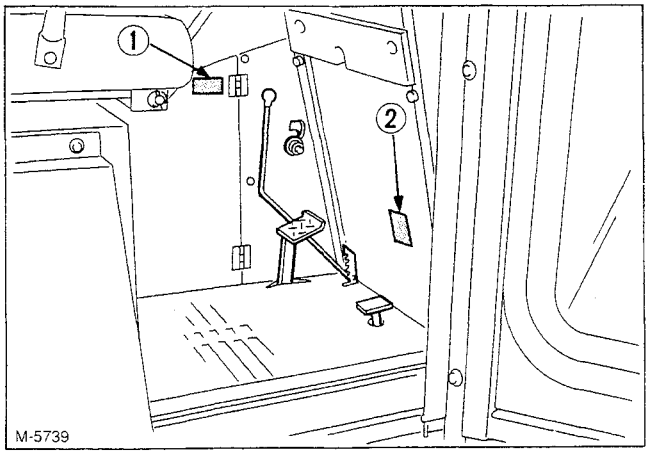


①品番　59700-4382-2

⚠ 注　意

坂道で副変速レバーを操作すると機械が，暴走するおそれがあるので，絶対に操作しないこと。

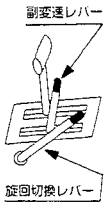




①品番　52270-4382-4（T仕様）

⚠ 注　意

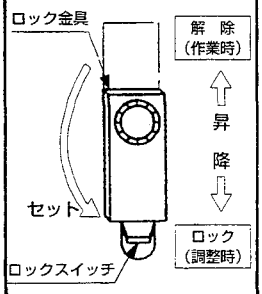
1.運転開始時や駐車ブレーキの操作時は，旋回切換レバーを「ソフトターン」「スピンターン」のどちらかに確実に入れること。
※旋回切換レバーが確実に入っていないときは，駐車ブレーキが効きません。また，発進すると自動的にエンジンが止まります。
2.坂道で副変速レバーを操作すると機械が，暴走するおそれがあるので，絶対に操作しないこと。



②品番　59700-4327-2

⚠ 注　意

刈取部を上げて点検・調整を行うときには、刈取部が不意に下降してはさまれることがあるので、ロックスイッチを下げて必ずロック金具をセットすること。



⚠ 安全に作業するために

①品番　59700-4337-6

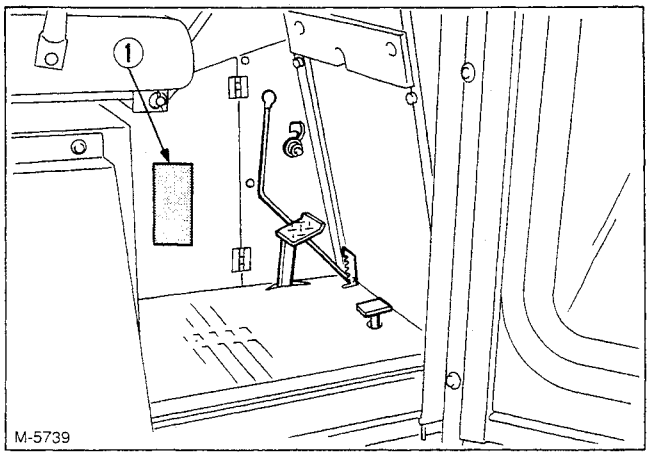
⚠ 注　意

作業前
1.安全に作業するために，取扱説明書を読んで，機械の使い方を覚えること。
2.エンジンを始動するときは，各クラッチを切り，主変速レバーを「停止」にすること。
3.屋内は排気ガスが溜まり易く，ガス中毒の危険があるので換気すること。
4.ケガをするおそれがあるので，掃除・点検・調整のときは，各クラッチを切りエンジンを必ず停止すること。

移動・作業中
1.発進するときや脱こく部・刈取部を作動するときは，周囲の安全を確かめ合図して，機械に人を近付けないこと。
2.転落・転倒事故の危険があるので，傾斜地・路肩の軟弱な道路・ガケ際などは走行しないこと。
3.走行を停止するときは，主変速レバーを操作して「停止」の位置にすること。
※主変速レバーのノブを握ると「停止」の位置がわかりにくくなるので，ノブを握らないこと。
4.道路交通法規定により，トラック運搬時（特にキャビン付）は，地上高3.8 m以下で運行すること。
5.刈取作業時以外(あぜ乗越時，移動走行時，運搬時，格納時)は，「もみ」をすべて排出または降ろして，各作業クラッチを"切"にし，M仕様(車体水平制御)は，機体を一番下げた状態にすること。

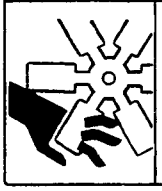
積込 ・積降ろし
1.転倒・転落事故の危険があるので，車への積み込みおよびあぜ越えは以下を守ること。
①積み込むときは前進で，降ろすときは後進にすること。
②副変速を倒伏にし，エンジンの回転を落として(2000rpm 以上)，低速にすること。
③あゆみの上ではパワーステアリングレバーを操作しないこと。方向を変えるときは，いったん地上または荷台に戻って向きを正し，再度やり直すこと。
④あゆみ板は段差の 4 倍以上の長さで，すべり止めがあり，基準に合ったものを使用すること。

駐・停車
1.火災の危険があるので，機械を停止するときは，切りワラや雑草の上に止めないこと。
2.急発進・暴走の危険があるので，副変速レバーを切り換えるときは，平坦な場所で主変速レバーを「停止」の位置にし，駐車ブレーキペダルをいっぱい踏むこと。
3.機械から離れるときは，エンジンを止めて始動キーを抜き，駐車ブレーキを必ずロックすること。また，坂道で駐車するときは車止めをして暴走を防ぐこと。

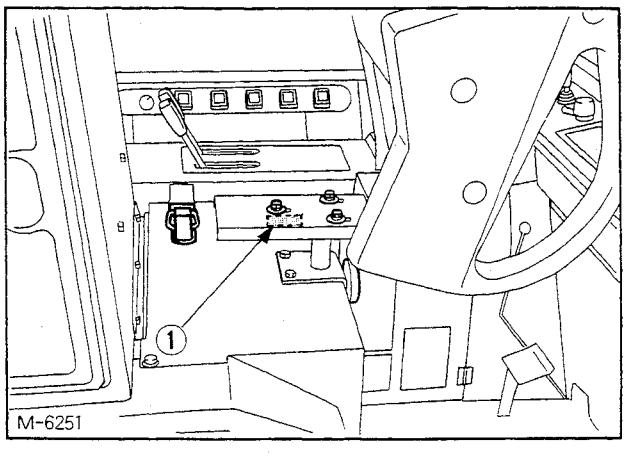


①品番　52320-3166-1

⚠ 注　意



エンジンを回転したままエンジンルームを開けると、ファンやベルトでケガをするおそれがあるので、エンジンルームを開けるときは、エンジンを必ず止めること。

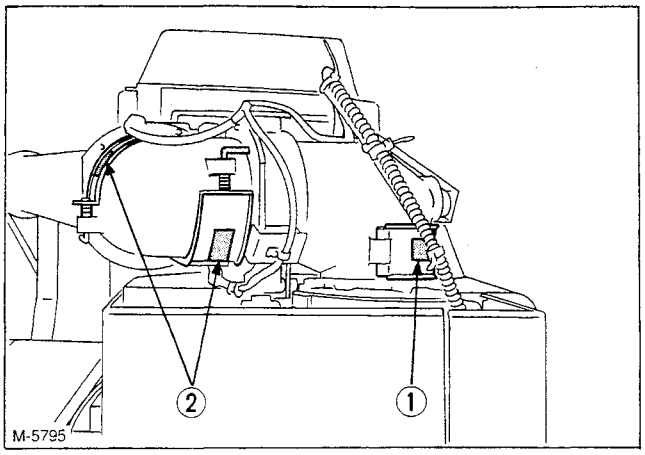


①品番　53981-6434-1

⚠ 注意

掃　除　口

中に回転物がありケガをするので、
清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。

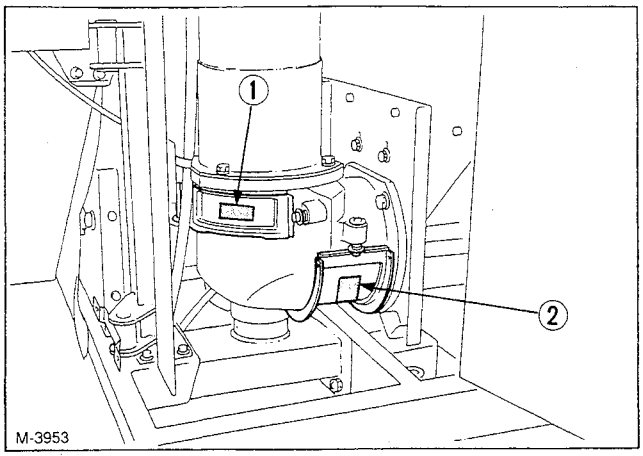


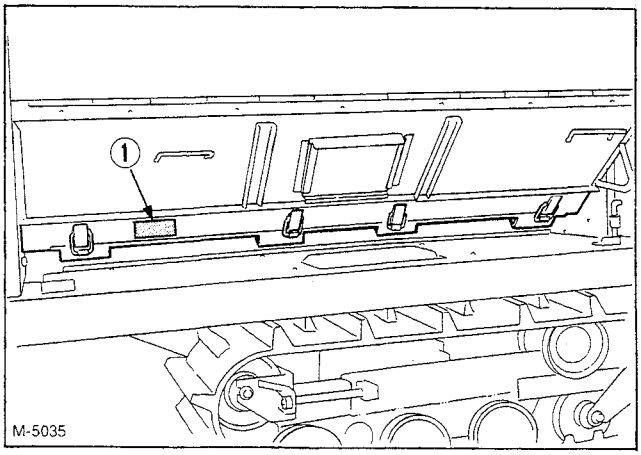
②品番　58071-8174-1

⚠ 注意

掃除口

中に回転物があり、ケガをするので、清掃時はエンジンを必ず止めること。清掃後はフタを必ず閉じること。





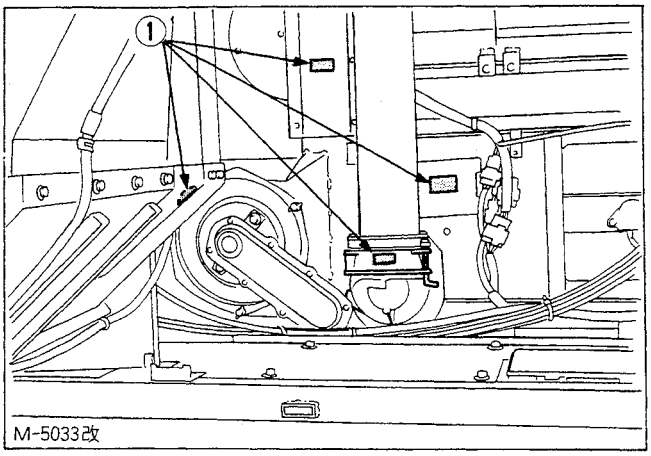
▲ 安全に作業するために

①品番　53981-6434-1

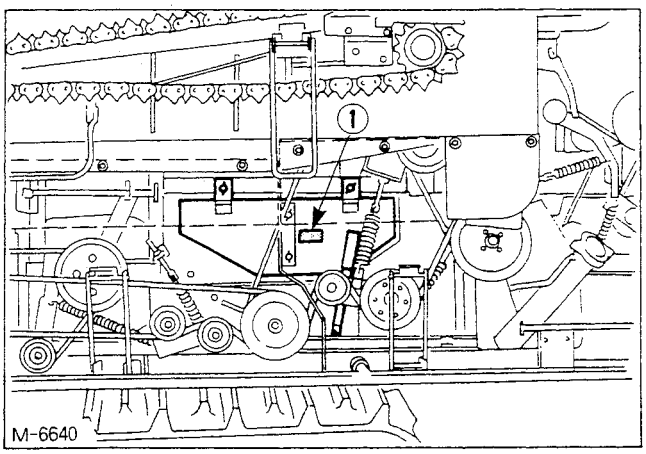
▲ 注意

掃　除　口

中に回転物がありケガをするので、
清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。



M-5033改

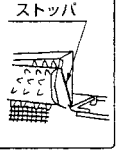


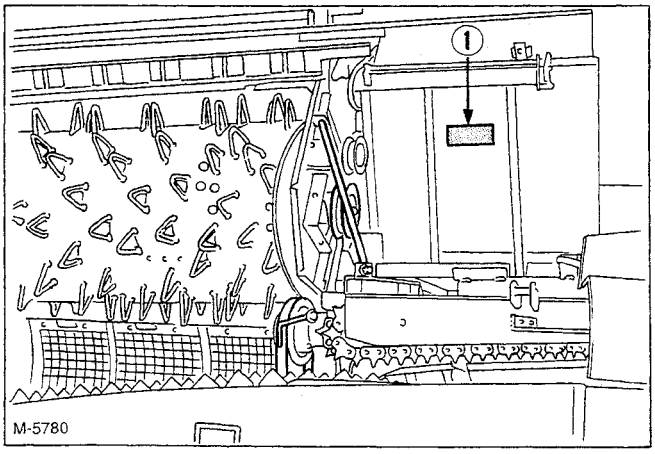
M-6640

①品番　53981-6416-2

▲ 警　告

1. 扱胴オープンした状態で脱こく機を回転させると非常に危険です。エンジンは、絶対に始動しないこと。
2. 扱胴をオープンして、受網の脱着や扱室の掃除をするときは扱胴が落下して身体がはさまれることがあるので、ストッパで必ず固定すること。



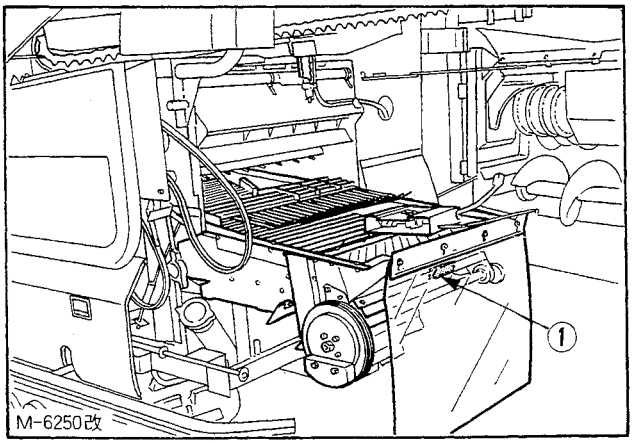


M-5780

①品番　53981-6433-1

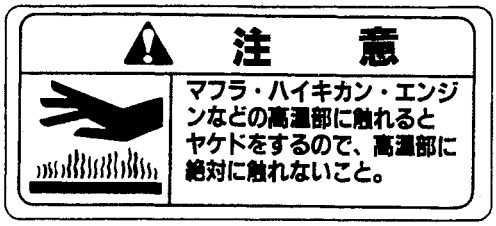
▲ 注　意

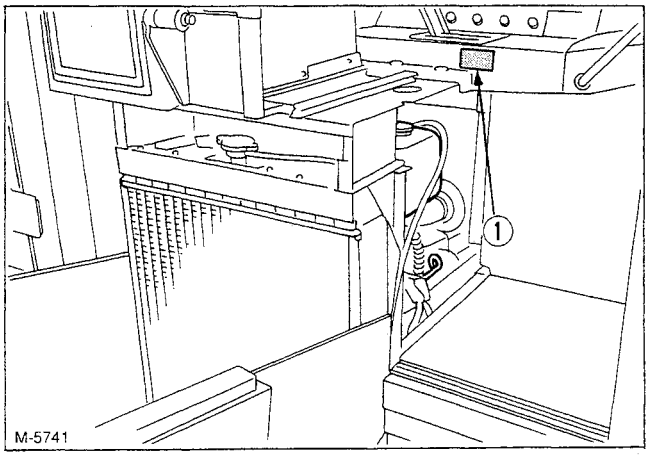
シーブケースは重いので脱着作業は2人で行うこと。



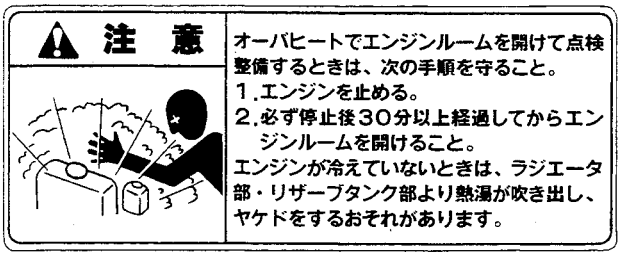
M-6250改

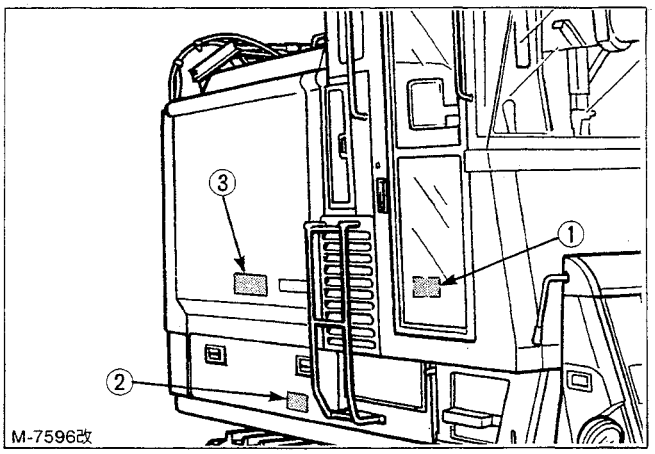
①品番　52320-3159-1



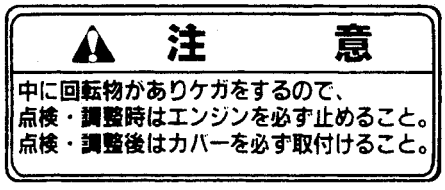


①品番　56431-5219-4

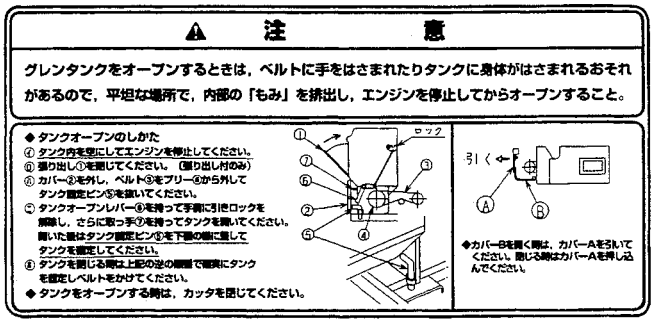




②品番　53981-6432-1



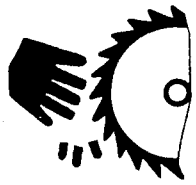
③品番　59715-6314-2



▲ 安全に作業するために

①品番　57745-5315-3

▲警告



1. このカバーの中は刃物が回転しており危険なので、手を絶対に入れないこと。
2. ワラ・雑草などの巻付きや詰りを取除くときは、エンジンを必ず止めること。

②品番　57298-7415-1

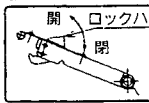
▲注　意

1. カバーの中には危険な回転物があるので，手を絶対に入れないこと。
2. ワラ・雑草などの巻付きや詰りを取除くときはエンジンを必ず止めること。

③品番　57749-5315-1

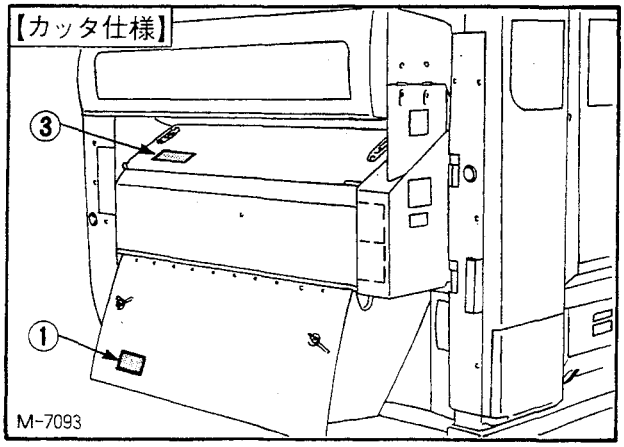
▲警告

1. このカバーの中は刃物が回転しており危険なので、手を絶対に入れないこと。
2. 点検・調整、わら・雑草などの巻付きや詰りを取除くときはエンジンを必ず止めること。
3. 点検・調整などが終わったら、危険ですのでカバーを元通りに必ず戻すこと。



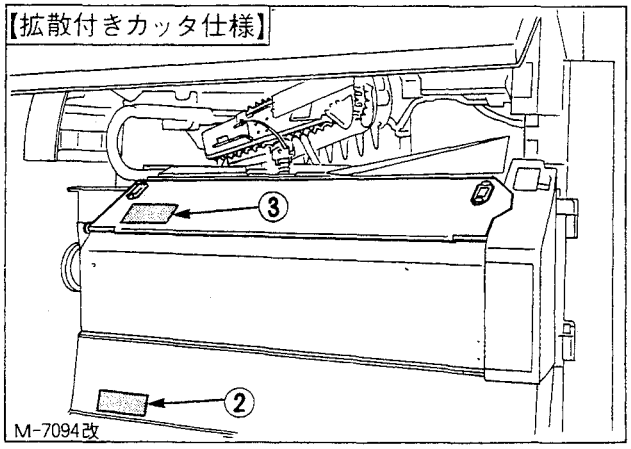
1. このカバーを閉じる場合、ロックハンドルを必ず「閉」位置にすること。
2. ロックが確実にされていないと、エンジンをかけ脱こくクラッチを入れるとエンジンが停止します。

【カッタ仕様】



M-7093

【拡散付きカッタ仕様】

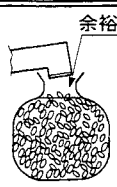


M-7094改

①品番　59715-6425-2【G仕様】

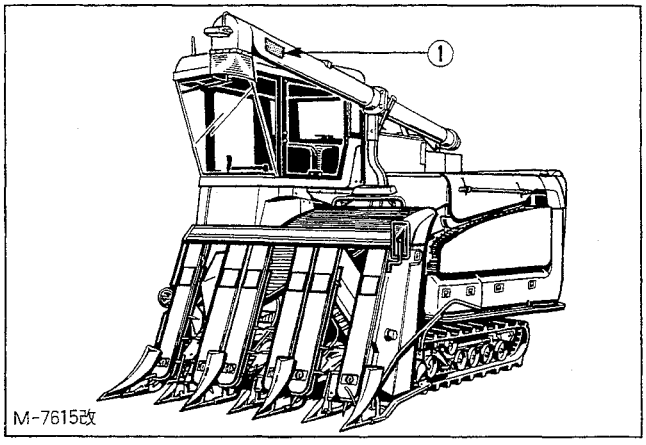
▲注　意

中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手を入れないこと。



袋詰め時、余裕を持って排出クラッチを切ること。

アンローダが詰まると、駆動系統の故障の原因になります。

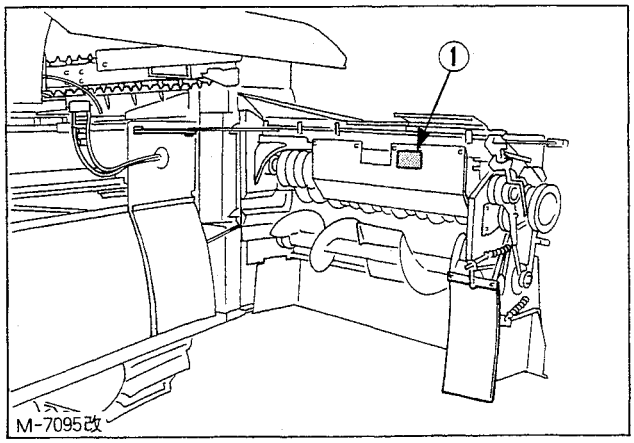


M-7615改

①品番　57745-5124-1

⚠注意

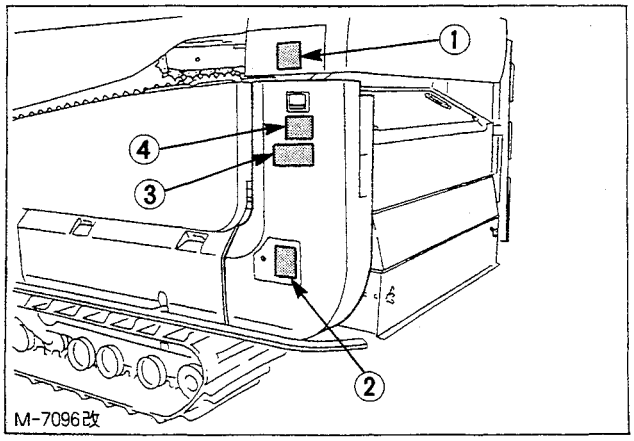
1. カッタをオープンしたら、不用意な動きを防ぐため規制金具で確実にロックすること。
2. カッタの刃に触れると手・指を切るので、巻付きや詰りを取除くとき刃に絶対触れないこと。



①品番　53981-6188-2

⚠警告

1. カバーの中に回転物がありケガをするので手を絶対に入れないこと。
2. ワラ・雑草などの巻付や詰りを取除くときは、エンジンを必ず止めること。



②品番　52166-2575-1

⚠注　意

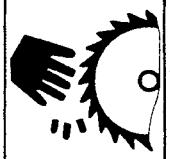
火気厳禁

・火災のおそれがあるので給油するときはエンジンを止めること。

ディーゼル軽油

③品番　57745-5314-2

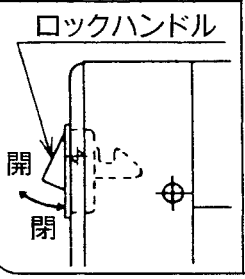
⚠警告



1. カッタの刃に接触すると手・指を切断するおそれがあるので，手を絶対に入れないこと。
2. チェーン・ベルトに接触すると，手をケガするので，手を絶対に入れないこと。
3. カッタ開閉時はエンジンを必ず止めること。
4. カッタをオープンしたまま運転しないこと。
5. 点検・調整，ワラ・雑草などの巻付きや詰りを取除くときはエンジンを必ず止めること。
6. 点検・調整などが終わったら，カバーを元通りに必ず取り付けること。

④品番　57745-5319-1

⚠注意



1. このカバーを閉じる場合、ロックハンドルを必ず閉位置にすること。
2. ロックが確実にされていないと、落下し危険です。

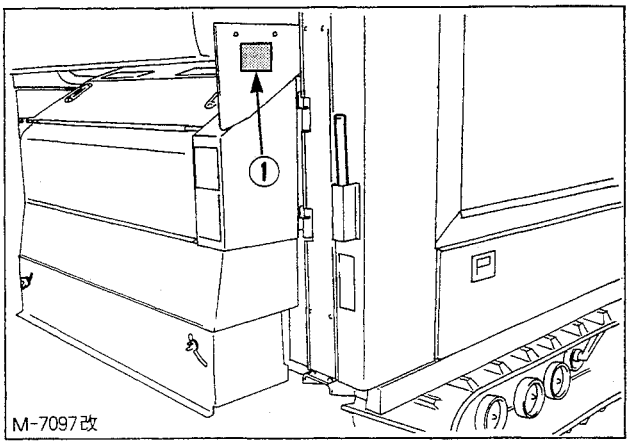
⚠ 安全に作業するために

必ず読んでください。

①品番　53981-6191-1

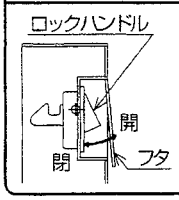
⚠警告

1. カッタの刃に接触すると手・指を切断するおそれがあるので、手を絶対に入れないこと。
2. ワラ・雑草などの巻付きや詰りを取除くときは、エンジンを必ず止めること。
3. カッタ作業時は、カバーを必ず閉じること。

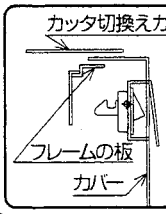


②品番　57745-5522-1

⚠注意

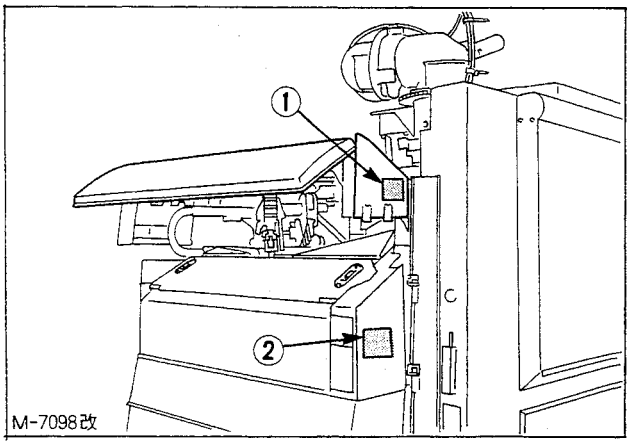


1. 中に回転物がありケガをするので、点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
2. 点検・調整後はカバーを必ず取付けること。
3. このカバーを閉じる場合、ロックハンドルを必ず閉位置にすること。
4. ロックが確実にされていないと、落下し危険です。



カバーの取付方法

1. このカバーを閉じる場合、必ずカッタ切換えカバーとフレームの板との間に入れてください。
2. 間違って上側に入れると、カッタ作業に切換えた時、カバーが変形します。



3．⚠表示ラベルの手入れ

(1)ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布でふいてください。
シンナーやアセトンなどの溶剤を使うと，文字や絵が消えることがありますので絶対に使わないでください。

(2)高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剝がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。

(3)破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。

(4)新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全にふき取り，乾いた後，もとの位置に貼ってください。

(5)ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証について

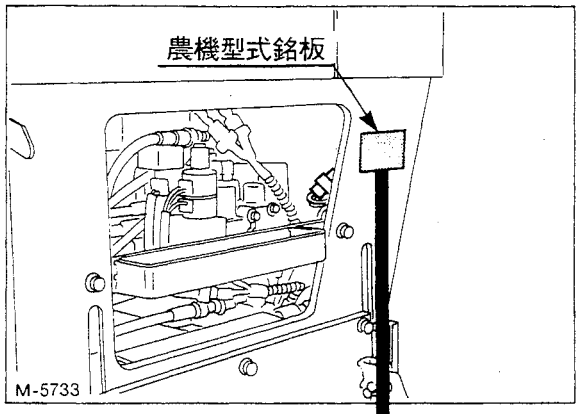
この製品には，サービスブックが添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

■ご相談窓口

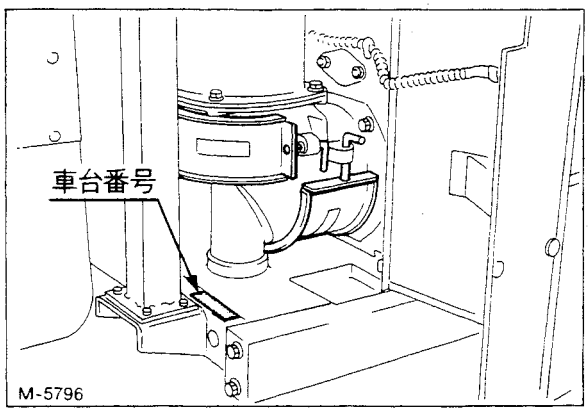
ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた販売店・ＪＡ農協・弊社支店又は㈱クボタアグリにそれぞれ**“ご相談窓口”**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際 (1) 商品名・区分と車台番号
(2) とう載機関の型式名と機関番号
をあわせてご連絡ください。
なお，部品ご注文の際は，販売店・ＪＡ農協・弊社支店又は㈱クボタアグリに純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

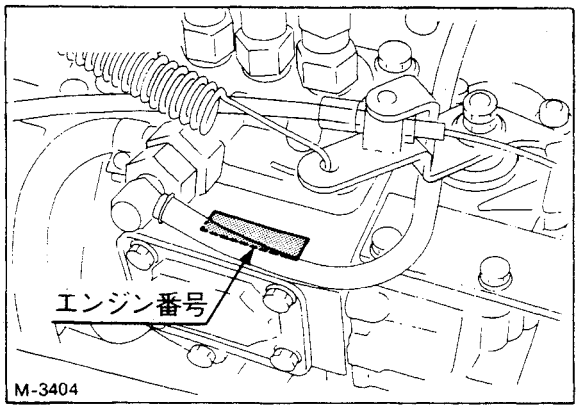
警　告

＊機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。



農業機械の種類		コンバイン(自脱型)
農機型式名		クボタ・・・・・
商品名		・・・・
区分		
車両型式名		
車台番号		
刈取条数		・　条
とう載機関	型式名	クボタ・・・・・
	機関番号	
	最大出力	・・PS/・・・・rpm
	無負荷最高回転速度	・・・・rpm
製造元		株式会社 クボタ





平成９年１月１日から，**“道路運送車両法”**の改正により，従来大型特殊自動車であったものが，小型特殊自動車に該当するようになります。（小型特殊自動車の認定番号の詳細については，販売店に相談してください。）

◆認定番号

安全鑑定・型式検査（国検）・小型特殊自動車の農機型式名及び番号が必要な場合は，下記の型式名及び番号をご使用ください。（小特キットを装着すると新型届出番号で小特の認定番号となりますが，証明書などの記入要領の詳細については，販売店に相談してください。）

商品名	農機型式名	安全鑑定番号	型式検査(国検)合格番号		新型自動車(大型特殊自動車)		
				摘　要	車両型式名	新型届出番号	摘　要
SR35G	クボタR9513G	20062	95086	キャビン付き除く モンローなし除く L仕様以外除く	クボタC309	92159	小特キット装着のこと LW仕様(ショートクローラ仕様除く) キャビン仕様除く (SR40はD，D2仕様除く)
SR40G	クボタR9512G	20063	95087	キャビン付き除く	クボタC405	92160	
SR45G	クボタR9511G	20064	95088	キャビン付き除く			
SR50G	クボタR9510G	20065	95089	キャビン付き除く	クボタC406	92106	小特キット装着のこと LW仕様(ショートクローラ仕様除く)
SR55G	クボタR9509G	20066	95090	－	クボタC503	92105	
SR65G	クボタR9508G	20067	95091	－	クボタC504	92104	
SR75G	クボタR9405G	19038	94077	－	クボタC601	92103	

注　意

＊公道走行時は，“道路交通法”上は，“大型特殊自動車”の運転可能な運転免許証が必要です。必ず所持してください。

＊小型特殊自動車の市町村への申告手続き（ナンバプレート取付）していない場合又は，ナンバプレートを取得していてもスイスイデバイダ・キャノピ・結束機などを装着している場合は，“道路運送車両法”の違反となりますので公道を走行できません。必ずトラックなどに乗せて移動してください。

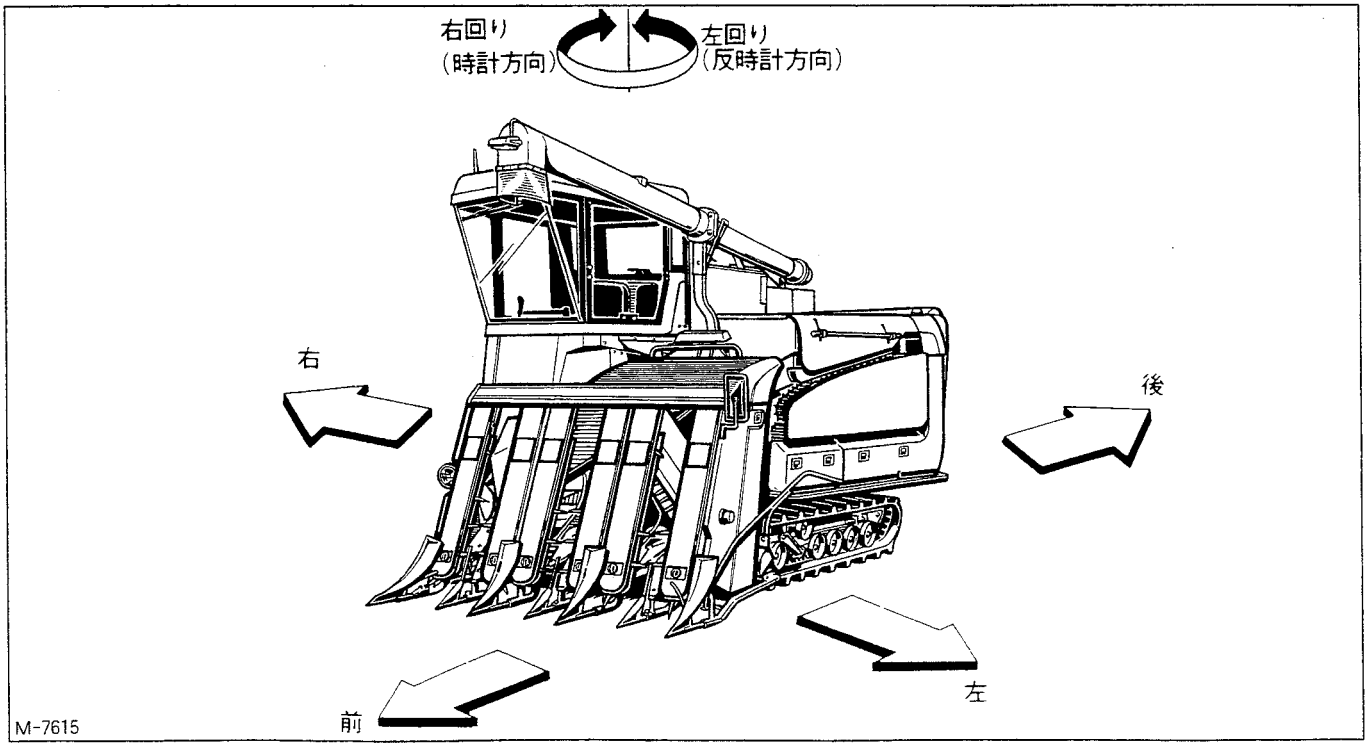
重　要

＊小型特殊自動車のナンバプレートを取得する際には，一定の装備（小特キット）が必要となりますので，購入先にご相談ください。

＊スイスイデバイダ・キャノピ(SR50･55･65･75除く)・結束機などの別売部品（オプション部品）を装着した状態や機械を改造すると，小特キットを装着しても，ナンバプレートは取得できません。

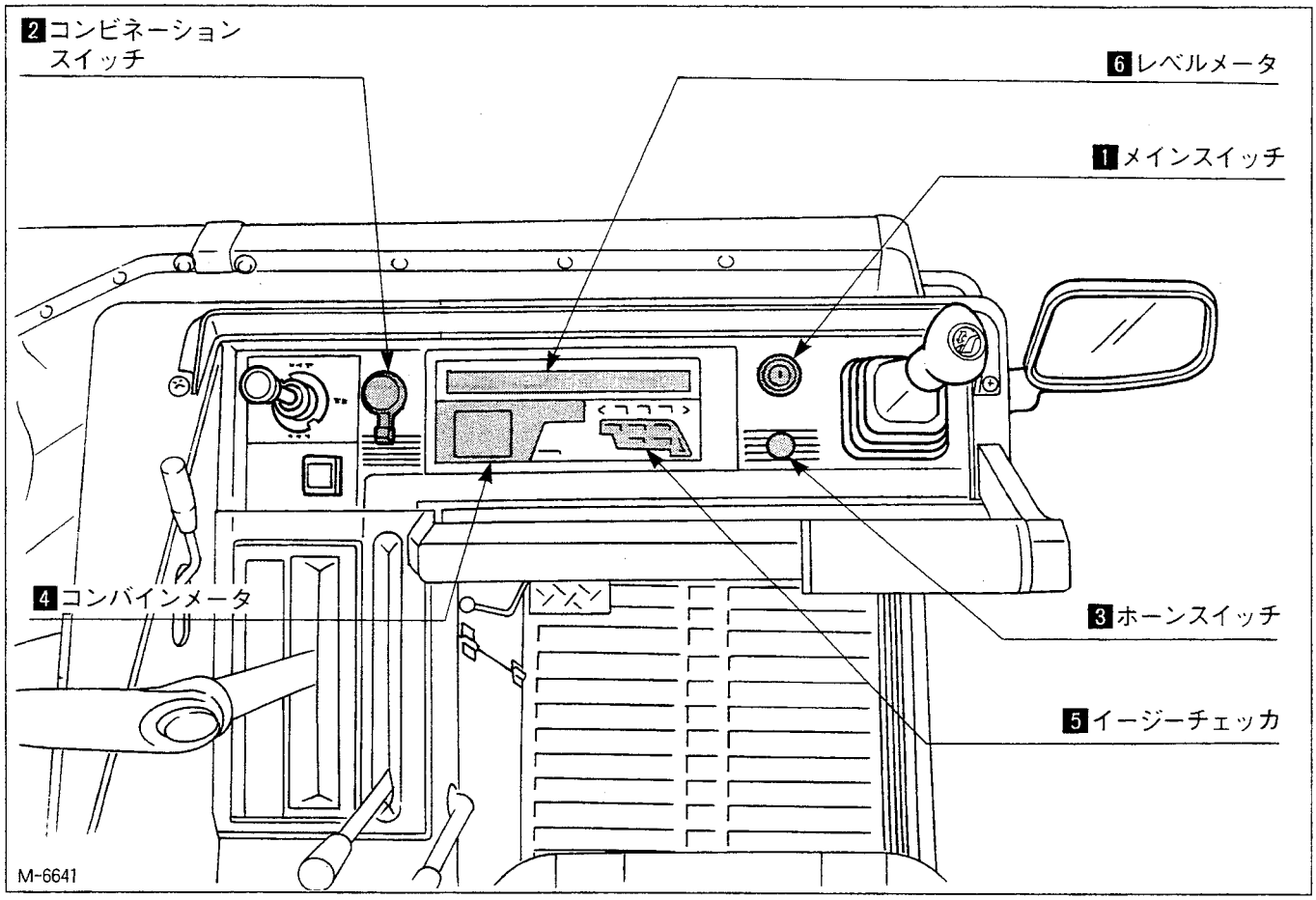
■機体方向説明

この取扱説明書で使用している**“前後・左右・左回り・右回り”**などの方向は，図示の通りに決めています。



諸装置の説明

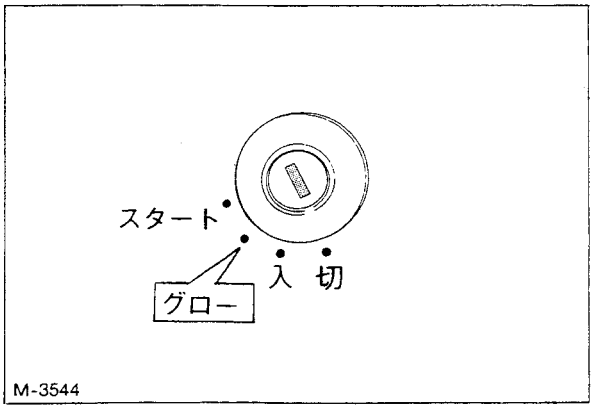
スイッチとメータパネル



1 メインスイッチ …… 4
2 コンビネーションスイッチ …… 4
3 ホーンスイッチ …… 4
4 コンバインメータ …… 4
5 イージーチェッカ …… 5
6 レベルメータ …… 6

1メインスイッチ

“切” ……キーが抜差しできる位置。
“入” ……エンジン回転中の位置
“グロー” ……燃焼室内が予熱される位置。
“スタート” …エンジンを始動する位置。
(主変速レバーを**“停止”**脱こくスイッチを**“切”**の位置にしないとエンジンは始動しません)



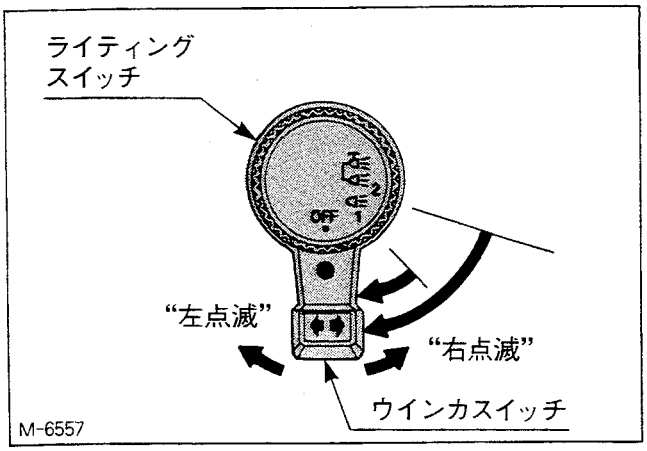
2コンビネーションスイッチ

◆ライティングスイッチ

“OFF” ……ヘッドランプ・作業灯消灯位置。
“1” ……ヘッドランプのみ点灯。
“2” ……ヘッドランプ・作業灯点灯。

◆ウインカスイッチ

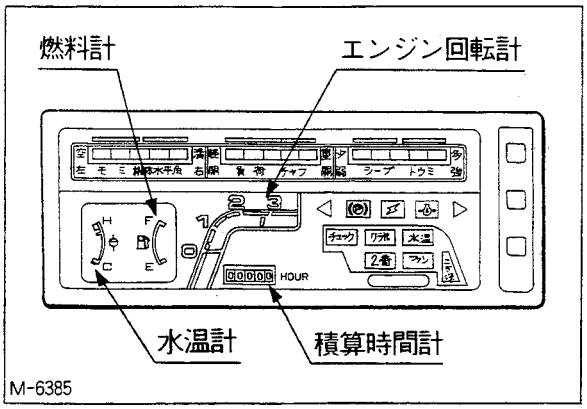
(1)旋回方向に操作すると，ウインカランプ及びメータパネル内の案内ランプ(ウインカ用)が点滅します。
(2)旋回が終ったら，スイッチを中央に戻しましょう。



3ホーンスイッチ

メインスイッチを**“入”**の位置にし，ホーンスイッチを押すとホーンが鳴ります。
モミ警報中にホーンスイッチを押すと，ホーン（断続）は停止します。

4コンバインメータ



◆積算時間計（アワーメータ）

エンジンを定格回転で使用した場合の積算時間を示します。
白わく内の数字を６倍すると**“分”**単位の時間となります。〔例〕0012 4 ……12時間24分

◆エンジン回転計

１分間のエンジン回転数を示します。（×1000）

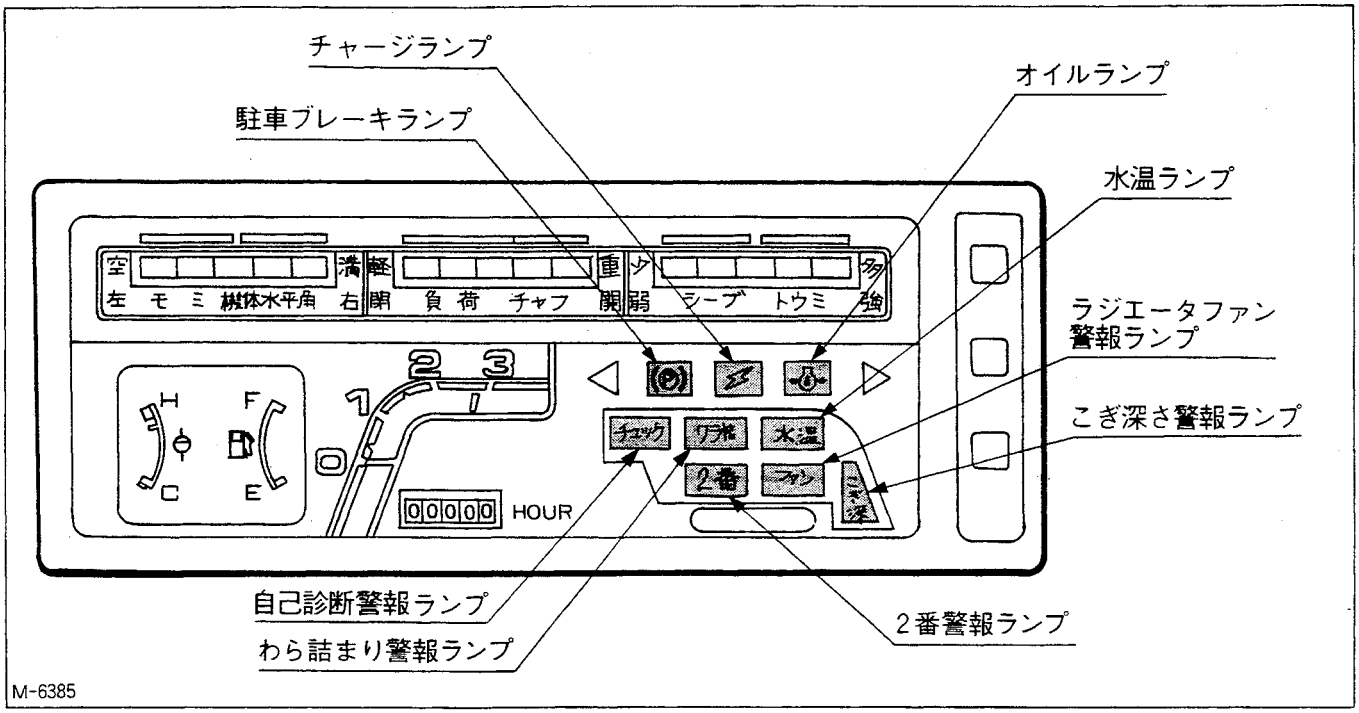
◆ 燃料計

メインスイッチを**“入”**にしたときに燃料タンク内の残量を示します。
メインスイッチが**“入”**以外では，指針は**“E”**より下にあります。

◆ 水温計

メインスイッチが**“入”**のときに冷却水温を示します。
メインスイッチが**“入”**以外では，指針は**“C”**より下の位置にあります。
エンジン冷却水が高温になるとオーバヒート警報が作動し，ホーンが鳴り，水温ランプが点滅します。

5 イージーチェッカ



◆ オイルランプ

エンジン回転中，潤滑系統が異常のとき点灯する油圧警告灯です。
エンジン停止中にメインスイッチを“入”にすると点灯し，始動すると消灯します。

◆ チャージランプ

エンジン回転中，充電系統が異常のとき点灯する充電警告灯です。
エンジン停止中にメインスイッチを“入”にすると点灯し，始動すると消灯します。

◆ Ⓟ 駐車ブレーキランプ

メインスイッチを“入”にして駐車ブレーキをかけているときに点灯し，駐車ブレーキを解除すると消灯します。

◆ 水温 水温ランプ

エンジン冷却水が高温になったとき点滅し，ホーンが鳴ります。

◆ ファン ラジエータファン警報ランプ【SR65･75】

ラジエータファン部に異常があったとき，ランプが点滅します。

◆ 2番 2番警報ランプ

2番口または1番口が詰まったとき，点滅し，ホーンが鳴ります。

◆ ワラ詰 わら詰まり警報ランプ（自動停止）

刈取り供給チェーンや，排わらチェーンにわらが詰まったとき点滅し，ホーンが鳴ります。

【結束機仕様の場合】

＊結束機のビルにひもが巻付いたとき，ひもがないときと，結束部にわらが詰まったときに点滅し，ホーンが鳴ります。

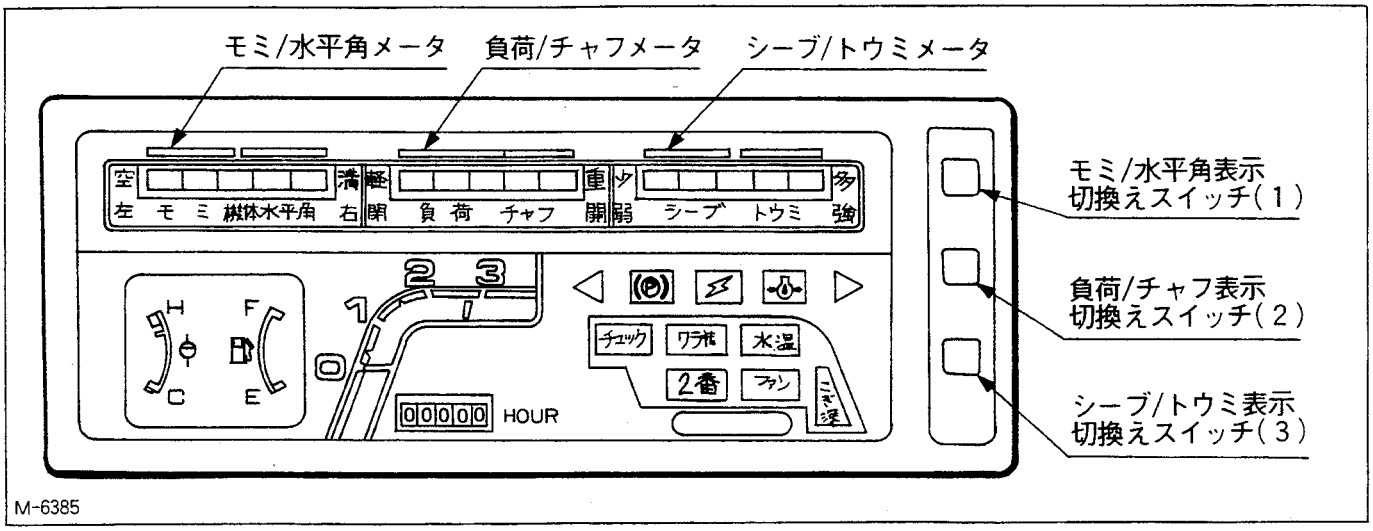
◆ こぎ深 こぎ深さ警報ランプ

穂先センサ部に異常があったとき，点滅し，ホーンが鳴ります。

◆ チェック 自己診断警報ランプ

マイコンが自動装置の異常を検出すると点滅します。

6 レベルメータ



◆モミ／水平角メータ

メインスイッチを**“入”**にすると**モミ**が表示されます。切換えスイッチ(1)を1回押すごとに，**モミ**と**水平角**が切換わって表示されます。

モミメータ

グレンタンクのもみ量に応じてメータが点灯します。また，もみが満杯になると，全メータが点滅し，ホーンが鳴ります。

水平角メータ

機体の水平角度に応じてメータが点灯します。中央の位置が水平位置です。

補 足

＊水平角が表示状態にあるときでも，もみが満杯になると，自動的にモミメータに切換わり，全メータが点滅し，ホーンが鳴ります。

◆負荷／チャフメータ

メインスイッチを**“入”**にすると**負荷**が表示されます。切換えスイッチ(2)を1回押すごとに**負荷**と**チャフ**が切換わって表示されます。

負荷メータ

作業中のエンジンにかかる負荷の大きさに応じてメータが点灯します。また異常に大きな負荷がかかると全メータが点滅し，ホーンが鳴ります。

チャフメータ

チャフシーブの開度に応じてメータが点灯します。

補 足

＊チャフが表示状態にあるときでも，異常に大きな負荷がかかると，自動的に負荷メータに切換わり，全メータが点滅し，ホーンが鳴ります。

◆シーブ／トウミメータ

メインスイッチを**“入”**にすると**シーブ**が表示されます。切換えスイッチ(3)を1回押すごとに，**シーブ**と**トウミ**が切換わって表示されます。

シーブメータ

脱こく機のチャフシーブ上のこく粒量に応じてメータが点灯します。また，チャフシーブが詰まったときは，全メータが点滅し，ホーンが鳴ります。

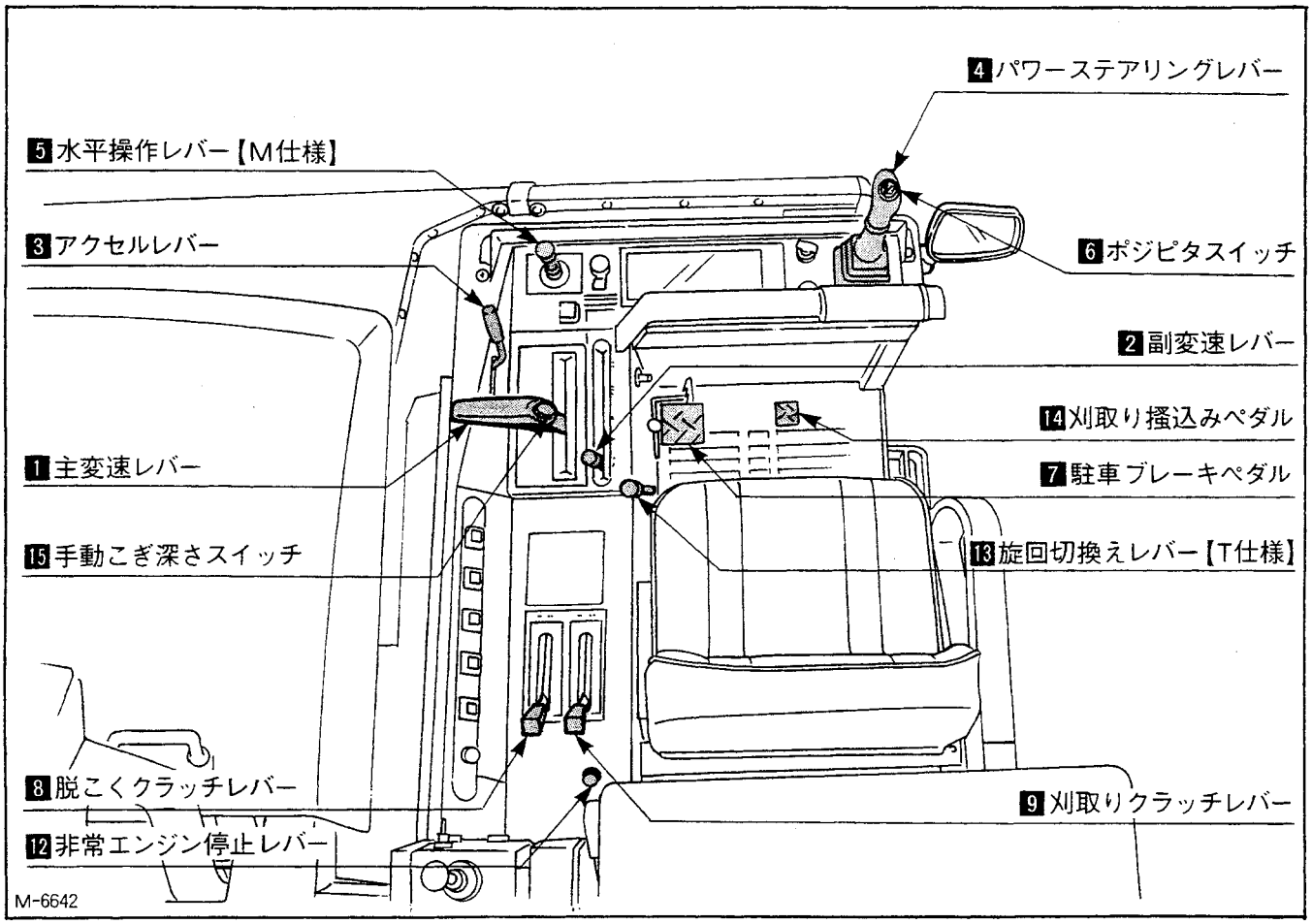
トウミメータ

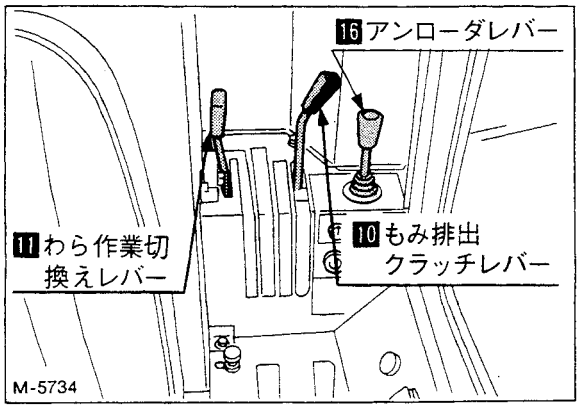
トウミの回転数に応じてメータが点灯します。

補 足

＊トウミが表示状態にあるときでも，チャフシーブが詰まると，自動的にシーブメータに切換わり，全メータが点滅し，ホーンが鳴ります。

運転装置





1 主変速レバー …… 8
2 副変速レバー …… 8
3 アクセルレバー …… 8
4 パワーステアリングレバー …… 8
5 水平操作レバー【M仕様】 …… 9
6 ポジピタスイッチ …… 9
7 駐車ブレーキペダル …… 9
8 脱こくクラッチレバー …… 9
9 刈取りクラッチレバー …… 10
10 もみ排出クラッチレバー …… 10
11 わら作業切換えレバー …… 10
12 非常エンジン停止レバー …… 10
13 旋回切換えレバー【T仕様】 …… 11
14 刈取り掻込みペダル …… 11
15 手動こぎ深さスイッチ …… 11
16 アンローダレバー …… 11

1主変速レバー

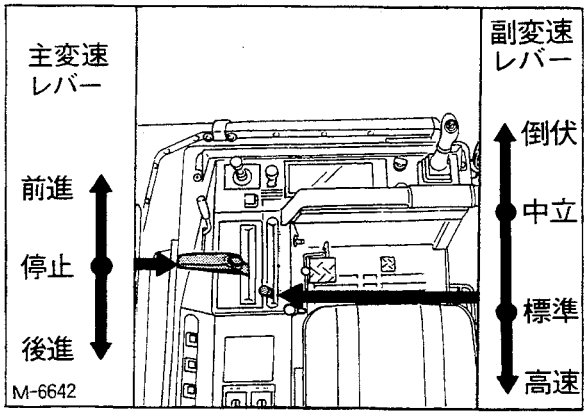
レバーを前方に倒すと**“前進”**し，後方に倒すと**“後進”**します。

補　足

＊**“後進”**位置に入れる場合は，必ず主変速レバーのノブを引上げながら倒してください。

2副変速レバー

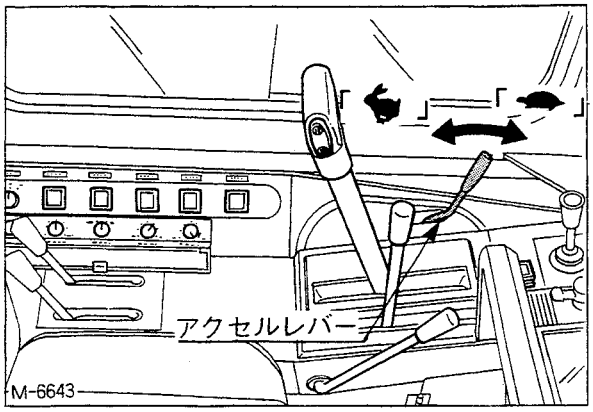
2本のレバー操作を組合せ，作物の状況により適切な車速を選択してください。



3アクセルレバー

“🐢”……エンジン回転**“低速”**の位置。

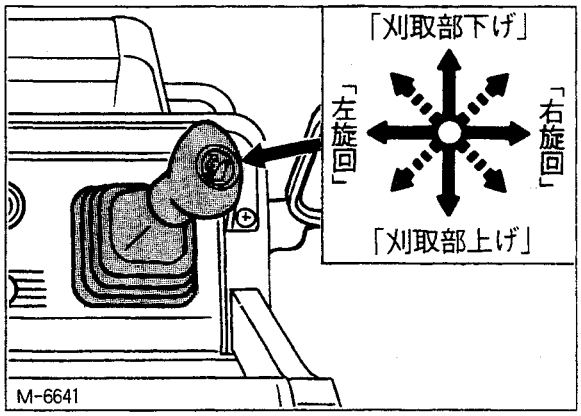
“🐇”……エンジン回転**“高速”**の位置。



4パワーステアリングレバー

レバー1本で刈取部の上げ下げと方向修正・旋回ができます。また，各々の同時併用操作も可能です。

(1)レバーを前・後に操作すると，刈取部の上げ下げができます。

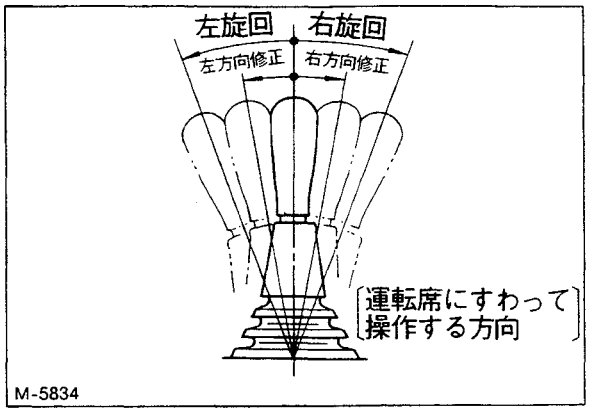


(2)レバーを左・右に操作すると，方向修正から旋回までできます。

作業条件にあわせて操作してください。

＊ゆるやかな方向修正…左・右に軽く倒します。

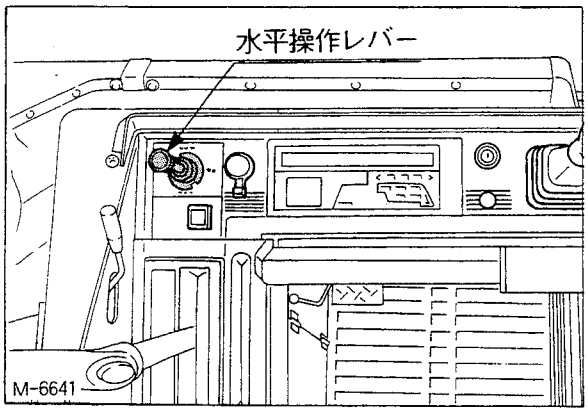
＊コーナ旋回……左・右に一杯倒します。



(3)レバーを斜方向に操作すると，刈取部の上げ下げと方向修正・旋回が同時に行なえます。

(4)自動方向制御中でも，パワーステアリングレバーによる手動操作が優先されます。

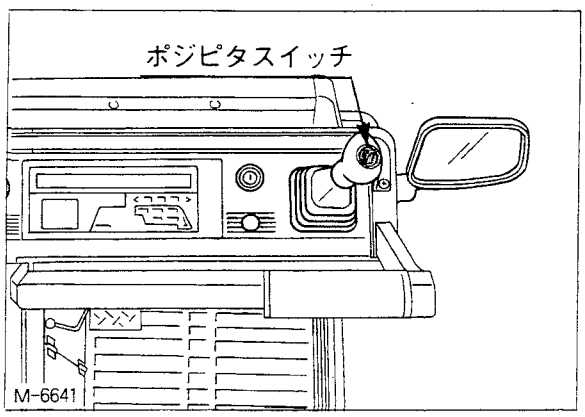
5 水平操作レバー【M仕様】



(1)レバーを**“機体上”**の方向に倒すと，機体の左右とも上がります。
(2)レバーを**“機体下”**の方向に倒すと，機体の左右とも下がります。
(3)レバーを**“左上”**の方向に倒すと，機体の左が上がり，右が下がります。
(4)レバーを**“右上”**の方向に倒すと，機体の右が上がり，左が下がります。
(5)自動制御で作業中でも水平操作レバーが優先されます。

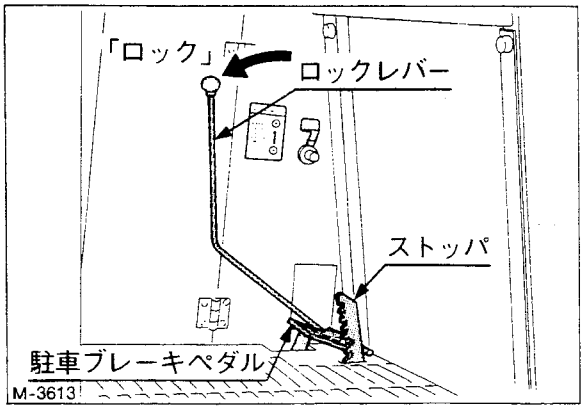
6 ポジピタスイッチ

刈取り中に，スイッチ１つで刈取部の上げ下げができます。



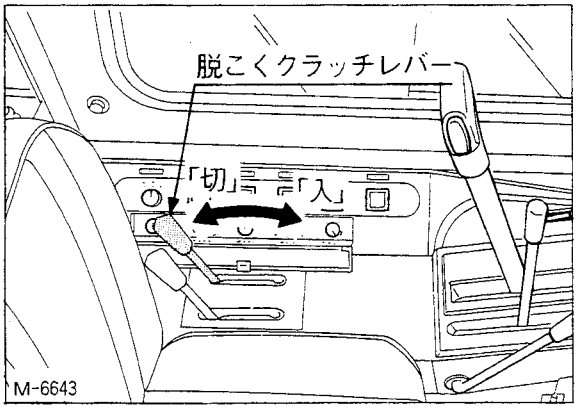
7 駐車ブレーキペダル

(1)駐車ブレーキペダルを強くいっぱい踏んで，ロックレバーで駐車ブレーキペダルにストッパを掛けると駐車ブレーキが掛かります。
(2)外すときは，駐車ブレーキペダルを強く踏んでください。



8 脱こくクラッチレバー

脱こく部駆動切換えレバーです。
“入”……脱こく部が駆動します。
“切”……脱こく部が停止します。

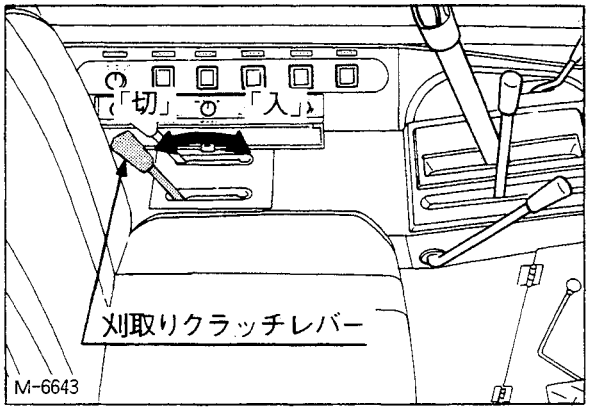


9 刈取りクラッチレバー

刈取部駆動切換えレバーです。

“入” ……刈取部が駆動します。

“切” ……刈取部が停止します。



10 もみ排出クラッチレバー

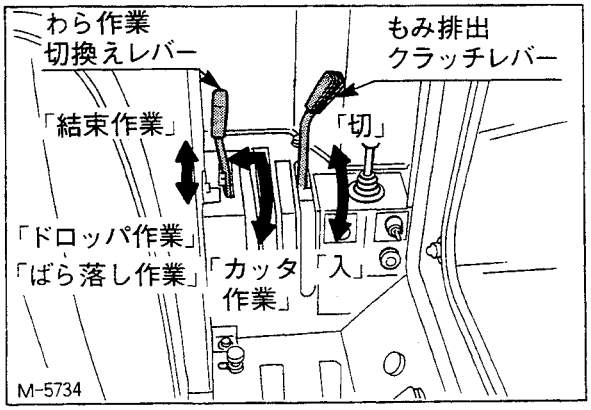
グレンタンク内のこく粒の排出を切換えるレバーです。

“入” ……こく粒が排出されます。

“切” ……こく粒の排出が止まります。

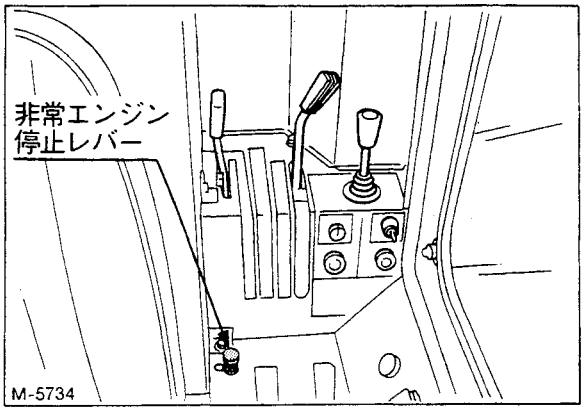
11 わら作業切換えレバー

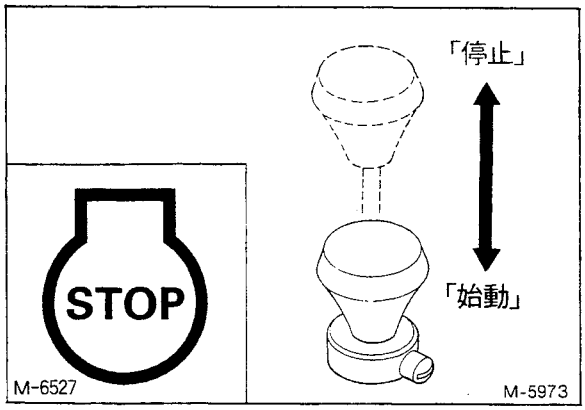
レバー操作により，カッタ作業⇔ドロッパ作業・ばら落し作業の切換えができます。



12 非常エンジン停止レバー

非常時に引張るとエンジンが停止します。再びエンジンを始動するときは，**“始動”** 位置にしてください。



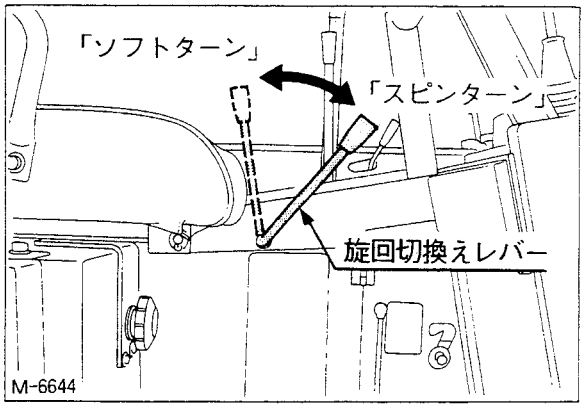


13旋回切換えレバー【T仕様】

レバーを切換えることにより，旋回方式を選択することができます。
作業条件に応じて切換えてください。

“スピンターン”……パワーステアリングレバーの倒し量に応じて左右のクローラが互いに反対方向に駆動されて旋回します。小回りが必要なときや能率を上げて作業する場合に使用してください。

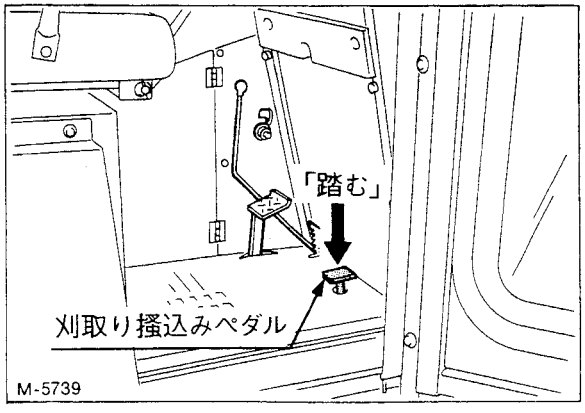
“ソフトターン”……左右のクローラの回転差で方向を変え旋回します。旋回半径は，やや大きくなりますが湿田やほ場の荒れを少なく作業する場合，また移動走行時に使用してください。



14刈取り掻込みペダル

(1)あぜぎわで機体を停止したままこくかんを掻込むときに，ペダルを踏み，主変速レバーを前進側に倒すとコンバインは停止したままで，刈取部・搬送部が回転します。

(2)副変速レバーや旋回切換えレバーが切換えにくいときに，ペダルを踏んで切換えてください。



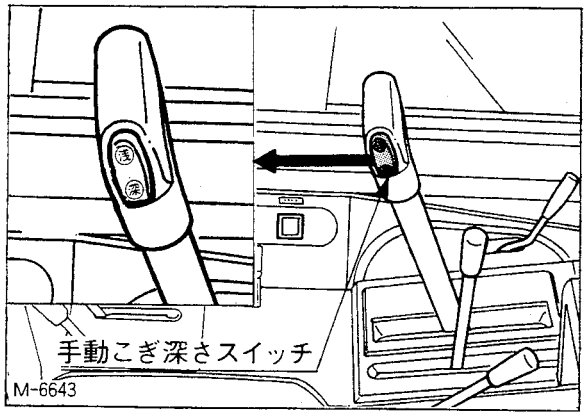
15手動こぎ深さスイッチ

手動でこぎ深さを調節するときに使用します。

(1)スイッチの**“深”**を押すと深こぎになります。

(2)スイッチの**“浅”**を押すと浅こぎになります。

(3)自動制御で作業中でも，手動こぎ深さスイッチが優先されます。



16アンローダレバー

(1)レバーを**“上”**の方向に倒すと，アンローダは上昇します。

(2)レバーを**“下”**の方向に倒すと，アンローダは下降します。

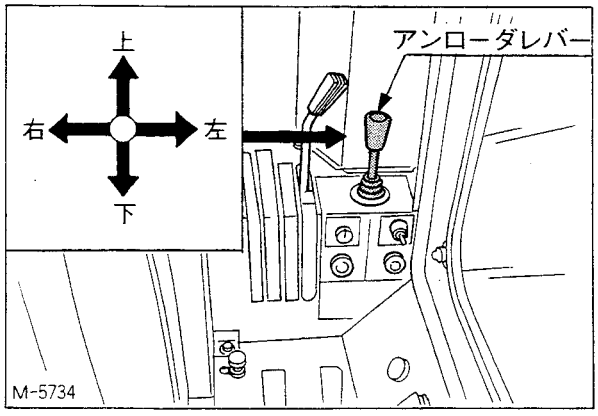
(3)レバーを**“左回り”**の方向に倒すと，アンローダは左回り（反時計方向）に旋回します。

(4)レバーを**“右回り”**の方向に倒すと，アンローダは右回り（時計方向）に旋回します。

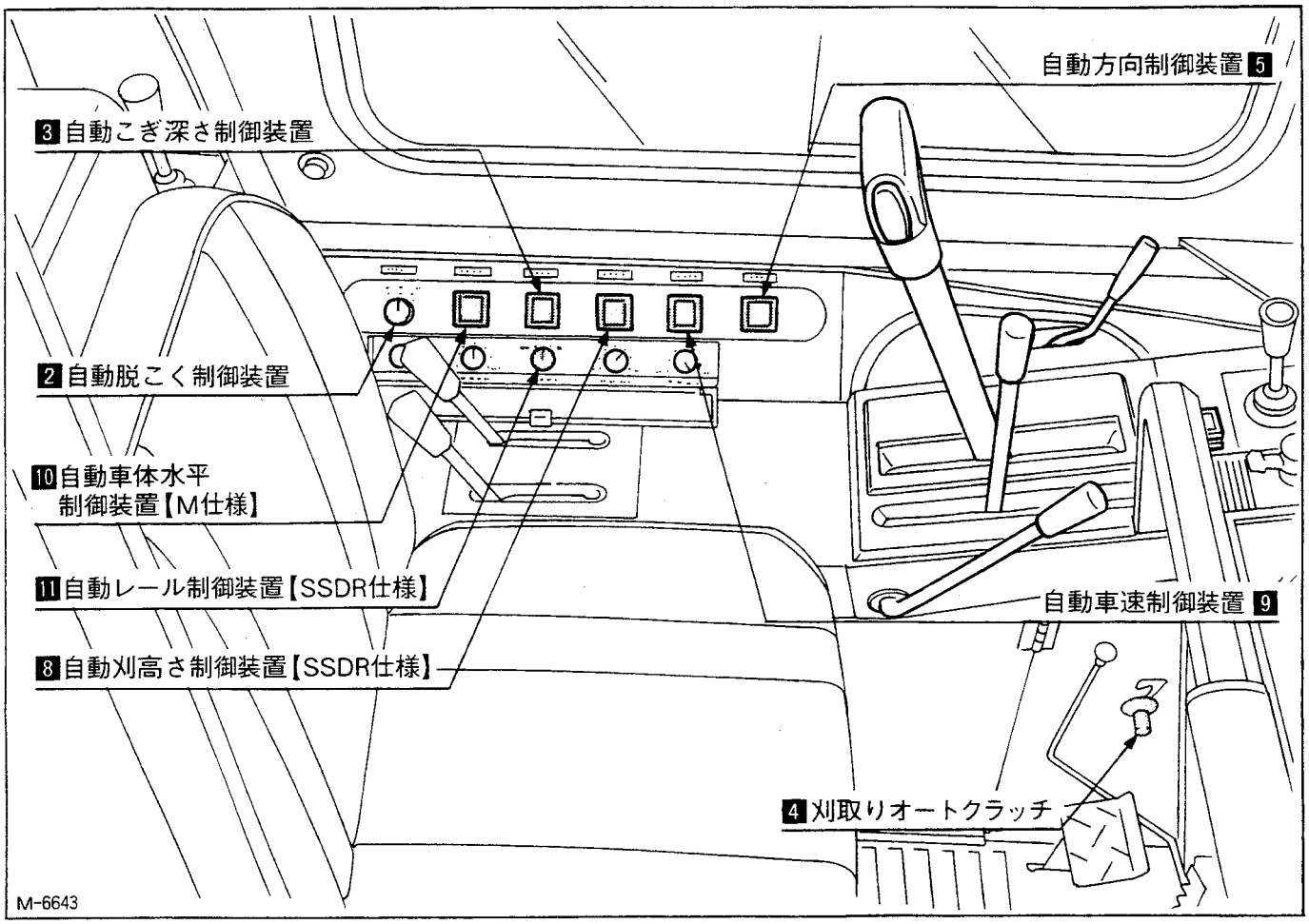
(5)自動制御作動中でもアンローダレバーの操作が優先され，その後の自動旋回は停止します。

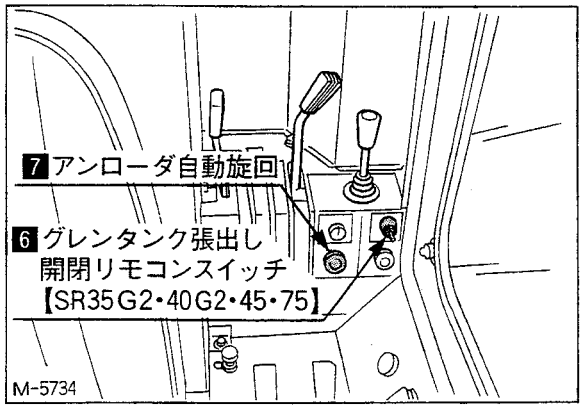
補　足

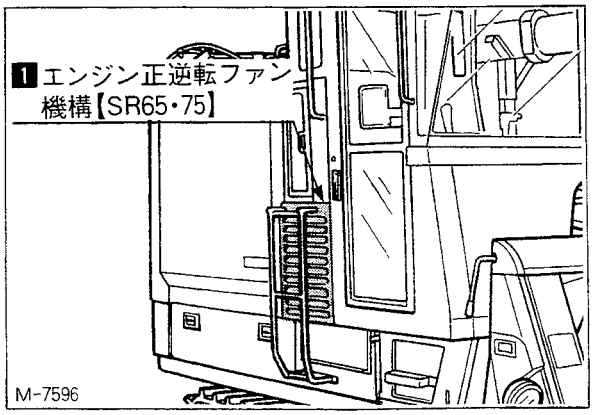
＊グレンタンク上を通過させる場合は，アンローダを最上位置まで上げないと旋回できません。



自動装置



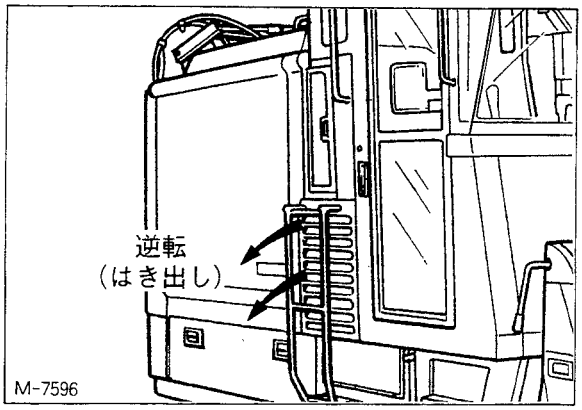




1 エンジン正逆転ファン機構【SR65·75】 …… 13
2 自動脱こく制御装置 …… 13
3 自動こぎ深さ制御装置 …… 13
4 刈取りオートクラッチ …… 13
5 自動方向制御装置 …… 14
6 グレンタンク張出し開閉リモコンスイッチ
【SR35G2·40G2·45·75】 …… 14
7 アンローダ自動旋回 …… 14
8 自動刈高さ制御装置【SSDR仕様】 …… 15
9 自動車速制御装置 …… 15
10 自動車体水平制御装置【M仕様】 …… 15
11 自動レール制御装置【SSDR仕様】 …… 16
■自動エンジン停止装置 …… 16

1エンジン正逆転ファン機構【SR65･75】

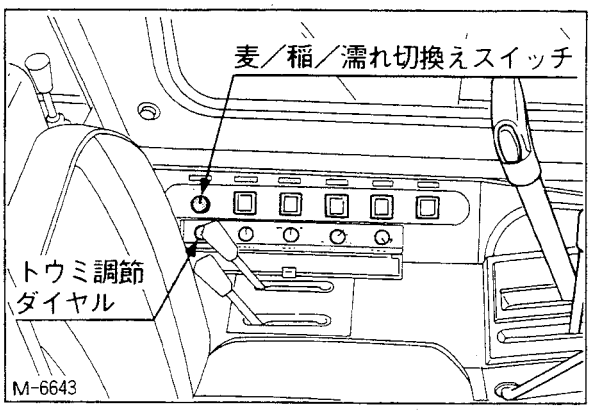
定期的にラジエータファンが逆回転し，防じんあみやラジエータフィンに付着したほこりやわらくずを飛ばす，正逆転ファン機構を装備しています。



2自動脱こく制御装置

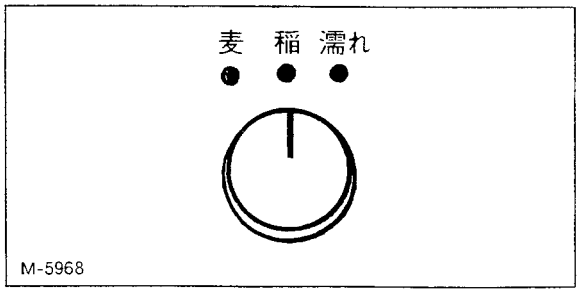
◆自動脱こく制御のはたらき

(1)ファジィ制御で適正に脱こく部を調節します。
(2)旋回時にも速やかに反応して，安定した制御をします。
(3)トウミの調節ができますので，作物条件の変化に対しても最適な制御ができます。



◆麦／稲／濡れ切換えスイッチ

“麦”……麦作業時には，**“麦”**位置に合わせてください。
“稲”……稲作業時には，**“稲”**位置に合わせてください。
“濡れ”……高水分の作物を刈取るとき**“濡れ”**位置に合わせてください。



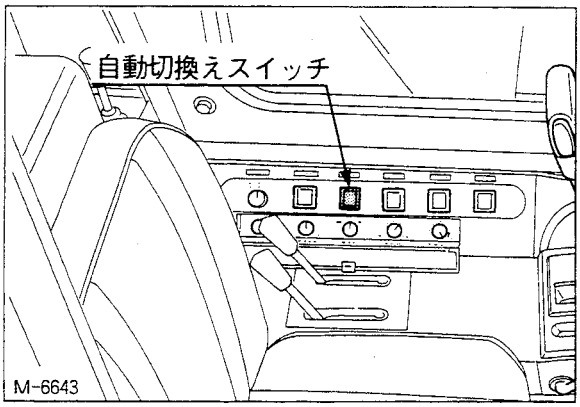
3自動こぎ深さ制御装置

◆自動こぎ深さ制御のはたらき

(1)刈取り中は短かい周期のかん長変化に追従しないので，安定した制御をします。
(2)２個の穂先センサで，適正で安定した制御をします。
(3)こぎ深さ調節レバーにより，こぎ深さが調節でき，常に最適なこぎ深さに設定できます。

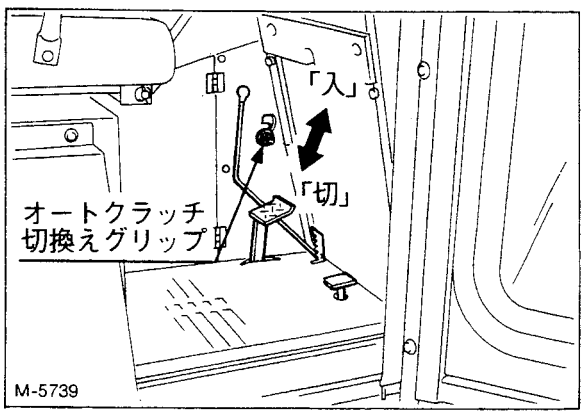
◆自動切換えスイッチ

自動入り……スイッチを押込んで，ロックされると自動位置となり，自動ランプが点灯します。
自動切り……スイッチを再び押してロックが解除されると，手動位置となり，自動ランプが消灯します。



4刈取りオートクラッチ機構

刈取りオートクラッチ切換えグリップを**“入”**の位置にセットし，刈取部を上昇させると，刈取･脱こくクラッチが入った状態でも，自動的に刈取部及びフィードチェーンが止まります。また刈取部を下げると自動的に回り始めます。



5 自動方向制御装置

◆自動方向制御のはたらき

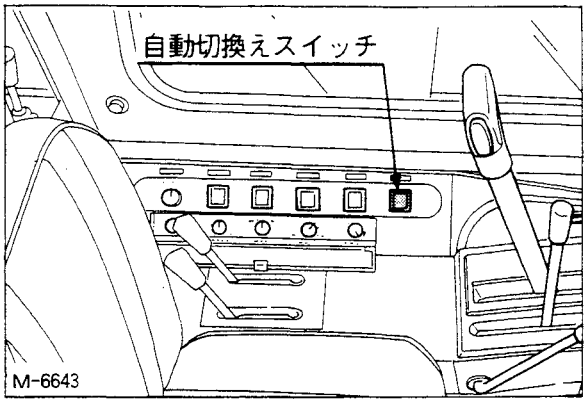
(1)ファジィ制御により，安定した条追従が行なえます。

(2)横刈りになると，自動的に制御を停止するので，手動に切換えずに作業ができます。

◆自動切換えスイッチ

自動入り……スイッチを押込んでロックされると自動位置となり，自動ランプが点灯します。

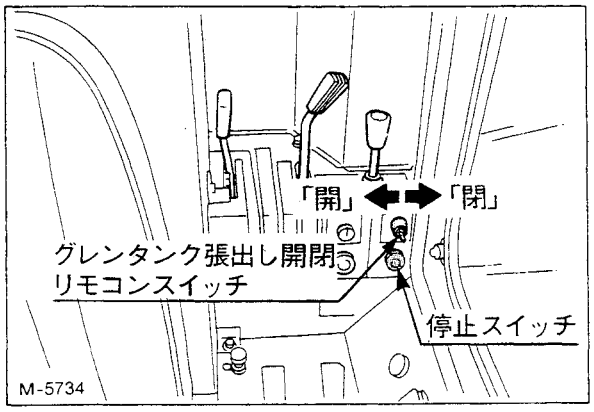
自動切り……スイッチを再び押してロックが解除されると，手動位置となり，自動ランプが消灯します。



6 グレンタンク張出し開閉リモコンスイッチ【SR35G2･40G2･45･75】

◆グレンタンク張出し開閉リモコン機能のはたらき

開閉スイッチの操作により，グレンタンクの張出し部の開閉が行なえます。



◆停止スイッチ

開閉作業中に停止スイッチを押すと，開閉が停止します。

7 アンローダ自動旋回制御装置【G仕様】

◆アンローダ自動旋回のはたらき

スイッチのワンタッチ操作でアンローダが，収納位置⟷排出位置に自動旋回します。

◆自動スイッチ

アンローダが下記位置にあるときにスイッチを押すと，

(1)**“収納位置”**にあるときは，アンローダが上昇し排出位置まで自動的に旋回します。

(2)**“収納位置以外”**（排出位置など）にあるときは，収納位置まで自動的に戻ります。

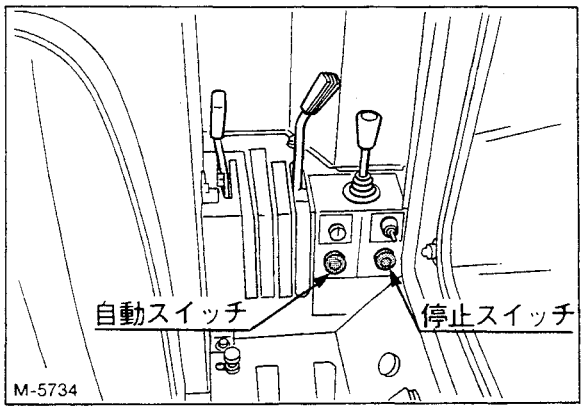
◆停止スイッチ

アンローダが自動旋回途中でスイッチを押すと，その位置で停止します。

補　足

＊この停止スイッチは**“グレンタンク張出し開閉リモコン”**の停止も行なえます。

【SR35G2･40G2･45･75】



8 自動刈高さ制御装置【SSDR仕様】

◆自動刈高さ制御のはたらき

(1)超音波センサで高さ検出をするので，湿田でも使用できます。

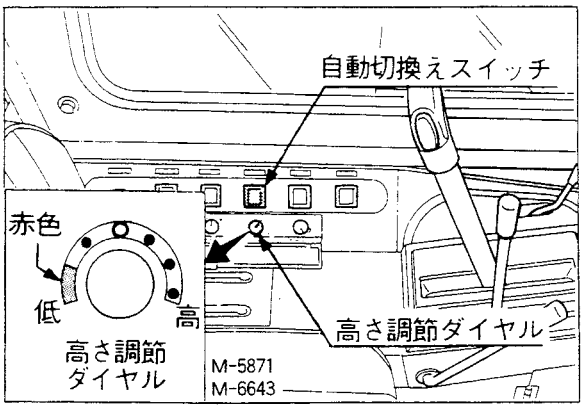
(2)刈始めは機体傾斜や凹凸に速やかに，反応して，高刈りやデバイダの突込みを防止します。

(3)刈取り中は凹凸に，小刻みに反応し，安定な刈高さを保持します。

◆自動切換えスイッチ

自動入り……スイッチを押し込んで，ロックされると自動位置となり，自動ランプが点灯します。

自動切り……スイッチを再び押してロックが解除されると，手動位置となり，自動ランプが消灯します。



9 自動車速制御装置

◆自動車速制御のはたらき

(1)ファジィ制御によりエンジンの能力が最大に発揮できるよう車速がコントロールされ，効率のよい運転ができます。

(2)車速は車速調節ダイヤルで無段階に調節できますので，あぜぎわや倒伏刈取り時に便利です。

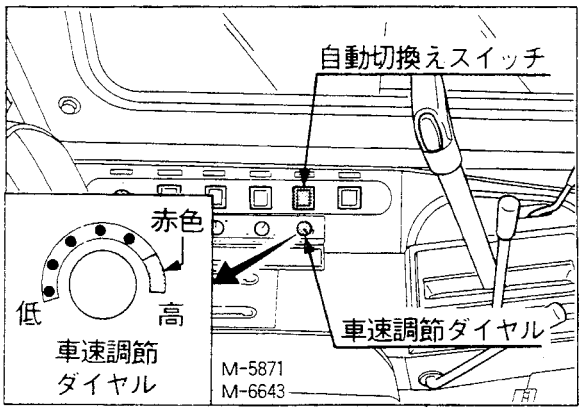
(3)脱こく制御との連動により，脱こく機の能力をオーバしたとき自動的に車速を減速します。

(4)刈取りを終って旋回するとき，エンジンに過負荷が生じると自動的に減速します。

◆自動切換えスイッチ

自動入り……スイッチを押込んで，ロックされると自動位置となり，自動ランプが点灯します。

自動切り……スイッチを再び押してロックが解除されると，手動位置となり，自動ランプが消灯します。



10 自動車体水平制御装置【M仕様】

◆自動車体水平制御のはたらき

(1)湿田などで機体が傾斜した場合，自動的に機体を水平に修正し，手動の場合は機体全体を持上げることもできます。

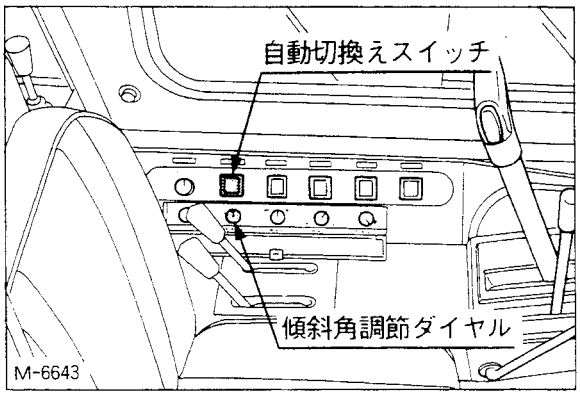
(2)傾斜角調節ダイヤルにより，機体の傾斜角を調節できますので，あぜぎわやうねでも適正な制御をします。

(3)機体が常に水平に保たれますので，湿田での運転がしやすくなります。

◆自動切換えスイッチ

自動入り……スイッチを押込んで，ロックされると自動位置となり，自動ランプが点灯します。

自動切り……スイッチを再び押してロックが解除されると手動位置となり，自動ランプが消灯します。

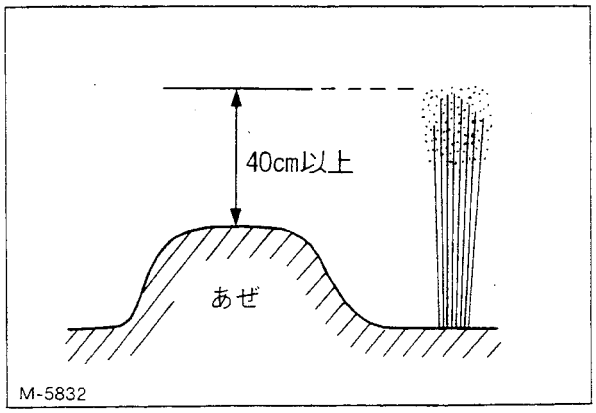


11 自動レール制御装置【SSDR仕様】

◆自動レール制御のはたらき

(1)あぜ際などでの刈上げにおいて，こぎ残しが出るような短い作物でも，強制的に脱こく部へ供給しますので，こぎ残しがありません。

(2)ほ場の周囲を刈取るときに，あぜ際で刈上げができますので，四すみの手刈りが不用です。
(但し，草丈とあぜ高さの差が40 cm以上ある場合)

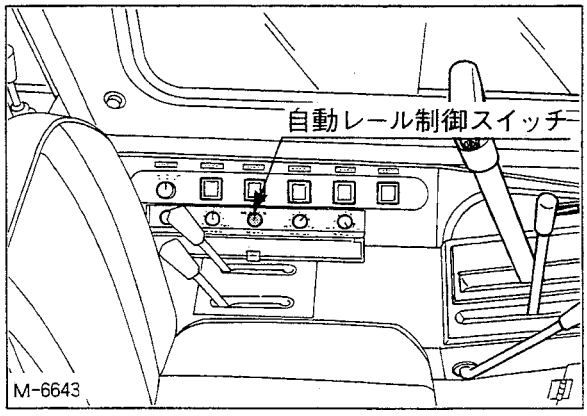


◆自動レール制御スイッチ

こぎ深さ制御が自動のとき，自動レール制御スイッチが，

"入" ……自動レール制御が作動します。

"切" ……自動レール制御は作動しません。



■自動エンジン停止装置

刈取供給搬送チェーン・排わら搬送チェーン部・カッタ部にわらが詰まったり，結束機の結節部にわら・ひもが巻付いたとき及び旋回切換えレバーが確実に入っていないとき，自動的にエンジンが停止する装置です。

運転前の点検

点検は，運転前欠かさず行なってください。

注 意

＊火気厳禁

＊点検をするときは，エンジンを必ず停止してから行なってください。

重 要

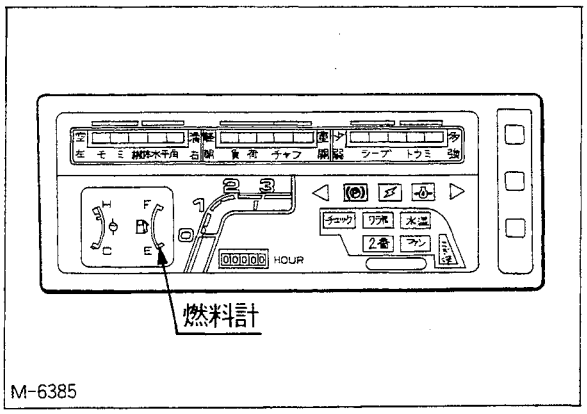
＊燃料・オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。

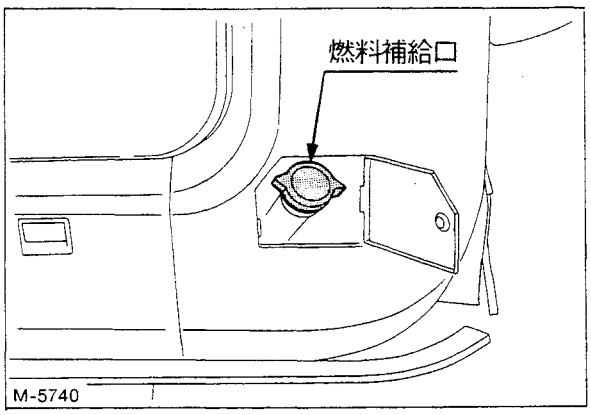
＊エンジン・マフラ・脱こく機及びカッタ結束機のベルトカバー内，バッテリにわらくずがたまっていると火災の原因になることがあります。日常点検をして取除いてください。

日常点検項目

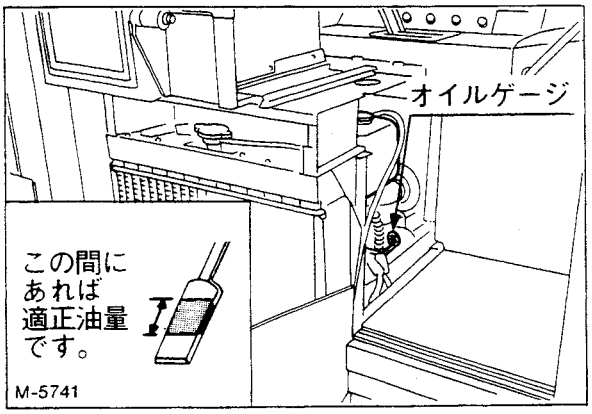
〈ここを〉		→ 〈こうする〉	
反射器		＊汚れはないか。 ＊確実に取付けてあるか。	＊掃除する。 ＊締付けなどの処置をする。
防じんあみ，ラジエータフィン オイルクーラフィン		＊防じんあみの目詰まりはないか。 ＊ラジエータフィン，オイルクーラフィンの目詰まりはないか。	＊ブラシなどで，清掃してください。 ＊ラジエータフィン，オイルクーラフィンは，水道水，又は圧縮空気で清掃してください。
エンジンオイル		＊オイルゲージの上下刻線の間に油量があれば良い。	＊油面がオイルゲージの上下刻線間になるまで補給する。使用オイルについては**“エンジンオイルの点検と交換”**の項を参照してください。
冷却水		＊リザーブタンクに適量あるか。 (必ずFULLとLOWの間にあること)	＊不足していれば清水を適量補給する。 (FULL以上には入れないこと)**“ラジエータ冷却水の点検”**の項を参照してください。
エアクリーナ		＊エレメントにほこりが詰まっていないか。	＊清掃する。**“エアクリーナの清掃”**の項を参照してください。
ベルトカバー，マフラ回り		＊わらくずがたまっていないか。	＊掃除する。
チェーン，ワイヤ，クローラ		＊たるみ，損傷はないか。	＊正常に調整する。
メインスイッチを入れて	燃料計	＊作業に必要な燃料があるか。	＊補給する。(タンク容量50L) ディーゼル軽油(ディーゼル重油は不可)
	イージーチエッカ	＊メインスイッチを入れた瞬間(約２秒間)，メータが全て点灯するか。	＊球切れ，ヒューズ切れ，配線の外れを調べ処置する。 ＊その他の場合は，販売店へ相談してください。
	レベルメータ	＊メインスイッチを入れた瞬間(約２秒間)，メータが全て点灯するか。	
	ホーン	＊ホーンスイッチを押せば鳴るか。	
	ランプ類	＊正常に作動するか。	＊球切れ，ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。
	バックブザー	＊主変速レバーを**“後進”**位置にしたとき，バックブザーが鳴るか。	＊ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。 ＊その他の場合は，販売店へ相談してください。
エンジンを始動して	メータパネル	＊オイルランプ，チャージランプは消灯するか。 ＊回転計は正常に作動するか。	＊エンジンオイルを補給する。 ＊充電する。 ＊異常箇所を調べ，処置する。
	注 油	＊チェーン・刈刃などへの注油はじゅうぶんか。	＊注油については，**“集中注油装置による注油箇所”**の項参照。

■燃料の点検





■エンジンオイルの点検



■ラジエータ冷却水の点検

注 意

＊ラジエータキャップやリザーブタンクは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出することがありますので，停止後メインスイッチ“入”で水温計が“C”の位置であることを確認してからにしてください。

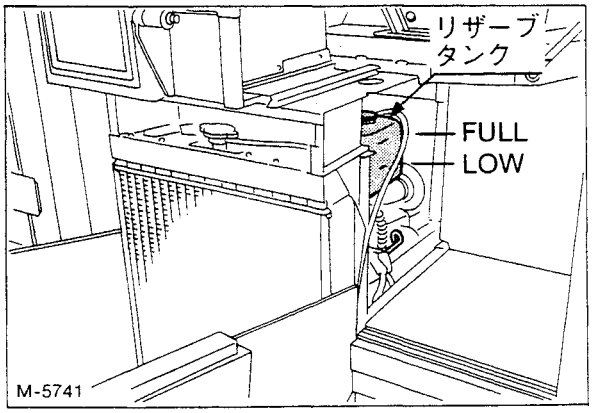
ラジエータ容量	8.2L【SR35·40·45】 10.5L【SR50·55·65·75】
リザーブタンク容量	1.1L

ラジエータにはリザーブタンクが付いており，ラジエータ内の冷却水が少なくなると，リザーブタンクから自動的に補給される構造になっています。冷却水の量はリザーブタンク内の量を点検してください。

“LOW”から**“FULL”**の間であれば正常です。

通常は補給の必要はありませんが，リザーブタンクの冷却水が**“LOW”**以下の場合は，**“LOW”**と**“FULL”**のレベルの間まで清水を補給してください。

“FULL”以上は入れないでください。

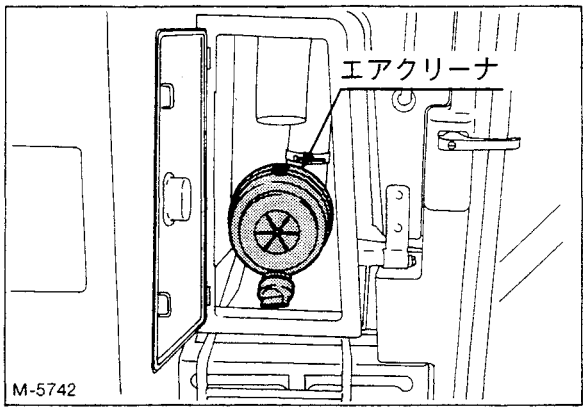


■エアクリーナの清掃

重 要

＊高性能サイクロン併用乾式エレメントを使用していますので，オイルを使用しないでください。

＊エアクリーナにほこりが詰まったまま運転すると，エンジンの出力が低下したり，エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し，エンジントラブルの原因となります。点検は運転前に欠かさず行なってください。



◆エアクリーナエレメントの清掃

エレメントの清掃は，エレメントの内側から空気を吹きつけるか，又は軽く振ってゴミを取除いてください。エアの圧力は0.686MPa(7kgf/㎠)をこえないよう注意し，ノズルとエレメントの間は適当にあけてください。

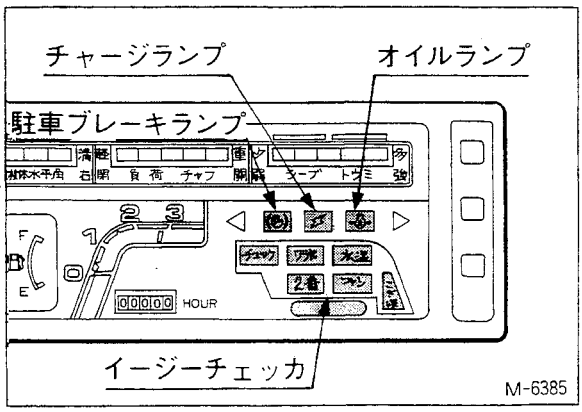
カーボンや油分が付着しているときは，クボタ指定の純正エレメント洗浄剤で洗浄してください。

【参考】

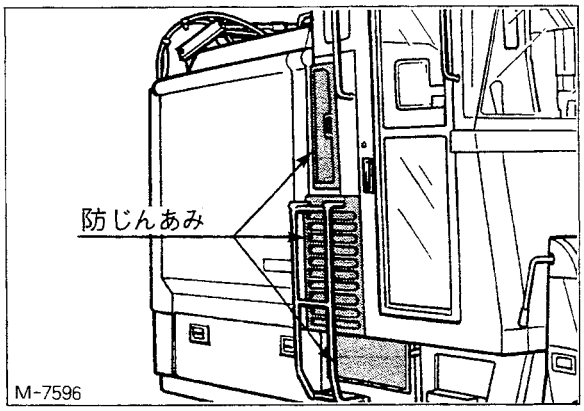
＊エレメント洗浄剤

ND—1500（品番：15221-8665-1）

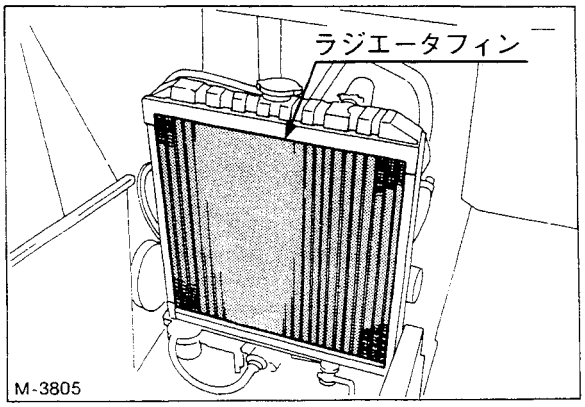
■イージーチェッカの点検



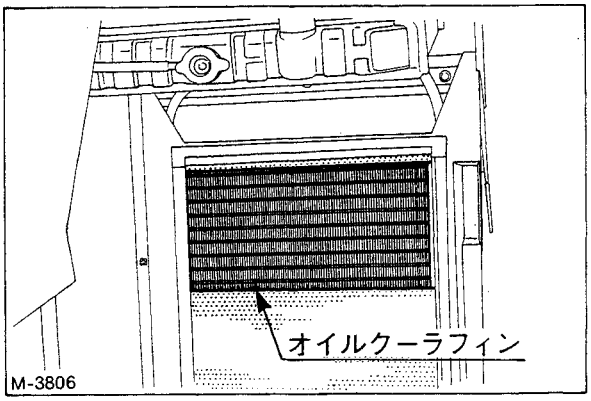
■防じんあみの点検



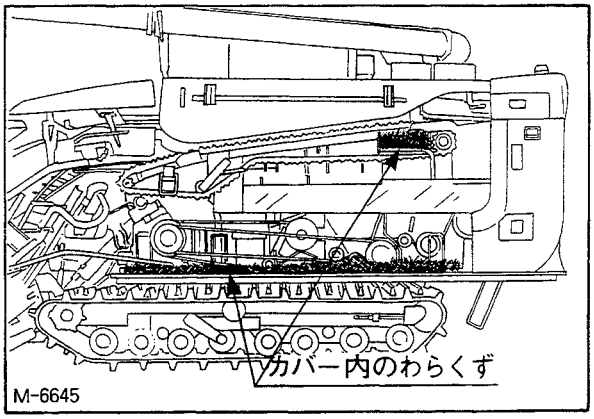
■ラジエータフィンの点検



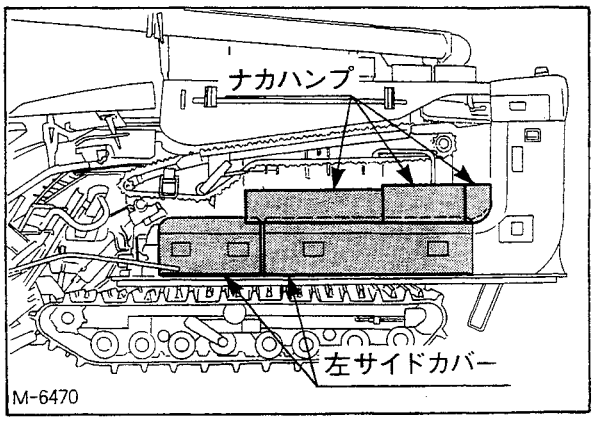
■オイルクーラフィンの点検



■左サイドカバー内の清掃

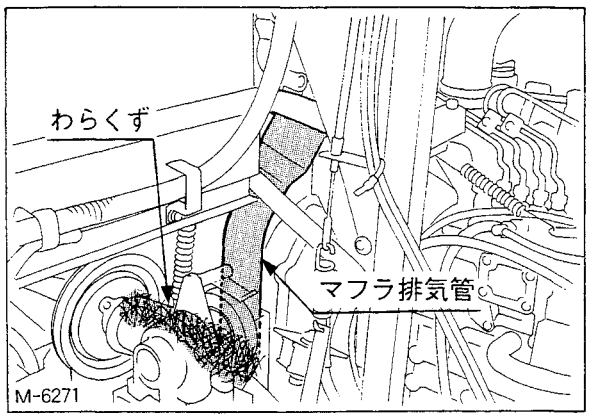


◆左サイドカバー脱着時の注意



左サイドカバー取付けの際，ナカハンプ(３枚)を左サイドカバーの外側へ引出してください。

■マフラ排気管の清掃



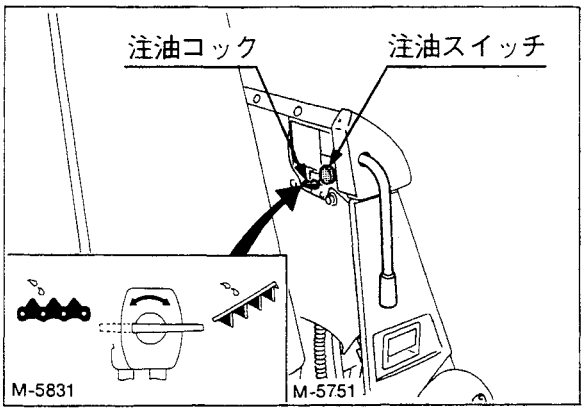
■集中注油装置による注油箇所

重　要

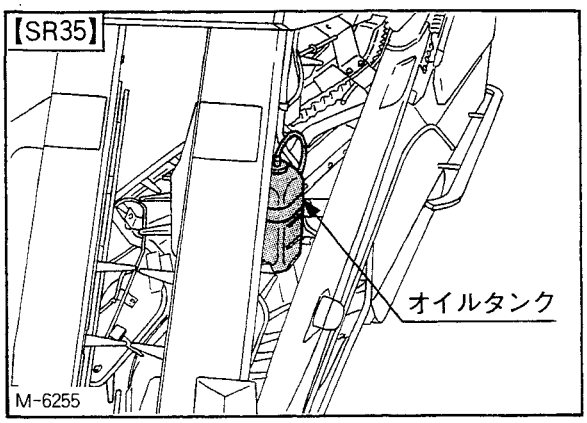
＊ディーゼルエンジンオイルはクボタ純オイルD10W-30又はD30をご使用ください。

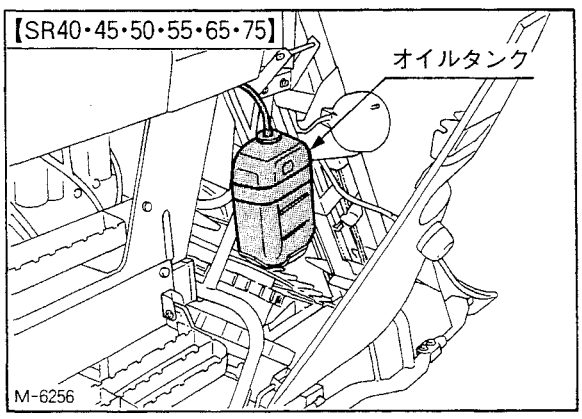
＊指定オイル以外，又は廃油は使わないでください。ごみ類の混入は，ノズルの詰まり，バルブの不良の原因になります。

集中注油装置により各作動部に注油できます。毎日の作業前に次の要領で注油してください。
なお，オイルタンクの油量も確認してください。

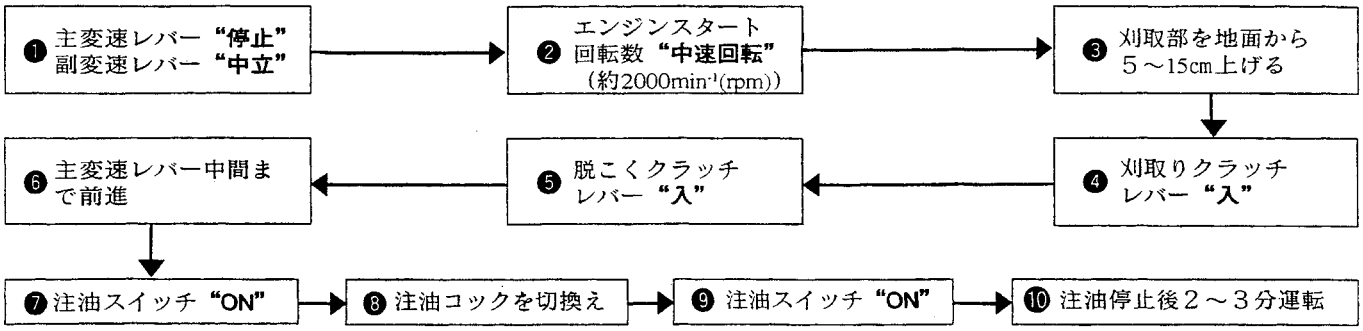


SR35には注油コックはありません。





◆集中注油のしかた



重 要

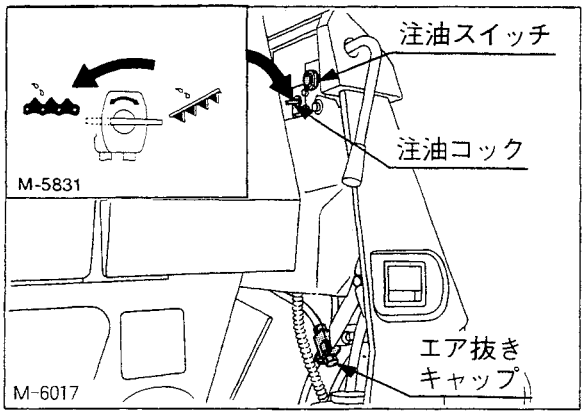
＊最初の１回目は配管内部にオイルがゆきわたり，配管内部にオイルが充満したことを確認したあと注油してください。配管内にオイルがゆきわたるまで約30秒かかりますので配管内部に充満したことを確認したあとチェーンで約７～10秒，刈刃で約５～７秒注油してください。不足の場合は更に繰返してください。

重 要

＊オイルタンクのオイル量を確認してから注油してください。空状態で注油スイッチを押すとポンプモータの故障の原因になります。
＊各チェーン部に巻付いたわらくずやごみはきれいに取除いてください。
＊各チェーン停止状態で注油スイッチを操作しないでください。油が１箇所に固まってベルトやカバーに付着し，スリップしやすくなります。
＊チェーンは中速回転で注油してください。その際２番警報が鳴りますが，異常ではありません。
＊必要以上に注油しないでください。機械が汚れるばかりでなく，故障の原因になります。
＊気温が10℃以下になると各ノズルからの油の出かたが不均一になります。注油後，各チェーンの注油状態を確認し，不足箇所のないようにしてください。
＊万一ポンプとオイルタンク間のホースにエアが入り，注油スイッチを押してもオイルが送られない場合は，エア抜きキャップをゆるめ，エア抜きしてから作動してください。

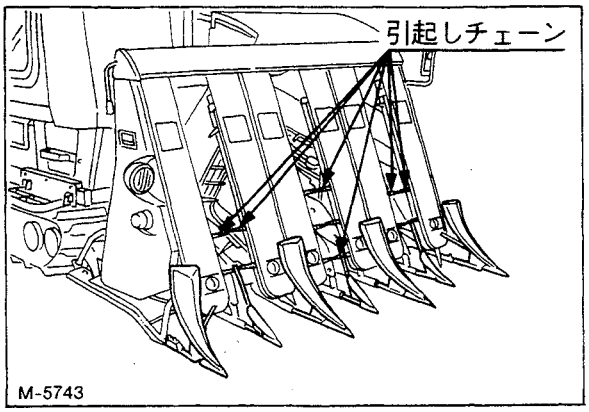
◆エア抜きの方法

＊注油コックはチェーンに切換えてください。
図示のエア抜きキャップを外し，内部のゴムシールを外してから，注油スイッチを押して，油を送出してください。

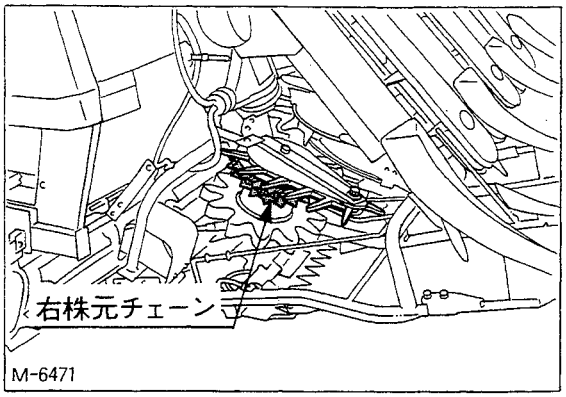


☆印部は，集中注油装置で自動注油できますが，☆印のない箇所はオイル差しで注油してください。

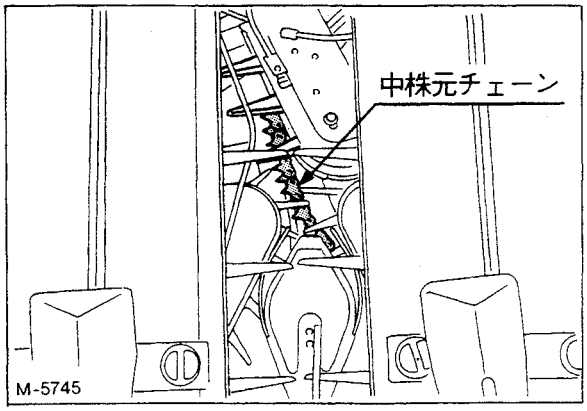
☆◆引起しチェーン



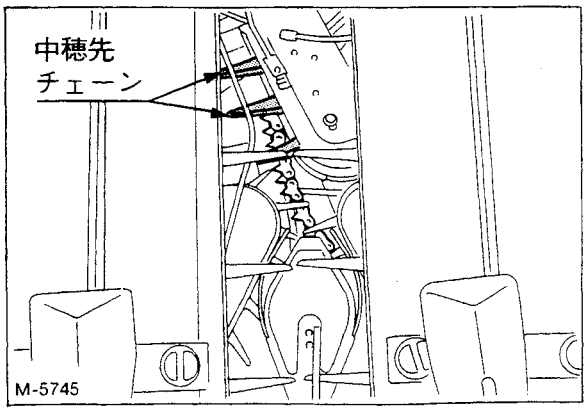
☆◆右株元チェーン



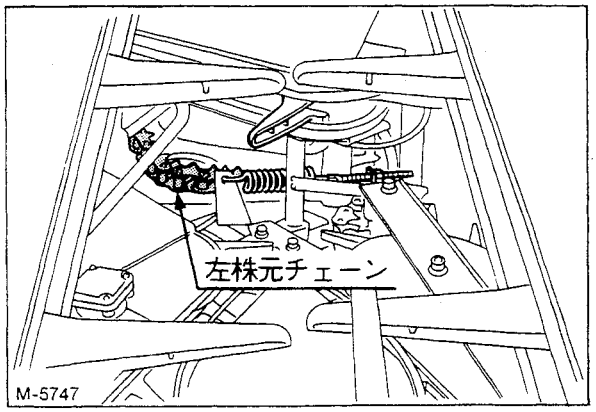
☆◆中株元チェーン【SR55・65・75】



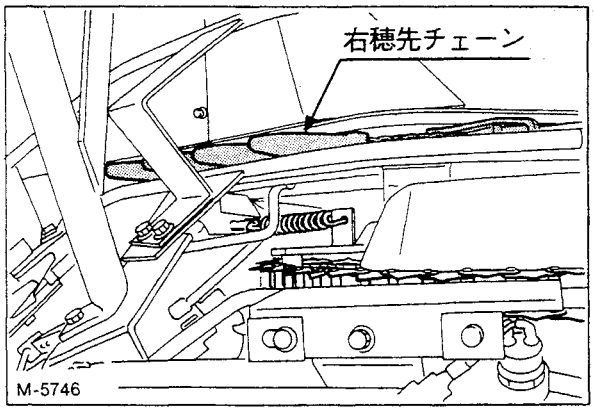
☆◆中穂先チェーン【SR55・65・75】



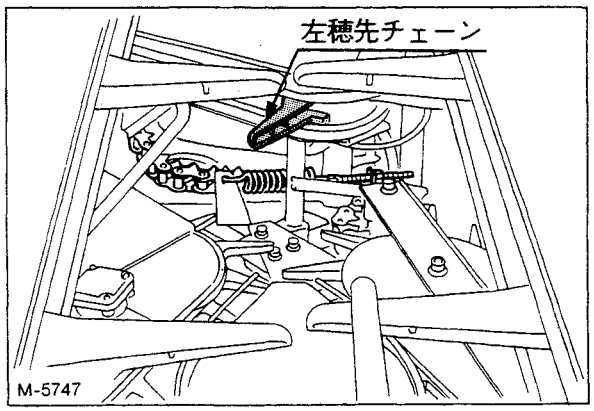
☆◆左株元チェーン



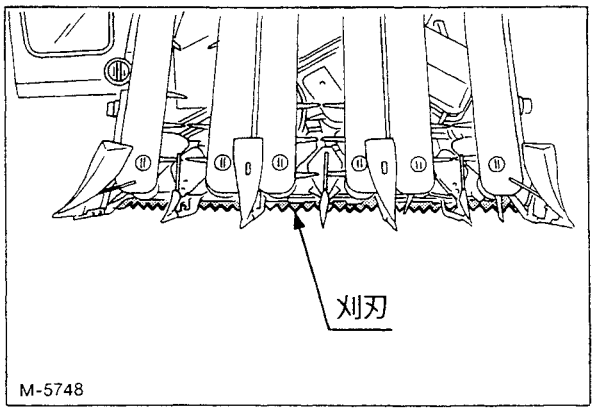
☆◆右穂先チェーン



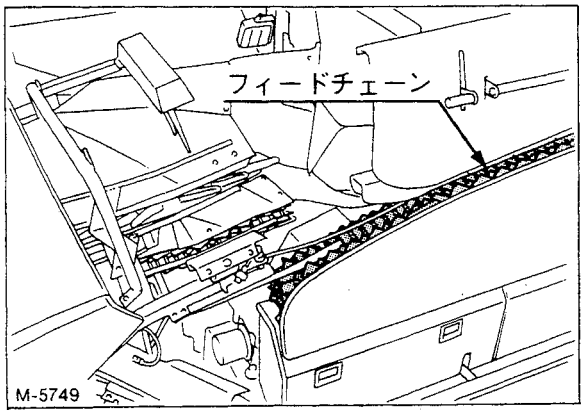
☆◆左穂先チェーン



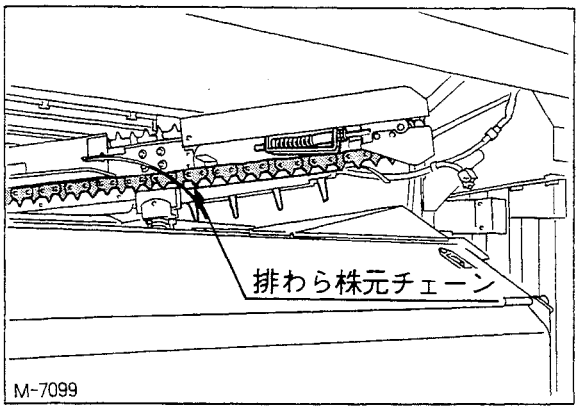
☆◆刈刃



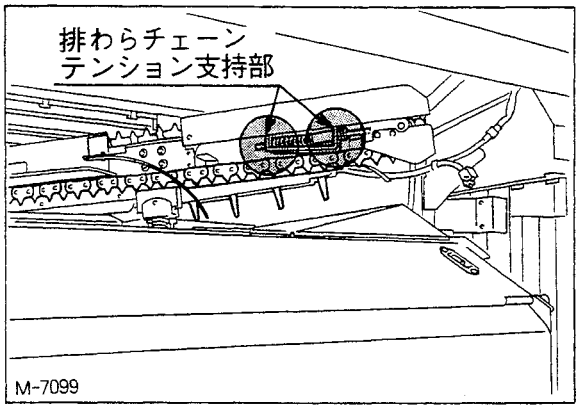
☆◆フィードチェーン



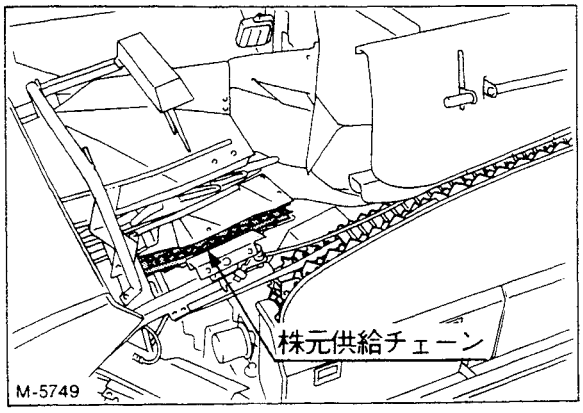
☆◆排わら株元チェーン



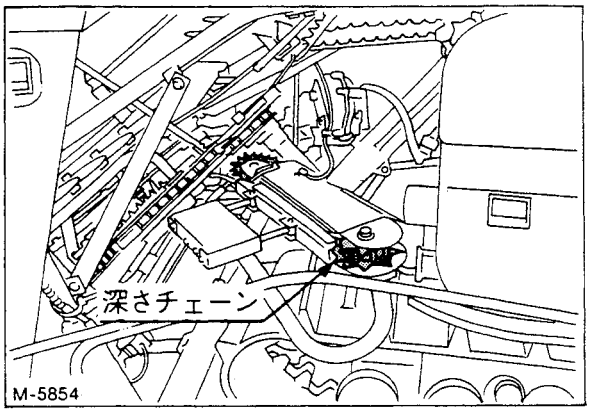
◆排わらチェーンテンション支持部



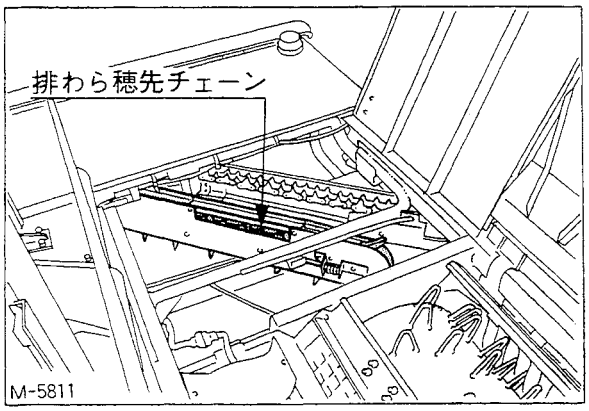
☆◆株元供給チェーン



☆◆深さチェーン



☆◆排わら穂先チェーン



エンジンの始動と停止

注 意

＊この取扱説明書前編の黄色のページの“安全に作業をするために”の内容を必ずお読みください。
＊コンバインに貼ってある警告・注意ラベルの内容を必ずお読みください。
＊エンジン排気ガスによる，排気ガス中毒をさけるため，換気の不十分な納屋・倉庫でエンジンを回さないでください。
＊周囲の人に合図をし，始動操作は，運転位置で行なってください。
＊各クラッチレバーを“切”又は“停止”，主変速レバーを“停止”にして，始動してください。

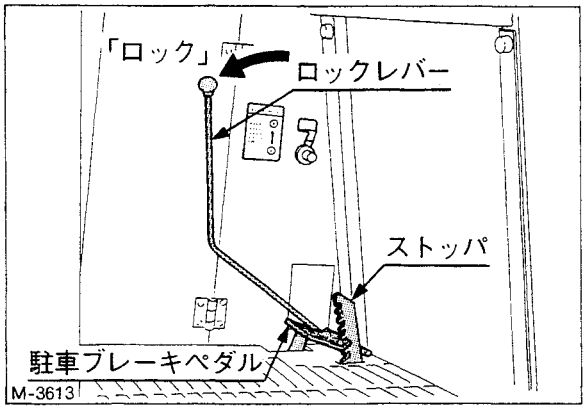
エンジンの始動

1 駐車ブレーキをかける

注 意

＊副変速レバーが“中立”位置では，油圧ロックが作動しないため，駐車ブレーキを掛けるときは副変速レバーが“中立以外”の位置で，旋回切換えレバー（T仕様）が“スピンターン／ソフトターン”のどちらかに確実に入っていることを確かめてください。
＊坂道で駐車するときは，木片などで車止めをし暴走を防いでください。

駐車ブレーキペダルを強くいっぱい踏んでロックレバーで駐車ブレーキペダルにストッパを掛けロックします。

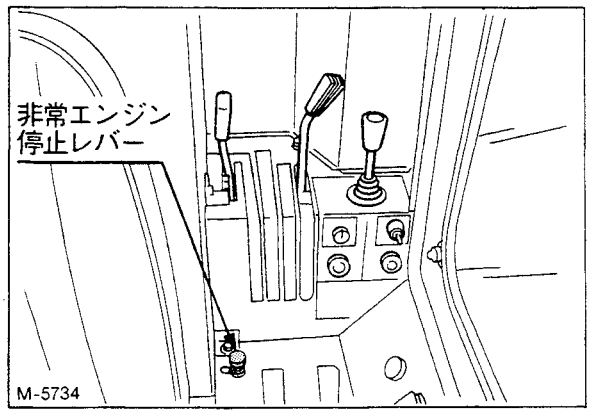


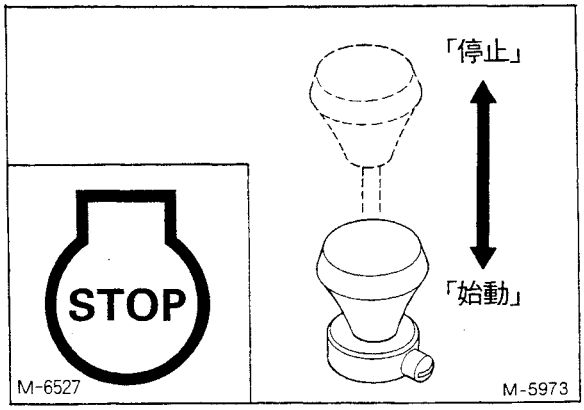
補 足

＊駐車ブレーキペダルを踏むと主変速レバーが“停止”位置に戻ります。また，駐車ブレーキペダルが“ロック”位置の場合は，主変速レバーは動きません。

2 非常エンジン停止レバーを確認する

非常エンジン停止レバーが停止位置になっていたら，始動位置まで押込んでください。





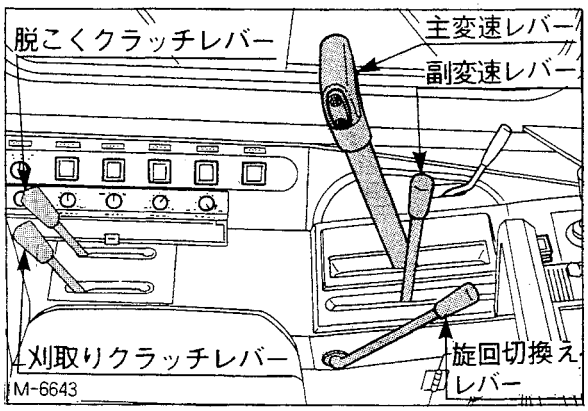
3 各種レバー位置を確認する

❶主変速レバーが“停止”位置，副変速レバーが“中立”以外の位置にあるか確認する。

❷刈取りクラッチレバー，脱こくクラッチレバーが“切”の位置にあるか確認する。

❸旋回切換えレバーが“スピンターン”又は“ソフトターン”のどちらかの位置にあるか確認する。

【T仕様】



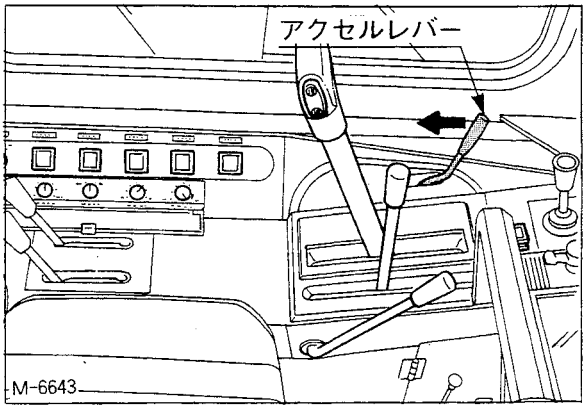
補 足

＊主変速レバーが“停止”で脱こくクラッチレバーが“切”の位置にないと，安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。

＊旋回切換えレバーが確実に切換え位置にないときに発進すると自動的にエンジンが停止します。

【T仕様】

❹アクセルレバーを“中程”まで引いてあるか確認する。



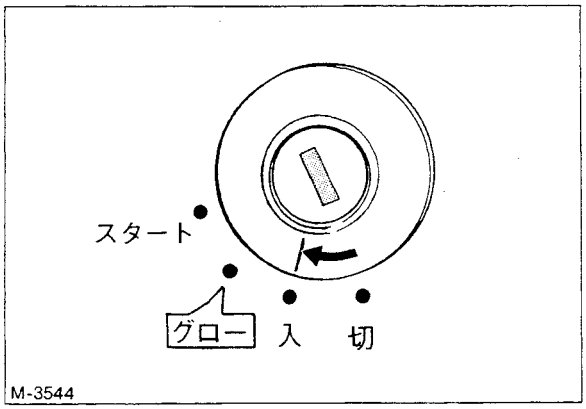
4 メインスイッチの操作

重 要

＊キーを“スタート”にし，セルモータを回して10秒たっても始動しないときは，いったんキーを“切”にして，30秒ほど休止してから，エンジンを再始動してください。10秒以上の使用は故障の原因になります。

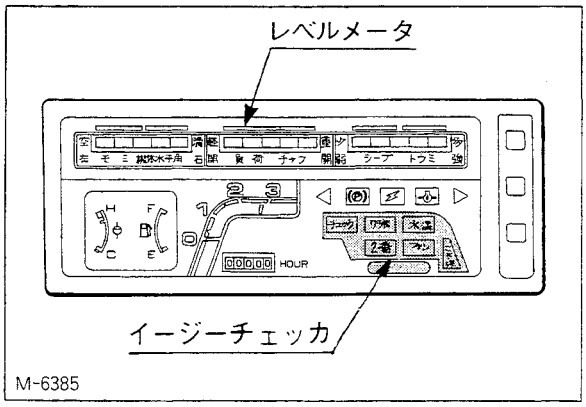
＊エンジンが始動すれば，暖機運転をしてください。

❶キーを差込み，“入”の位置にセットしてください。



◆メータパネルを点検してください

(1)エンジン停止中にキーを“入”にすると，イージーチェッカとレベルメータの全てのランプが点灯し，検知箇所に異常がなければ消灯します。また，オイルランプ，チャージランプは点灯したままで，エンジンを始動すると消灯します。駐車ブレーキランプも駐車ブレーキを掛けている場合は，点灯したままで解除すると消灯します。



補 足

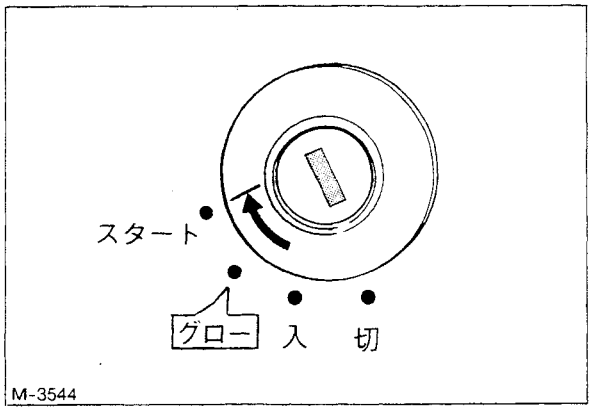
＊ブレーキランプ，オイルランプ，チャージランプはランプチェックとは無関係です。

(2)エンジン回転中に異常があればチェックランプが点滅し異常を知らせます。

重 要

＊イージーチエッカのみで日常点検を済ませないで，点検は確実に行なってください。

❷キーを，**“スタート”**位置に回します。
❸エンジンが始動すれば，キーから手を放してください。
❹エンジンが始動すれば，オイルランプ・チャージランプが消灯していることを確認してください。



◆暖機運転のしかた

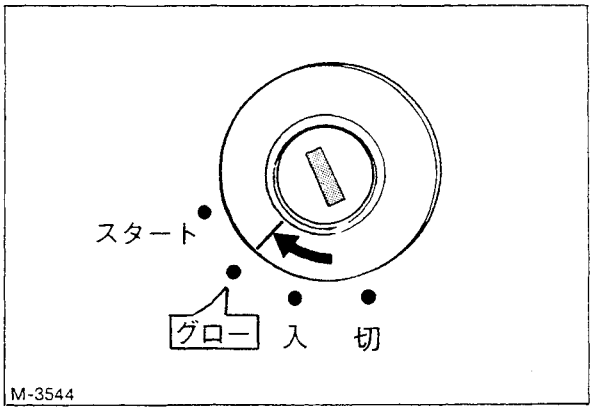
注 意

＊暖機運転中は必ず平地で駐車ブレーキを掛けて，主変速レバーを“停止”にして行なってください。

始動後，5～10分間は負荷をかけずに暖機運転をしてください。オイルを各部にじゅうぶんゆきわたらせるためで，始動してからすぐ負荷をかけると，運転部分の焼付きや破損など故障の原因になりますのでご注意ください。

寒冷時のエンジン始動

エンジンが0℃以下に冷えきっているときは，キーを**“グロー”**の位置に回し，約5～10秒間予熱します。



◆寒冷時の暖機運転とミッションオイルについて

重 要

＊暖機運転中はエンジン回転を約1500min^{-1}(rpm)に保ってください。
＊もし，エンジン，HST，トランスミッションのオイルを暖める前にコンバインを操作すると，コンバインの寿命が短くなります。

このコンバインはＨＳＴ・油圧操向クラッチ・油圧ブレーキが採用されております。
特に寒冷地では，気温が下って冷えると粘度が高くなって，始動時に吸込みが悪く油圧の立上がりが遅かったり，正常な圧力が得られなかったりすることがあります。
このようなことをなくすため，次表のとおり暖機運転してください。
これを怠ると油圧系統の故障を引起し，方向変換不能の状態になります。

(1)暖機運転時間

気　温	暖機運転時間
0～－10℃	約10分
－10～－15℃	10～15分
－15～－20℃	15～20分
－20℃以下	20分以上

(2)ミッションオイル

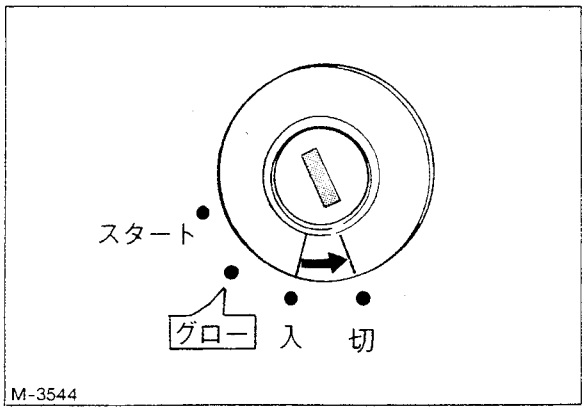
メーカ名	オイル名
コスモ石油 日本石油	クボタ純オイルNEW・UDT又は， スーパーUDT

エンジンの停止

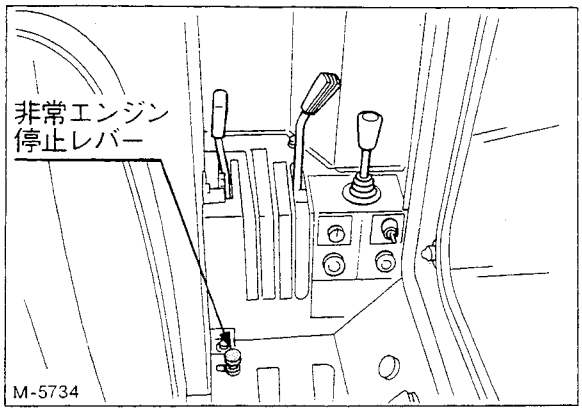
重 要

＊非常エンジン停止レバーは，メインスイッチにてエンジンが停止しないときなど非常時以外は，使用しないでください。

❶キーを“切”にしてください。エンジンが停止します。



❷電気系統の故障などにより，キーを“切”にしてもエンジンが停止しないときは，運転席左後方の非常エンジン停止レバーを引いて，エンジンを停止させてください。



■燃料切れ後の再始動のしかた

❶運転中に燃料切れで停止した場合は各クラッチを“切”にしてください。

❷燃料タンクに燃料を補給してください。

❸“エンジンの始動”の項1から4を確認の後，セルモータを回してください。エンジンが始動します。

補 足

＊燃料のエア抜きは自動で行なわれます。
メインスイッチを“入”にして5～10秒でエア抜きができます。

❹エンジン回転が安定したのを確認後，作業に入ってください。

コンバインの運転

新車時の扱いかた

新車時の上手な運転操作やメンテナンスがコンバインの寿命に影響を及ぼします。新車のコンバインは厳重な検査のもとに出荷されていますがコンバインの各部の部品はならし運転されていません。ならし運転期間中はコンバイン各部の部品がなじむまでは走行速度は低速で，過負荷となる刈取り作業は避けましょう。
コンバインの性能を最大に発揮させたり，長期にわたる耐久力を維持させるためには，適正なならし運転が重要です。
新車時の取扱いは次項を遵守してください。

■初期50時間のならし運転

＊急発進や急ブレーキ操作はしないでください。
＊寒い日や冬期，エンジンはじゅうぶん暖機運転をしてください。
＊エンジンは規定刈取り作業回転数以上にセットしないでください。
＊高速での刈取り作業は避けてください。
＊整地されていない凹凸道路では適切な低速走行をしてください。
以上はならし運転以降も必要な事項ですが，新車時は特に注意してください。

◆油脂・フィルタ類の交換と チェーン・ベルトの張り調整

＊新車時はコンバインの回転・しゅう動部の各部品はなじみがついていませんのでならし運転期間中に細かい金属粉が生じ，部品の極度な摩耗につながるおそれがあります。よって，油脂・フィルタ類は初期５０時間で交換してください。
＊チェーンやベルト類はならし運転中に初期伸びが発生します。初期２０時間で張り調整をしてください。

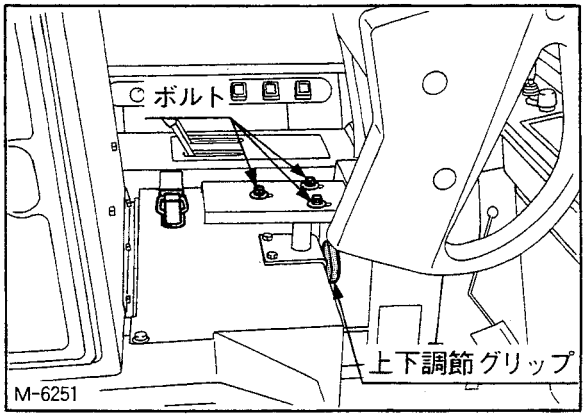
発進

注 意

＊始動操作は，運転席で行なってください。
＊周囲の人に合図をしてから始動してください。
＊各クラッチレバーを“切”にして始動してください。
＊運転者以外は運転席に乗せないでください。

1 シートの調整

適正な作業姿勢が得られるようにシートの位置を調節してください。
(1)上下調節はグリップをゆるめて位置をずらしてください。
(2)前後調節はシートを前に倒し，シートの下のボルトをゆるめてずらしてください。



2 バックミラーの調整

左右の後方視野が十分に確認できる位置に調整してください。

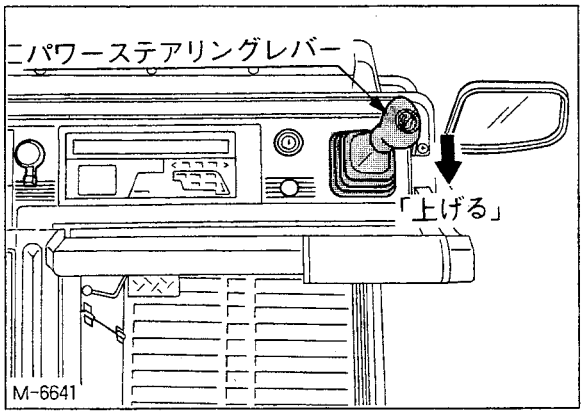
3 ホーンスイッチの操作

メインスイッチのキーを“入”位置にしホーンスイッチを押してホーンを鳴らし，周囲の人に始動の合図を送り，安全を確認してください。

4 エンジンを始動する

5刈取部を上げる

パワーステアリングレバーで刈取部を“上げ”にしてください。



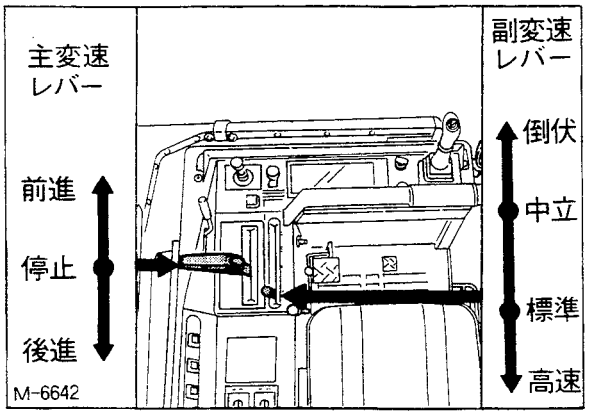
6走行速度の選択

注　意

＊坂道で副変速レバーを操作すると機体が暴走する危険があります。坂道では，絶対に操作しないでください。

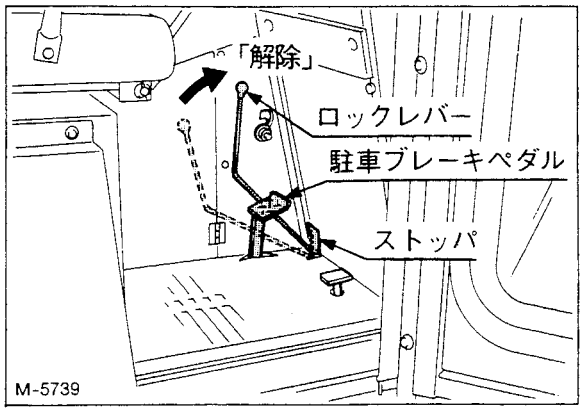
＊副変速レバーの切換えは平たんな場所で主変速レバーを“停止”位置にし，走行をいったん止めてから行なってください。

＊副変速レバーで速度の選定をします。



7駐車ブレーキの解除

駐車ブレーキペダルを強く踏込むとストッパが外れます。（イージーチェッカの駐車ブレーキランプが消灯します）



8コンビネーションスイッチの操作

◆ライティングスイッチ

“OFF” ……ヘッドランプ・作業灯消灯位置。

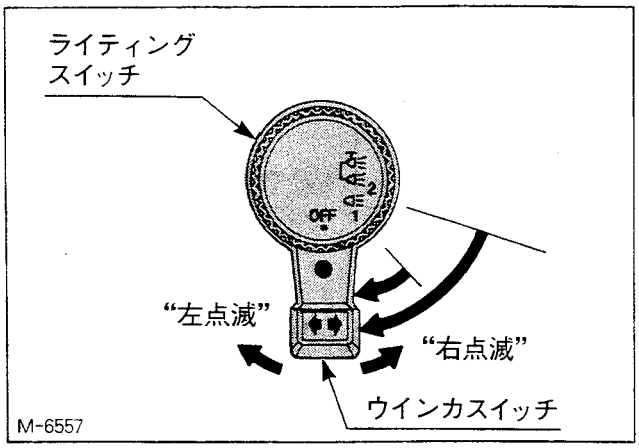
“1” ……ヘッドランプのみ点灯。

“2” ……ヘッドランプ・作業灯点灯。

◆ウインカスイッチ

(1)旋回方向に操作すると，ウインカランプ及びメータパネル内の案内ランプ(ウインカ用)が点滅します。

(2)旋回が終ったら，スイッチを中央に戻しましょう。

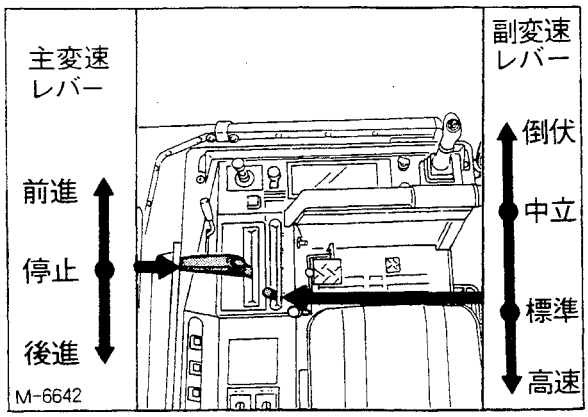


9 発進と走行

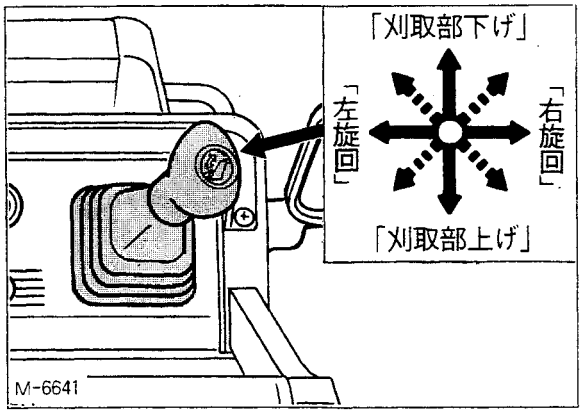
重 要

＊砂利道での急旋回は，クローラに石がかみこみ故障するおそれがありますので避けてください。
＊走行時は，エンジン回転数2000min^{-1}(rpm)以上で使用してください。
＊刈取部は，上げたまま長時間経過すると徐々に下降することがありますので注意してください。
＊発進するときは，必ず駐車ブレーキランプが消えていることを確認してください。
駐車ブレーキを掛けたまま，無理に主変速レバーを動かすと，駐車ブレーキが焼けることがあります。

❶主変速レバーを徐々に前進側に倒すと**“前進”**しますので適当な速度で走行してください。
後進は主変速レバーのノブを引上げながら後進側に倒すと**“後進”**します。



❷方向変換のときは，パワーステアリングレバーを軽く左又は右に倒します。
強く倒すと急旋回しますので注意してください。



停車

注 意

＊コンバインを離れるときは，平たんで安全な場所に置き，刈取部を降ろしてエンジンを止め，駐車ブレーキを“ロック”してください。

■停車のしかた

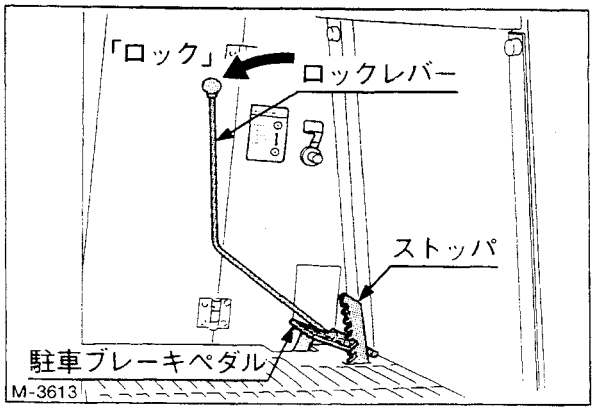
注 意

＊駐車ブレーキを掛けるときは必ず副変速レバーが“中立”位置以外の変速段に確実に入っていることを確かめてください。
＊坂道で駐車するときは，木片などで車止めをし暴走を防いでください。
＊旋回切換えレバーが確実に入っていないと，駐車ブレーキが作動しませんので，駐車ブレーキを掛けるときは，必ず旋回切換えレバーが“スピンターン”か“ソフトターン”のどちらかに確実に入っていることを確認してください。

補 足

＊駐車ブレーキペダルを踏むと主変速レバーが**“停止”**位置に戻ります。また，駐車ブレーキペダルが**“ロック”**位置の場合は，主変速レバーは動きません。

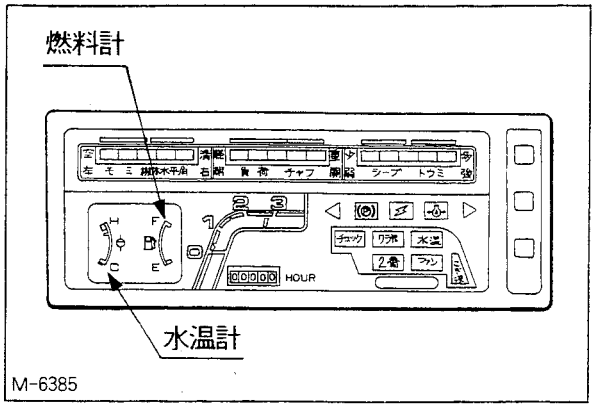
❶主変速レバーを**“停止”**にします。
❷駐車ブレーキペダルを強くいっぱい踏んで，ロックレバーで駐車ブレーキペダルにストッパを掛けロックします。



❸エンジンを停止してキーを抜いてください。

エンジン運転中の異常点検

1コンバインメータによる点検



◆燃料計

燃料計の指針が**“E”**に近づいたら早めに燃料を補給してください。

◆水温計

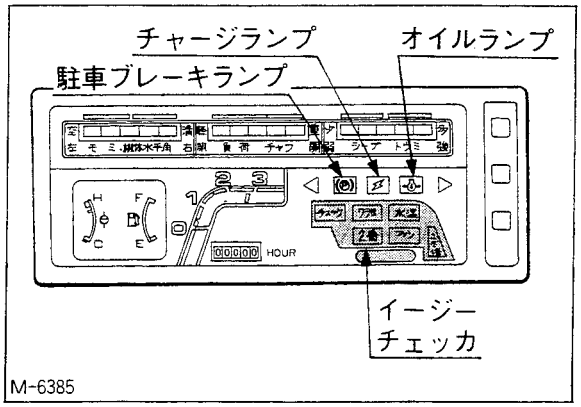
エンジン運転中にホーンが鳴り，水温ランプが点滅した場合は，オーバヒート状態ですから下記に従ってください。

注 意

＊オーバヒートなどでエンジンカバーを開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。
❶作業を中止する。
❷エンジンを約５分間アイドリング回転する。
❸エンジン停止後30分以上経過してから開ける。
❹点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドの危険性がないことを確認する。
＊エンジンが冷えてないとき，エンジンカバーを開けるとラジエータ部，リザーブタンク部などより熱湯が噴出し，あるいは高温部に接触してヤケドするおそれがあります。

(1)冷却水の有無，もれ
(2)ファンベルトのゆるみ
(3)防じんカバー及びラジエータ，オイルクーラに泥やゴミが付着していないか
を点検してください。

2イージーチェッカによる点検



❶ オイルランプ
エンジン回転中で，点灯したままのときは，エンジンを停止させエンジンオイル量を点検してください。

❷ チャージランプ
エンジン回転中で，点灯したままのときは，エンジンを停止させ，充電系統を点検してください。

❸ 水温 水温ランプ
水温ランプが点滅し，ホーンが鳴った場合は左記の**“◆水温計”**の内容に従ってください。

❹ Ⓟ 駐車ブレーキランプ
運転中に駐車ブレーキランプが点灯している場合は，すぐに駐車ブレーキを解除してください。

❺ チェック 自己診断警報ランプ
マイコンが自動装置の異常を検出すると点滅します。チェックランプが点滅を続けて消灯しないときには，お買上げいただいた販売店・ＪＡ農協・弊社支店又は㈱クボタアグリにご相談ください。

移動走行前の準備

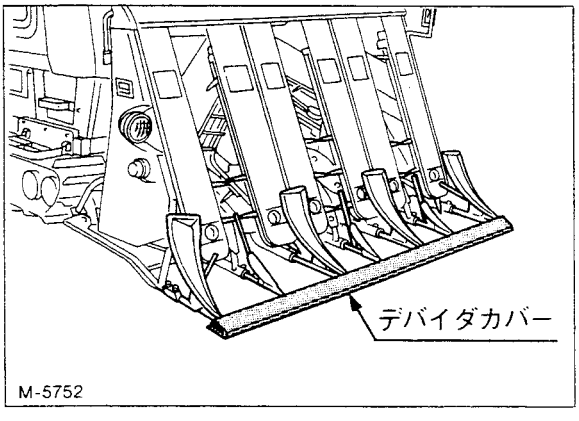
警 告

＊高速走行時，パワーステアリングレバーを強く操作すると急旋回して危険ですので，旋回前に必ず減速してからレバーを操作してください。
＊移動時は刈取部を最上昇位置にして，刈取り下降ロック金具で刈取部の下降防止を行なってください。
＊あぜの乗り越えは，もみを取出した状態（空の状態）で低速であぜに直角に進入してください。10cm以上のあぜ，又はコンクリートの畦畔は必ずあゆみ板を使用してください。
＊M仕様(自動車体水平制御)は機体を一番下げた状態にしてください。
＊溝のある農道や両側が傾斜している農道を通るときは，特に路肩に注意してください。
＊小型特殊自動車の市町村への申告手続き（ナンバプレート取付）していない場合又は，ナンバプレートを取得していてもスイスイデバイダ・キャノピ・結束機などを装着している場合は，“道路運送車両法”の違反となりますので公道を走行できません。必ずトラックなどに乗せて移動してください。
＊“道路交通法”上では公道走行時に，“大型特殊自動車”の運転可能な運転免許証が必要です。必ず所持してください。
＊運転者以外は運転席に乗せないでください。

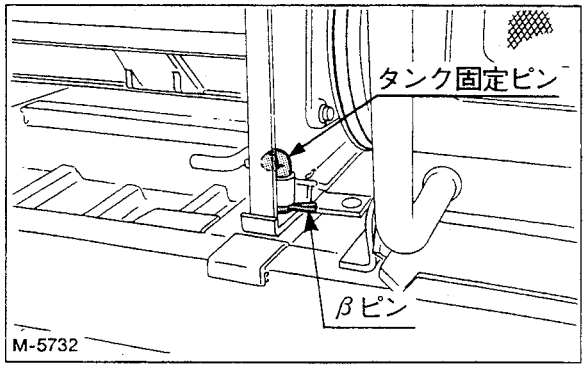
重 要

＊小型特殊自動車のナンバプレートを取得する際には，一定の装備（小特キット）が必要となりますので，購入先にご相談ください。

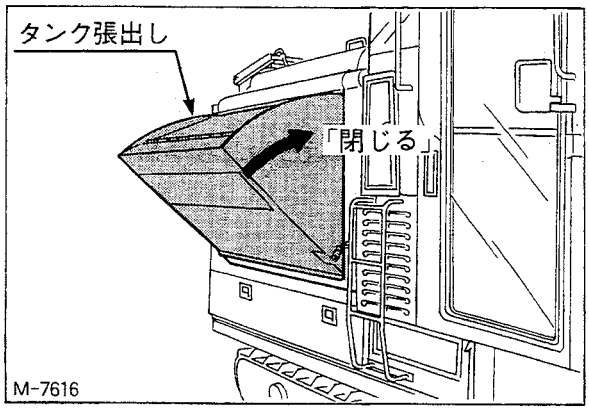
❶グレンタンク内に残っているもみは，すべて排出します。（**“こく粒排出作業のしかた”**の項参照）
❷デバイダカバーを取付けます。



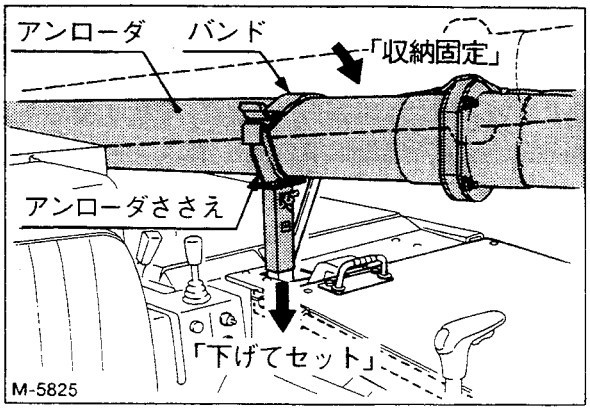
❸タンク固定ピンをさしこみβピンで固定します。



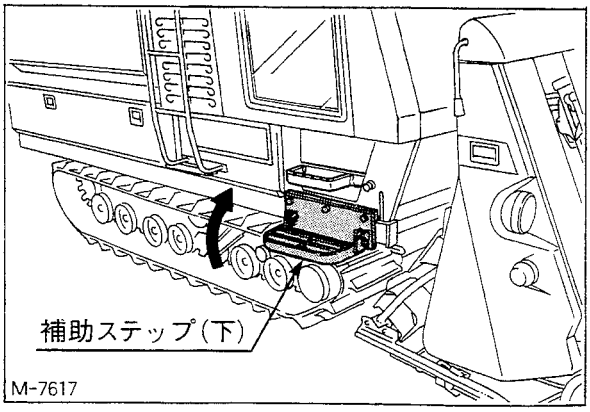
❹開閉張出しスイッチでグレンタンク張出しを閉じます。【SR35G2·40G2·45·75】



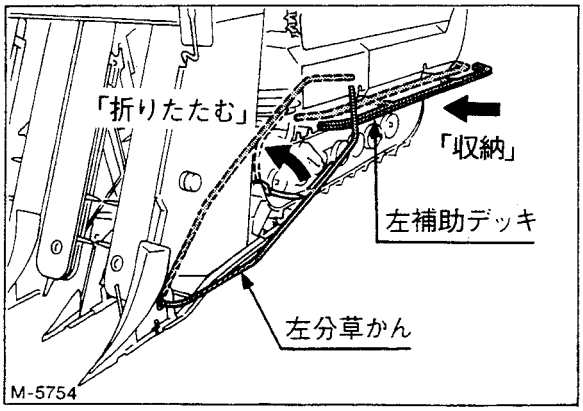
❺アンローダをアンローダささえに収納し，バンドで固定します。（アンローダささえは下げてセットしてください）



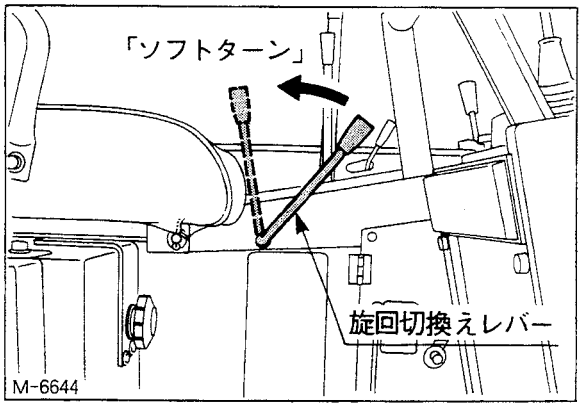
❻補助ステップ(下)を折りたたみます。



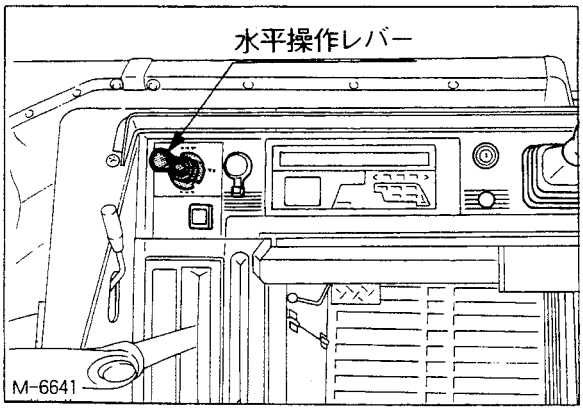
❼左補助デッキを収納し，左分草かんを折りたたみます。



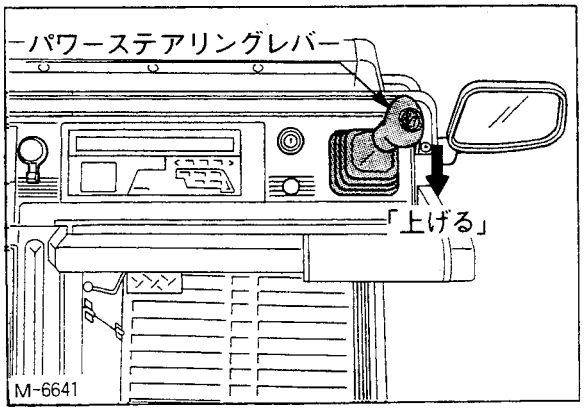
❽旋回切換えレバーを**“ソフトターン”**の位置にします。【T仕様】



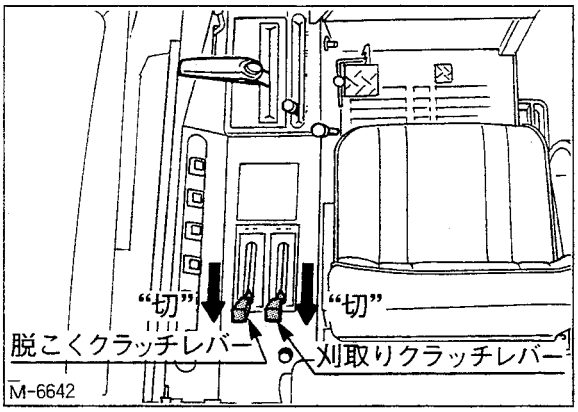
❾自動車体水平制御は，水平操作レバーで最も低い位置まで下げます。【M仕様】

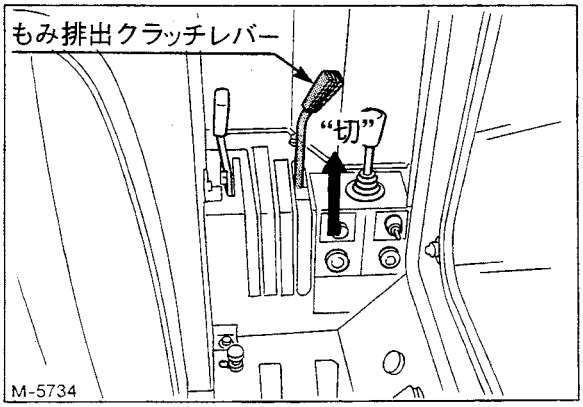


❿パワーステアリングレバーで刈取部を**“上げ”**ます。



⓫各クラッチレバー(刈取りクラッチ，脱こくクラッチ，もみ排出クラッチ)を**“切”**にします。



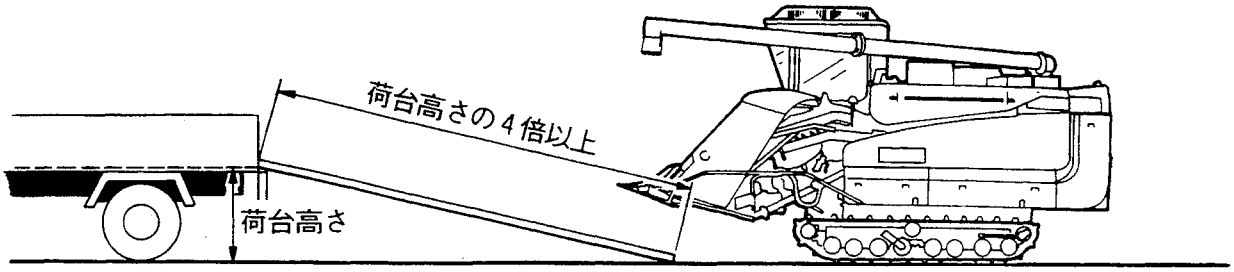


トラックへの積込み・積降し

注 意

＊あゆみ板は，じゅうぶんな強度，幅(クローラの1.2倍以上)，長さ(高さの４倍以上)のある基準に合ったすべり止め付きのものを使用し，コンバインの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。

＊積込みは前進で，積降しは後進で，低速で行ない周辺に人を近づけないでください。



M3426 M-5757

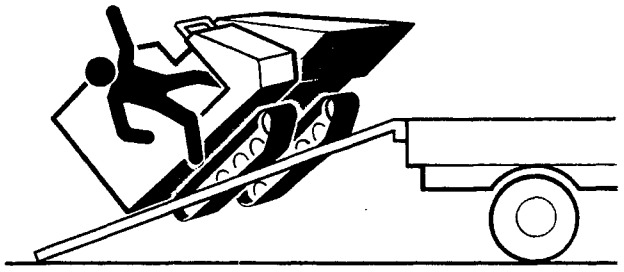
あゆみ板の基準

長　さ		トラックの荷台の高さの４倍以上
幅	SR75以外	60cm以上
	SR75	65cm以上
数　量		２枚
強度	SR75以外	１枚が2800kg以上の重量に耐えうる
	SR75	１枚が3000kg以上の重量に耐えうる

＊あゆみ板のフックは，荷台に段差のないように，また，ずれないように確実に掛けてください。

＊パワーステアリングレバーの左右操作は，あゆみ板の上では行なわないでください。もし操作すると，急に方向転換し落下するおそれがあります。

＊あゆみ板の途中でパワーステアリングレバー・副変速レバー・駐車ブレーキを操作すると，機械が急降下，落下する危険がありますので，操作しないでください。方向を変えるときは，いったん地上又は荷台に戻って方向を修正し，再度上り下りし直してください。

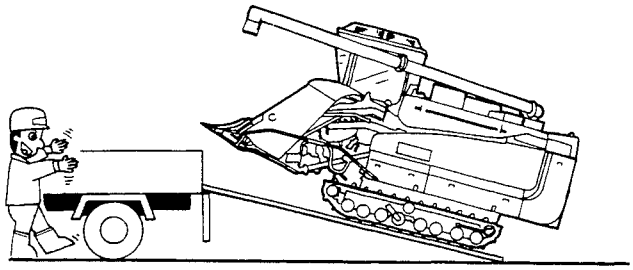


M-6223

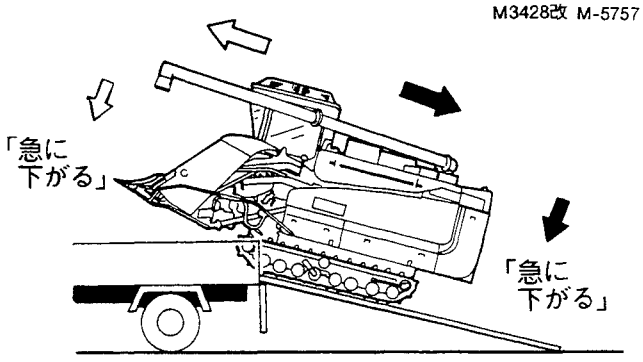
＊刈取り掻込みペダルを，坂道やあゆみ板の上で踏むと，暴走する危険がありますので絶対に踏まないでください。

＊平たん地を選び，できるだけ助手の 立合い誘導のもとに行なってください。また，コンバインの周辺に人を近づけないでください。

＊機体が凸部を越えるときは，急に姿勢が変わりますのでじゅうぶん注意してください。



M3428改 M-5757



M-3427 M-5757

❶グレンタンク内に残っているもみは，すべて排出します。

❷左分草かんとカッタの株元カバーを折りたたみ，左補助デッキを収納します。

❸グレンタンク開閉張り出しスイッチでグレンタンクの張り出しを閉じます。**【SR35G2･40G2･45･75】**

❹自動車体水平制御は，水平操作レバーで最も低い位置まで下げます。【M仕様】

❺パワーステアリングレバーで 刈取部を上限まで上げます。

❻各作業クラッチレバーを**“切”**にします。

❼エンジンは2000min^{-1}(rpm)以上で使い，副変速レバーを**“倒伏”**位置にし，主変速レバーは低速でゆっくり操作します。

❽あゆみ板の中央に左右のクローラを合せてから積込み・積降しをします。

■輸送時の注意

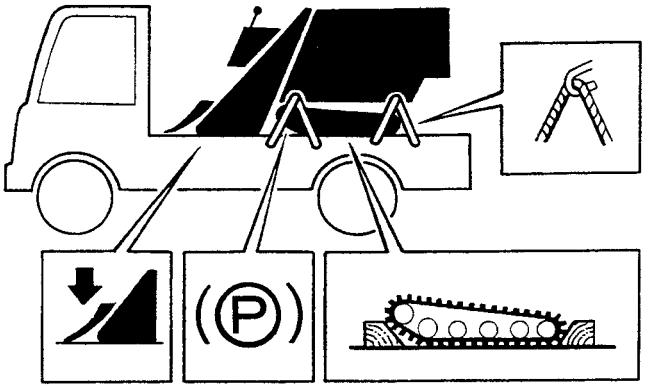
注 意

＊積込み・積降しはトラックの駐車ブレーキをしっかり掛けてください。

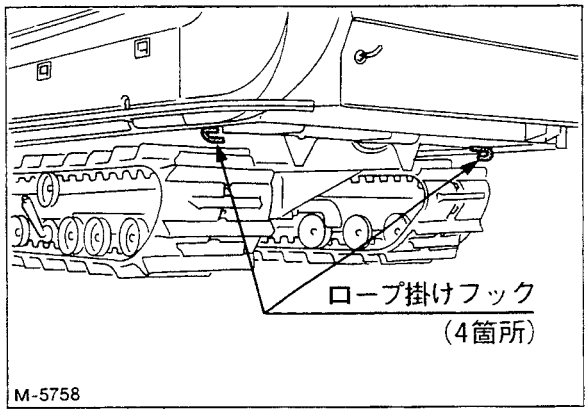
＊トラックへの積込み・積降しは，平地を選んで，最低速で行なってください。

＊トラックの上では刈取部を床まで降し駐車ブレーキを掛け，車止めをし，ロープでしっかり床に固定します。

＊トラックやトレーラに積んで走るときは，ロープをフレームの所定の“ロープ掛けフック”（4箇所）に掛けてください。また，駐車ブレーキを掛けペダルを“ロック”してください。

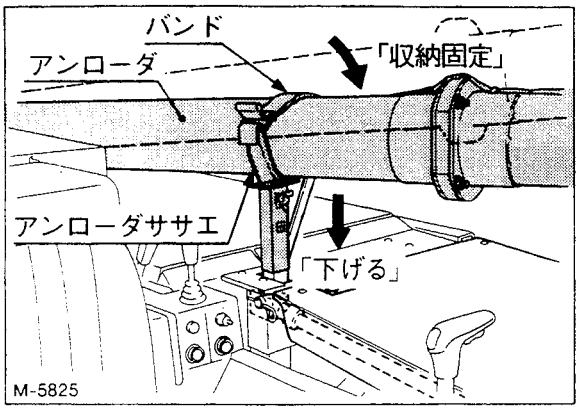


M-6224



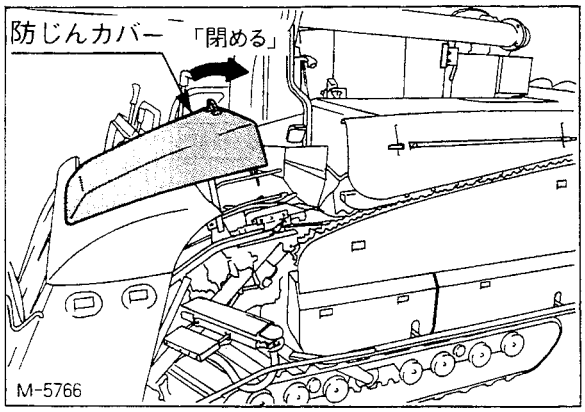
M-5758

トラックなどで輸送する場合は，アンローダささえを必ず下げてセットし，アンローダが浮上がらないようバンドで確実に固定してください。



M-5825

トラックで輸送する場合は，風圧でカバーが浮き破損・脱落し，ケガをさせるおそれがあるので，刈取部を下げて，防じんカバーを閉じ，ロープなどで浮上がりを防いでください。【SSDR仕様】



M-5766

自動装置の使いかた

■エンジン正逆転ファンの使いかた 【SR65･75】

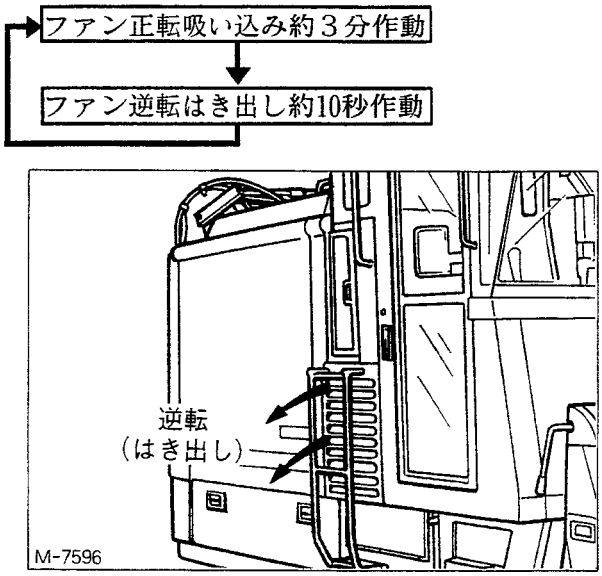
重 要

＊正逆転ファン機構に異常が発生したときは，イージーチェッカのファンランプが点滅します。点滅が点滅したときは，即運転を中止し，お買い上げになった販売店，JA農協又は(株)クボタアグリの窓口までご相談ください。

正逆転ファンは，次の順序で，自動的に作動を繰り返します。

❶エンジンを**“始動”**します。

❷脱こくクラッチレバーを“入”にします。



補 足

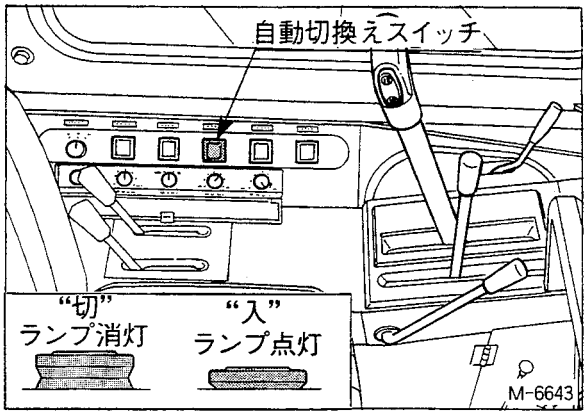
＊正逆転ファンは，脱こくクラッチレバー**“切”**のときは作動しません。

＊通常は，この正逆転ファン機構により，防じんあみ，ラジエータフィンなどの清掃は必要ありませんが，エンジンがオーバヒートしたときや，長期格納時には，清掃してください。また，エンジン始動前に防じんあみに詰まりが無いか点検してください。

■自動切換えスイッチの使いかた

自動切換えスイッチは押すことにより，**“自動”**に入りランプが点灯します。

再度このスイッチを押すことにより，手動に戻りランプが消えます。

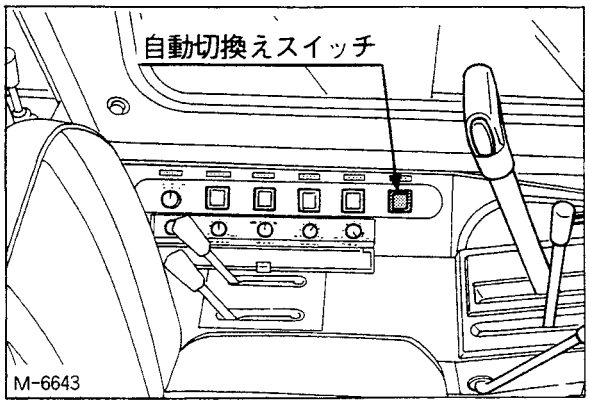


■自動方向制御の使いかた

❶脱こくクラッチレバーを**“入”**にします。
(自動方向制御は刈取り作業中のみ作動します。)

❷自動切換えスイッチを**“自動”**にし，自動ランプの点灯を確認します。

❸刈始めると，自動制御が作動します。



補 足

＊刈始めの条合せは手動で行なってください。

＊自動方向制御で中割作業を行なうと，植幅によって，デバイダが株に割込むことがあります。植幅が合わないときは，手動で行なってください。

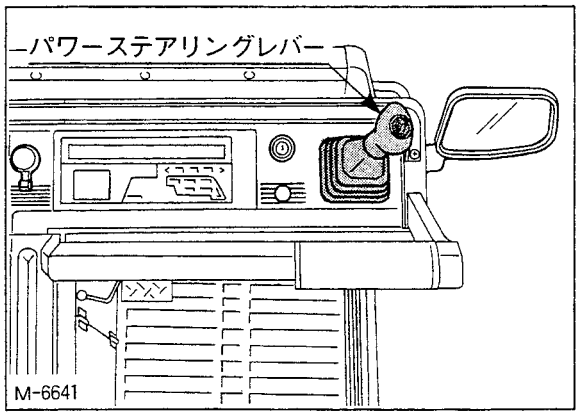
◆使用上の注意事項

(1)パワーステアリングレバーの操作は，自動に優先して操向しますので，切換えスイッチを**“自動”**のままで行なえます。

(2)切換えスイッチ**“自動”**のまま横刈りをした場合は，刈始めの３～４秒間は自動制御により機体が振れますが，それ以降は自動制御を停止し直進します。

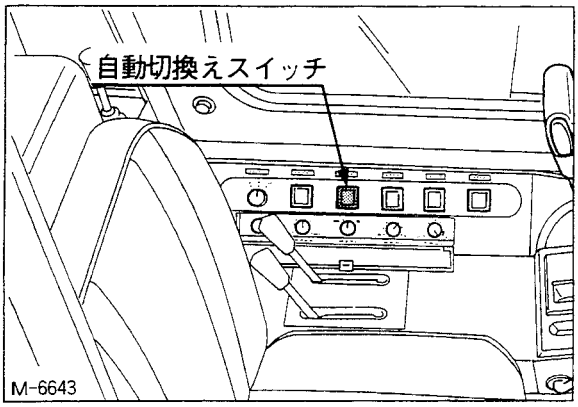
◆パワーステアリングレバー

(1)手動で方向修正及び旋回するときに使用します。
(2)自動制御中でも手動が優先されます。



■自動こぎ深さ制御の使いかた

❶脱こくクラッチレバーを**“入”**にします。
(自動こぎ深さ制御は刈取り作業中のみ作動します。)
❷刈取りクラッチレバーを**“入”**にし，刈取部を下げます。
❸自動切換えスイッチを**“自動”**にし，自動ランプの点灯を確認します。



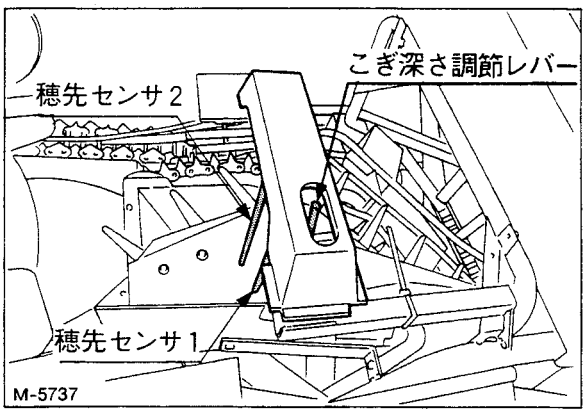
❹刈始めると，こぎ深さ制御が作動します。
❺穂先が脱こく供給口の**“こぎ深さ指示マーク”**に合うように，こぎ深さ調節レバーを調節します。
❻刈終ると，こぎ深さ制御は停止し，刈終りのこぎ深さを保持します。

補　足

＊穂先センサ部に浮わらや雑草が滞留すると，イージーチェッカのこぎ深さランプが点滅し，場合によってはホーンが鳴りますので取除いてください。

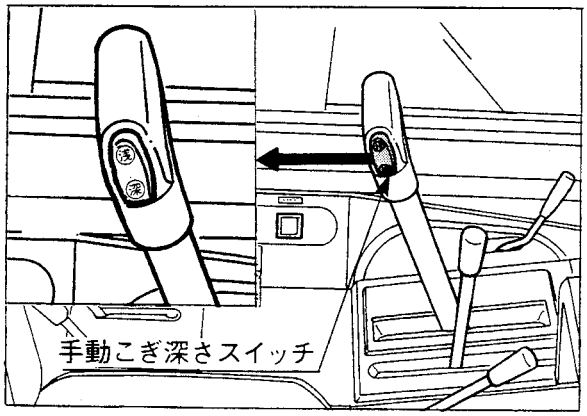
◆こぎ深さ調節レバー

(1)通常は**“ほぼ中央”**に合せてください。
(2)レバーを**“深”**の方向に倒すと，深こぎ気味に保持されます。
(3)レバーを**“浅”**の方向に倒すと，浅こぎ気味に保持されます。



◆手動操作スイッチ（手動こぎ深さスイッチ）

(1)手動でこぎ深さを調節するときに使用します。
(2)スイッチを**“深”**の方向に押すと深こぎになります。
(3)スイッチを**“浅”**の方向に押すと浅こぎになります。
(4)自動で作業中，手動操作スイッチを操作すると手動操作が優先されます。



◆使用上の注意事項

(1)刈取り中に作物全長が大幅に変化する場合は，こぎ深さ制御位置調節レバー，又は手動操作スイッチで補正してください。
(2)浮きわら・雑草の多いときは，手動で作業してください。
(3)無造作に主変速レバーを操作すると，誤まって手動こぎ深さスイッチに触れることがあります。思わぬ所でこぎ残しやかん放出するおそれがありますので，主変速レバーの操作にはじゅうぶん留意してください。

■自動レール制御の使いかた【SSDR仕様】

注 意

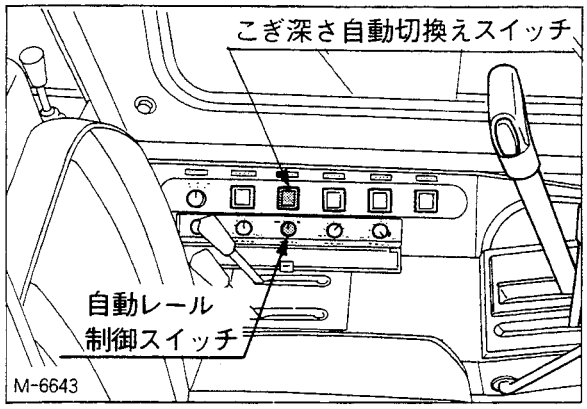
＊フィードチェーンレールは一定時間ののち自動的に下がりますので，安全にはじゅうぶんに注意してください。

重 要

＊深い湿田作業では，通常刈取り時に，自動レール制御が作動する場合があります。従って自動レール制御の作動が必要なときのみ，(あぜぎわ時など)自動レール制御スイッチを**“入”**にしてください。

❶脱こくクラッチレバーを**“入”**，自動こぎ深さ制御の自動切換えスイッチを**“自動”**にします。
（自動レール制御は自動こぎ深さ制御が**“自動”**の場合のみ作動します）

❷自動レール制御スイッチを**“入”**にします。



❸あぜ際などで刈上げると，脱こく部に搬送されたこくかんがこぎ残しを発生するような長さの場合は，自動的に，フィードチェーンレールの挟持が解除され，こくかん全体がこぎ胴に投入され，こぎ残しの発生を防止します。

補 足

＊自動レール制御は，自動こぎ深さ制御と連動して作動します。刈上げ時に，こぎ残しが発生するようなかん長の作物が搬送された場合のみ，フィードチェーンレールの挟持が解除されます。

■自動刈高さ制御の使いかた【SSDR仕様】

注 意

＊ワンタッチで下降するので足元に注意してください。

❶脱こくクラッチレバーを**“入”**にします。

❷自動切換えスイッチを**“自動”**にし，自動ランプの点灯を確認します。

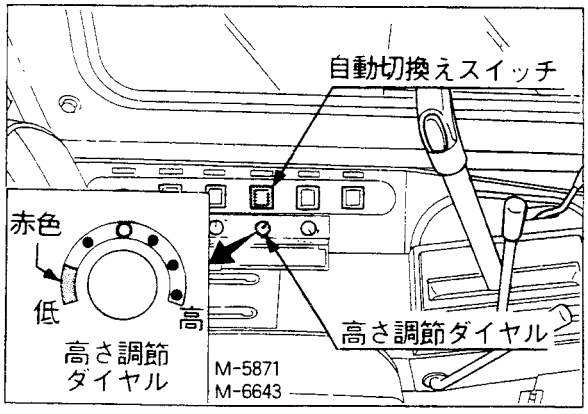
❸パワーステアリングレバーを**“下げ”**にすると，自動制御が作動します。

補 足

＊刈取部が上がっているときに**“下げ”**にすると，刈取部は連続下降します。

❹刈終りにパワーステアリングレバーを**“上げ”**にすると，自動制御は停止し，刈取部は上がった位置を保持します。

❺手動で刈取り中に自動切換えスイッチを**“自動”**にしますと，自動ランプが点灯し自動制御が作動します。



◆高さ調節ダイヤル

(1)高さ調節ダイヤルは通常**“O”**にセットしてください。

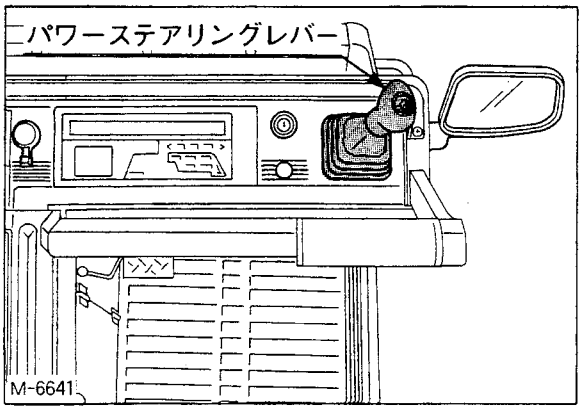
(2)ダイヤルを**“高”**の方向に回すと，高刈りとなります。

(3)ダイヤルを**“低”**の方向に回すと，低刈りとなります。

(4)高さ調節ダイヤルの赤色で表示された範囲では，地面の状態により，デバイダの突込みを生じる場合があります。その場合は赤色範囲以上で調節するか，パワーステアリングレバーで適正高さに修正してください。

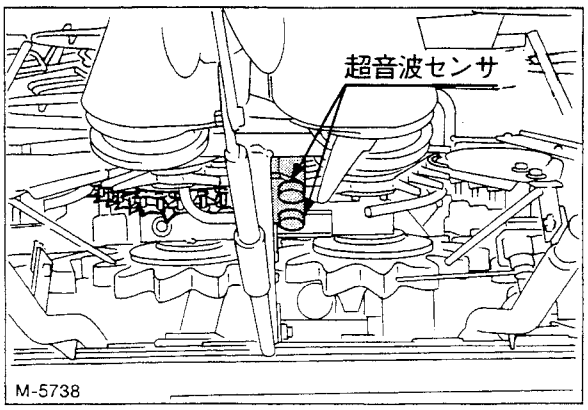
◆パワーステアリングレバー

(1)手動で刈取部を昇降するときに使用します。
(2)自動制御中でも手動が優先されます。



補 足

＊主変速レバーが**“停止”**位置にあるとき自動制御は停止します。ただし，高さ調節ダイヤルによる刈取部の調節は可能です。
＊刈始めに，切わらや土の盛上りをセンサが検知して刈取部が上昇する場合は，前進しながら，パワーステアリングレバーで適正高さに修正してください。
＊刈取部にからんだわらや雑草が，センサの下にくると，誤動作をしますので取除いてください。
＊湿田や湛水田でセンサに水や泥が付着すると，誤動作をすることがありますので，柔かい布で取除いてください。
＊湿田で機体傾斜の激しいときには，自動制御は使用しないでください。
＊高さ調節ダイヤルを最低の付近で使用するときは，デバイダの突込みを生じやすいですから，機体傾斜や凹凸の激しい場所では手動にするか，又は車速を下げてください。
＊超音波センサの内部に異物が入ったときは誤動作を生じやすいので，内部の異物を柔かい布で取除いてください。

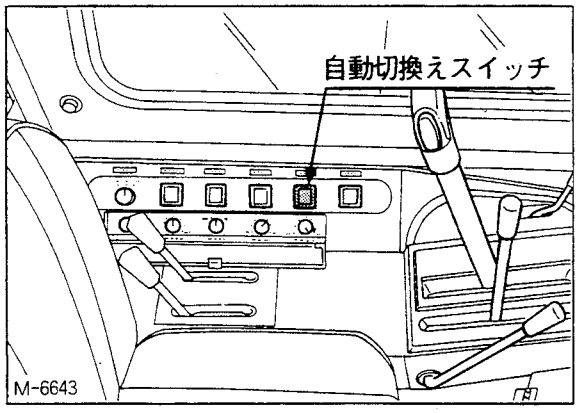


■自動車速制御の使いかた

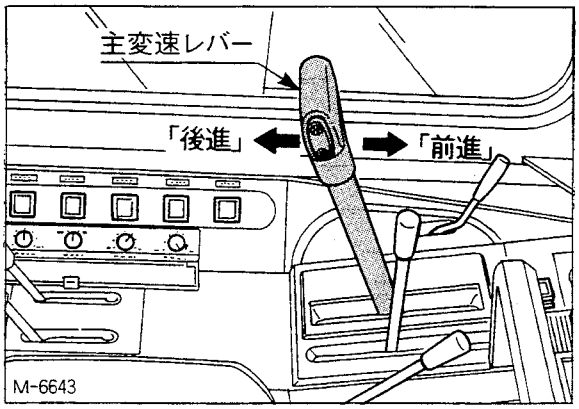
注 意

＊主変速レバーは手動優先になっていますので，緊急時には，主変速レバーを手動で停止に戻してください。

❶脱こくクラッチレバーを**“入”**にします。
❷刈取りクラッチレバーを**“入”**にし，刈取部を下げます。
❸自動切換えスイッチを**“自動”**にし，自動ランプの点灯を確認します。



❹主変速レバーを手動で操作して，走行します。



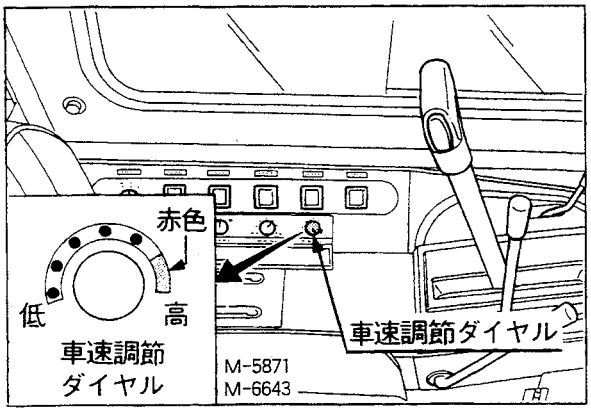
❺刈始めると自動制御が作動して，最適な車速になるように自動的に増減速します。
❻脱こく制御との連動により，脱こく機の能力をオーバしたとき自動的に車速を減速します。
❼刈終って旋回するとき，エンジンに過負荷が生じると自動的に減速します。

◆車速調節ダイヤル

(1)車速調節ダイヤルを“高”の方向に回すと，自動制御の上限車速が高くなります。

(2)車速調節ダイヤルを“低”の方向に回すと，自動制御の上限車速が低くなります。

(3)車速調節ダイヤルは，車速が1.25m/s 以上の位置は，赤色で表示しています。この範囲内は，作物条件により，負荷が大きくなる場合があります。その場合は，赤色範囲以下で調節してください。



◆手動操作での作業スピード調節

(1)手動で作業する場合は，“3”のメータまでの範囲で刈取り作業を行なつてください。

段階	負荷メータ・ホーン	変速指示
1	1	加速可能
2	1 2	加速可能
3	1 2 3	適正速度
4	1 2 3 4	減速必要
5	1 2 3 4 5	減速必要
6	1 2 3 4 5，ホーン断続	即時減速

(2)自動制御で作業中でも主変速レバーが優先されます。

■自動車体水平制御の使いかた【M仕様】

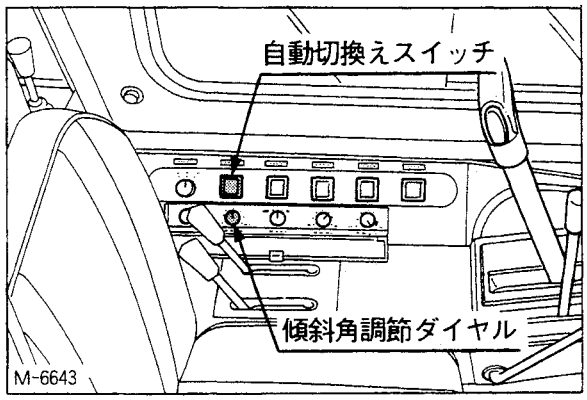
注 意

＊あぜの乗越時や移動走行時に，脱こくクラッチレバーを操作すると，機体が急に傾斜することがあるので，刈取り作業時以外は，各作業クラッチ以外は“切”の位置にしておいてください。

❶脱こくクラッチレバーを“入”にします。

❷自動切換えスイッチを“自動”にし，自動ランプの点灯を確認します。

❸この状態で水平制御が作動します。



◆傾斜角調節ダイヤル

❶通常は中央に合せてください。

❷ダイヤルを“右上”の方向に回すと，右上り気味に制御します。

❸ダイヤルを“左上”の方向に回すと，左上り気味に制御します。

❹湿田で機体が左又は右にそれて直進しない場合は，傾斜角調節ダイヤルで機体の傾斜を調節すると直進性が良くなります。

◆水平操作レバー

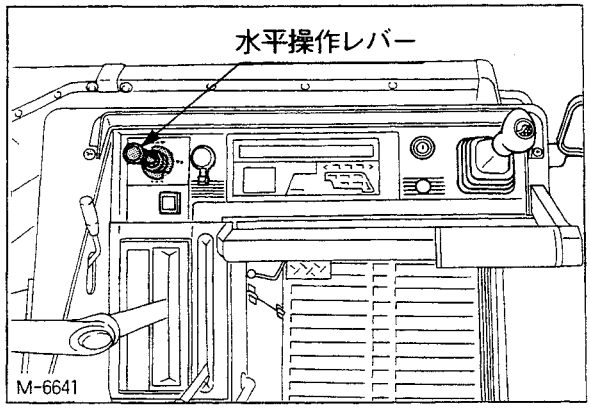
(1)レバーを“機体上”の方向に倒すと，機体の左右とも上がります。

(2)レバーを“機体下”の方向に倒すと，機体の左右とも下がります。

(3)レバーを“左上”の方向に倒すと，機体の左が上がり，右が下がります。

(4)レバーを“右上”の方向に倒すと，機体の右が上がり，左が下がります。

(5)自動制御で作業中でも水平操作レバーが優先されます。



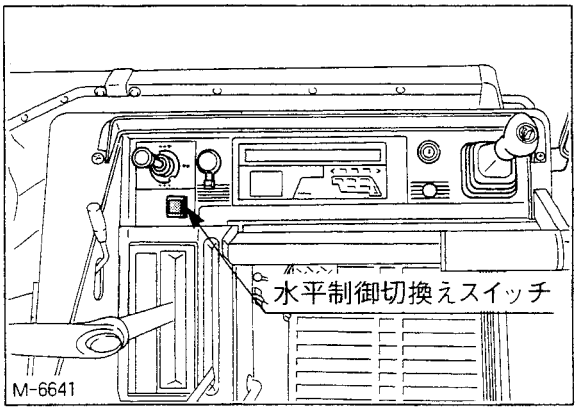
重 要

＊使用する必要がなくなったときは，機体を必ず一番下まで下げてください。
＊自動で作業した後，脱こくクラッチレバーを“切”にするか，又は自動切換えスイッチを“手動”にすると，機体は左右ともいったん一番下まで下がります。
＊下降中に，水平操作レバーを操作すると停止します。
＊刈取り作業以外（特にあぜの乗越時，移動走行時，運搬時，格納時）の場合は各作業クラッチは“切”にし，機体を一番下まで下げてください。
＊傾斜地では使用しないでください。
＊自動切換えスイッチが“自動”の位置のとき，脱こくクラッチレバーを“切”にすると，機体は一番下まで自動的に下がります。また，この状態では制御は作動しません。

◆水平制御切換えスイッチ

自動切換えスイッチが“自動”で，脱こくクラッチレバーが“入”のとき，水平制御切換えスイッチは消灯状態になります。水平制御切換えスイッチは，押込まれた位置でロックされないスイッチです。スイッチの操作により，“通常”と“上げ基準”が交互に選択できます。“上げ基準”が選択されている場合にのみ，ランプが点滅します。

“消灯”… 機体最下げ状態を水平基準位置として，水平制御します。
“点滅”… スイッチを押すと，ランプが点滅し，機体最上げ状態を水平基準位置として，水平制御します。再びスイッチを押すと“消灯”状態になります。



【操作のポイント】

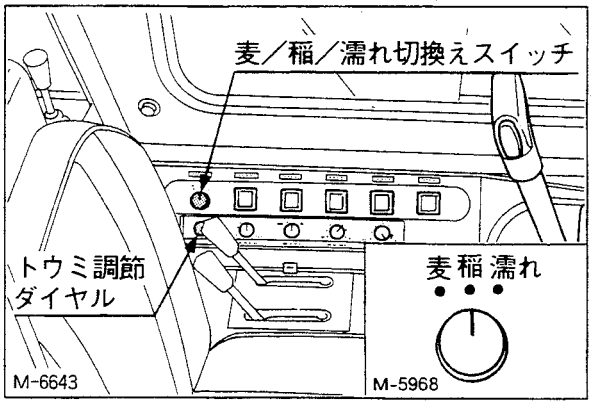
通常は“消灯”にて，作業してください。深い湿田での刈終り時に，旋回が困難な場合にスイッチを押して“点滅”状態にし，機体最上げ基準で水平制御させることにより，旋回が容易になります。直進刈取り状態になれば，再びスイッチを押して“消灯”にしてください。

補 足

＊超湿田で“上げ基準”を選択したまま刈取り作業を行なうと，車体が深みにはまった場合，脱出不能となることがあります。超湿田で，刈取り作業は“通常”もしくは“手動”にて行なってください。

■自動脱こく制御の使いかた

❶脱こくクラッチレバーを“入”にします。
❷麦／稲／濡れ切換えスイッチを作物に合わせて設定します。



◆トウミ調節ダイヤル設定方法

刈始めは，“O”の目盛にセットしてください。
選別が悪い又はロスが多い場合は，トウミダイヤルで調整してください。

	選別が悪いとき	ロスが多いとき
トウミ調節ダイヤルを回す方向	弱 強	弱 強

補 足

＊切換えスイッチを“濡れ”位置に設定すると，チャフは全開位置に固定されます。またトウミは，トウミ調節ダイヤルで設定した回転数に固定されます。
＊作業中にイージーチェッカのシーブメータが“5”を表示したり，ホーンが鳴る場合は，減速又は受けあみ・チャフシーブの目詰まりを取除いてください。

■アンローダ自動旋回制御の使いかた

注 意

＊自動スイッチを押す前に，アンローダの可動範囲に障害物がないか確認してください。

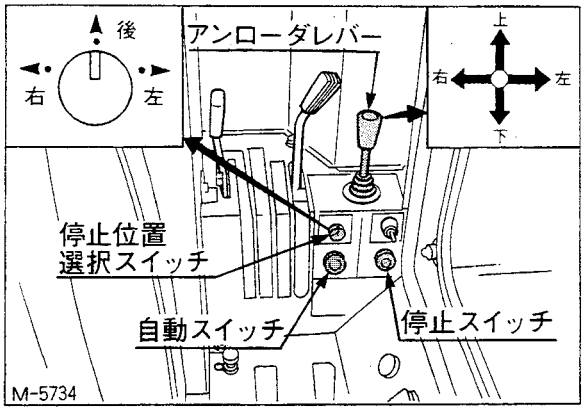
❶停止位置選択スイッチにより，排出位置を選択します。

補 足

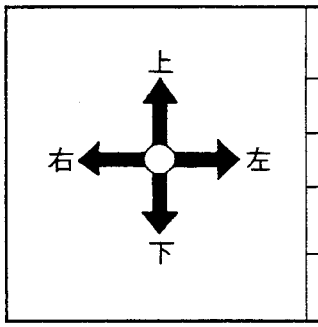
＊作業に応じて左・右・後の３つの排出位置が選択できます。

❷自動スイッチを押すとアンローダは上昇し，排出設定位置まで自動旋回します。

❸アンローダレバーを操作して，排出位置まで動かします。



◆アンローダレバー（手動操作）

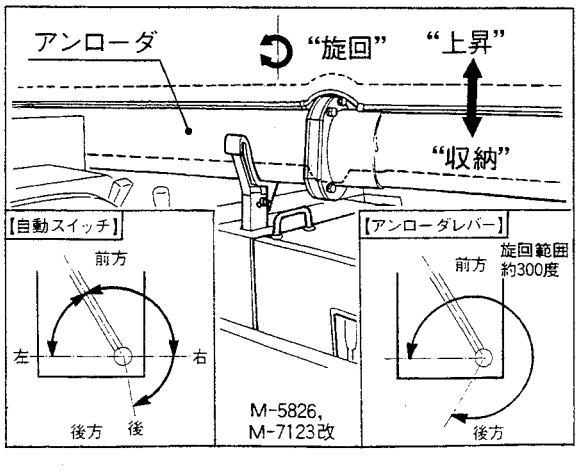


レバーの操作方向	アンローダの動き
上	上昇
下	下降
左	左回り(反時計方向)に旋回
右	右回り(時計方向)に旋回

補 足

＊左・右の方向は，運転席に座って見たときです。

❹もう一度自動スイッチを押すとアンローダは上昇し，収納位置に戻ります。



重 要

＊走行しながら，アンローダ自動旋回操作を行なわないでください。機械故障の原因になります。

＊コンバインが傾いている傾斜地などでは手動で操作してください。

補 足

＊自動制御でアンローダが格納位置に戻った直後に，自動スイッチを押しても自動制御は作動しません。停止スイッチを押すか，10秒程度待ってから自動スイッチを押してください。

＊自動制御作動中，停止スイッチかアンローダレバーを操作すると，自動制御は停止します。

＊グレンタンク上を通過させる場合は，アンローダを最上位置まで上げないと旋回できません。

＊自動制御作動中に，アンローダレバーを操作すると，手動操作が優先するため自動旋回は停止します。

■グレンタンク張出し開閉リモコンスイッチの使いかた【SR35G2･40G2･45･75】

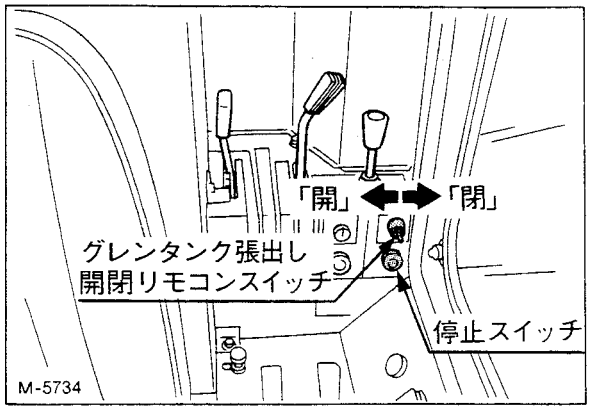
注 意

＊張出し部を開閉させるときは，周囲の安全をじゅうぶんに確認してください。

(1)スイッチを**“開”**にすると，グレンタンク内のもみ量に関わらず，張出し部が開きます。

(2)スイッチを**“閉”**にすると，グレンタンク内のもみ量が少ない(もみメータが全て消灯の)場合にのみ，張出し部が閉じます。

(3)開閉作動中，停止スイッチの操作により張出し部の開閉が停止します。



補 足

＊停止スイッチにより開閉動作を停止させた後は，再び開閉スイッチを操作すると，張出し部が開閉します。

＊もみメータが点灯しているとスイッチを**“閉”**にしても張出し部は閉じません。警報ブザーが鳴ります。

上手な収穫作業のしかた

コンバイン作業ができる作物とほ場の条件

作物とほ場の条件によっては，正常なコンバイン作業ができないことがあります。先ず作物とほ場の条件を確認してください。

■作物の条件

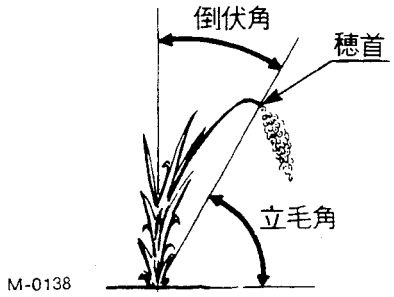
(1)作物の長さ……

全長55～130cm【標準仕様】
全長50～120cm【H仕様】

M-0138

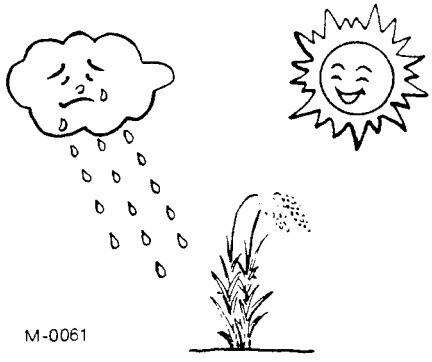
(2)作物の倒れ（倒伏角）…

追い刈り…85度以下。
向い刈り…70度以下。



M-0138

(3)作物のぬれ……乾いていること。
（手でしごいてぬれない状態）


M-0061

■ほ場の条件

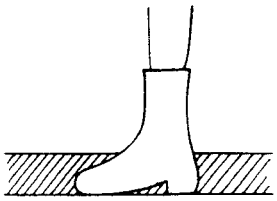
重　要

＊ほ場内に雑草が多いと刈取り作業ができない場合があります。ほ場内の除草に心がけてください。

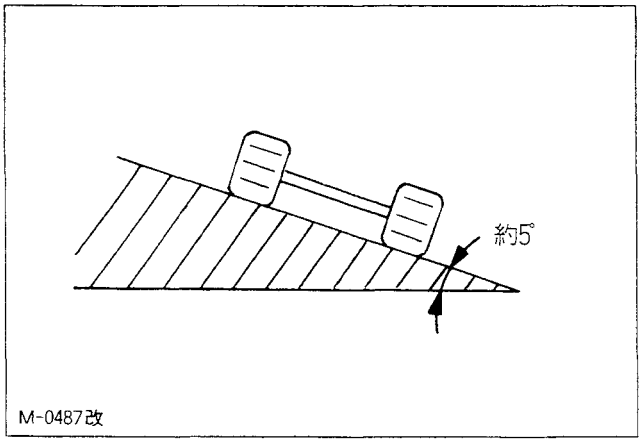
(1)ほ場のぬかる度合

足の沈み量の目安

標準仕様	15cm
M仕様	20cm
ML仕様	25cm


M-0218　（長靴をはいた状態）

(2)機体の傾斜角度５度以上では，作業できません。

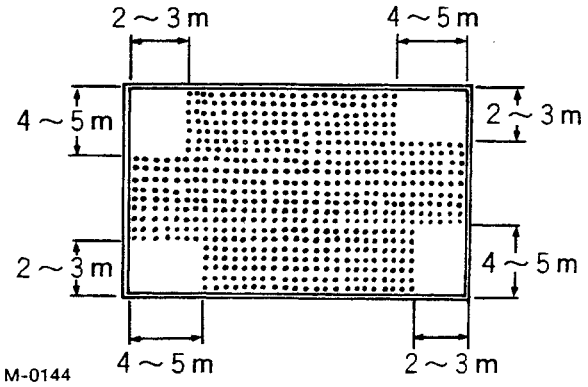


M-0487改

コンバイン作業前の準備

■ほ場の手刈り

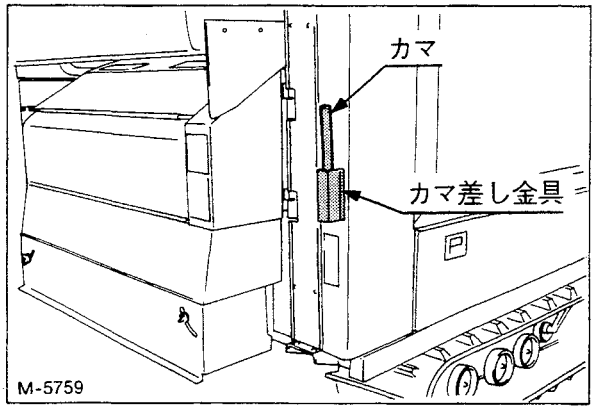
能率よく作業を進めるには，コンバインをほ場に入れる前に，図のように四すみ（旋回できる範囲）を手刈りします。



補　足

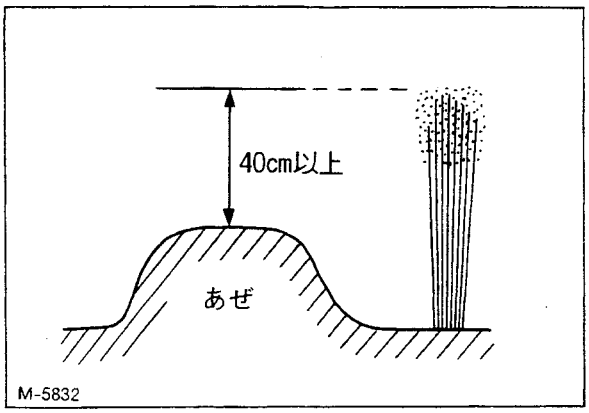
＊自動レール制御が利用できる条件では，手刈りの範囲をさらに小さくできます。

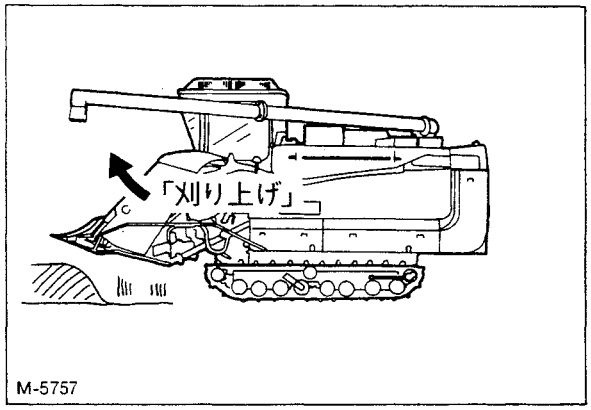
カマは下図の所に収納できます。

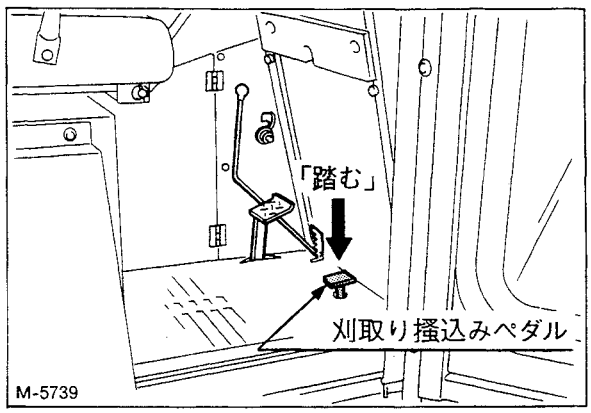


■手刈り作業を少なくする刈りかた【SSDR仕様】

自動レール制御付きのコンバインは，草丈とあぜ高さの差が40cm以上ある条件では，自動レール制御を利用して手刈り作業なしで，刈取り作業をすることができます。







◆作業のしかた

❶自動こぎ深さ制御の切換えスイッチを**“自動”**にしてください。

❷スイッチカバーの中の自動レール制御スイッチを**“入”**にしてください。

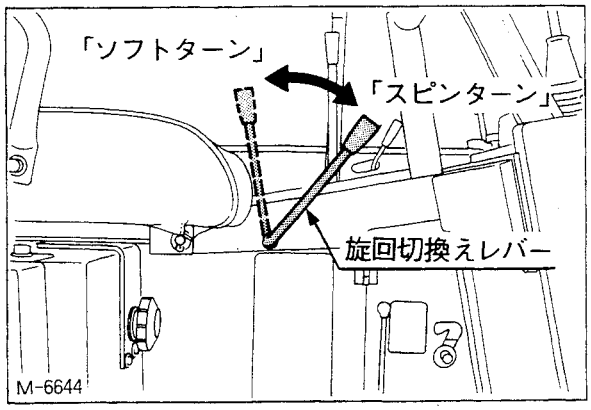
❸刈取りオートクラッチを**“切”**にしてください。

❹コンバインが刈り進み，あぜぎわに接近したら，徐々に刈取部を上昇させながら，あぜの上に乗り上げるようにして，あぜ際の稲を刈取ってください。
(刈上げ作業)

❺主変速レバーを“停止”に戻し，刈取り掻込みペダルを踏みながら再び主変速レバーをゆっくり“中程”まで倒してください。
❻刈取部のこくかんが，脱こく機にすべて搬送されたら，再び主変速レバーを“停止”に戻し，刈取り掻込みペダルをはなしてください。

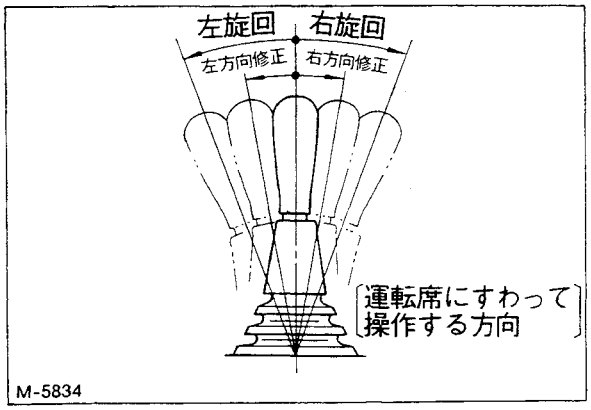
■旋回切換えレバーの選択【T仕様】

レバーを切換えることにより，“スピンターン”と“ソフトターン”の旋回方式を選択することができます。
作業条件に応じて切換えてください。



【操作のポイント】

ソフトターンでのパワーステアリングレバー操作は，左右に一杯に倒した状態で使用してください。特に湿田では，方向修正の状態で使用しないでください。両輪での駆動でなくなるので，“ソフトターン”の効果が発揮できません。

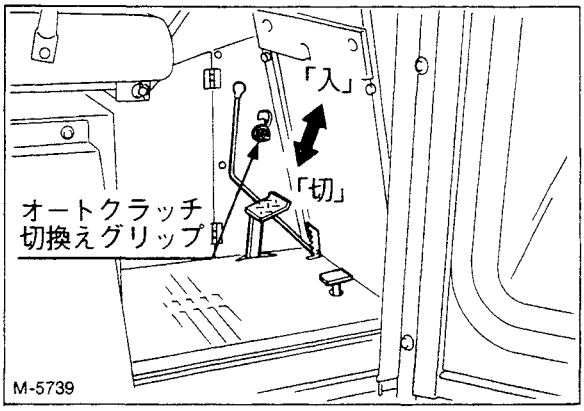


補　足

＊副変速“高速”のときは，“スピンターン”には入りません。また“スピンターン”のときは，副変速は“高速”には入りません。
＊旋回切換えレバーが確実に切換え位置にないときに発進すると，自動的にエンジンが停止します。切換えレバーが確実に入っていることを確認して，発進してください。

■刈取りオートクラッチ機構の取扱い

刈取りオートクラッチ切換えグリップを“入”の位置にセットし，刈取部を上昇させると，刈取り・脱こくクラッチが入った状態で，自動的に刈取部及びフィードチェーンが止まります。また刈取部を下げると自動的に回り始めます。旋回時に刈取り搬送・フィードチェーンが自動的に停止しますので，搬送のみだれがなく，また排わらを踏みつけたりする心配がありません。



◆操作のしかた

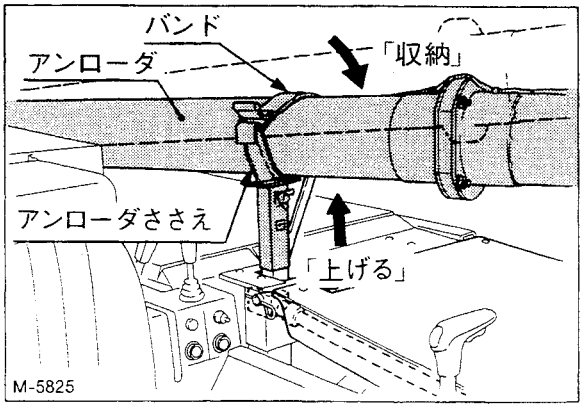
❶刈取部を降ろす。
❷刈取りクラッチを“入”にする。
❸オートクラッチを“入”又は“切”にする。

■グレンタンクの取扱い

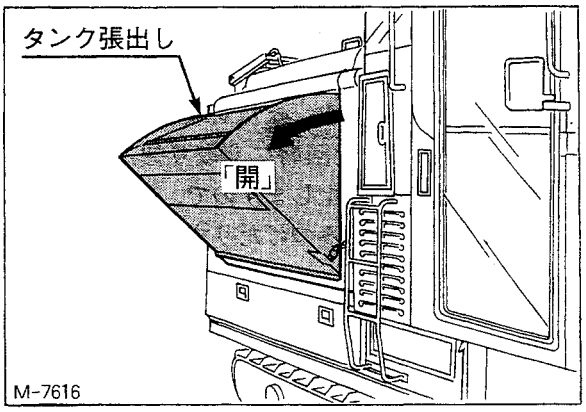
注　意

＊アンローダが中途半端な状態での作業は絶対にしないでください。

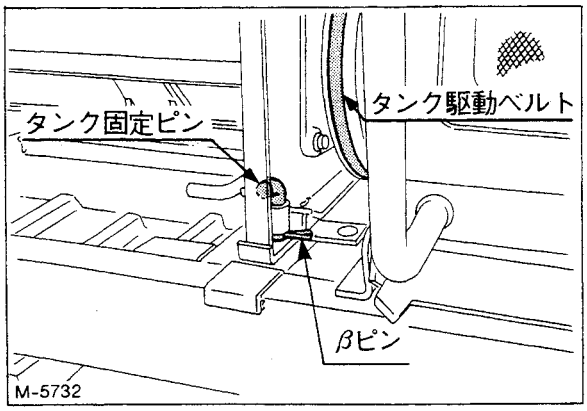
❶アンローダを固定しているバンドを外してください。アンローダを少し上昇させ，アンローダささえを上げてください。アンローダはアンローダささえに確実に収納してください。



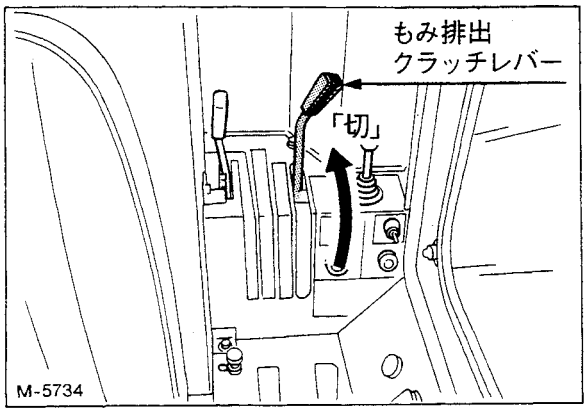
❷開閉スイッチでタンク張出しを開きます。
【SR35G2･40G2･45･75】



❸タンク駆動ベルトが外れていないか，タンク固定ピンを差し忘れていないか，タンクオープンレバーはロックされているか，確認してください。

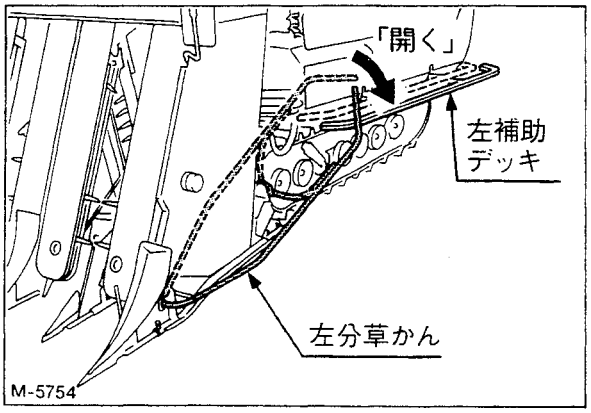


❹もみ排出クラッチレバーが**“切”**の位置にあるか確認してください。



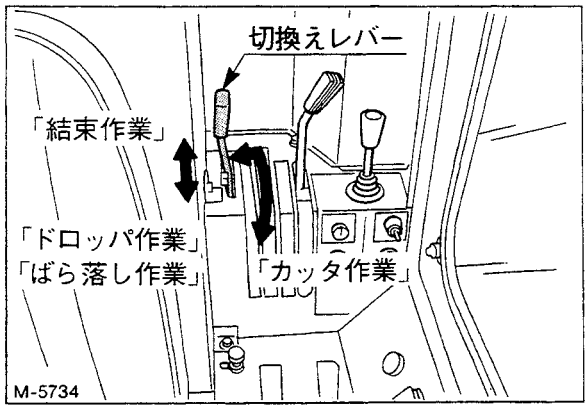
■左分草かんの取扱い

左補助デッキを収納し，左分草かんを開きます。



■排わら処理装置の選択

❶カッタ作業(排わらの切断)･ドロッパ作業･ばら落し作業を切換えレバーで選択します。



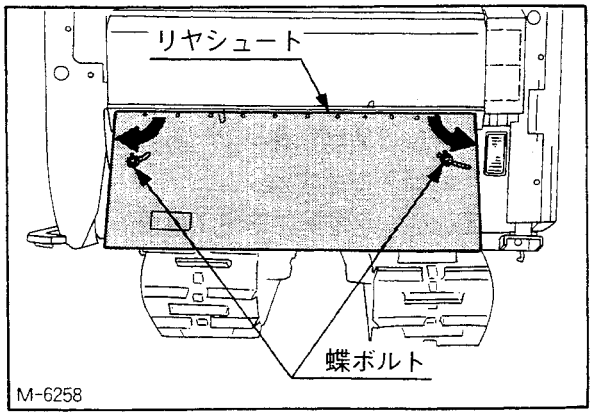
■リヤシュートの取扱い

重 要

＊カッタ･ドロッパ作業･ばら落し作業いずれの場合でもリヤシュートは開いてください。

◆【カッタ仕様】

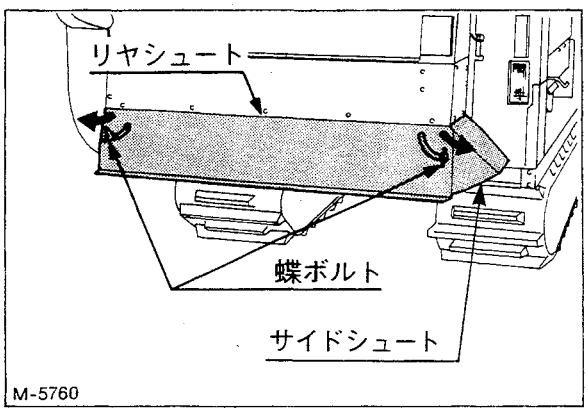
蝶ボルトをゆるめサイドシュートより外し，リヤシュートを後方に広げます。
次に蝶ボルトで両サイドのシュートの金具をを締付けます。



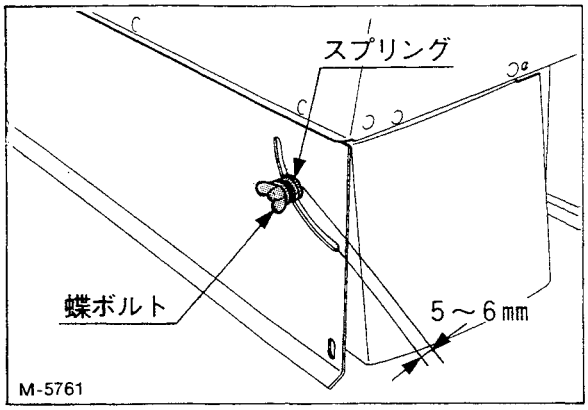
◆【拡散付きカッタ仕様】

シュート止め金具よりリヤシュートを外し，シュートを下に降ろします。

次に蝶ボルトで両サイドのシュートを締付けます。



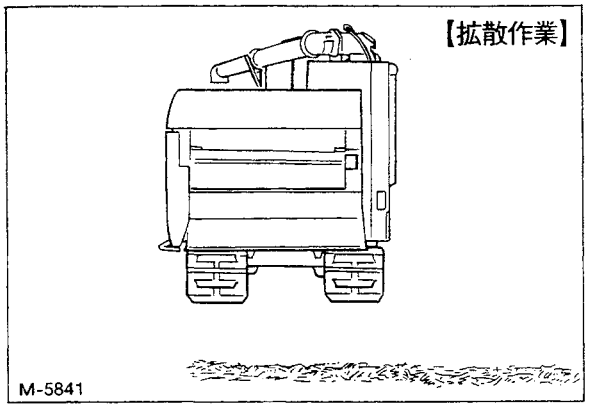
スプリングの長さが5～6㎜になるように蝶ボルトを締めてください。

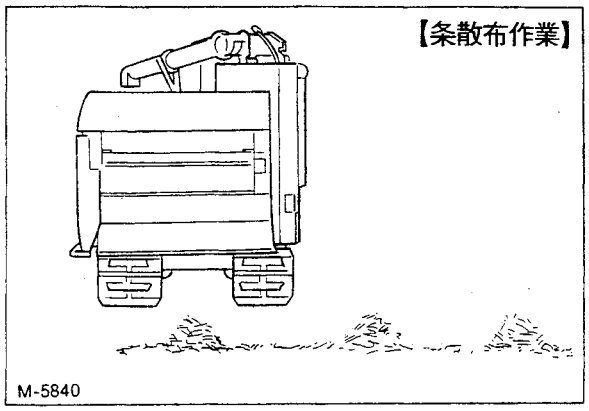


■拡散装置の取扱い【拡散付きカッタ仕様】

(1)拡散作業と条散布作業はベルトの掛換えにより切換えできます。

(2)出荷時は拡散作業状態にしてあります。

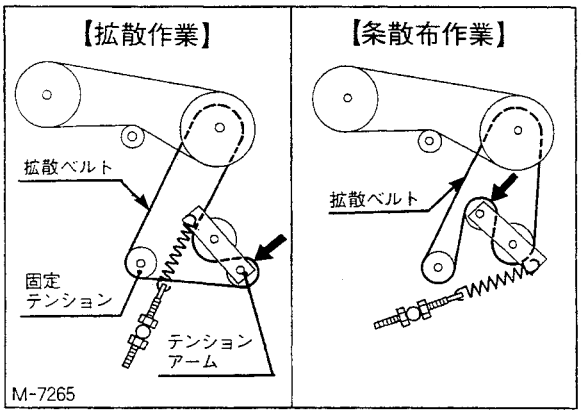




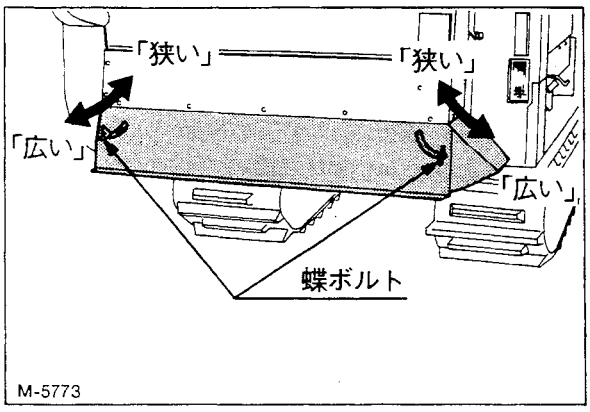
◆拡散駆動ベルトの掛換えのしかた

❶テンションアームを矢印の方向に押して固定テンション部のベルトをプーリから外してください。

❷ベルト，スプリングを作業に応じた状態に掛け換え，テンションアームを矢印の方向に押して，最後に固定テンション部のプーリへベルトを掛けてください。



左右のシュートは作業に応じて調節してください。



拡散幅を広くしたいときは，左右のシュートを広げ，拡散幅を狭くしたいときは左右のシュートを内側へ閉じてください。

作物条件に応じた各部の調整

■引起し爪高さの調整

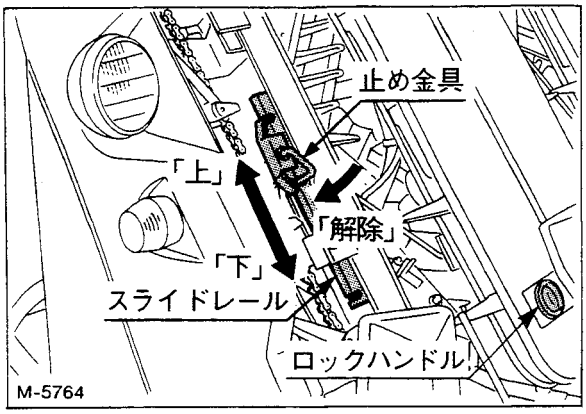
重　要

＊組立てるときは，引起しカバーを最後まで押込んで，ロックハンドルを90°回してロックしてください。

脱粒しやすい品種を刈取りするときは，引起し爪の高さを，作物の穂首よりも下側になるよう調整してください。４段階に調節できます。また，長かんで倒伏している状況では，引起し爪の高さを上側に調整してください。

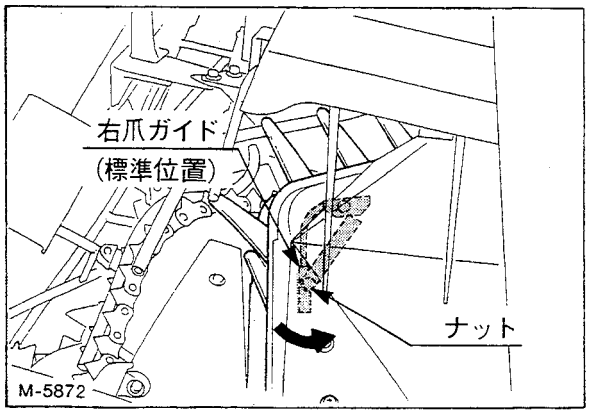
◆調整のしかた

❶引起し枠のロックハンドルを回して，引起しカバーのロックを解除してください。
❷引起しカバーを下に引きながら外してください。
❸止め金具を解除しスライドレールを上下に移動し引越し爪の高さを調整してください。



■右爪ガイドの調整

脱粒しやすい稲で，ロスを少なくしたいときに調整してください。
下図のように右爪ガイドの下のナット（ケース裏側，１コ）をゆるめ，➡方向に移動させてナットを締付けてください。

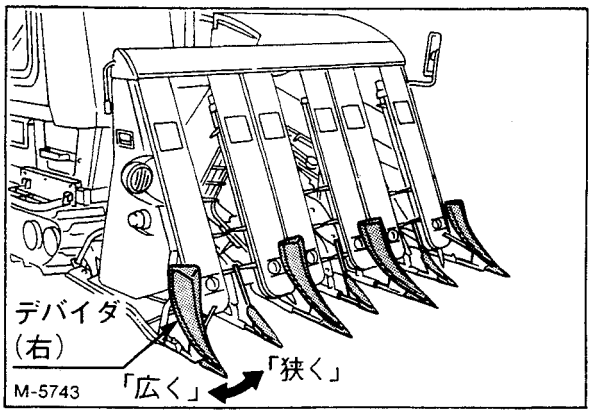


補　足

＊脱こくへの供給姿勢に乱れが多いときは，標準位置で使用してください。

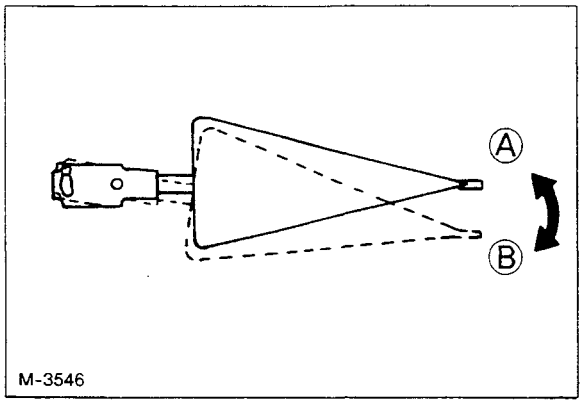
■デバイダの調節方法

各デバイダの高さは必ず揃えてください。



◆左右調節のしかた

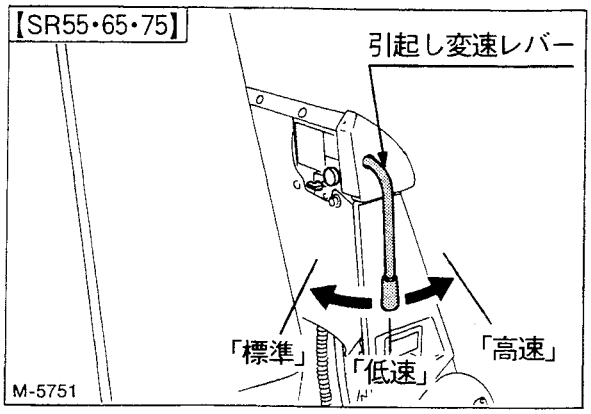
(1)デバイダ右はⒶ位置が標準です。
(2)植付け条間の広いほ場での中割作業をするときは，Ⓑ位置にセットしてください。



■引起し変速・副変速の選定

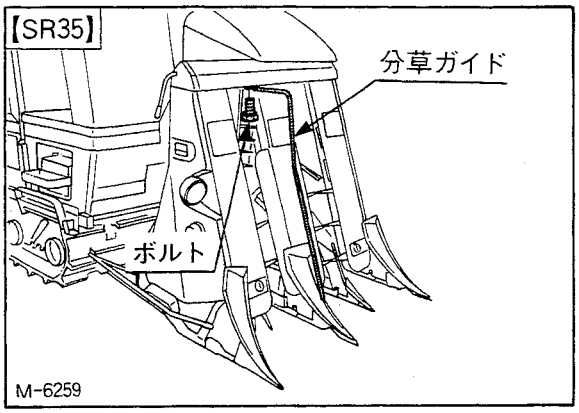
作物・使用状況によって，引起し変速レバーと副変速レバーの組合せを下表のように行ないます。

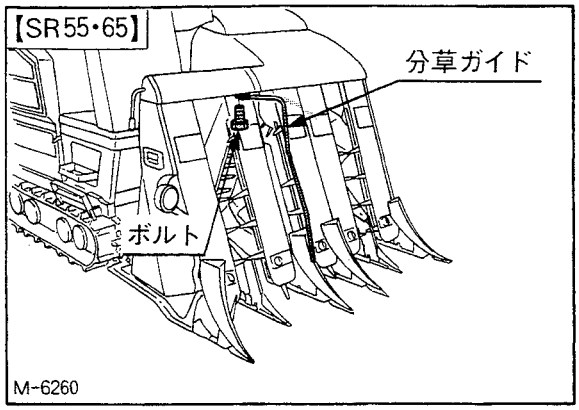
作物状態		変速レバー位置	
倒伏度合	その他の条件	副変速レバー位置	引起し変速レバー位置
直立	一般的作物	標　準	標　準
	周囲刈りなど低速走行作業	倒　伏	
	脱粒しやすい作物(麦穂切れ大も含む)	標　準	低　速【SR55～75】 標　準【SR35～50】
倒伏	45°以下の倒伏		標　準
	45°以上の倒伏 長かん作物	倒　伏 (又は標準)	高　速

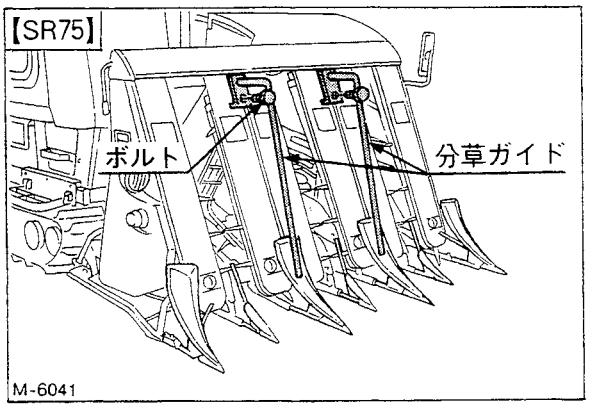


■分草ガイドの取付けかた

長かんで倒伏した作物を刈取るときは，付属部品の分草ガイドをボルト(M8×14)で取付けてください。

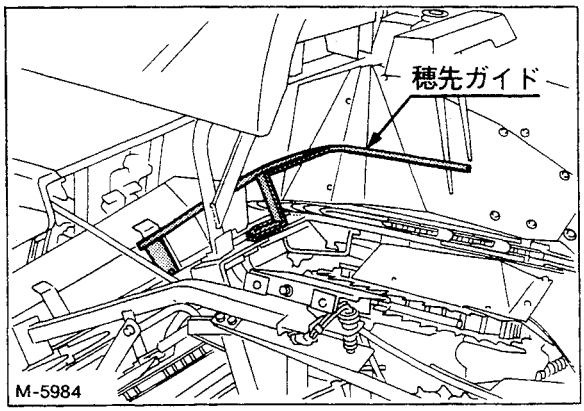






■穂先ガイドの取外し調整について【SR75】

草丈が60cmよりも短い稲を刈取る場合に，稲の穂先部が穂先ガイドの抵抗を受けるような状況であれば取外してください。



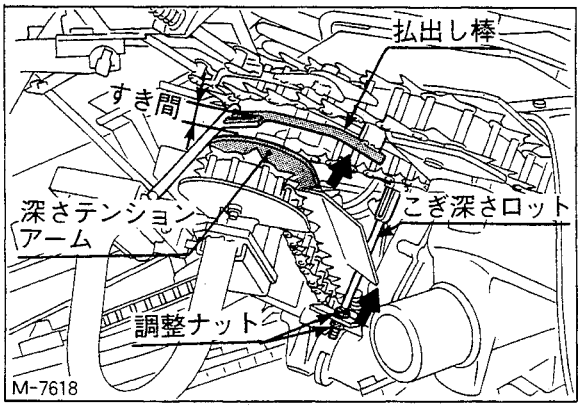
■こぎ深さ調整について【H仕様】

極短かんの稲のとき，こぎ残しが発生するときは深さテンションアームと払出し棒のすき間を1～3mm（出荷時17～25mm）に調整してください。

◆調整のしかた

❶メインスイッチを**“入”**（エンジン停止状態）にし，手動こぎ深さスイッチを**“深”**（深こぎ）側に押して**最深こぎ位置**にします。

❷こぎ深さロットの調整ナット2箇所をゆるめて調整を行ない，調整後は調整ナットを締付けます。



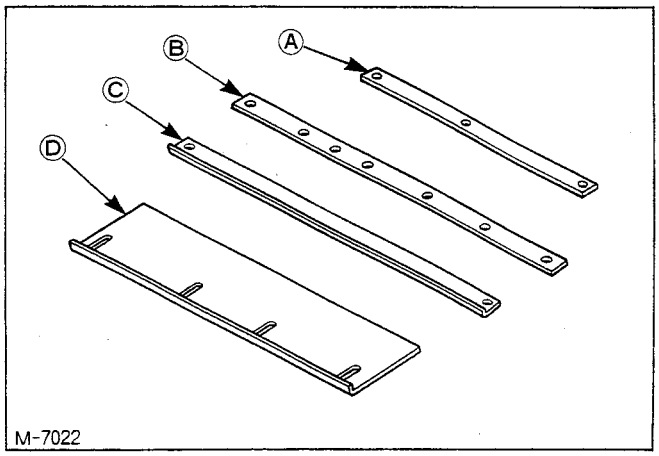
補　足

＊調整後に刈取作業を行なったとき，フィードチェーンから株元の出代が少ないときは，わらが脱こく内に引込まれ切わらが多く発生するおそれがありますので，再調整(すき間を広くする方向)を行なってください。

■各プレートの取付け

付属品箱に入っている各プレートを下記の場合にそれぞれ使用してください。

①刃物押えプレート２{ SR35･40･45 …… Ⓐ / SR50･55･65･75 …… Ⓑ }
②ストロラック上プレート(SR55･65･75) …… Ⓒ
③波板補助プレート２(SR50･55･65･75) …… Ⓓ



重 要

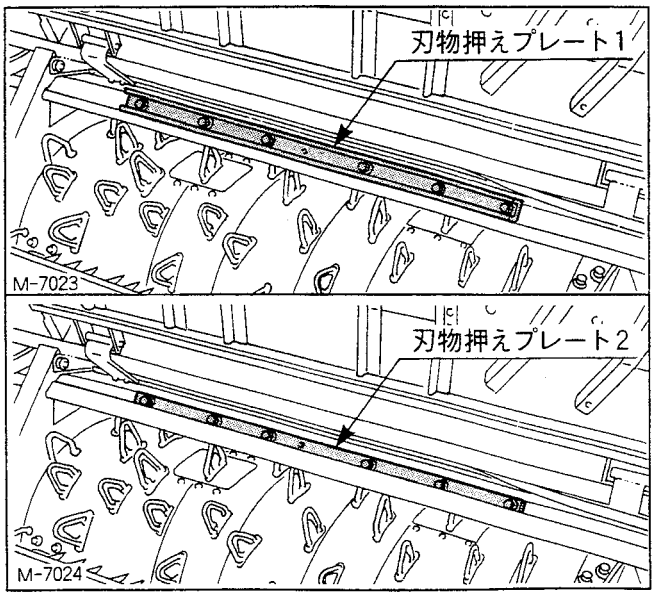
＊専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは，購入先にご相談ください。

①刃物押えプレート２

こぎ室のゴトゴト音が大きく，脱ぷが多い場合にわら切刃を取外したあと取付けます。

◆取付けかた

❶こぎ室カバーを開けます。
❷フィードチェーン側のわら切刃を取付けている刃物押えプレート１のボルト６本(SR35･40･45は３本)を取外し，刃物押えプレート１をわら切刃が付いた状態で取外します。
❸刃物押えプレート２を❷で取外したボルトで取付けます。



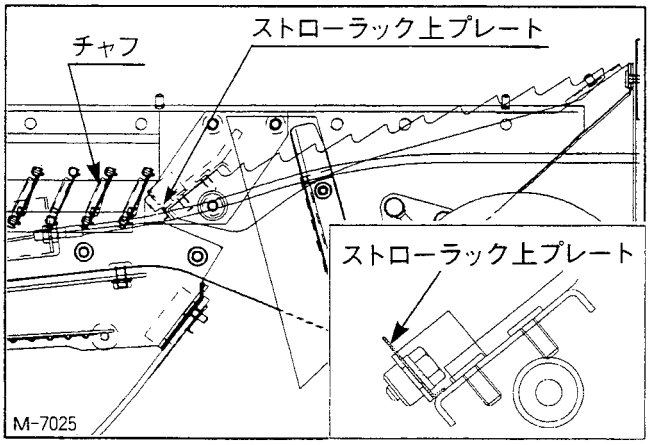
②ストロラック上プレート

麦での収穫時に，長い切れわらが多く選別が悪い場合に使用します。

トウミ調節ダイヤルや波板補助プレートなどを調整しても選別が良くならない場合に取付けます。

◆取付けかた

❶メインスイッチを**“入”**にし，脱こくクラッチレバーを**“入”**にします。
❷麦／稲／濡れ切換えスイッチを**“濡れ”**にし，チャフを全開にします。
❸脱こくクラッチレバーとメインスイッチを**“切”**にします。
❹カッタをオープンしてストロラック上プレートを取付けます。

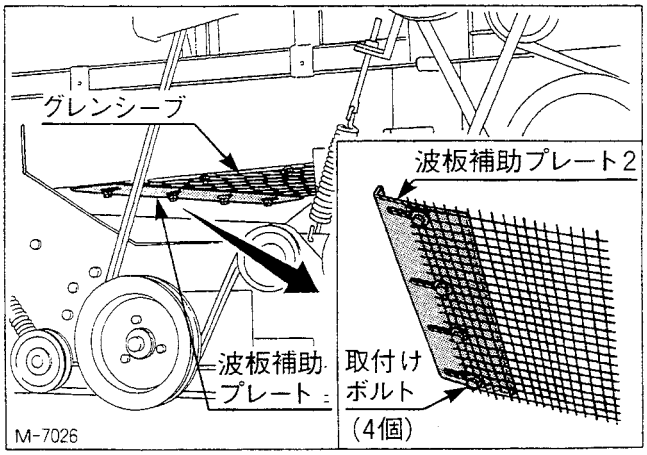


③波板補助プレート２

さらに選別をよくしたい場合に取付けます。

◆取付けかた

シーブケースを外し，波板補助プレートと波板補助プレート２を交換し，長穴の一番後方側の位置で取付けてください。



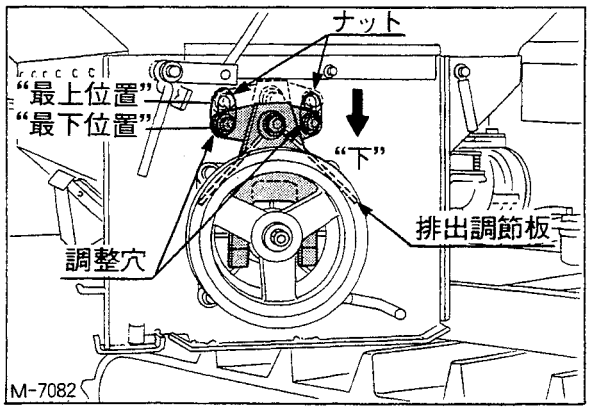
■グレンタンク排出調整板の調整

小麦を刈取る前に，必ず排出調整板の位置を**“最下位置”**にしてください。

※出荷時は**“最上位置”**にしてあります。

◆調整のしかた

タンク前後・両側面の取付けナットをゆるめて，調整穴（長穴）の**“最下位置”**に移動させてナットを締付けてください。



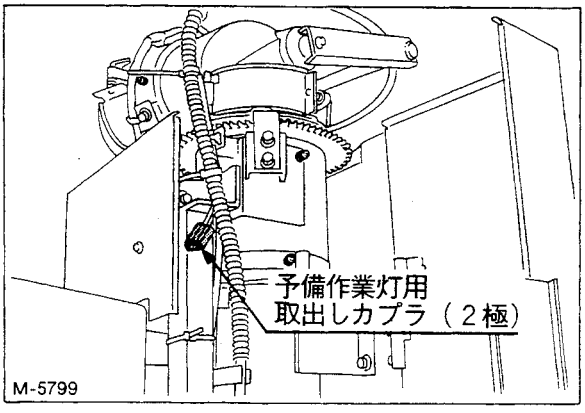
重 要

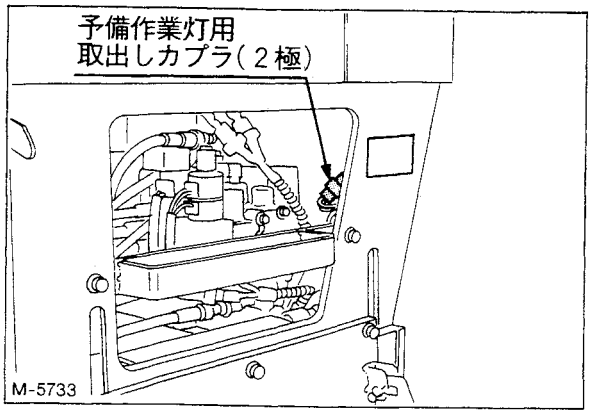
＊**“最上位置”**のまま使用するとこく粒排出の際，詰まりの原因になります。

予備作業灯用電源の使いかた

重 要

＊予備作業灯電源を他の電源に使用しないでください。電球の容量は12V25W以下のものを使用してください。予備作業灯電源はアンローダの奥，デッキ内側の2箇所にあります。





コンバイン作業について

■作業中の注意事項

(1)脱こくクラッチは，エンジン回転が低速のときは絶対に入れないでください。脱こく機の詰まり，故障の原因になります。

(2)小さなほ場や，ほ場の隅では作業がしにくいので，安全のため低速で注意しながら作業を行なってください。

(3)カッタとドロッパ（オプション）の切換えは，脱こく部を停めてから行なってください。

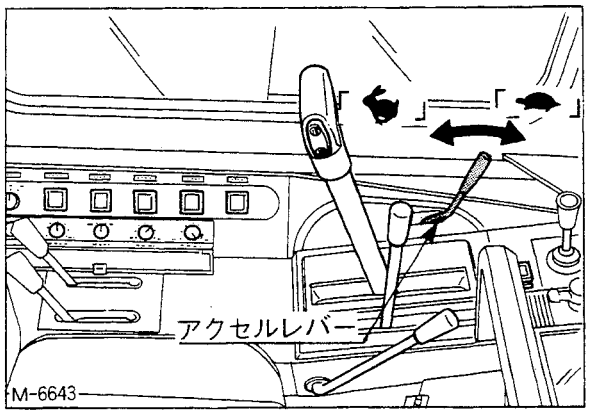
(4)**“スピンターン”**で旋回時に，機体のショックが大きいほ場条件（特に麦畑など）では，**“ソフトターン”**で作業してください。【T仕様】

■アクセルレバー操作のしかた

エンジンを始動し，アクセルレバーを“🐢”の位置にセットして暖機運転をしてください。

“🐢”……エンジン回転**“低速”**の位置。

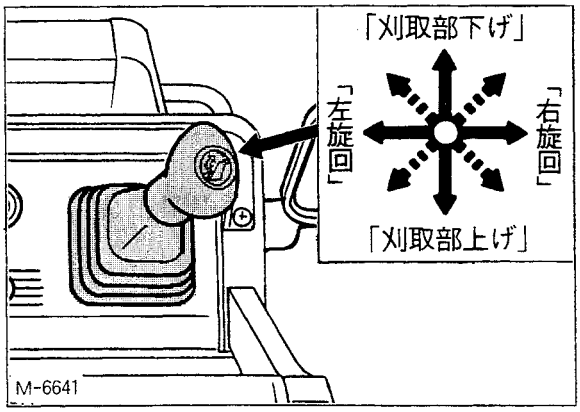
“🐇”……エンジン回転**“高速”**の位置。



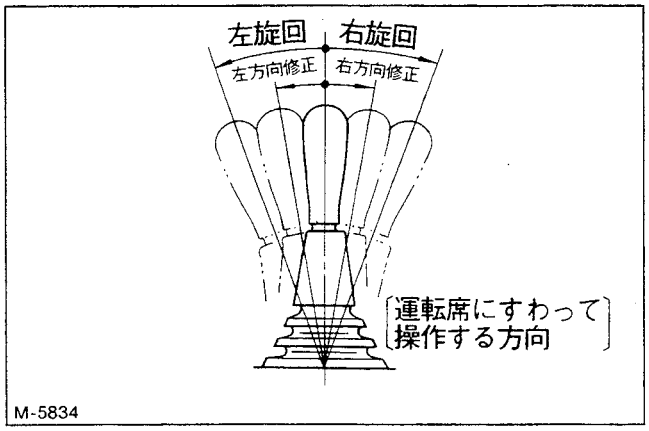
■パワーステアリングレバー操作のしかた

レバー１本で刈取部の上げ下げと方向修正・旋回ができます。また，各々の同時併用操作も可能です。

(1)レバーを前・後に操作すると，刈取部の上げ下げができます。



(2)レバーを左・右に操作すると，方向修正から旋回まででできます。
＊ゆるやかな方向修正…左・右に軽く倒します。
＊コーナ旋回……左・右に一杯倒します。



(3)レバーを斜方向に操作すると，刈取部の上げ下げと方向修正・旋回が同時に行なえます。

■ポジピタスイッチ操作のしかた

注 意

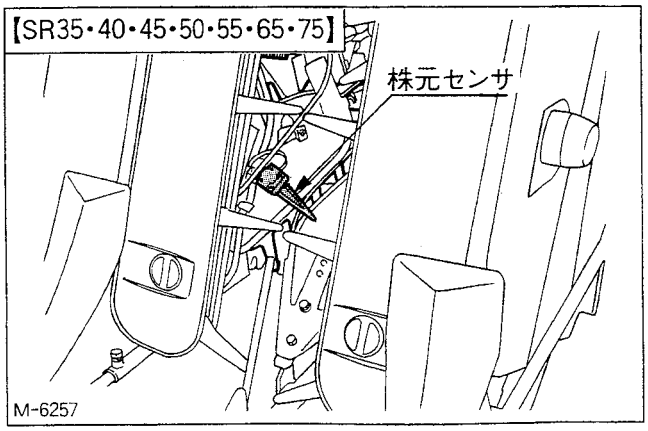
＊ワンタッチで上昇・下降しますので，周 囲の安全にはじゅうぶんに注意してください。

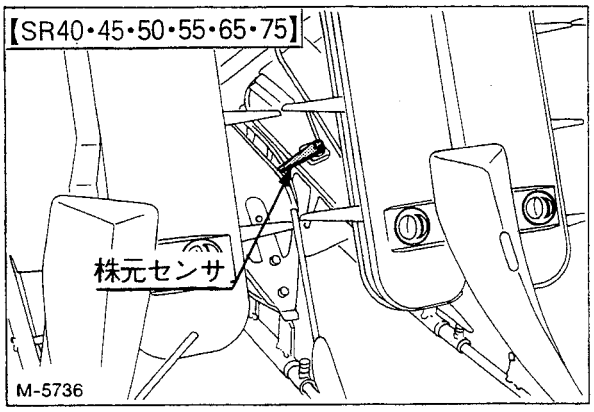
ポジピタスイッチを使用すると，刈取り中にスイッチ1つで刈取部の上げ下げができます。

◆刈取部の昇降

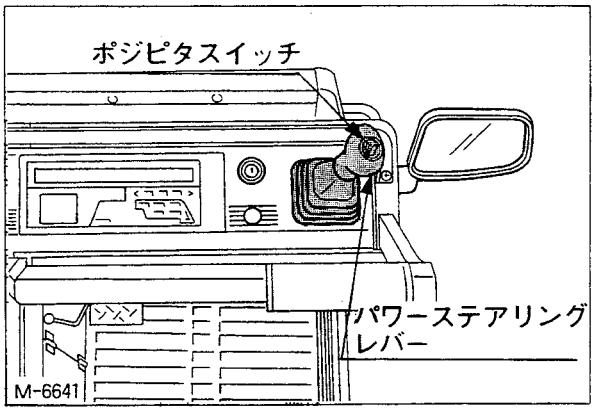
(1)パワーステアリングレバーで，デバイダの先端が地面に接しないように少し持ち上げてください。
（自動刈高さ制御については**“自動刈高さ制御装置”**の項参照。）

(2)刈終り[注)]において，ポジピタスイッチを操作すると，刈取部が，上限まで上がります。
注）株元センサが作物に接触しているか，接触しなくなって4秒以内にポジピタスイッチを操作してください。
自動刈高さ制御が**“自動”**の場合，自動制御は停止します。

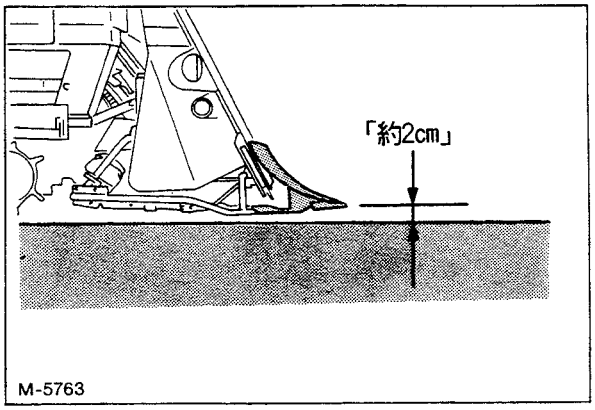




(3)刈取部が上限まで上がっているとき，再びポジピタスイッチを操作すると，刈取部が一定高さまで下がります。
自動刈高さ制御が**“自動”**の場合，自動制御が作動します。



(4)通常は，地面からデバイダの先端まで約2㎝になるようセットしてください。



(5)長かんや麦・雑草のある場合は高刈りしてください。

◆使用上の注意事項

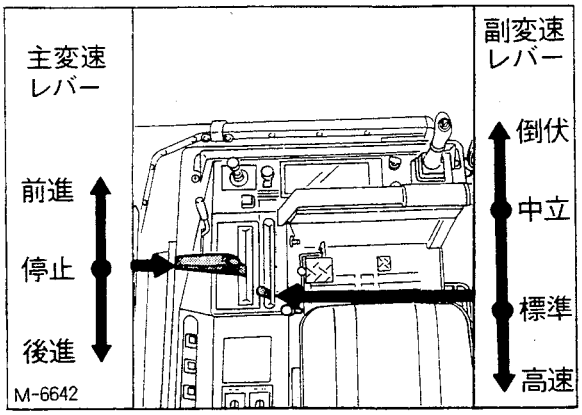
刈取り中に誤ってスイッチを押すと，思わぬ所で刈取部が上昇，又は下降します。パワーステアリングレバーの操作にはじゅうぶん留意してください。

■副変速レバー操作のしかた

重 要

＊副変速レバーの切換えは，平坦な場所で必ず主変速レバーを**“停止”**位置にし，走行をいったん止めてから行なってください。
＊副変速レバー**“高速”**位置での刈取り作業は，トラブルの原因になりますので使用しないでください。

副変速レバーを**“標準”**位置にしてください。
ただし，作物が倒伏している場合は，**“倒伏”**位置にしてください。

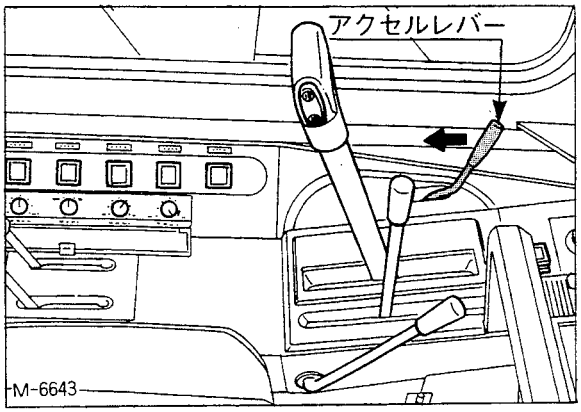


■脱こくクラッチレバー操作のしかた

重 要

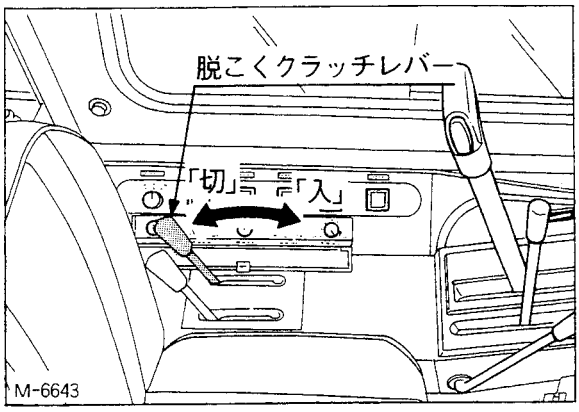
＊エンジン回転数は，脱こくクラッチレバーを**“入”**にし，走行しない状態で合わせてください。

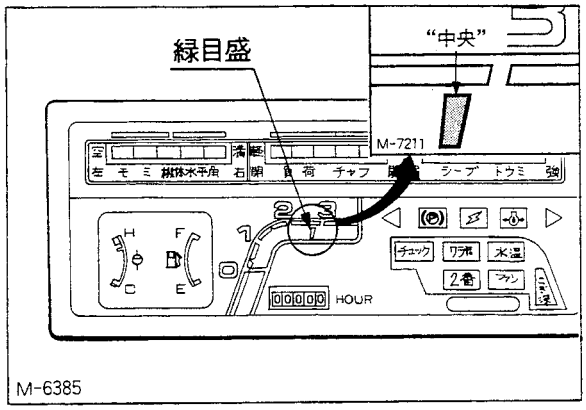
❶アクセルレバーでエンジン回転数を2000min^{-1}(rpm)にしてください。



❷脱こくクラッチレバーをゆっくり**“入”**にして，脱こく部を回転させてください。

❸脱こくクラッチを入れた状態で，アクセルレバーを調節して，緑目盛の**“中央”**に合わせてください。

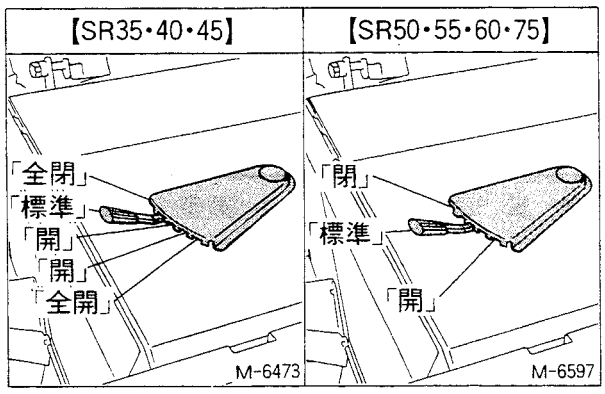




■脱こく部の操作のしかた

◆こぎ室送じん調節のしかた

作業の状態をみて以下のように調節してください。



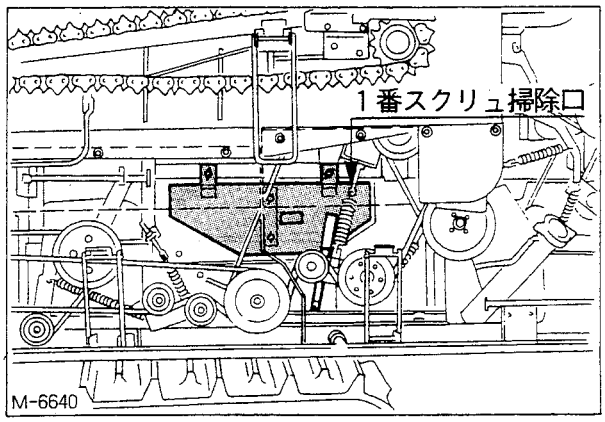
作 業 の 状 態	調節のしかた
倒伏した作物を刈取るとき こぎ胴負荷が大きいとき	開の方へ
通常作業	標 準
排じんロスが多いとき ササリ粒が多いとき	閉の方へ

◆トウミ調節のしかた

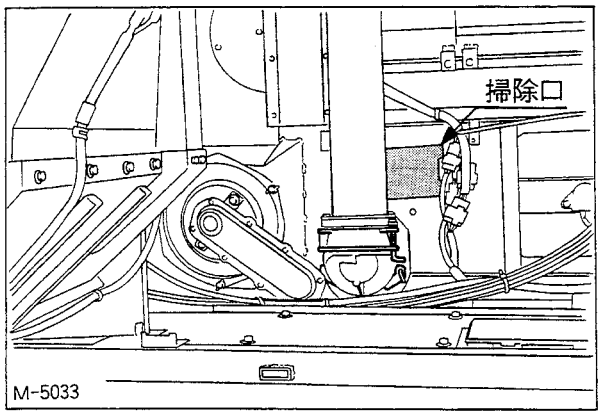
“自動脱こく制御”の項を参照してください。

◆シーブケース波板補助の調節のしかた

❶左サイドカバーを外し，１番スクリュ掃除口を開けてください。



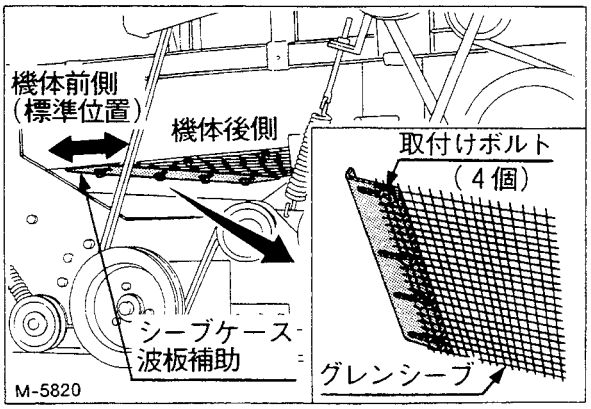
❷グレンタンクをオープンして掃除口を開けてください。



❸グレンシーブの取付けボルト（４個）をゆるめ，シーブケース波板補助を下の表に基づいて調節してください。

作　業　の　状　態	調節のしかた
切わら，ゴミが入る。 (処理が悪い)	機体の後方側へ
標準位置	機体の前方側へ

❹調節終了後は,前述の逆の順番で組立ててください。

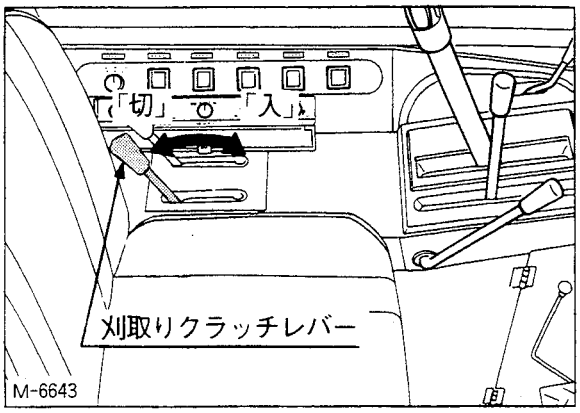


■刈取りクラッチレバー操作のしかた

主変速レバーを前に動かすと，

“入”……刈取部が駆動します。

“切”……刈取部が停止します。

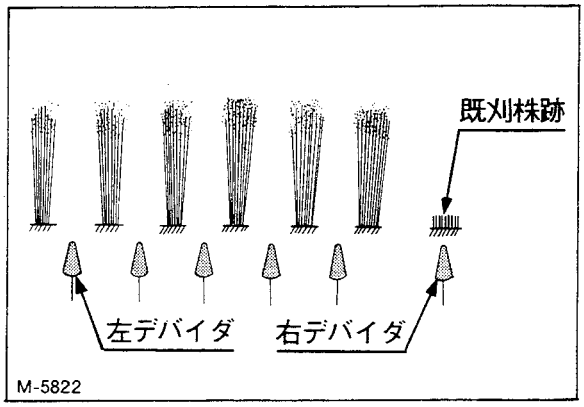


■刈取部の条合わせのしかた

作物の植幅に合わせて，右デバイダも調節してください。

◆通常の回り刈りのとき

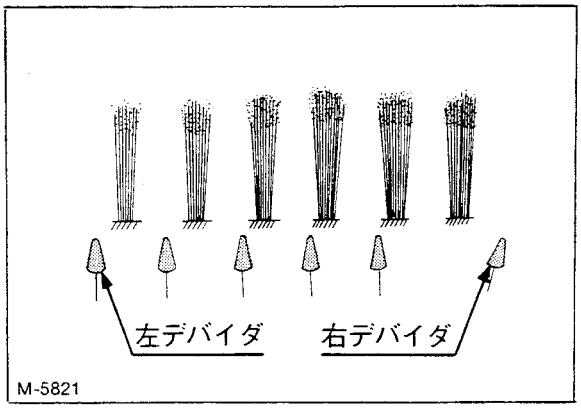
既刈側刈跡に右デバイダを合せる。



◆中割り作業のとき

(1)右デバイダ基準で刈取ってください。

(2)植付け条間が広い場合は右デバイダを広げてください。



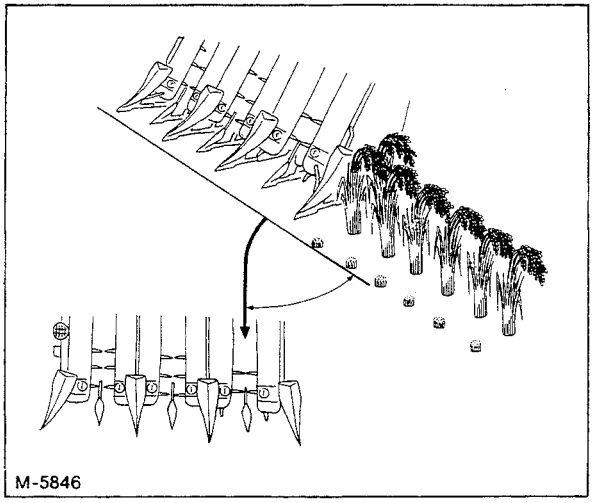
■ほ場内での旋回のしかた

重 要

＊旋回するときは必ず刈取部を上げてください。

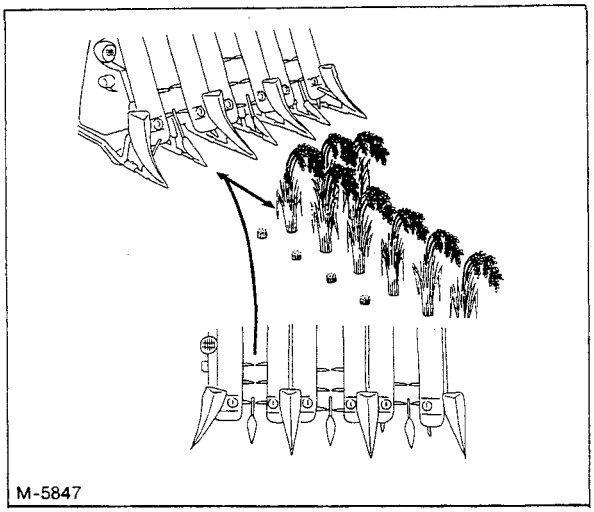
❶刈終ると，前進しながら刈取部を少し上げます。
（早く上げすぎないように注意してください）

❷パワーステアリングレバーを左に一杯倒し，45度くらい旋回した位置でストップします。



❸主変速レバーを**“後進”**側に入れ，バックしながらパワーステアリングレバーを右に一杯倒し，次に刈る方向に真直ぐに合わせます。

❹刈取部を下げ，前進します。



【操作のポイント】

(1)刈終り時にポジピタスイッチを押すと，ワンタッチで，刈取部が上限位置まで上がります。刈始め時に，もう1度ポジピタスイッチを押すと，一定高さまで，ワンタッチで刈取部が下がります。

(2)刈取りオートクラッチを**“入”**にしておくと，刈取部を上げたとき，自動的に刈取部とフィードチェーンの回転が停止するため，旋回が楽に行なえます。

■あぜぎわ刈取り作業のしかた

注 意

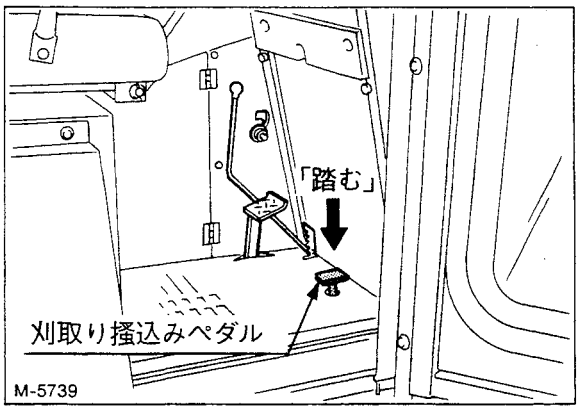
＊停止するときは，必ず刈取り掻込みペダルを使用せず，主変速レバーで行なってください。

＊主変速レバーが“停止”以外のときにペダルを離すと急発進して非常に危険です。必ず主変速レバーを“停止”にしてからペダルを離してください。

◆刈取り掻込みペダルの利用

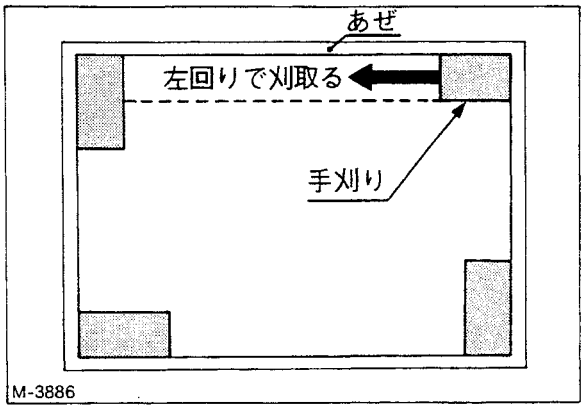
(1)あぜぎわで機体を停止したままこくかんを掻込むときに，ペダルを踏み，主変速レバーを前進側に倒してください。

(2)副変速レバーや旋回切換えレバーが切換えにくいときに，ペダルを踏んで切換えてください。

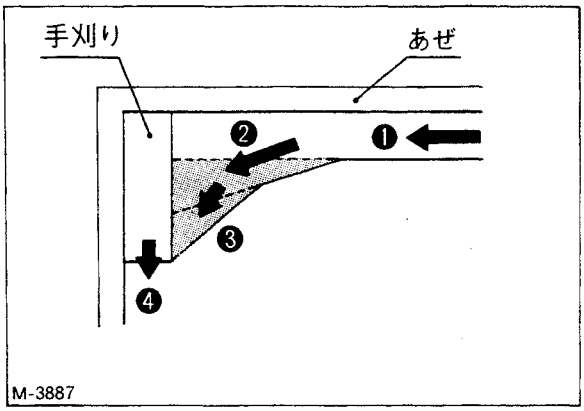


◆一般的なほ場

(1)あぜぎわを左回りで刈取ります。



(2)回り刈り時のコーナ部の刈取りは下図のようにします。



重 要

＊❷, ❸ の刈取りで旋回しにくいときや湿田では３～４回刈取りしてください。

＊あぜぎわ刈りのときデバイダを突込んだり，右分草かんをぶつけないように注意してください。

刈取り方法

■刈取り作業の手順

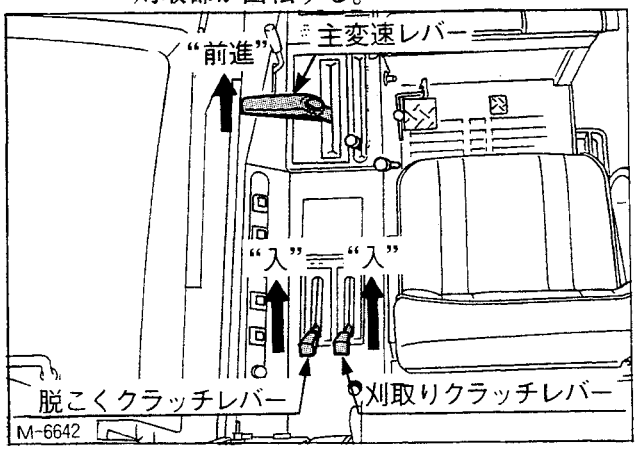
◆作業機部分の回転

❶脱こくクラッチレバーを **“入”** にします。

……脱こく機とカッタ部が回転する。

❷刈取りクラッチレバーを **“入”** にし，主変速レバーを **“前進”** 側に倒します。

……刈取部が回転する。



◆走行速度の調整

❶作物やほ場の条件に合わせて，副変速レバーの位置，引起し変速レバーの位置を選びます。

❷主変速レバーを操作して，前進，後進の速度を調整し，最適速度で作業してください。

(自動車速制御については **“自動車速制御装置”** の項参照)

◆植付け状態に沿った方向制御

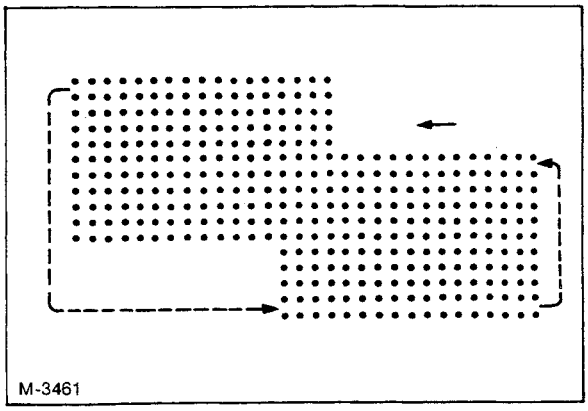
作物に合わせて上手に刈取るために，パワーステアリングレバーを小刻みに操作して，植付け状態に沿って前進します。

(自動方向制御については，**“自動方向制御”** の項参照)

■ほ場の大きさによる刈りかた

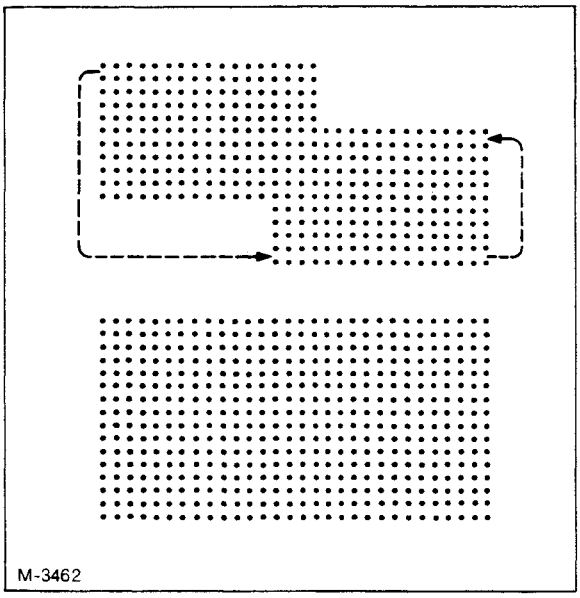
◆長方形のほ場

両端（枕地）を旋回できる範囲に刈取ったら両端は刈取らずに，長い２方向のみ刈取ってください。能率が上がります。



◆広いほ場

中割り刈りで分割して，前記の長方形のほ場と同じ要領で刈取ります。



重 要

＊旋回中はエンジン回転を下げないでください。下げると **“選別を悪くしたり”** **“詰まりの原因”** になります。

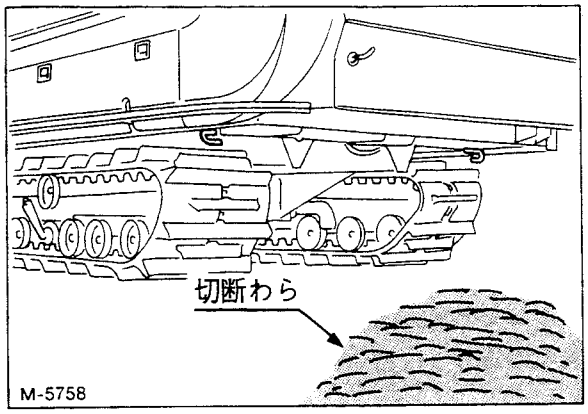
■手刈りの脱こくのしかた

警 告

＊そで口はきっちり止めて，はち巻き，首巻き，腰タオルはしないでください。チェーンに巻込まれてケガをするおそれがあります。
＊コンバインは平たんな場所に止めて，刈取部を止め，駐車ブレーキを掛けてください。
＊手や腕の位置を必ずチェーンの外側にして，少量ずつ供給を行なってください。
＊脱こく部入口のプレートの上にたまったわらやもみなどを脱こく部に押し込むときは，チェーンに手や腕が巻込まれないように注意して，少量ずつ押し込んでください。

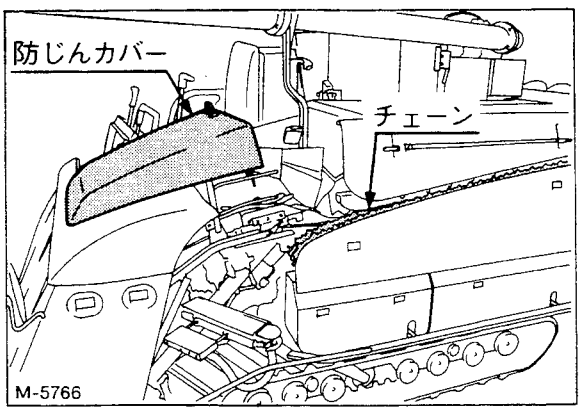
重 要

＊１箇所で多量の手こぎをする場合，カッタやドロッパの下に排わらや切断わらの堆積が原因で，カッタなどが詰まることがありますから，機体を移動させてください。



＊切断わらがカッタわら排出口に詰まった場合は，必ずエンジンを止めてください。

手刈りをした稲・麦は刈取り終了後に脱こくします。
❶主変速レバーを**“停止”**にします。
❷刈取部をいっぱい下げます。
❸防じんカバーを開けます。【SSDR仕様】



❹エンジンを始動させて脱こくクラッチレバーを**“入”**にし，エンジン回転数をアワーメータの緑目盛の**“中央”**に合わせます。

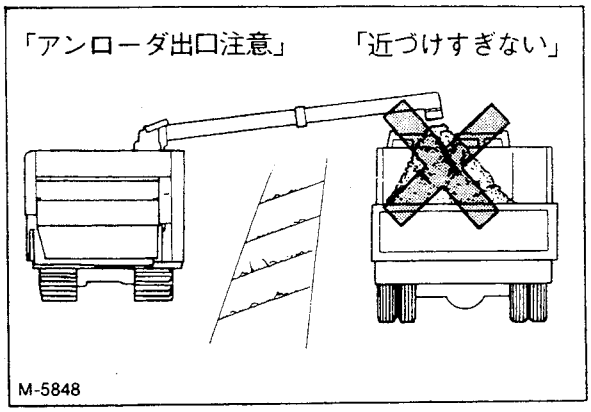
■こく粒排出作業のしかた

注 意

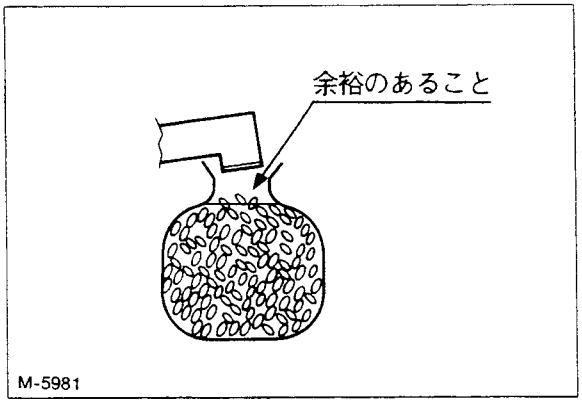
＊手をはさみ，ケガをするおそれがあるので，アンローダささえの上に手を置かないでください。
＊アンローダ先端が大きく動き，ケガをするおそれがあるので，アンローダの旋回範囲に人がいるときは，アンローダを動かさないでください。

重 要

＊アンローダ吐出口をふさがないでください。



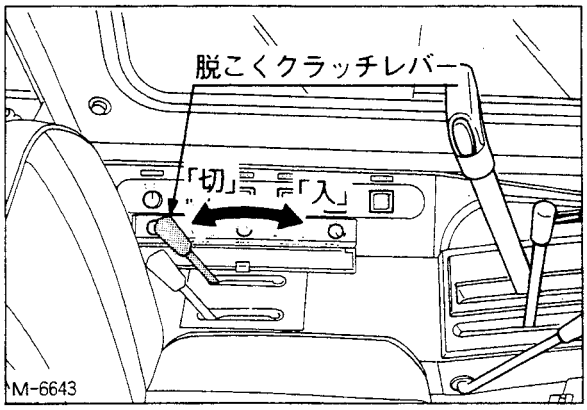
＊アンローダには，絶対物を吊るさないでください。
＊アンローダで袋詰め作業を行なうときは，詰まり防止のため，袋に余裕のある状態で，排出クラッチを切ってください。アンローダが詰まると，駆動系統の故障の原因になります。



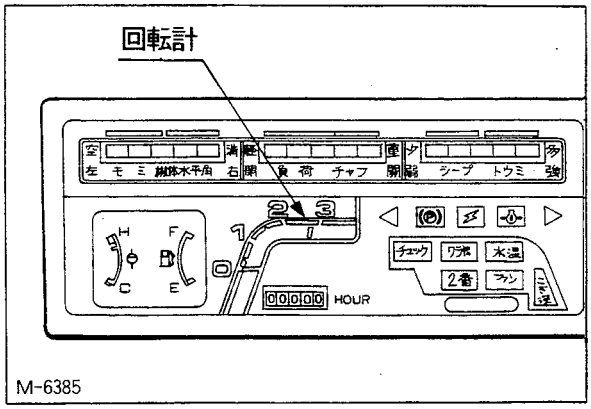
◆【G仕様】

●自動（自動スイッチ）で排出する場合

❶グレンタンクがいっぱいになると，警報ブザーが断続して鳴りますので，刈取り作業を中止し，20～30秒たってから，脱こくクラッチレバーを**“切”**にし，所定の排出場所に移動してください。



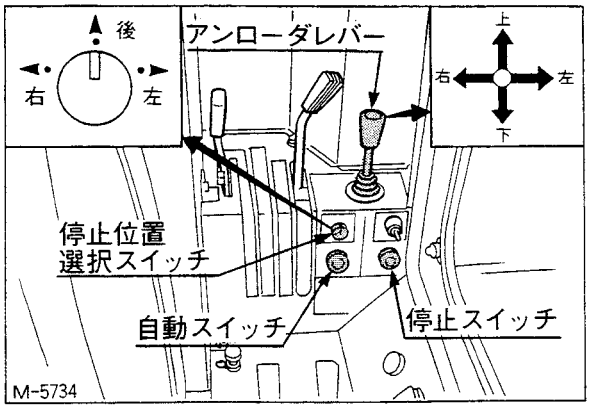
❷排出作業は刈取り作業時の回転のままでしてください。損傷のしやすい品種のときは，エンジン回転を2000min^{-1}(rpm)程度まで下げてください。



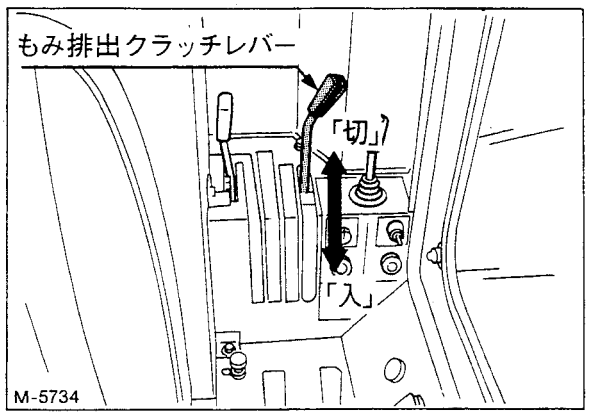
❸停止位置選択スイッチにより，排出位置を選択してください。

❹自動スイッチを押すとアンローダは上昇し，排出設定位置まで自動的に旋回します。

❺アンローダレバーを操作して，排出位置まで動かしたあと，もみ排出クラッチレバーを**“入”**にし，こく粒を排出してください。



❻排出後，もみ排出クラッチレバーを**“切”**にし，自動スイッチを押すとアンローダは上昇し，自動的に収納位置に戻ります。



●手動（アンローダレバー）で排出する場合

❶前述した**“自動で排出する場合”**の作業の❶と❷を行ないます。

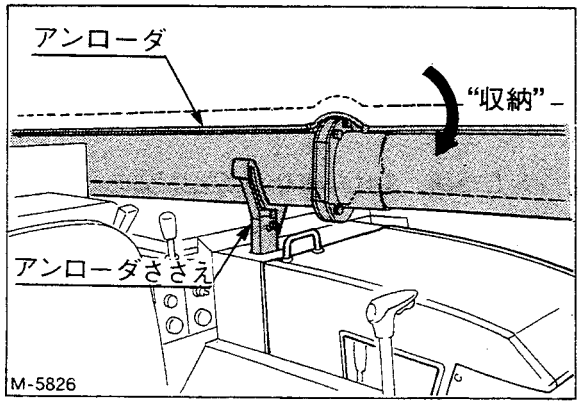
❷アンローダレバーを操作して，排出位置まで動かします。

補　足

＊アンローダは旋回する前に，必ず最上位置まで上げてください。また，運転席上方の旋回範囲では，最上位置でないと旋回しません。

❸もみ排出クラッチレバーを**“入”**にし，こく粒を排出してください。

❹排出後，もみ排出クラッチレバーを**“切”**にし，アンローダを最上位置まで上げてから旋回させ，アンローダささえに確実に収納してください。



カッタの取扱いについて

警 告

＊エンジンを必ず停止してから作業してく ださい。

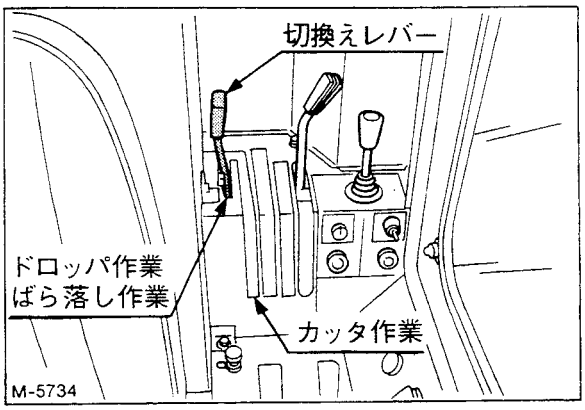
■カッタ作業とドロッパ作業・ばら落し作業の切換え

◆カッタ作業のとき

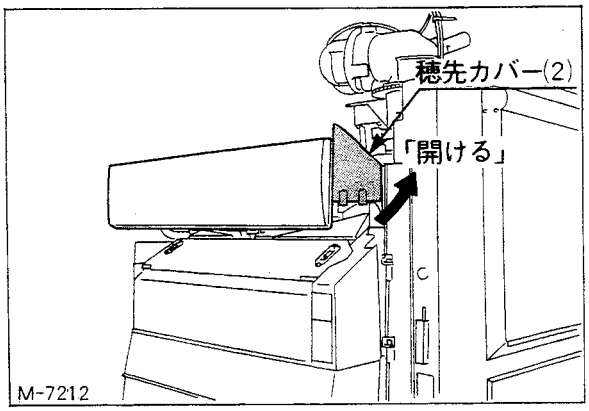
切換えレバーを**“カッタ作業”**に切換えます。

◆“ドロッパ作業・ばら落し作業”のとき

❶切換えレバーを**“ドロッパ作業・ばら落し作業”**に切換えます。

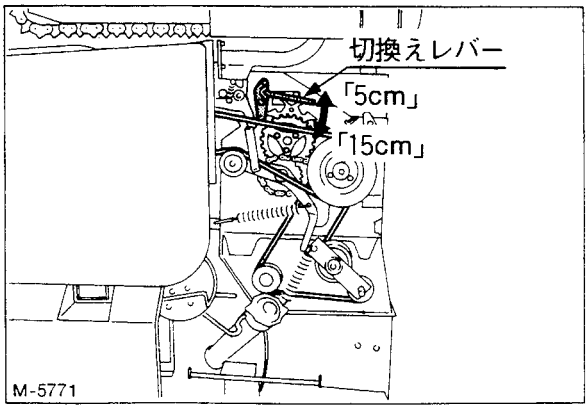


❷穂先カバー(2)を開けます。



■切断長切換えのしかた

サイドカバー内部の切換えレバーを回動させ，**“5 cm・15 cm”**のいずれかを選択してください。



コンバイン作業の注意事項

■イージーチェッカによる点検

ファン　ラジエータファン警報ランプ【SR65･75】

このランプが点滅したときは，即運転を中止し，お買上げになった販売店・ＪＡ農協又は(株)クボタアグリの窓口までご相談ください。詳細は**“エンジン正逆転ファンの使いかた”**の項を参照ください。

2番　２番警報ランプ

このランプが点滅し，ホーンが鳴ったときは，脱こくクラッチを**“切”**，エンジンを停止させ２番口又は１番口の詰まりを取除いてください。詳細は**“掃除口の箇所”**の項を参照ください。

ワラ詰　わら詰まり警報ランプ（自動停止）

このランプは刈取り供給チェーンや，排わらチェーンにわらが詰まったとき点滅し，同時にホーンが鳴ります。このときはエンジンが止まっていることを確認の上，刈取り供給チェーンや，排わらチェーンのわら詰まりを取除いてください。

【結束機仕様の場合】

ランプが点滅し，ホーンが鳴ったときは，結束機のビルにひもが巻付いたり，ひも切れの点検してください。

こぎ深　こぎ深さ警報ランプ

このランプが点滅し，ホーンが鳴ったときは，穂先センサ部に雑草などがからまっていないか点検してください。詳細は**“自動こぎ深さ制御の使いかた”**の項を参照ください。

■オーバヒート時の注意事項

冷却水温が沸点近く又はそれ以上になったとき（いわゆるオーバヒート）には次のように行動してください。

(1)安全な位置で機械の運転を止めてください。（エンジンの負荷を抜く）

(2)蒸気が噴出しているときは機械からじゅうぶん離れて待機してください。

(3)オーバヒートなどでエンジンカバーを開けて点検・整備するときは，**“各部の開閉のしかた”**の項を参照ください。

エンジンが冷えていないとき，エンジンカバーを開けるとラジエータ部，リザーブタンク部などより熱湯が噴出し，あるいは高温部に接触してヤケドするおそれがあります。

(4)ヤケドなどの危険性がなくなってから，オーバヒートの原因を**“コンバインの不調と処置”**の項に従って除去してください。その後，エンジンを再始動させてください。

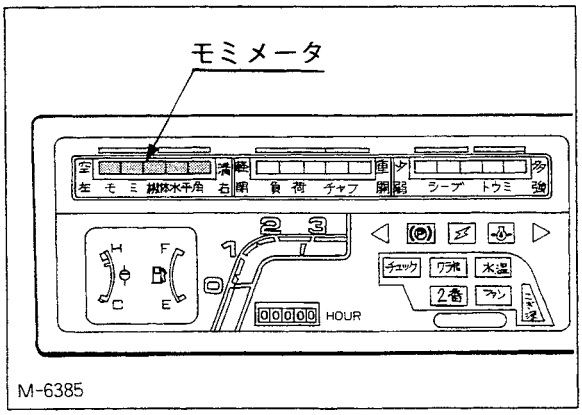
■刈取り作業中の注意事項

重　要

＊警報ブザーが鳴った後も刈取りを続けると，もみがあふれたり詰まったりして，故障の原因になります。

❶雨などでほ場が湿田になったときは，ほ場を２周せずに１周でこく粒の排出をするなど，工夫してください。

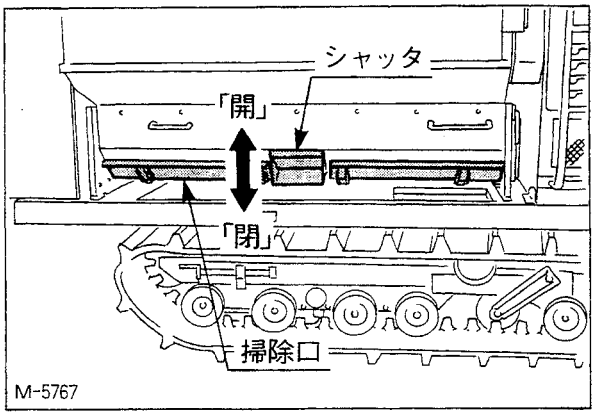
❷グレンタンクがいっぱいになるとモミメータが点滅し，警報ブザーが断続して鳴ります。このときは刈取り作業を中止し，こく粒を排出してください。



■アンローダが詰まった場合

エンジンを停止し，原因を確めてください。

(1)異物がかみ込んでいる場合は，シャッタ及び掃除口を開いて異物を取除き，異常がないか確認の上，再度タンククラッチを入れてください。



(2)ベルトの張りがゆるいために，タンク内にもみが一杯詰まっている場合は,次の要領で調整してください。

◆【SR50･55･65･75】

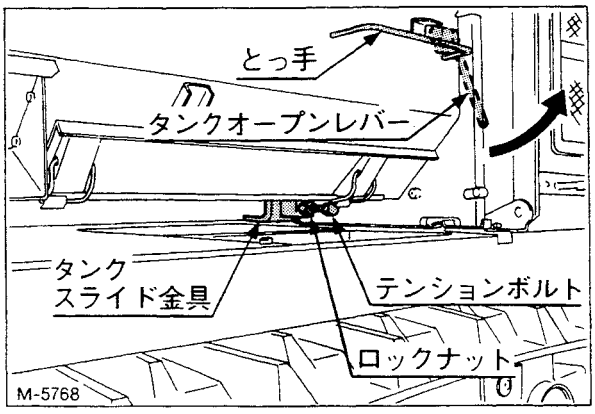
❶タンク固定ピンを外し，ベルトをかけた状態でタンクオープンレバーを引き，とっ手を握りグレンタンクを外側に引出してください。

❷ロックナットをゆるめ，オープンレバーを引いた状態で，テンションボルトをタンクスライド金具に当るまで締込んでください。

❸この状態でもみ排出クラッチレバーを**“入”**にして，こく粒を排出してください。

❹排出が終われば，グレンタンクを開いて(**“グレンタンクオープン”**参照)，タンククラッチワイヤ調節部でテンションスプリングの長さを調整してください。

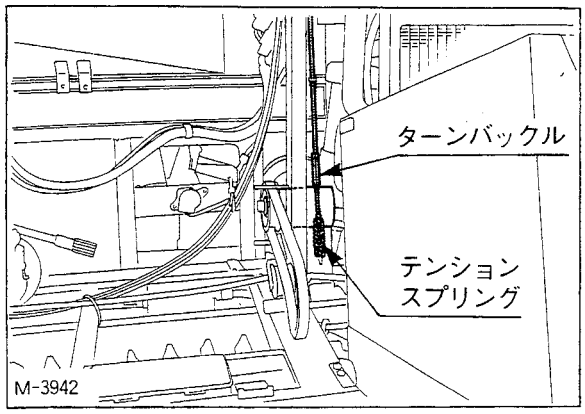
❺調整終了後はテンションボルトを元の状態に戻し，グレンタンクを閉じてください。



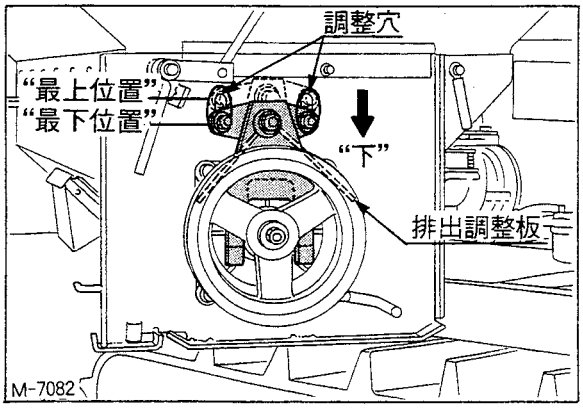
◆【SR35･40･45】

❶エンジンルームをオープンし，ターンバックルでテンションスプリングを張ってください。

❷エンジンルームを収納して，タンククラッチレバーを“入”にして，こく粒を排出してください。



(3)小麦の排出中に詰まった場合は，排出調整板の位置を調節穴（長穴）“最下位置”にしてください。（“グレンタンク排出調整板の調整”の項参照）

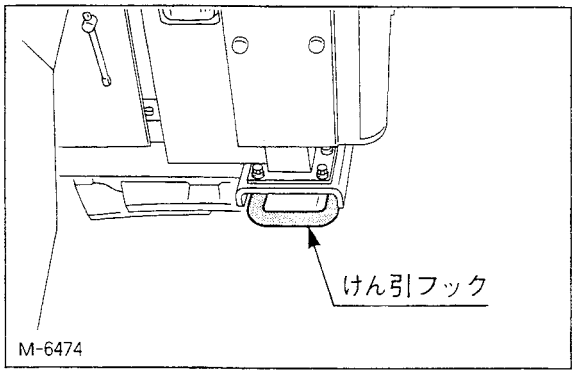


■けん引フックについて

コンバインが自力で動けずけん引作業を必要とする場合は，機体の右側後方の“けん引フック”を使用してください。このときにロープ掛け用フック（“輸送時の注意”の項参照）は，けん引作業には使用しないでください。

重 要

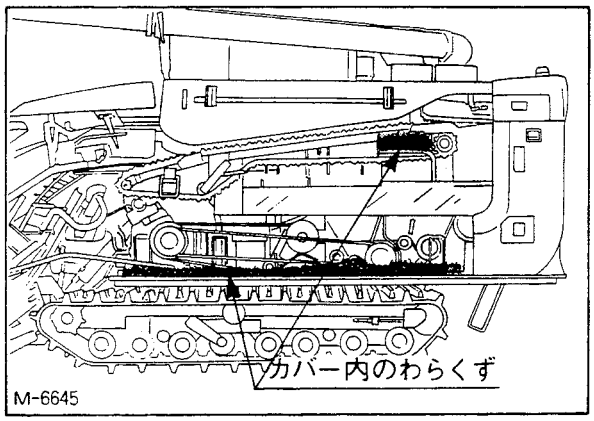
＊自重より重い車両のけん引作業は避けてください。

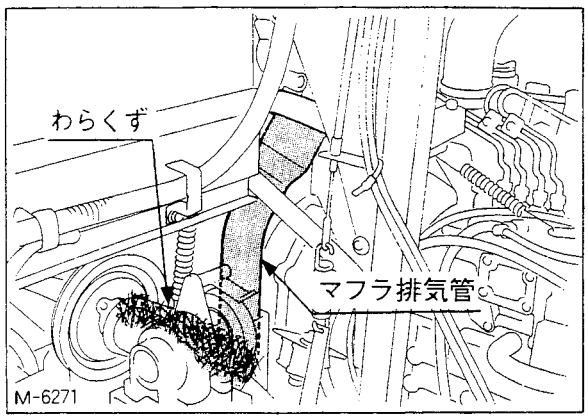


1日の作業終了後の注意事項

❶平たんな場所にコンバインを停めてください。

❷カバー類を外し，わらくずを取除いてください。





❸アンローダを受けにセットしてください。

❹水平操作レバーを“機体下”にし，最下降位置にしてください。【M仕様】

❺パワーステアリングレバーを“下げ”にし，刈取部を地面につくまで下降させてください。

❻駐車ブレーキを掛けてメインスイッチのキーを抜取ってください。

❼エンジンがじゅうぶん冷えてからボディカバーをかけてください。

メンテナンス

定期点検と処置

警 告

＊取外した回転部のカバー類は，衣服などが巻込み危険ですので，必ず取付けてから作業をしてください。

注 意

＊各部の調整・点検・交換を行なうときは，エンジンを必ず停止させ，各レバー類を“切”にして，回転部を止めてから作業をしてください。
＊運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が噴出してヤケドをすることがあります。
＊エンジンカバーを開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。
❶エンジンを停止する。
❷エンジン停止後30分以上経過してから開ける。
❸点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドの危険性がないことを確認する。
エンジンが冷えてないとき，エンジンカバーを開けるとラジエータ部，リザーブタンク部などより熱湯が噴出し，あるいは高温部に接触してヤケドするおそれがあります。
＊オイル交換中・バッテリ点検・交換中は火気厳禁。
＊刈取部は上げたまま長時間経過すると下降することがありますので落下防止のため，刈取部の下を台でささえてください。

重 要

＊ベルト類は亀裂又は帆布(ハンプ)のはがれたとき必ず交換してください。
＊専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは，販売店・JA農協・弊社支店又は㈱クボタアグリにご相談ください。

補 足

定期点検は，下記の時間ごと（○，●又は△，▲印）に整備をしてください。
定期点検一覧表は一般的な目安です。異常を感じたときはそのつど，調整をしてください。
下記の項目について処置をしたら，√印をつけてください。
○，●印は点検，調整，△，▲印は交換をしてください。

■定期点検と調整一覧表

●：ならし運転後の点検と調整
○：点検と調整

項目＼時間		20時間目	50時間目	100時間目	150時間目	200時間目	250時間目	300時間目	350時間目	400時間目	450時間目	500時間目	600時間目	800時間目	900時間目	1000時間目	2年	参照ページ
エンジン部	エアクリーナエレメントの点検		○	○	○	○	○		○	○	○	○		○		○		19
	ラジエータホースの締付け点検					○				○			○	○		○		85
	フューエルパイプの締付け点検				○			○			○		○	○	○			85
	オイルドレーンゴムホースの締付け点検				○			○			○		○	○				85
	ファン駆動ベルト(1)の点検		○	○		○		○		○		○	○	○	○	○		86
	ファン駆動ベルト(2)の調整		●	○		○		○		○		○	○	○	○	○		86
	防じんあみ,ラジエータフィン,オイルクーラフィンの清掃		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		86
	インレットパイプ類の締付け点検				○			○			○		○	○	○	○		87
走行・操作部	駐車ブレーキワイヤの調整		●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		87
	パワーブレーキワイヤの調整		●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	87
	脱こくクラッチの調整		●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		88
	刈取りクラッチの調整		●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		88
	ワイヤハーネス,バッテリ⊕コードの点検	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		89
	ヒューズの点検・交換			○		○		○		○		○	○	○	○	○	○	90
	スローブローヒューズの点検・交換			○		○		○		○		○	○	○	○	○	○	90
	ランプ（電球）の点検			○		○		○		○		○	○	○	○	○	○	90
	ブザーの点検			○		○		○		○		○	○	○	○	○	○	90
	ケーブル(メータケーブル)の点検					○				○			○	○		○		91
	クローラテンションの調整		●	○		○		○		○		○	○	○	○	○		91
	ミッション駆動ベルトの調整	●		○		○		○		○		○	○	○	○	○		92
	脱こく駆動ベルトの調整	●		○		○		○		○		○	○	○	○	○		92
	刈取り駆動ベルトの調整	●		○		○		○		○		○	○	○	○	○		92
刈取部	突起付きベルトの調整		●	○		○		○		○		○	○	○	○	○		93
	右穂先チェーンの調整			○		○		○		○		○	○	○	○	○		95
	左穂先チェーンの調整					○				○			○	○		○		95
	中穂先チェーンの調整					○				○			○	○		○		95
	引起しチェーンの調整			○		○		○		○		○	○	○	○	○		95
	刈刃のすき間調整			○		○		○		○		○	○	○	○	○		96
	左株元チェーンの調整		●	○		○		○		○		○	○	○	○	○		97
	右株元チェーンの調整		●	○		○		○		○		○	○	○	○	○		97
	株元供給チェーンの調整			○		○		○		○		○	○	○	○	○		97
	中株元チェーンの調整			○		○		○		○		○	○	○	○	○		97
	深さチェーンの調整		●	○		○		○		○		○	○	○	○	○		98

●：ならし運転後の点検と調整

○：点検と調整

項目＼時間		20時間目	50時間目	100時間目	150時間目	200時間目	250時間目	300時間目	350時間目	400時間目	450時間目	500時間目	600時間目	800時間目	900時間目	1000時間目	2年	参照ページ
脱こく部	各ベルトの調整	●		○		○		○		○		○	○	○	○	○		92
	フィードチェーンの調整		●	○		○		○		○		○	○	○	○	○		98
	排わら株元チェーンの調整		●	○		○		○		○		○	○	○	○	○		98
	排わら穂先チェーンの調整		●	○		○		○		○		○	○	○	○	○		98
	樹脂受あみの点検(弓金・取付けボルト含む)					○				○			○	○		○		99
	排わらチェーン押えの調整						○					○		○		○		98
タンク部グレン	グレンタンク駆動ベルトの調整	●		○		○		○		○		○	○	○	○	○		94
	もみ排出クラッチワイヤの調整		●	○		○		○		○		○	○	○	○	○		89,94
カッタ部	カッタ駆動ベルトの調整	●		○		○		○				○	○		○	○		92
	排わら切換えワイヤの調整		●	○		○		○		○		○	○	○	○	○		89
	カッタ刃の調整									○						○		100
	拡散駆動ベルトの調整【拡散付きカッタ仕様】	●		○		○		○		○		○	○	○	○			95
	切断軸,供給軸のナット増締め		●		○		○		○		○	以後100時間毎						102

■定期交換一覧表

▲：ならし運転後の交換

△：交換（交換は販売店又はJA農協の整備工場で行なってください）

	項目＼時間	50時間目	150時間目	200時間目	300時間目	350時間目	400時間目	450時間目	500時間目	600時間目	800時間目	900時間目	1000時間目	2年	参照ページ
エンジン部	エアクリーナエレメントの交換				△					△		△			102
	ラジエータホースの交換													△	103
	フューエルパイプの交換													△	103
	オイルドレーンゴムホースの交換				△					△		△		△	103
	フューエルフィルタの交換						△				△				104
	オイルフィルタカートリッジの交換	▲		△			△			△	△		△		104
	ファン駆動ベルト（1）の交換								△				△		☆
	ファン駆動ベルト（2）の交換								△				△		☆
	インレットパイプ類の交換				△					△		△		△	105
走行・操作部	駐車ブレーキワイヤの交換				△					△		△		△	105
	駐車ブレーキシューの交換								△				△	△	105
	パワーブレーキワイヤの交換								△				△	△	105
	脱こくクラッチワイヤの交換								△				△		105
	刈取りクラッチワイヤの交換								△				△		105
	HSTオイルフィルタの洗浄・交換	▲			△					△		△			106
	HST吸入フィルタの交換				△					△		△			107
	油圧オイルフィルタカートリッジの交換	▲			△					△		△			106
	ケーブル(メータケーブル)の交換										△				107
	クローラの交換										△				107
	トラッククローラ・フローティングシール・ボールベアリングの交換										△				☆107
	キャリアローラ・ローラシール・ボールベアリングの交換										△				☆107
	後輪・後輪シール・ボールベアリングの交換										△				☆107
	クローラガイド（前・後）の交換										△				107
	可動転輪・ローラシールの交換										△				☆107
	一方クラッチのクラッチカム交換									△					☆
	車軸（左・右）の交換												△		☆107
	車軸のオイルシールの交換												△		☆107
	車軸のカバーの交換												△		☆107
	駆動スプロケットの交換					△				△					107
	ミッション駆動ベルトの交換								△				△		92
	脱こく駆動ベルトの交換								△				△		92
	刈取り駆動ベルトの交換								△				△		92
刈取部	突起付きベルトの交換								△				△		108
	右穂先チェーンの交換				△					△		△			108
	右穂先フレーム・カバーの交換												△		☆
	左穂先チェーンの交換						△				△				108
	左穂先フレーム（上・下）の交換												△		☆
	引起しチェーンの交換						△				△				108

＊参照ページが☆の整備項目については，最寄りの販売店又は整備工場で行なってください。

▲：ならし運転後の交換

△：交換（交換は販売店又はJA農協の整備工場で行なってください）

項目 ＼ 時間		50時間目	150時間目	200時間目	300時間目	350時間目	400時間目	450時間目	500時間目	600時間目	800時間目	900時間目	1000時間目	2年	参照ページ
刈取部	引起しフレーム及びカバーの交換												△		☆
	引起しスライドレールの交換												△		109
	引起しテンションスプロケットの交換												△		109
	引起し65ローラのベアリング交換						△				△				108
	引起し爪の交換						△				△				108
	引起しクッションゴムの交換												△		109
	刈刃クランクピンの交換								△				△		☆
	刈刃クランクローラの交換								△				△		☆
	刈刃クランクのベアリングホルダの交換								△				△		☆
	ベアリングホルダのボールベアリング(6303)交換								△				△		☆
	刈刃クランクアームのボールベアリング(6203)交換								△				△		☆
	刈刃の交換			△			△			△	△		△		110
	左株元フレームのボールベアリング(6203)・(6202)交換								△				△		☆
	左株元レールの交換										△				☆
	左株元チェーンの交換						△				△				109
	右株元当板の交換												△		☆
	右株元ローラのボールベアリング(6203)交換								△				△		☆
	右株元チェーンの交換				△					△		△			109
	株元押え（左・中・右）の交換										△				☆
	パッカの交換										△				☆
	株元供給チェーンの交換						△				△				109
	供給フレームローラのボールベアリング(6202)交換								△				△		☆
	中穂先チェーンの交換						△				△				109
	中株元チェーンの交換						△				△				109
	深さチェーンの交換						△				△				109
	深さチェーン押えの交換										△				☆
	株元センサの交換								△				△		111
	穂先センサ（1，2）の交換								△				△		111
脱こく部	ベルトの交換								△				△		92
	わら切刃の交換			△			△			△	△		△		111
	フィードチェーンの交換								△				△		110
	排わら株元チェーンの交換												△		110
	排わら穂先チェーンの交換								△				△		110
	排わら穂先搬送爪の交換		△		△			△		△	△	△			112
	こぎ歯の交換				△					△		△			112
	こぎ胴エンバンヒダリの交換												△		☆
	縦スクリュ軸の交換						△				△				☆
	1番スクリュの交換												△		☆

＊参照ページが☆の整備項目については，最寄りの販売店又は整備工場で行なってください。

▲：ならし運転後の交換

△：交換（交換は販売店又はJA農協の整備工場で行なってください）

項目	時間	50時間目	150時間目	200時間目	300時間目	350時間目	400時間目	450時間目	500時間目	600時間目	800時間目	900時間目	1000時間目	2年	参照ページ
脱こく部	ケース（2番処理）の交換												△		☆
	ツース（2番コテイバ）の交換								△				△		112
	ツース（2番ハネ）の交換								△				△		☆
	スクリュ軸（2番タテ）の交換												△		☆
	スクリュ軸（2番）の交換												△		113
	フロントハンプの交換						△				△				114
	樹脂受あみの交換(弓金・取付けボルト含む)						△				△				99
	打抜きあみの交換								△				△		114
	排わらチェーン押えの交換								△				△		110
グレンタンク部	グレンタンク駆動ベルトの交換						△				△				114
	クラッチワイヤの交換								△				△		106
	底スクリュ軸の交換												△		☆
	縦スクリュ軸の交換												△		☆
	セツゾクスクリュ軸の交換												△		☆
カッタ部	カッタ駆動ベルトの交換						△				△				108
	排わら切換えワイヤの交換								△				△		106
	カッタ刃の交換									△					115
	拡散駆動ベルトの交換【拡散付きカッタ仕様】				△					△		△			108

＊参照ページが☆の整備項目については，最寄りの販売店又は整備工場で行なってください。

■点検・給油（水）一覧表

▲：ならし運転後の交換　○：点検・補給　△：交換

項目 ＼ 時間		毎作業前	50時間目	100時間目	200時間目	300時間目	400時間目	500時間目	600時間目	800時間目	900時間目	参照ページ
エンジン部	燃料	○										18
	冷却水	○	冬期格納時は排出又は不凍液(50%)を入れること									18
	エンジンオイル（CD級）	○	▲	以降100時間ごと交換								83
走行部	トランスミッションケースのオイル		▲			△			△		△	84
	油圧オイルタンクのオイル		▲			△			△		△	84
	刈取り一方クラッチのグリース	分解時に給油										80
	バッテリ液	作業シーズンの前・後に点検，補給										78
	水平制御アーム軸受け部のグリース	長期格納前に補給										81
	トラックローラ部のオイル	長期格納前に補給										107
刈取部	集中注油タンクのオイル	空になる前に給油										20
	各ギヤケースのグリース	分解時補給										80
	各チェーン及び刈刃部	○										20
脱こく部	レールダイブッシュ部	50時間ごとに注油										84
	脱こくチェーン駆動ケースのオイル	分解時に補給										82
	各ギヤケースのグリース	分解時に補給										80
	排わらチェーン（株元・穂先）	○										22
	各チェーン部	○										20
	フィードチェーン	○										22
	排わらチェーンテンション支持部	○										22
	トウミプーリのグリース	200時間ごとに塗布										80
グレンタンク部	アンローダケースツナギのグリース	長期格納前に補給										81
	アンローダケース3のグリース	長期格納前に補給										81
	アンローダケース1のグリース	分解時に補給										82
	アンローダケース3のグリース	分解時に補給										82
	アンローダケース4のグリース	分解時に補給										82
	タンク駆動ケースのグリース	分解時に補給										82

各部の開閉のしかた

“刈取部の脱着” “エンジンルームオープン” “こぎ胴オープン” “グレンタンクオープン” “カッタオープン” が容易にできますので，機械内部の点検整備がしやすくなりました。

注 意

＊各部の開閉を行なうときは，エンジンを必ず停止してから行なってください。

＊オーバヒートなどでエンジンカバーを開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。

❶作業を停止する。

❷エンジンを約５分間アイドリング回転する。

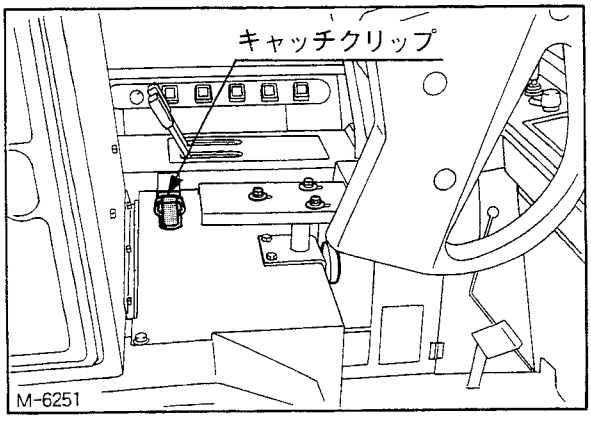
❸エンジン停止後30分以上経過してから開ける。

❹点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドの危険性がないことを確認する。

エンジンが冷えていないとき，エンジンカバーを開けるとラジエータ部，リザーブタンク部などより熱湯が噴出し，あるいは高温部に接触してヤケドするおそれがあります。

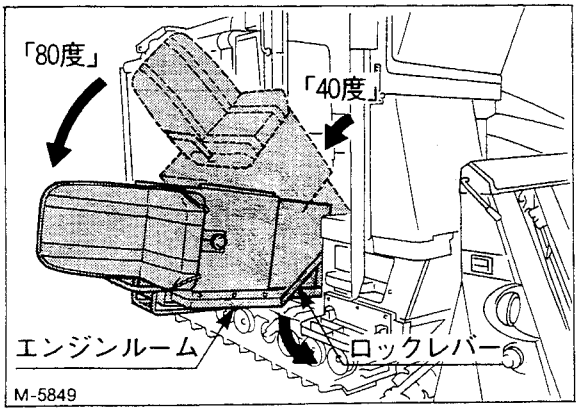
■エンジンルームオープン

❶シートを前方に倒しシートフレーム部のキャッチクリップを外します。



❷ロックレバーを下にさげ，エンジンルームを外側に倒して，エンジンルームを開放します。

エンジンルームは安全のため，40度開放で一度止まります。さらに80度までオープンするためには，ロックレバーを再度，上に上げると開きます。



■こぎ胴オープン

警 告

＊中でこぎ歯が高速で回転しているので接触するとケガをします。こぎ胴オープンするときは，エンジンを必ず止めること。

＊こぎ胴をオープンして，受あみの脱着やこぎ室の掃除をするときは，こぎ胴が落下して身体がはさまれることがあるので，オープンストッパで必ず固定してください。

重 要

＊フックハンドルが “閉” の位置にセットされていない状態で刈取り作業をすると，こぎ室フレームが変形することがあります。

(1)レールにわらが詰まったときや，こぎ室内にわらくずが詰まったときの清掃に，こぎ胴をオープンすると便利です。

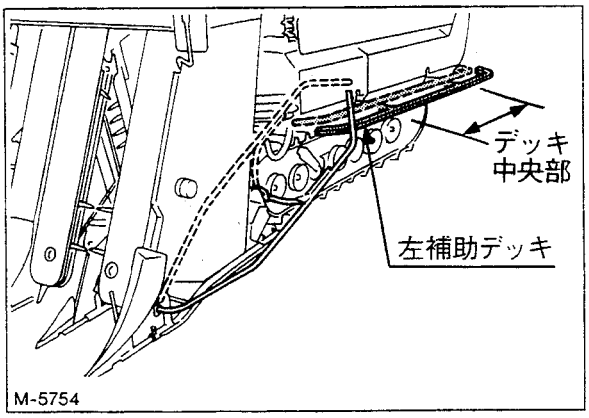
(2)こぎ胴受あみを脱着するときにも，こぎ胴をオープンして行ないます。

◆こぎ胴オープンのしかた

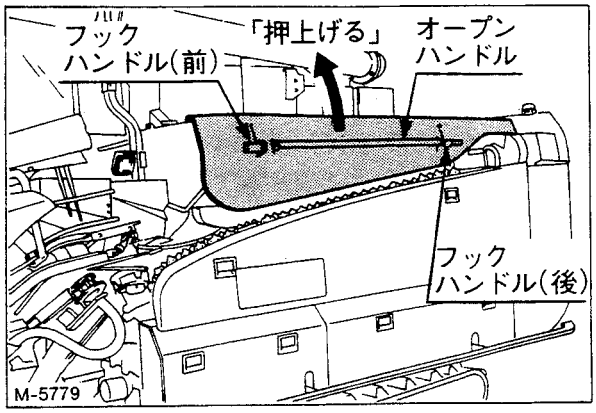
重 要

＊こぎ胴をオープンするときには，グレンタンクのアンローダを上げてから，行なってください。

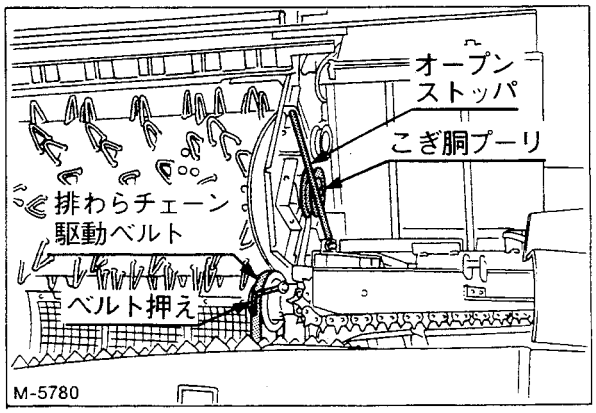
❶左補助デッキを出してデッキ中央部に乗ります。



❷フックハンドル前と後を上に押上げ，オープンハンドルを持って，こぎ胴を上に押上げます。



❸排わらチェーン駆動ベルトをこぎ胴プーリから外し，オープンストッパをセットします。



◆こぎ胴セットのしかた

❶オープンストッパを外し排わらチェーン駆動ベルトをこぎ胴プーリにセットします。

❷オープンハンドルを両手で持って，こぎ胴を下へ押下げます。

❸フックハンドルが**“閉”**の位置にあることを確認してください。

❹フックハンドルが**“閉”**の位置になければ，手で押込んで必ず**“閉”**の位置にセットしてください。

重 要

＊排わらチェーン駆動ベルトが確実にセットされているか確認してください。

■グレンタンクオープン

注 意

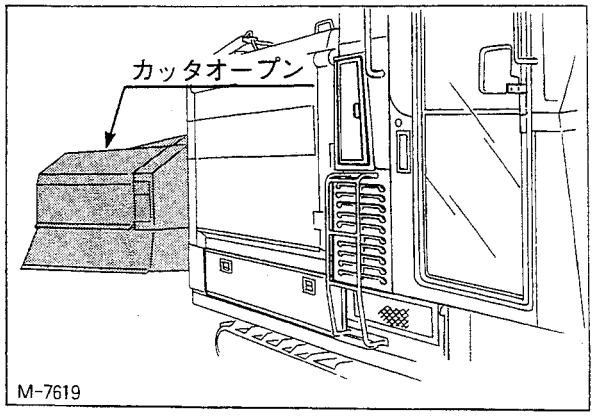
＊グレンタンクの開放は必ずタンク内のもみも空にし，エンジンを停止してから行なってください。

＊主変速レバーを“停止”，刈取りクラッチレバー・脱こくクラッチレバーを“切”にしてください。

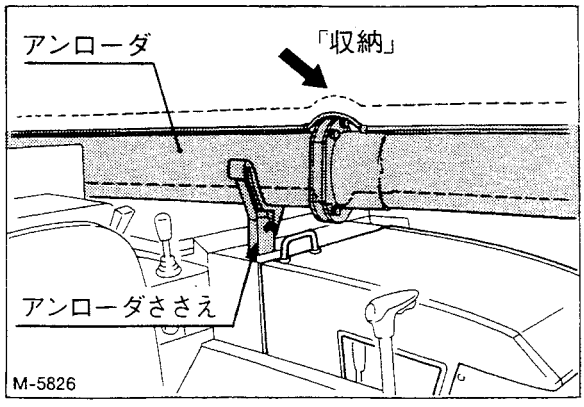
＊コンバインが傾いている傾斜地などでは，グレンタンクオープンをしないでください。

重 要

＊カッタがオープンされているときは，グレンタンクを開放しないでください。

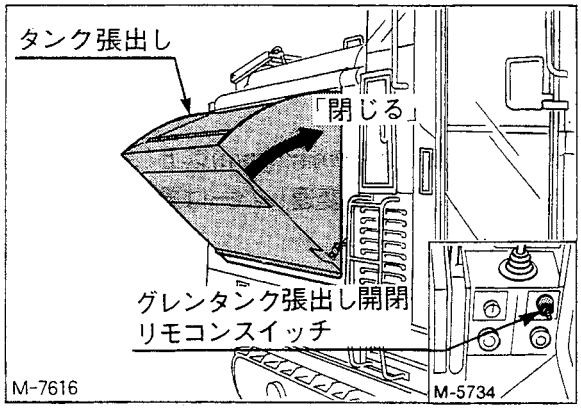


❶アンローダをアンローダささえに収納してください。

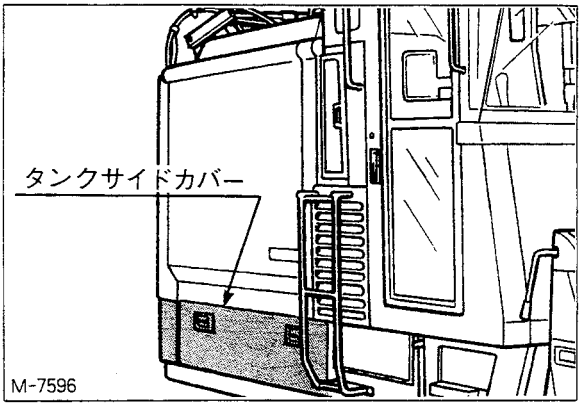


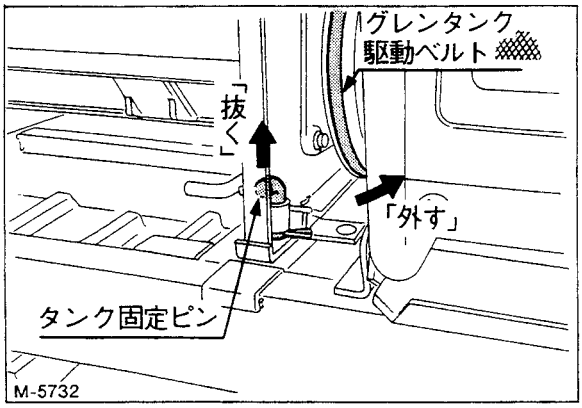
❷タンク張出しを閉じてください。

【SR35G2･40G2･45･75】



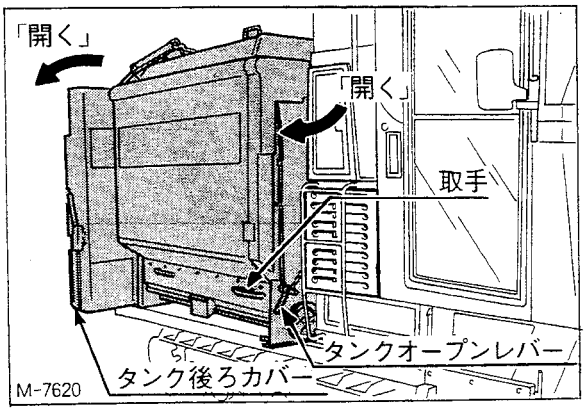
❸タンクサイドカバーを外し，駆動ベルトを外して，タンク固定ピンを抜いてください。



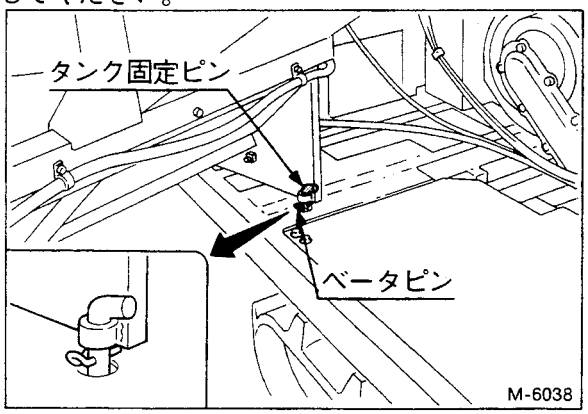


❹タンク後ろカバーを開けてください。

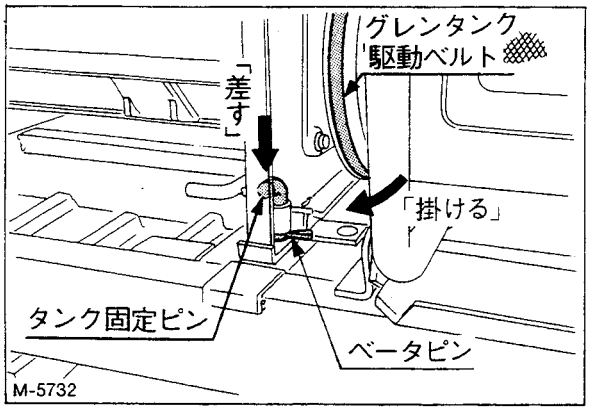
❺タンクオープンレバーを引き，取手をもってグレンタンクを開いてください。



❻グレンタンクを開いた後は，タンク固定ピンで固定してください。



❼グレンタンクを閉じるときは，前述の逆の順番で確実にグレンタンクを固定し(タンク固定ピンとベータピン)，ベルトを掛け忘れないようにしてください。



■カッタオープン

◆カッタを開く場合

警 告

＊カッタ部を開く場合は，エンジンを必ず止めてください。

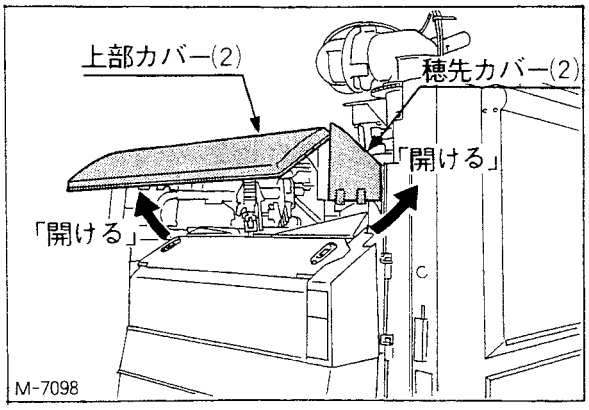
＊カッタの開放時は，刃物にじゅうぶん注意してください。

注 意

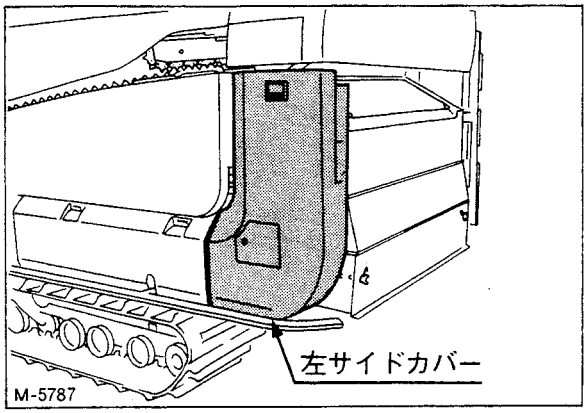
＊傾斜地でのカッタの開閉はしないでください。

＊グレンタンクオープンの状態では，カッタをオープンしないでください。

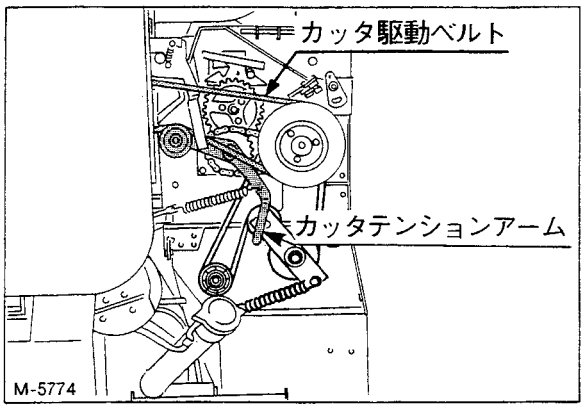
❶上部カバー(2)･穂先カバー(2)を開きます。



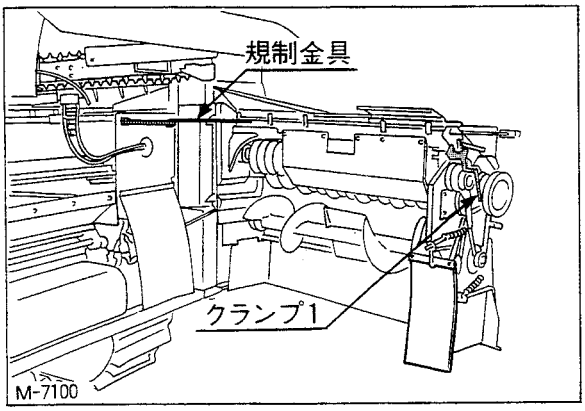
❷左サイドカバーを外します。



❸カッタテンションアームを引き，カッタ駆動ベルトを外します。



❹クランプ１を引き，カッタを静かに回動させ規制金具が確実にロック状態になるまで開いてください。



◆カッタを閉じる場合

❶規制金具中央部を手前(株元側)に引いてください。
❷カッタを開く場合の逆の手順で行なってください。
❸クランプ１が確実にロックされていることを確認してください。
❹ベルトを掛ける際は，掛け間違いのないよう行なってください。

各部の脱着のしかた

■刈取部の脱着

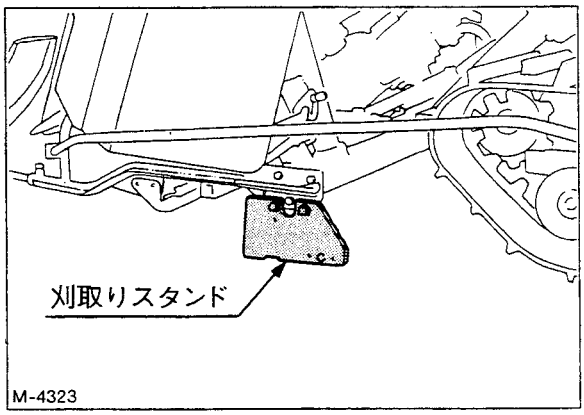
重　要

＊エンジン回転は2000min^{-1}(rpm)以上とし，副変速は**“倒伏”**にして，主変速レバーは最低速で行なってください。
＊平たんなコンクリートの上で作業してください。

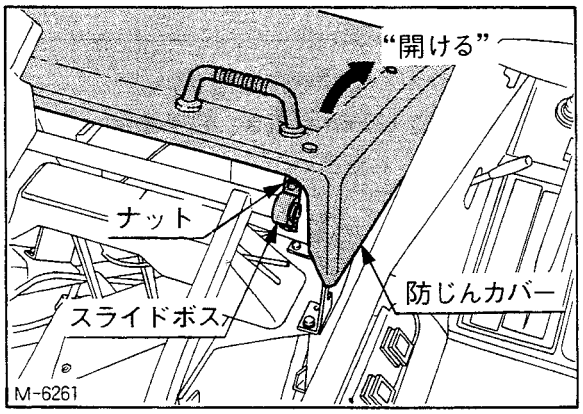
補　足

＊刈取部を脱着すると，イージーチェッカのチェックランプが点滅しますが，故障ではありません。

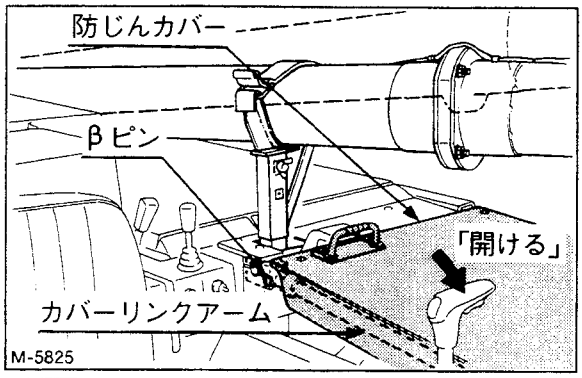
❶刈取りスタンド左・右を図のように付けてから，刈取部を地面まで下げます。
刈取りスタンドの前後の向きは，干渉せず取付く向に，取付けてください。刈取りスタンドと取付けボルトは標準付属品箱にはいってます。



❷防じんカバーを開け，次に
● 【SR35・40・45・50のSSDR仕様】
スライドボスの取付けナット（４個）を外してください。



● 【SR55･65･75のSSDR仕様】
βピンを抜いて，カバーリンクアームを外してください。

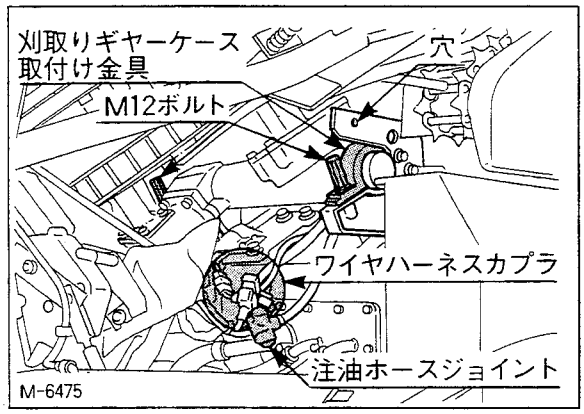


補 足

＊βピンを横に回転させると，着脱が容易にできます。

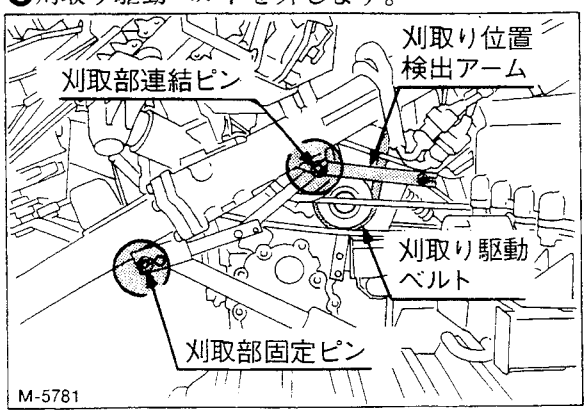
◆通常の点検整備

❶βピンを外し，刈取部固定ピンを外します。
❷ワイヤハーネスのカプラ(2コ)を引抜きます。
❸注油ホースをジョイント部から外します。
❹刈取部連結ピン部のβピンを外し刈取り位置検出アームを外します。そしてもう一度βピンを取付けます。
❺M12ボルト２本を外し**“刈取りギヤケース取付け金具”**を開き，保持するために左側はM12ボルトを穴に差込みます。

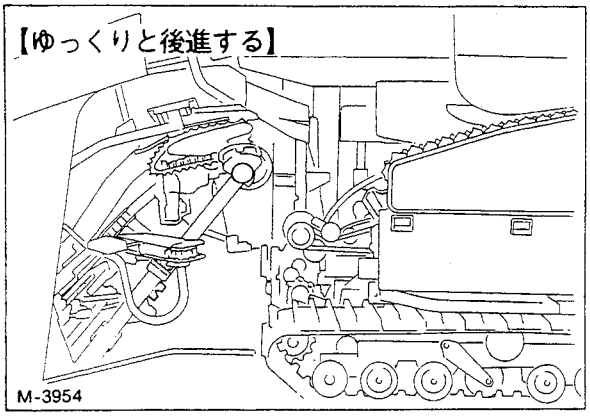


◆刈取部を完全に分離する場合（必要な場合のみ）

上記の作業に加えて
❶刈取部固定ピンを外します。
❷刈取部連結ピンを外します。
❸刈取り駆動ベルトを外します。



❸エンジンをかけ**“ゆっくり後進”**すると刈取部が外れ，内部の点検整備が容易にできます。



❹再び刈取部を装着するときは，逆の手順でゆっくり取付けてください。

◆刈取部を完全に分離した場合

パワーステアリングレバーを**“下げ”**の状態にしてゆっくり前進し，まず**刈取部連結ピン**を取付けます。そしてさらに前進し，**刈取部固定ピン**を取付けます。最後に，刈取部連結ピン部に刈取位置検出アームを取付けます。

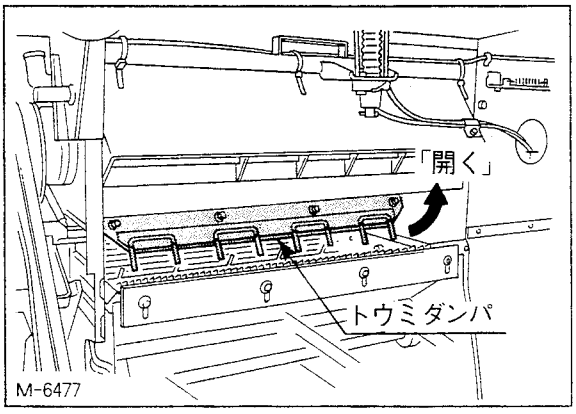
■シーブケーススライドの脱着

注 意

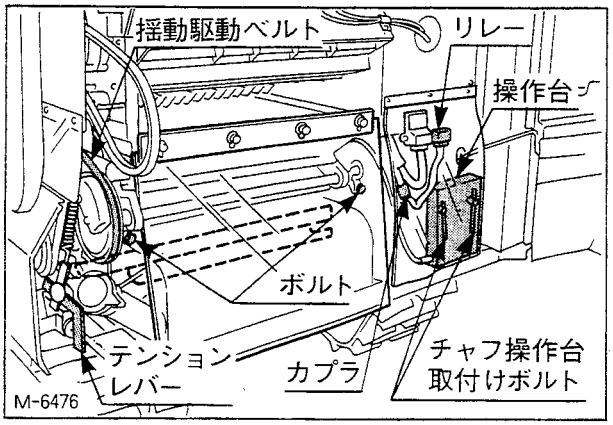
＊シーブケースは重いので脱着作業は，２人で行なってください。

◆抜出しかた

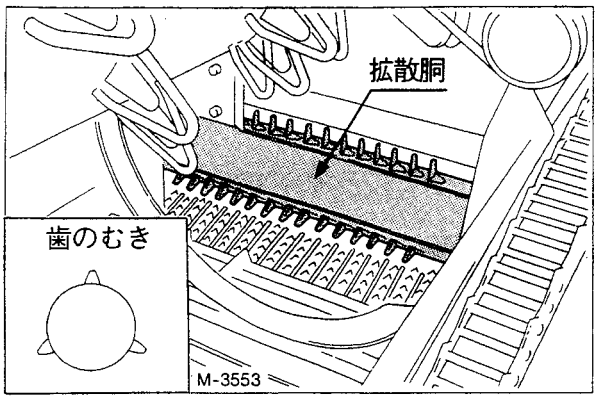
❶カッタをオープンします。
❷エンジンを始動し，脱こくクラッチレバーを**“入”**にします。
❸麦／稲／濡れ切換えスイッチを**“濡れ”**にします。
❹トウミダンパが開いたことを確認し，エンジンを**“切”**にします。



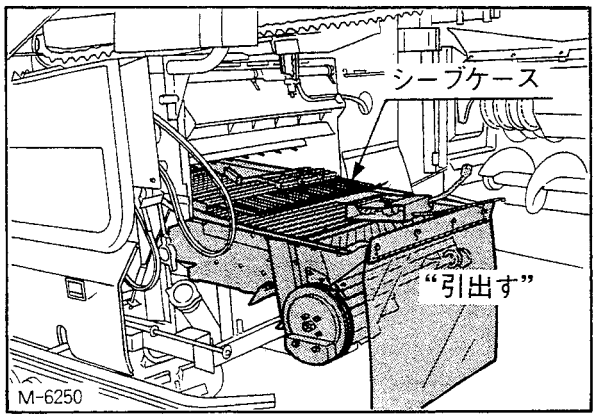
❺チャフ操作台取付けボルト（2本）を外します。
❻ハーネスとリレーのカプラを外します。
❼チャフ操作台をシーブケースの上にのせます。



❽テンションレバーを解除し，揺動駆動ベルトを外します。
❾揺動軸受けのボルト（2本）を外します。
❿こぎ胴を回転させて拡散胴の歯の向きを図のようにします。

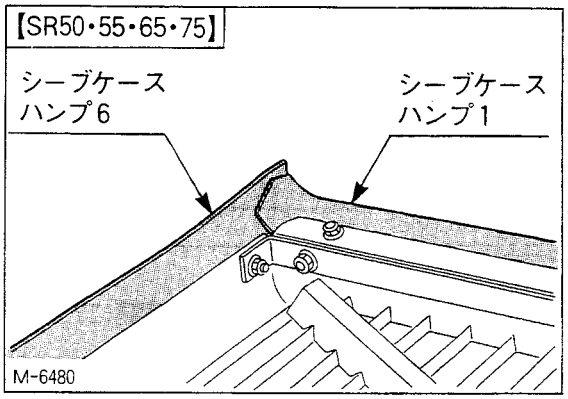


⓫シーブケースを引出します。



◆取付けかた
❶シーブケースの上にチャフ操作台をのせます。
❷拡散胴の歯の向きを合せます。
❸シーブケースハンプ1の前端がシーブケースハンプ6の内側に納まっていることを確認します。

【SR50･55･65･75】



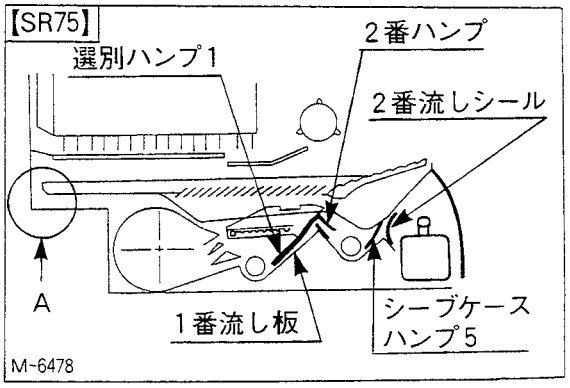
❹シーブケースの両サイドのベアリングをレールに乗せシーブケースをそう入します。
❺揺動軸受けのボルトを締付けます。
❻揺動駆動ベルトを掛けて，テンションレバーをセットします。

重　要

＊揺動軸プーリを回転させ，ウエイトを最下部にセットしてください。

重　要

＊1番スクリュ掃除口を開き，選別ハンプ1を前に引張り出し，1番流し板を越してください。このとき，1番流し板の中央のハンプは先端を上向きにしてください。
＊2番流しシールは後方（外側）へ引張り出してください。
＊こぎ胴をオープンして，こぎ胴受あみを外し，A部のハンプを次頁の図のように組付けてください。



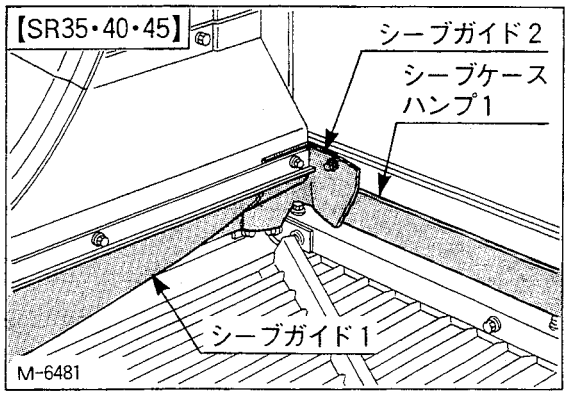
※【SR35･40･45･50･55･65】仕様は“2番ハンプ”がありません。

●A部のハンプの取付け

【SR35･40･45】

シーブガイド２をシーブケースハンプ１の上にセットしてください。

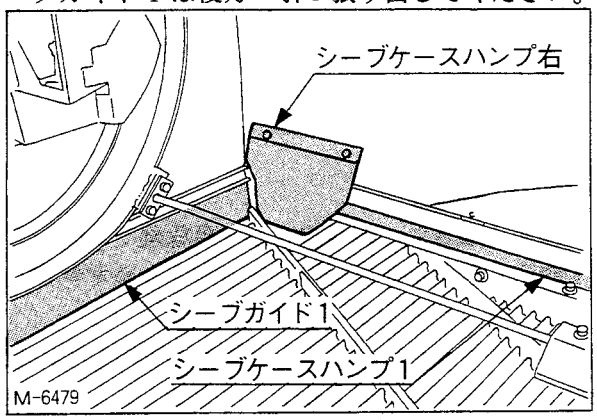
シーブガイド１は後方へ引っ張り出してください。



【SR50･55･65･75】

シーブケースハンプ右および左がシーブケースハンプ１の内側にあることを確認してください。

シーブガイド１は後方へ引っ張り出してください。



❼ワイヤハーネスとリレーのカプラを接続します。

❽チャフ操作台をボルトで締付けます。

重 要

＊後ろカバーハンプは，チャフ操作台取付けボルトで共締めしてください。

❾揺動軸ハンプが燃料タンクの後ろ側に垂れ下がっていることを確認します。

■カッタ部の脱着

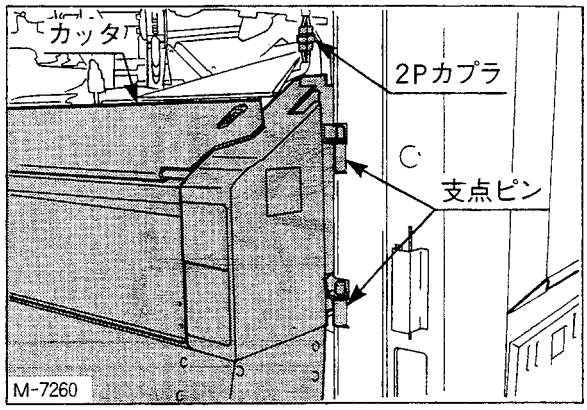
警 告

＊カッタ部を脱着するときは，エンジンを必ず止めてください。

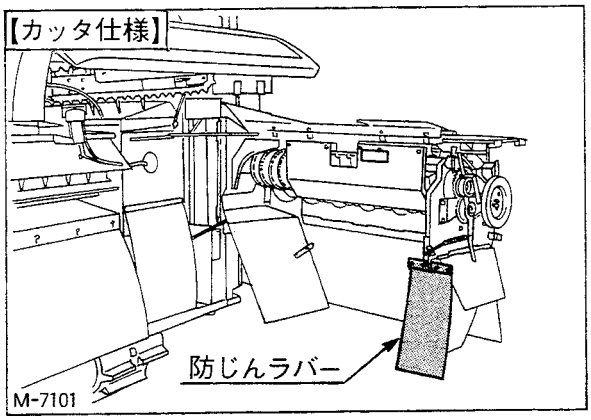
＊カッタ部の重量は拡散付きカッタ仕様で約85kg，カッタ仕様で約65kgあります。脱着するときは，次のことを厳守してください。

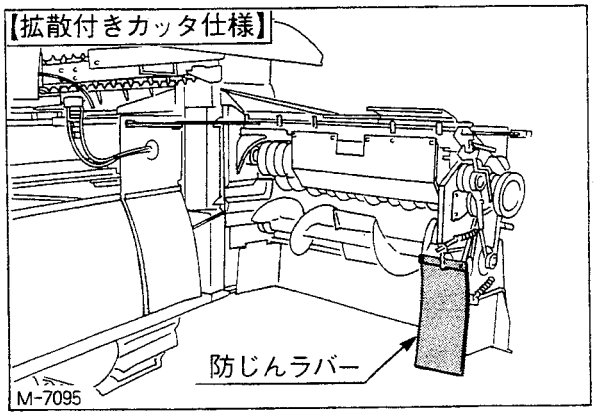
- **大人２人以上で持ち，脱着してください。**
- **カッタの刃に接触すると手や指にケガをするので，刃に絶対触れないでください。**
- **脱着は平たんな場所で行ない，足元は整理整頓してから行なってください。**

❶カッタ部を持ち，コンバインに取付けたあと，２Ｐカプラを接続します。（穂先側の支点ピンに入れます。）

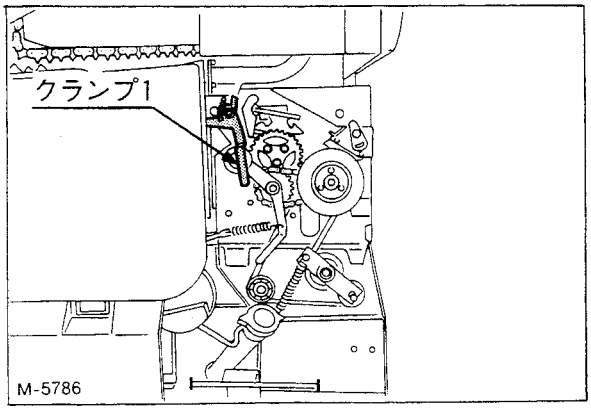


❷防じんラバーが下にさがっていることを確認してください。

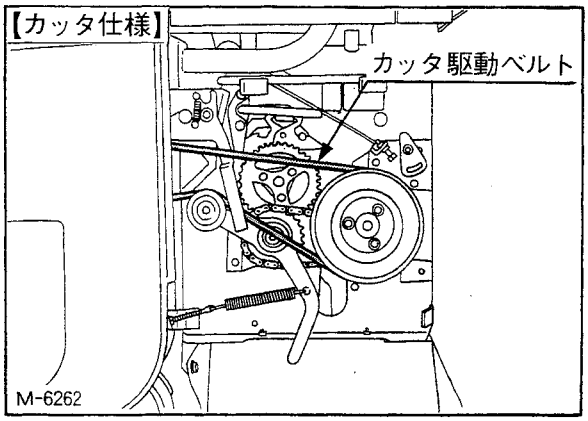


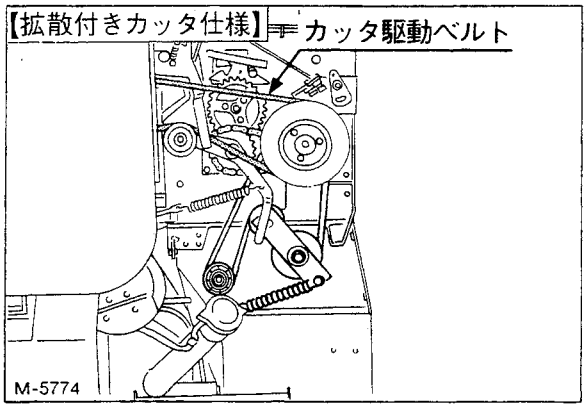


❸カッタを回動させ株元側でクランプしてください。

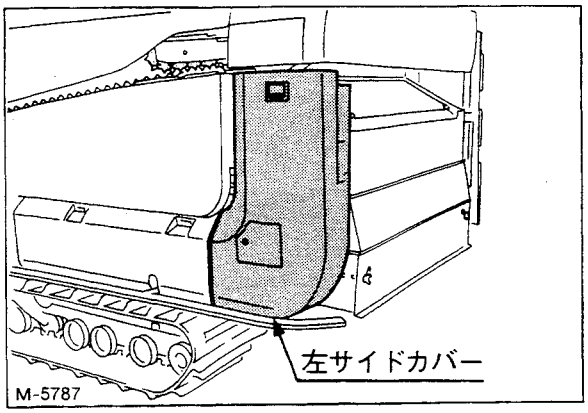


❹カッタ駆動ベルトを取付けます。

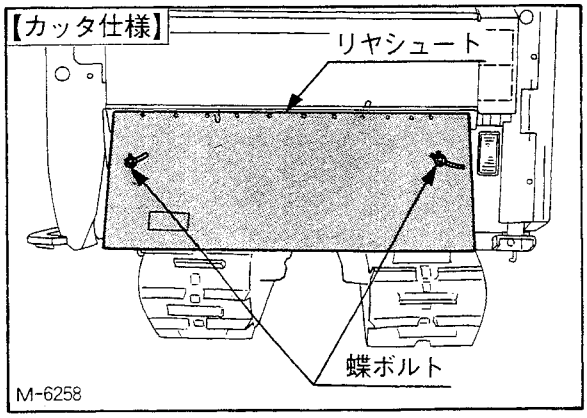




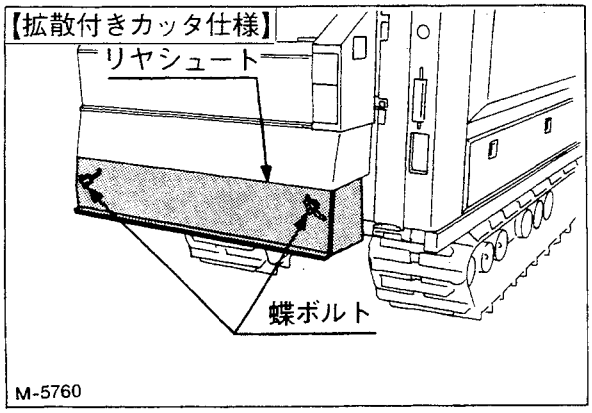
❺左サイドカバーを取付けます。



❻蝶ボルトをゆるめサイドシュートより外し，リヤシュートを後方に広げます。次に蝶ボルトで両サイドのシュートの金具を締付けます。



❼シュート吊り金具よりシュートを外し，リヤシュートを開け，蝶ボルトで固定します。



★カッタの取外しは，取付けの逆の順序で行なってください。

機内の掃除のしかた

品種や稲・麦の混合を避けたいときや収穫シーズンが終ったときには，機内の残留こく粒をきれいに取除いておきましょう。

警 告

＊清掃する場合は，回転物など大変危険ですので，必ず脱こくクラッチを切り，エンジンを必ず停止してから行なってください。

＊空運転するときには必ずこぎ胴をセットして，グレンタンク及びカッタを閉じてください。

重 要

＊水洗するときは，電装品にできるだけ水をかけないようにしてください。故障の原因になります。

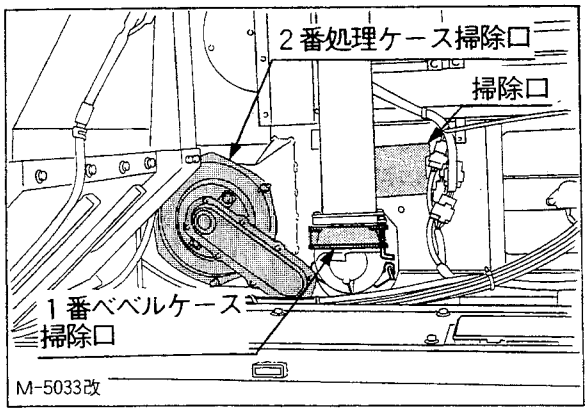
＊１番・２番スクリュケースの掃除口を閉じるときは，レバーを２・３回動かして掃除口にこく粒の付着がないことを確めてから閉じてください。

＊機内はよく乾燥させてから掃除してください。ぬれているとこく粒が機内に付着して残留こく粒が多くなります。

＊掃除の後，掃除口には確実にふたをしておいてください。ふたを忘れるとこく粒が飛散します。

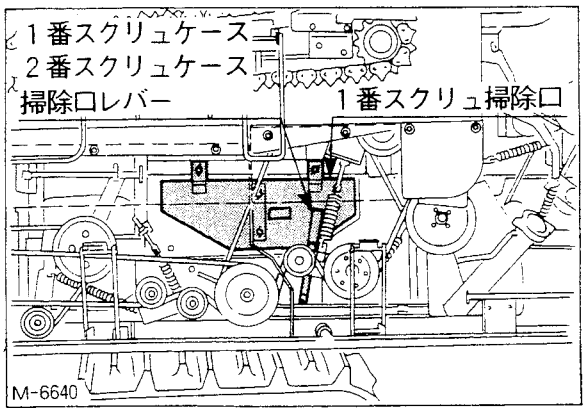
❶３分間空運転します。
❷カッタを開きます。
❸シーブケースを抜出します。
❹カッタを閉じます。
❺こぎ胴をオープンします。
❻こぎ胴受あみを外します。
❼こぎ胴をセットします。
❽グレンタンクを開きます。
❾２番処理ケース掃除口・１番スクリュ掃除口・１番スクリュケース掃除口・２番スクリュケース掃除口・１番ベベルケース掃除口を開き，掃除をしてください。
❿グレンタンクを閉じます。
⓫１～３分間の空運転の後，カッタ・こぎ室カバー・グレンタンクを開き，お手持ちの動力散布機や，コンプレッサ・ブロワなどを使って掃除してください。
⓬更に１分間の空運転を３～４回くり返すと，機内の残留こく粒が取除けます。
⓭ブロワなどを使って，もう一度機内を掃除してください。

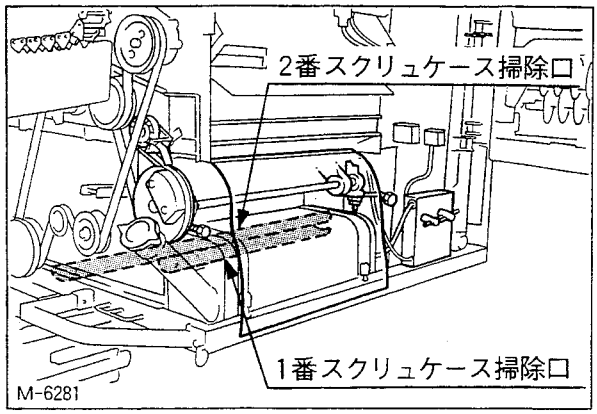
■掃除口の箇所

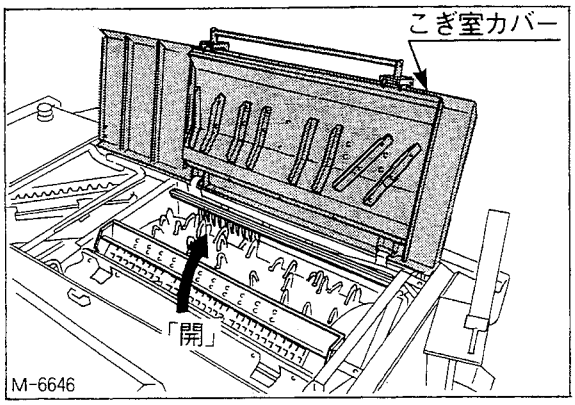


重　要

＊グレンタンクを開くときには，アンローダをアンローダ受けに収納してください。

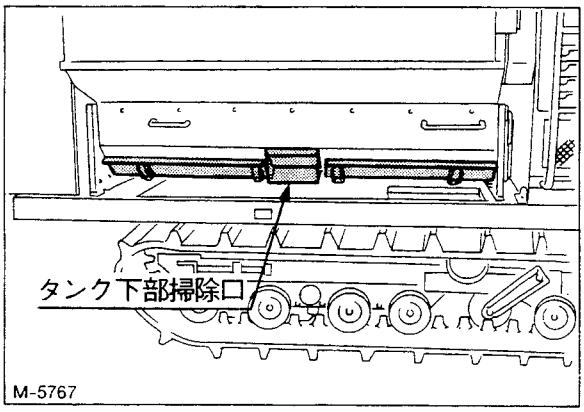






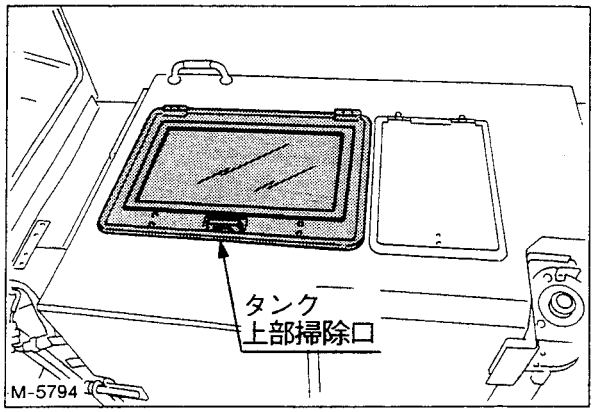
重　要

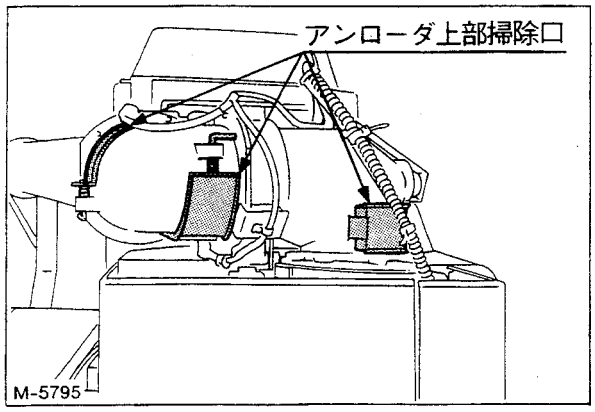
＊こぎ室カバーを開けるときには，アンローダを上げてください。



重　要

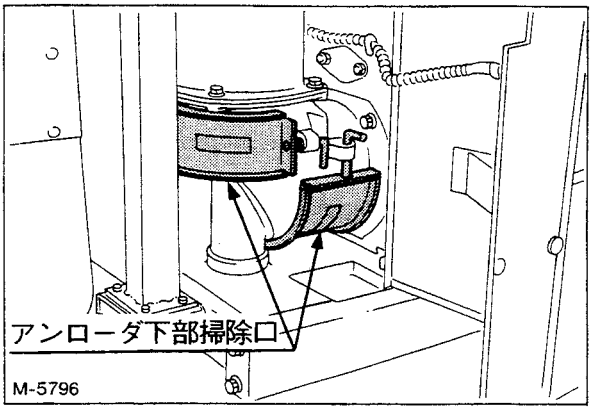
＊タンク下部掃除口を開いた状態で，グレンタンクオープンをしないでください。





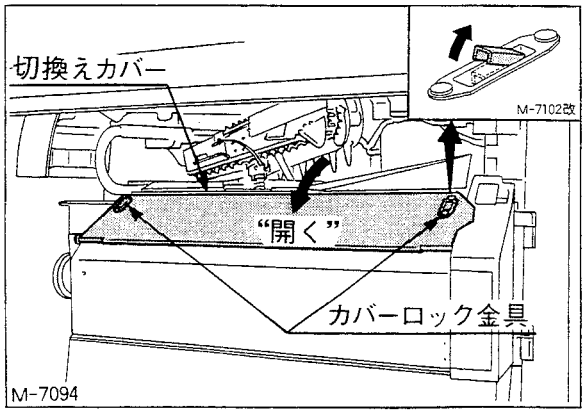
重　要

＊アンローダ上部掃除口を開いた状態でアンローダを操作しないでください。

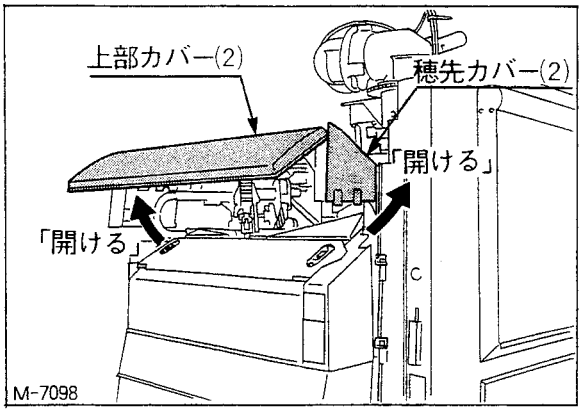


◆排わらチェーン部，カッタ部の掃除のしかた

❶カッタの切断部の点検・掃除はカバーロック金具を引き，切換えカバーを開けます。



❷排わらチェーン部の点検・掃除は上部カバー(2)，穂先カバー(2)を上に上げます。



バッテリのメンテナンス

■バッテリの点検と交換

危　険

＊バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは，すぐに水で洗い流してください。

▶もし怠ると……

希硫酸によってヤケドすることがあります。

＊バッテリに火気を近づけたり，ショートさせると爆発の危険がありますので注意してください。

＊バッテリの点検するときには，

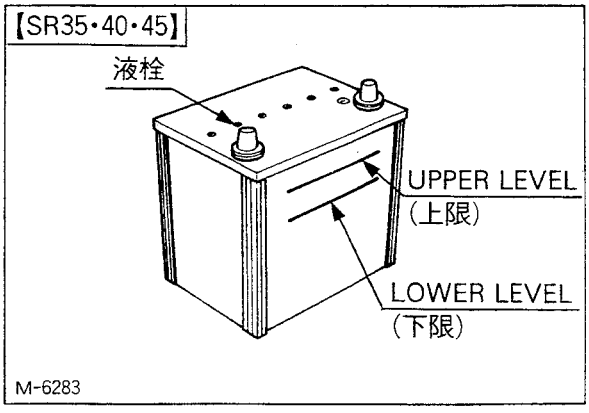
❶風通しの良い所で，

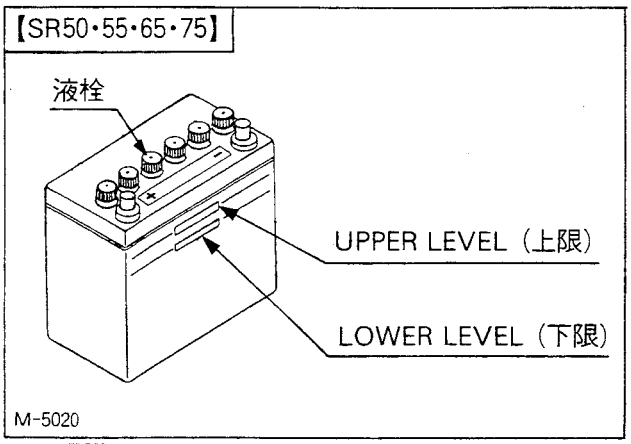
❷エンジンを停止し，メインスイッチを"切"にしてください。

❸製品に付いている取扱いマークをよく読み，それに従い行なってください。

◆バッテリ液の点検

バッテリのバッテリ液が液面線の間にあるかどうか点検し，不足のときは精製水を補充してください。





重 要

＊バッテリ液が不足して極板が空気中に露出しますと，バッテリの寿命は著しく短かくなります。
＊精製水を多く入れすぎるとこぼれ出て，機体をいためます。必ず液面線内に入れてください。
＊バッテリ液を補充する場合は，必ず精製水を補充してください。希硫酸・井戸水・泥水などは絶対に入れないでください。
＊エンジンの始動がしにくくなったり，ライトが暗くなってきましたら，早めに補充電をしてください。

◆MF(メンテナンスフリー)バッテリの補水のしかた

(1)バッテリ上ふたの補水キャップ(6個)を外します。2～3㎜の丸棒を補水キャップの穴に入れて上に持上げるとキャップが外れます。
(2)6個の補水穴から蒸溜水をまんべんなく上側の線(レベル)まで補水します。
(3)キャップを元の穴に押込みふたをします。バッテリのバッテリ液が液面積の間にあるかどうか点検し，不足のときは精製水を補充してください。

◆バッテリの補充電

注 意

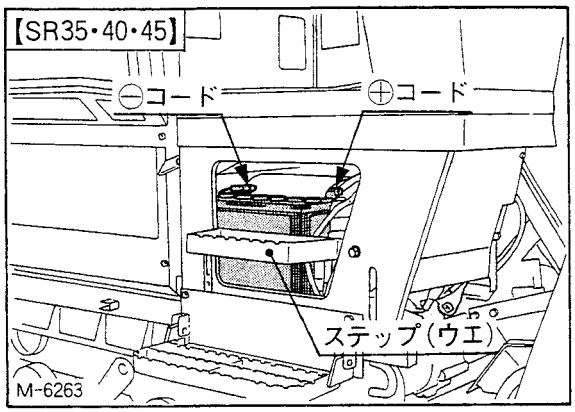
＊作業中バッテリコード先端がフレームに接触すると，ショートする危険性がありますので，絶対に接触させないでください。

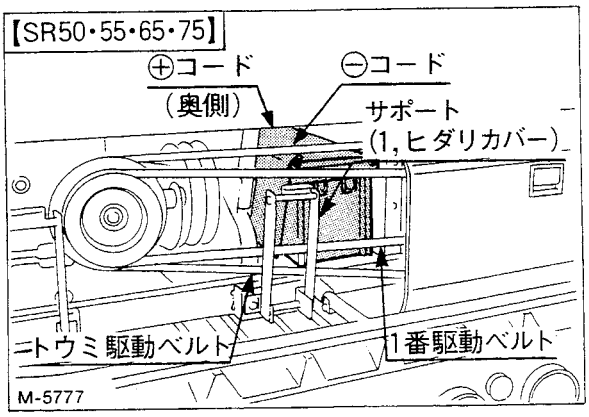
(1)充電は必ず本体からバッテリを取外して行なってください。電装品や配線をいためることがあります。
(2)充電は，バッテリの⊕を充電器の⊕に，バッテリの⊖を充電器の⊖に接続して，普通充電法で行なってください。
(3)大電流を通して短時間で充電する急速充電法を応急処置として行なったときは，作業後必ず補充電してください。

◆バッテリの取外し，取付け方法

(1)バッテリを外す前に，SR35･40･45はステップ(ウエ)を取外してください。SR50･55･65･75は，サポート(1，ヒダリカバー)を取外し，1番駆動ベルトとトウミ駆動ベルトを外してください。
(2)バッテリからコード線を外す場合は，必ず⊖側から外してください。逆にすると，工具などが接触したときショートします。
(3)バッテリを取付けるときは，⊕側を先に接続し，次に⊖側を接続してください。
(4)バッテリコードを接続するときは，⊕と⊖を間違わないようにしてください。間違うと，電気系統の故障の原因になります。
(5)指定外のバッテリは使用しないでください。

バッテリ形式	95D31R-MF【SR35･40･45】 105E41R-MF【SR50･55･65･75】





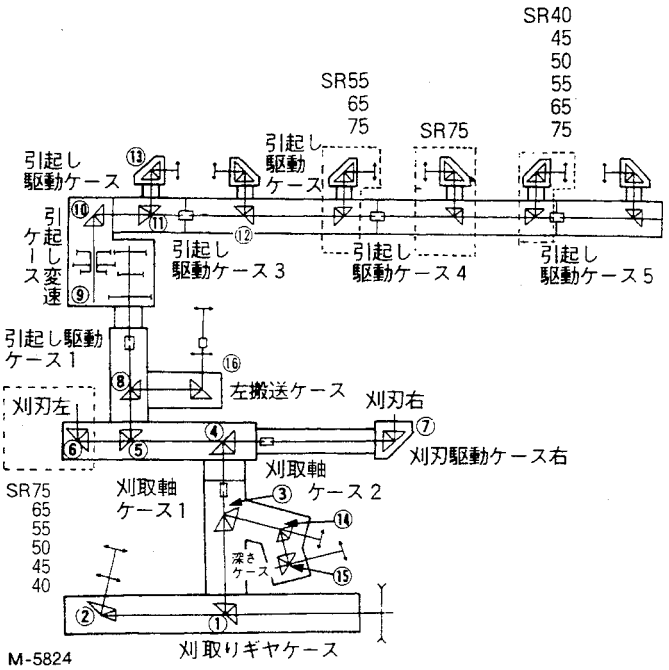
(6)⊕⊖のコードを元どおりの配線にしてください。⊕コードは他の部品の鋭利な物に触れないよう，確実に組付けてください。

各部グリース・オイルの補給

分解時にクボタスペアグリースを補給してください。

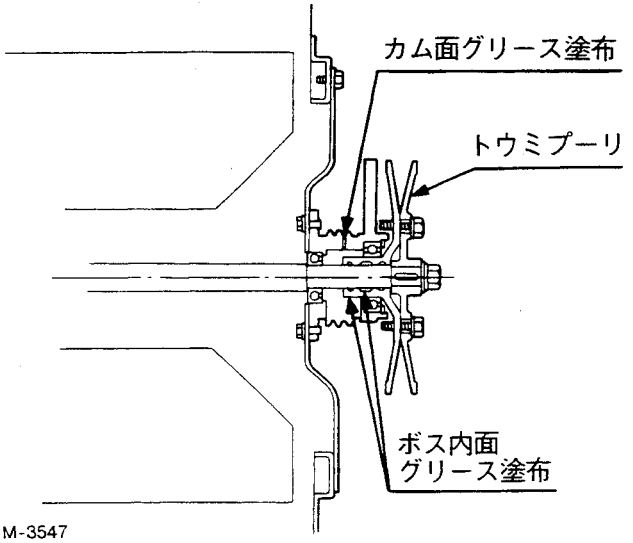
■刈取部

部　所	図No.	グリース封入量	オイル量
刈取りギヤケース	①	150g	—
	②	100g	—
刈取り軸ケース1	③	150g	—
刈刃駆動ケース	④	100g【SR35】	クボタ純オイル NEW・UDT 1.0L~1.1L 【SR75】 0.8L~0.9L 【SR55・65】 0.6L~0.7L 【SR40・45・50】
	⑤	100g【SR35】	
	⑥	—	
刈刃駆動ケース右	⑦	70g	—
引起し駆動ケース1	⑧	100g	—
引起し変速ケース	⑨	150g	—
	⑩	70g	—
引起し駆動ケース4,5	⑪	70g (各部)	—
	⑫	70g	—
引起し駆動ケース8,9	⑬	50g (各部)	—
右株元搬送ケース	⑭	50g	—
深さケース	⑮	30g	—
左搬送ケース	⑯	90g	—
深さ回動ケース (深さモータ取付け部)	図示なし	50g及び歯面塗布	—



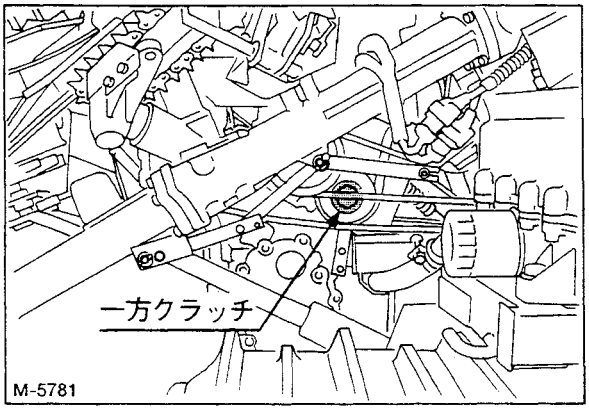
■脱こく部

＊1番ベベルケース　40g
（縦スクリュ駆動ケース部）
＊排わらベベルケース　50g
（排わらチェーン駆動ケース部）
＊トウミプーリ部 200時間ごとグリース塗布
＊2番ギヤケース　30g
＊2番チェーンケース　90g
＊2番ベベルケース　20g



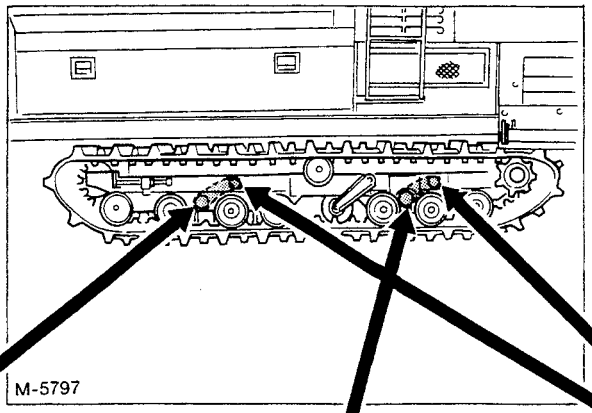
■刈取り一方クラッチのグリース

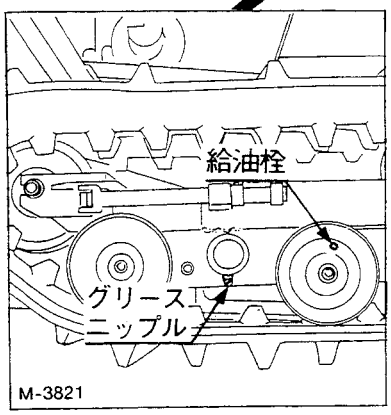
分解時，一方クラッチ及びベアリングボール部にグリースを封入してください。

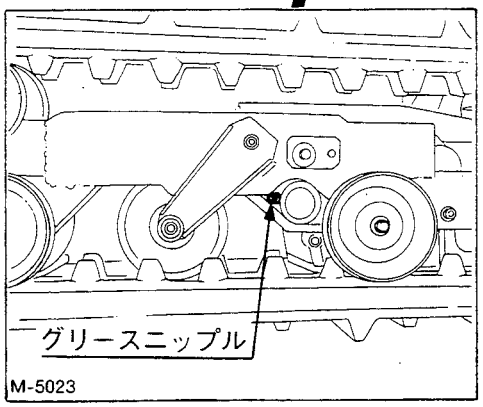


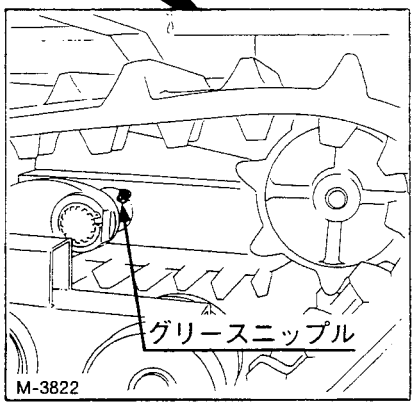
■車体水平制御アーム軸受け部へのグリース【M仕様】及びトラックローラ部のオイル

長期格納前又は分解時にグリースアップ及びオイル補給をしてください。
トラックローラ部は給油口を最上位置にし，オイル差しでオイルがあふれ出るまで補給してください。給油栓は締付け時，ネジ部にシールテープを2~3巻，巻いてください。このとき，水や泥が出てきた場合は，販売店にご相談ください。



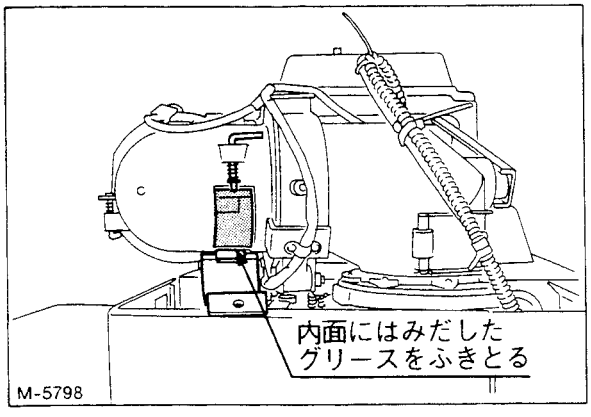


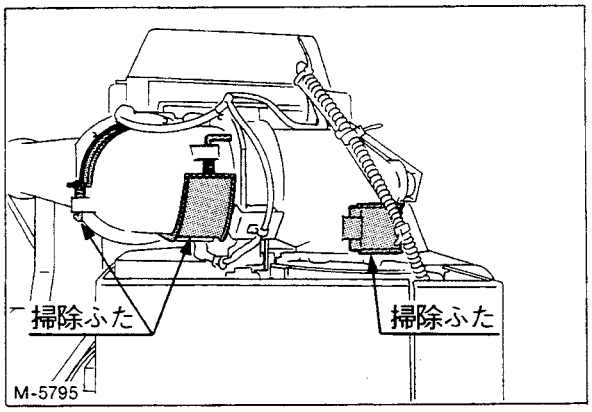


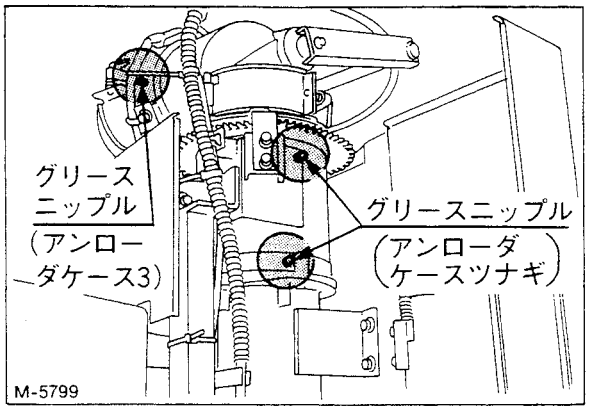


■アンローダ部へのグリース

❶長期格納前にアンローダ回動部にクボタスペアグリースを補給してください。
＊アンローダケースツナギ
＊アンローダケース３
アンローダケース３にグリース補給後は，掃除ふたを外して，内面にはみ出しているグリースをきれいにふきとってください。



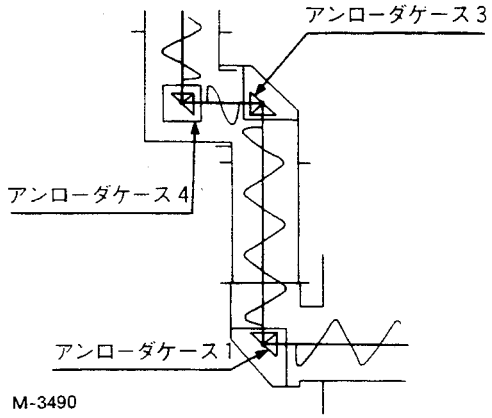


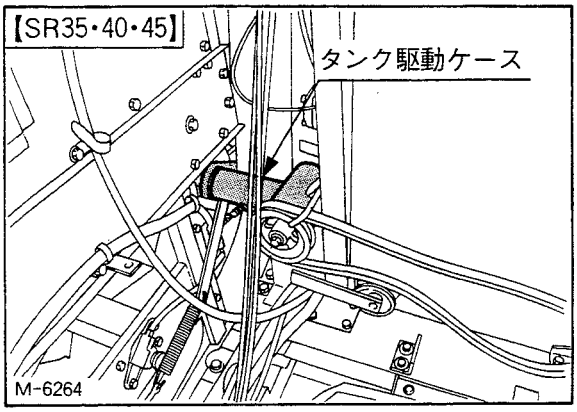


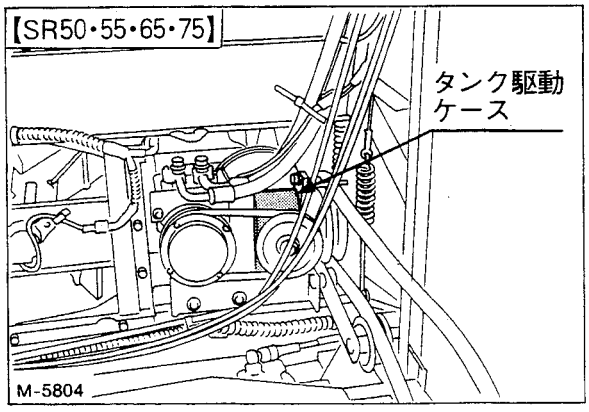
❷分解時にクボタスペアグリースを補給してください。

＊アンローダケース１　150g
＊アンローダケース３　100g
＊アンローダケース４　100g

タンク駆動ケース	SR35･40･45	250 g
	SR50･55･65･75	400 g



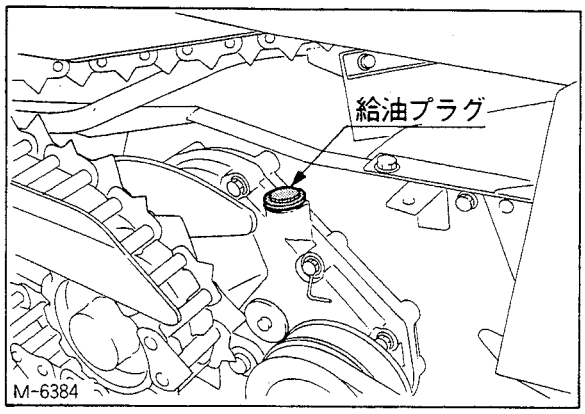




■脱こくチェーン駆動ケースのオイル

分解整備時に給油プラグを外して，オイルが入っているか点検してください。

オイルの種類	オイル量
クボタ純オイルM90又はM80B又はNEW･UDT又はスーパーUDT	0.3 L



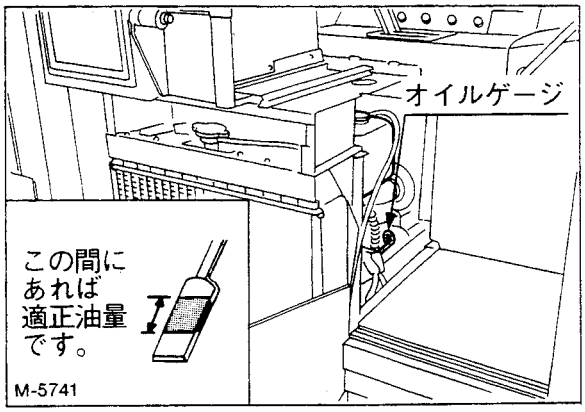
定期点検と調整

■エンジンオイルの点検と交換

重 要

＊指定のオイル以外は使用しないでください。指定以外のオイルを使用すると，出力が低下したり，エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し，エンジントラブルの原因となります。

◆点検とオイルの種類



機　種	オイル量	オイルの種類	
		気温15℃以上のとき	気温15℃未満のとき
SR35･40･45	8.5L	クボタ純オイルディーゼルエンジン用D30又はD10W30	クボタ純オイルディーゼルエンジン用D10W30
SR50･55	9.7L		
SR65･75	9.7L	クボタ純オイルディーゼルエンジン用D30スーパーCD, D10W30スーパーCD	クボタ純オイルディーゼルエンジン用D10W30スーパーCD

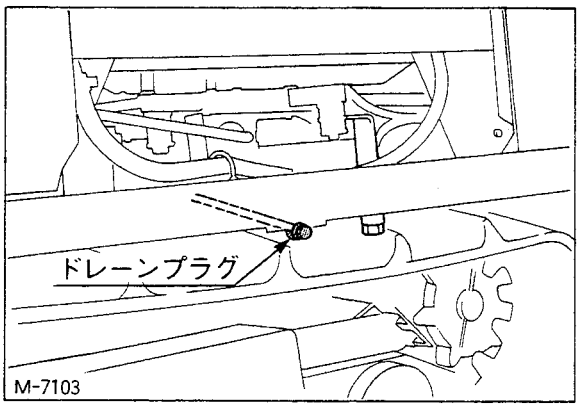
クボタ純オイルの入手が困難な場合は，CD級以上のオイルをお使いください。
この場合は気温により下表のように使分けてください。

気　温	オイルの種類
15℃未満	10W-30(CD)
15℃以上	SAE30(CD)又は10W-30(CD)

10W—30(CD)はオールシーズン用です。

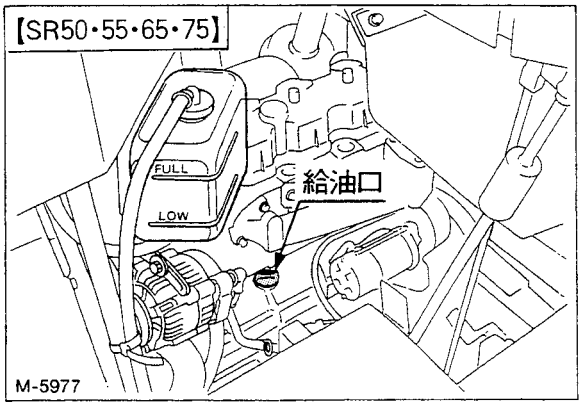
◆排油のしかた

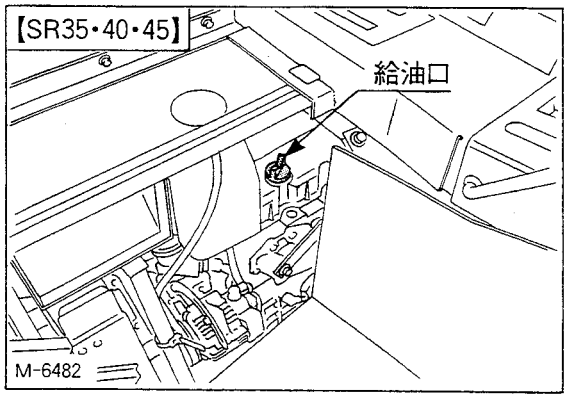
オイル給油栓を外してから，ドレーンプラグを外し，オイルを排出してください。
給油栓を閉めたままでは完全に排出できません。



◆給油のしかた

ドレーンプラグを締付けて，給油口から適量給油し，オイル給油栓をきちんと締付けてください。



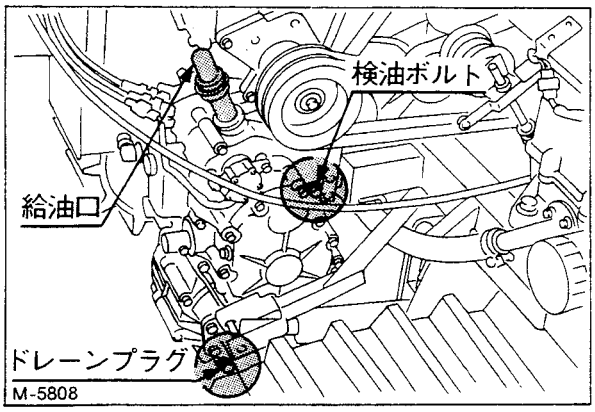


■トランスミッションケースオイルの点検と交換

重 要

＊湿式ブレーキのオイルと共通ですので，他のオイルは使用しないでください。

トランスミッションケース下部のドレーンプラグを外して古いオイルを排出させ，排出後はドレーンプラグを元のように締付けてください。
その後，給油口から給油してください。



オイルの種類	オイル量
クボタ純オイルNEW·UDT又は，スーパーUDT	10L

重 要

＊NEW·UDTオイルとスーパーUDTオイルは混ぜて使用しないでください。出荷時のオイルはNEW·UDTです。

■油圧オイルタンクオイルの点検と交換

ケースの左側壁下側のドレーンプラグを外し，古いオイルを排出させ，排出後はドレーンプラグを元のように締付けてください。その後，給油口から給油してください。

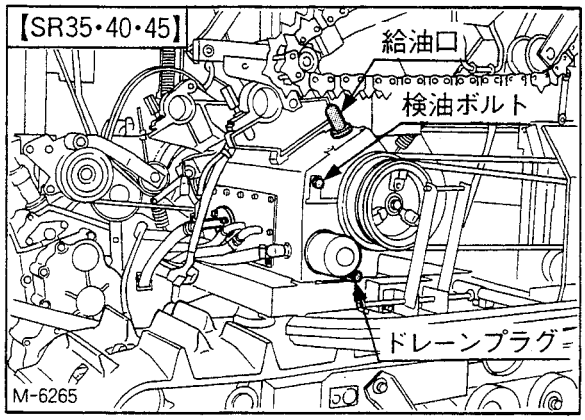
機 種	オイルの種類	オイル量
SR35·40·45	クボタ純オイルNEW·UDT又は，スーパーUDT	22L
SR50·55·65·75		26L

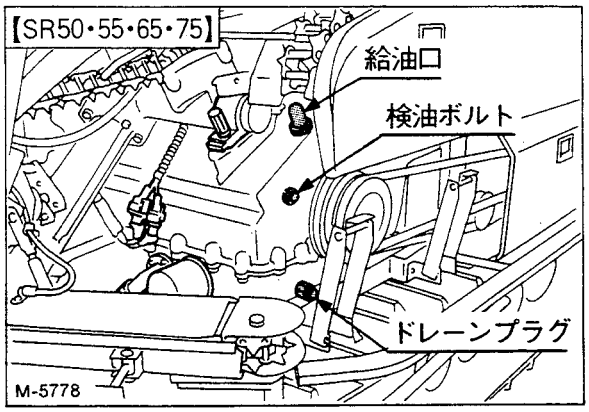
重 要

＊NEW·UDTオイルとスーパーUDTオイルは混ぜて使用しないでください。出荷時のオイルはNEW·UDTです。

◆点検

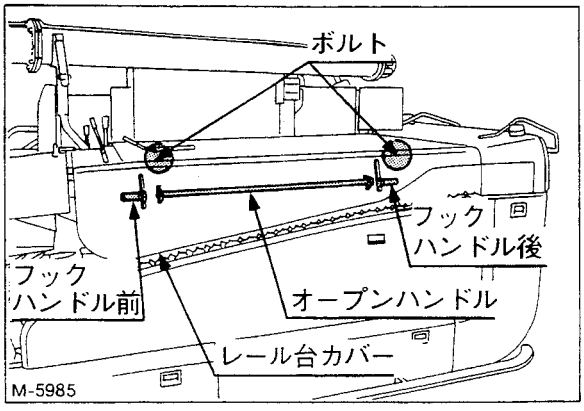
検油ボルト(M8)を外してオイルが出てくれば適正量です。
不足のときは，給油口から付属のじょうごを使用して補給してください。



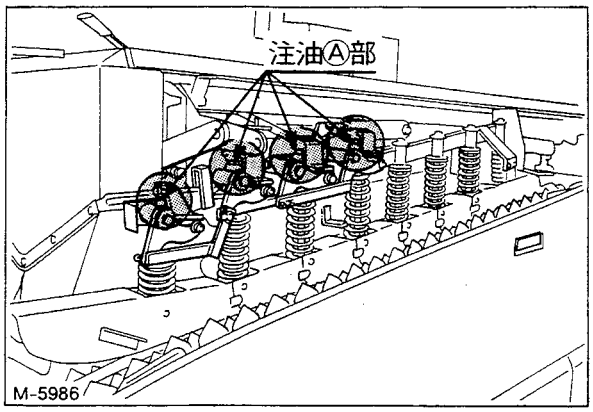


■レール台ブッシュ部への注油

❶M8ボルト(2箇所)をゆるめて，オープンハンドルを外す。
❷フックハンドル(2箇所)を外す。
❸M8ボルト(2箇所)をゆるめて，レール台カバーを外す。
❹レール台部のわらくずを取除く。



❺Ⓐ部に注油する。(4箇所)

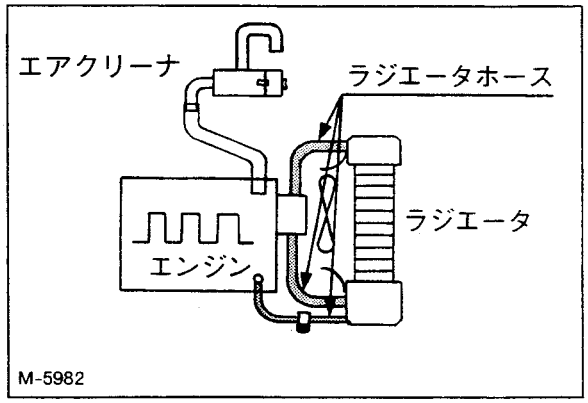


■ラジエータホースの点検

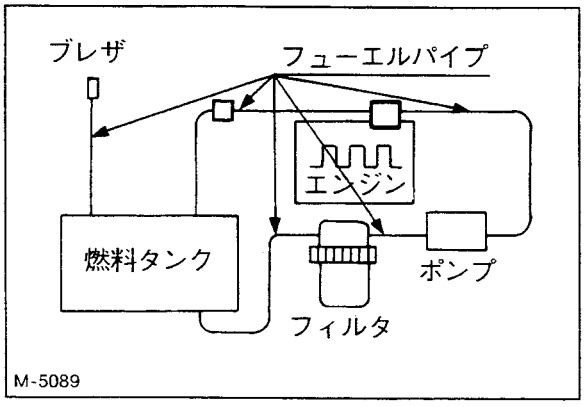
注 意

＊運転中ラジエータホースが外れると熱湯が吹出して危険です。

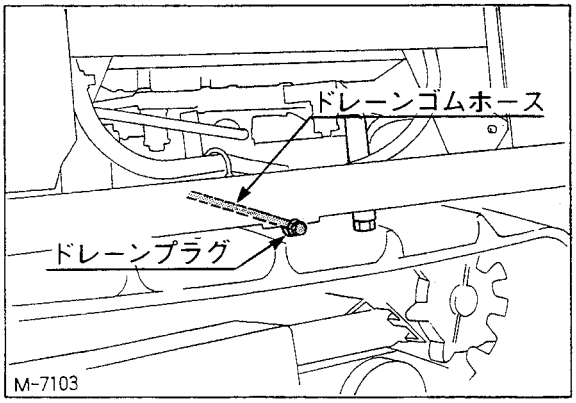
(1)ラジエータホースの締付け点検は，200時間運転ごと又は６ヵ月ごとに行なってください。
締付けバンドがゆるんでいたり，水もれのある場合はバンドを確実に締付けてください。



■フューエルパイプの締付け点検



■オイルドレーンゴムホースの締付け点検



◆パイプ・ホース類の点検

注 意

＊燃料系ゴムホースが破損していると燃料もれを起しますので，必ず点検してください。
▶もし怠ると・・・・・
火災など傷害事故の危険があります。

重 要

＊交換時にパイプや噴射ポンプなどにゴミが入らないように注意してください。ゴミが入ると，噴射ポンプの作動不良の原因になります。

燃料系ゴムホース製品は，使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドと共に２年(オイルドレーンゴムホースは300時間又は２年)ごと又はいたんだときに新品と交換する必要があります。パイプ・ホース類がいたんだり締付けバンドがゆるんでいないか常に注意してください。

重 要

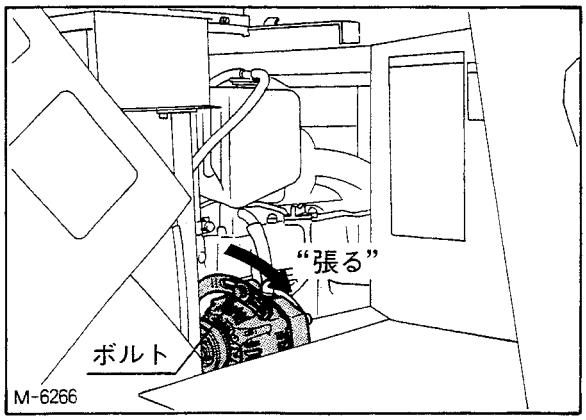
＊燃料のエア抜きは自動で行なわれます。
メインスイッチを**“入”**にして５～10秒でエア抜きができます。

■ファン駆動ベルトの点検・調整

◆【SR35・40・45・50・55】

ダイナモの取付けボルトをゆるめ，ダイナモを手で引張りながら，取付けボルトを締付けます。

ベルト中央部のたわみ	5～10㎜



◆【SR65・75】

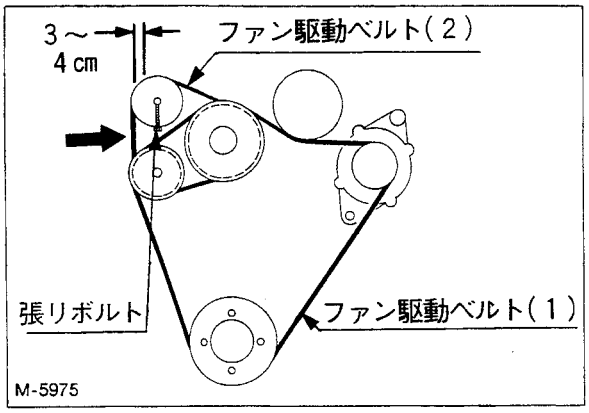
●ファン駆動ベルト(1)の点検

ひび割れ，破損がないか点検してください。

●ファン駆動ベルト(2)の張り

張りボルトのロックナットをゆるめ，ボルトを回して張ります。張り終わったらロックナットで固定します。

ベルト中央部のたわみ	3～4㎜



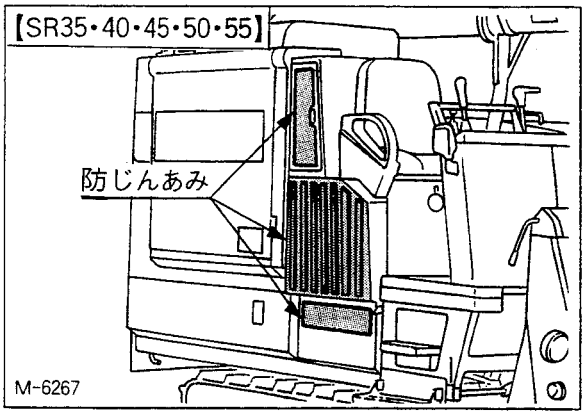
■防じんあみ，ラジエータフィン，オイルクーラフィンの清掃

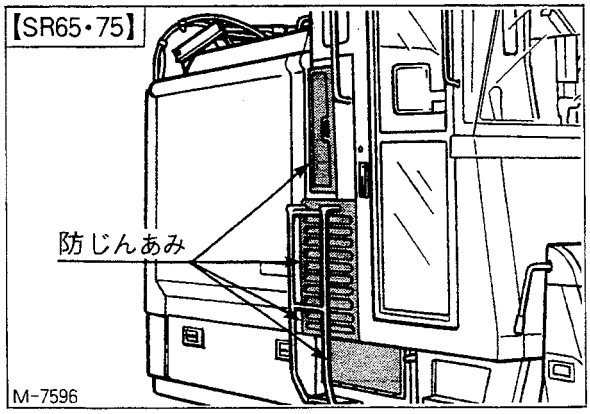
重 要

＊ヘラやドライバなど固いもので清掃しないでください。特殊フィンをいため，ラジエータの機能を低下させる原因になります。

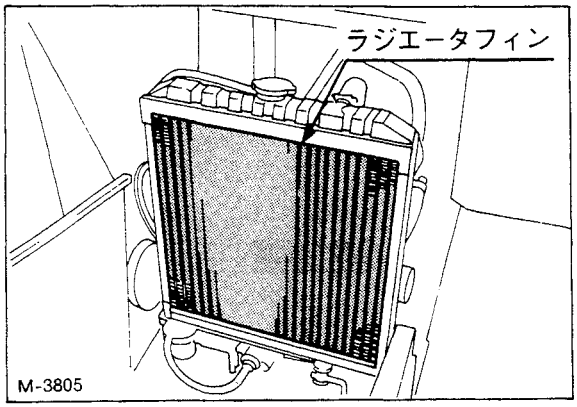
＊エアクリーナの吸入口には絶対水をかけないでください。エンジン不調又は破損の原因となります。

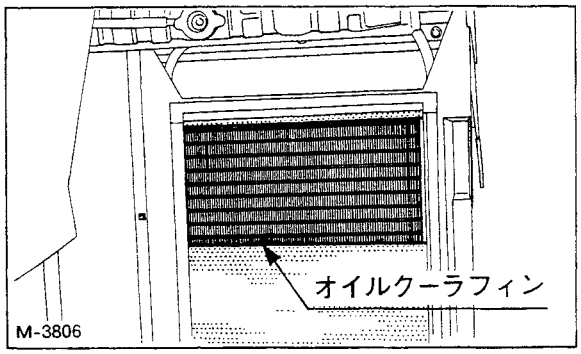
❶防じんあみを清掃してください。（この場合エンジンを必ず停止して行なってください）



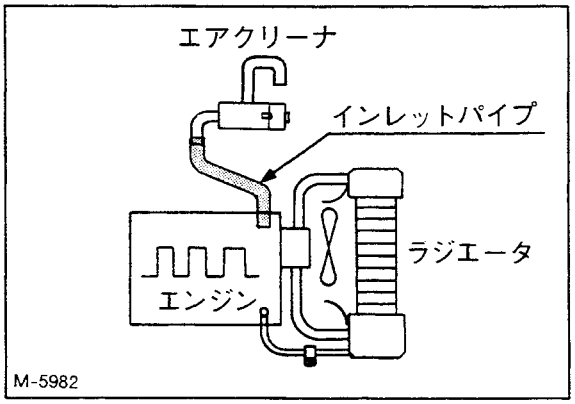


❷ラジエータフィンの目詰まりを清掃してください。
圧縮空気を利用すればすみずみまで清掃できます。
(同様にオイルクーラフィンも清掃してください)





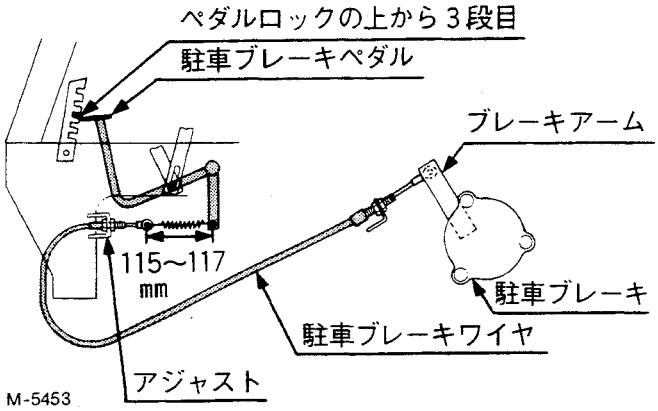
■インレットパイプ類の締付け点検



■駐車ブレーキ関係

◆駐車ブレーキワイヤの調節

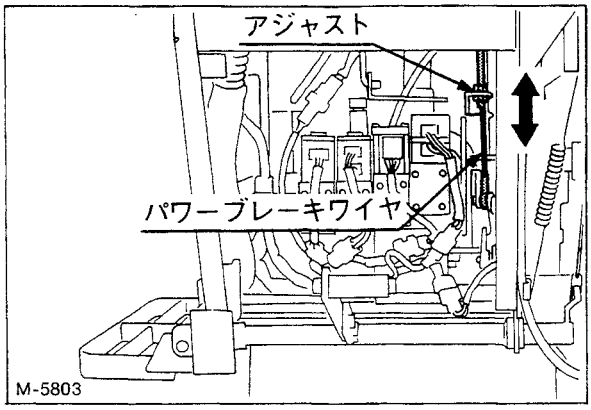
駐車ブレーキペダルをペダルロックの切欠の上から3段目にかけスプリングのフック内寸法が115～117 mmになるよう駐車ブレーキワイヤのアジャストで調整してください。



■パワーブレーキワイヤの調整

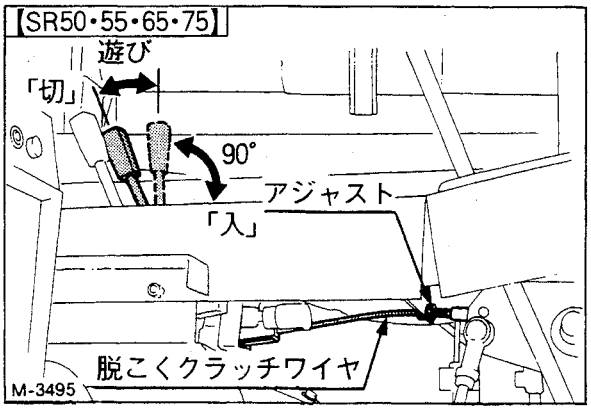
パワーステアリングレバーにより，ブレーキを早い目にきかせたいときは，ワイヤを張る方向に調整してください。

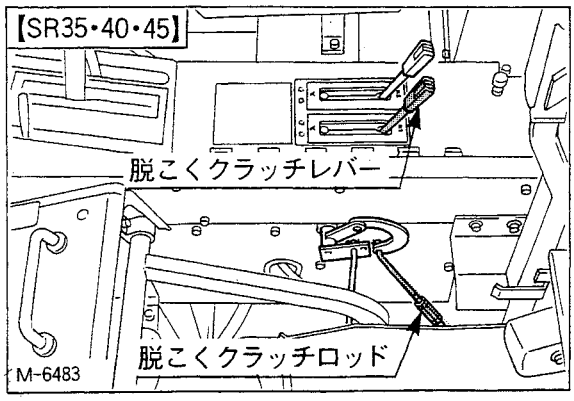
ただし，早くしすぎるとクラッチが切れてすぐブレーキがききますので，ショックが多くなります。適量に調整してください。



■脱こくクラッチの調整

クラッチ“切”からレバーが垂直の間で遊びになるよう，ワイヤ又はロッドの調整をしてください。





■刈取りオートクラッチワイヤ及び刈取りクラッチの調整

注　意

＊点検・調整時は，刈取りクラッチを“切”にしてください。

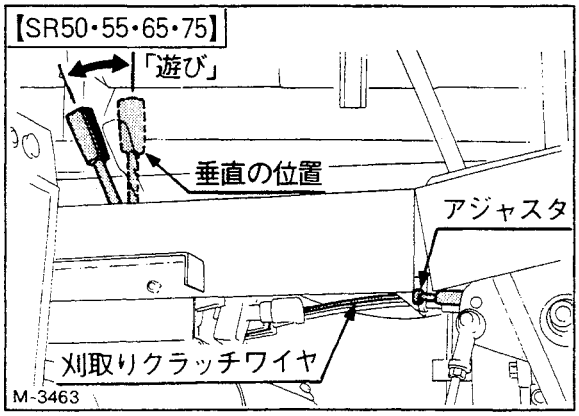
(1)フィードチェーンクラッチと刈取りクラッチのタイミングがずれた場合，次の要領で調整してください。

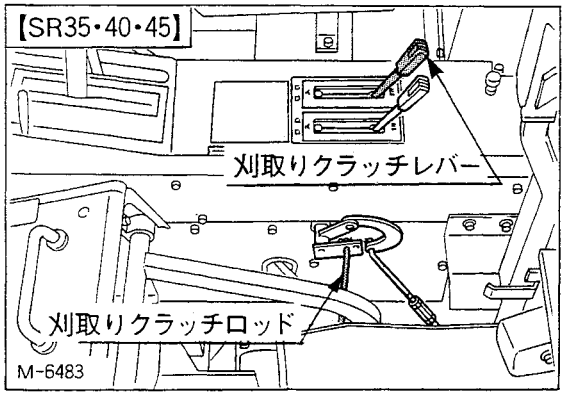
❶オートクラッチ切換えグリップを“入”にしてください。

❷オートクラッチワイヤ調整前に，刈取りクラッチの調整をしてください。

❸刈取りクラッチレバーが“切”の状態から垂直の位置までが遊びとなるようワイヤ，及びロッドを調整してください。

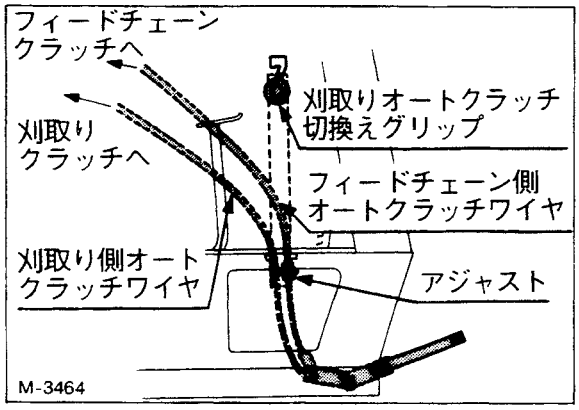
❹脱こく機側オートクラッチワイヤのたるみを3～5㎜に調整してください。





❺最後に刈取り側オートクラッチワイヤの調整を行ないます。

(2)刈取り作業中で刈取りとフィードチェーンがほぼ同時，又はやや刈取りが早い目に切れる状態に調整してください。

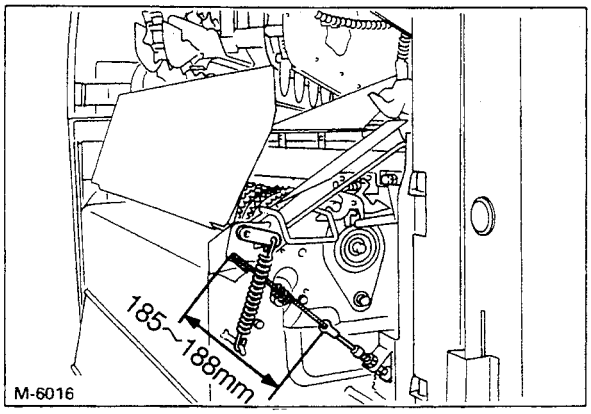


■排わら切換えワイヤの調整

◆カッタワイヤ

切換えレバーをカッタの位置にして

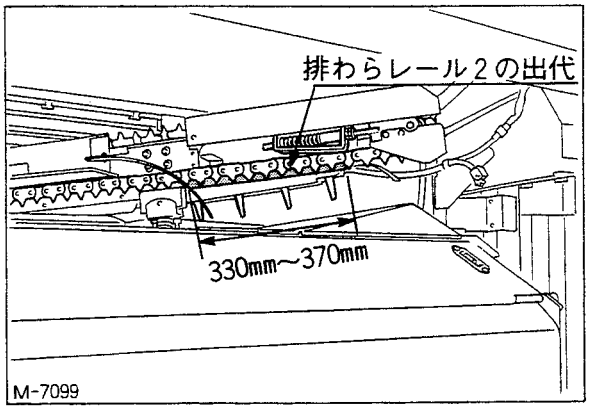
ヒッパリスプリング(ワイヤ) 取付け長さ	185～188㎜

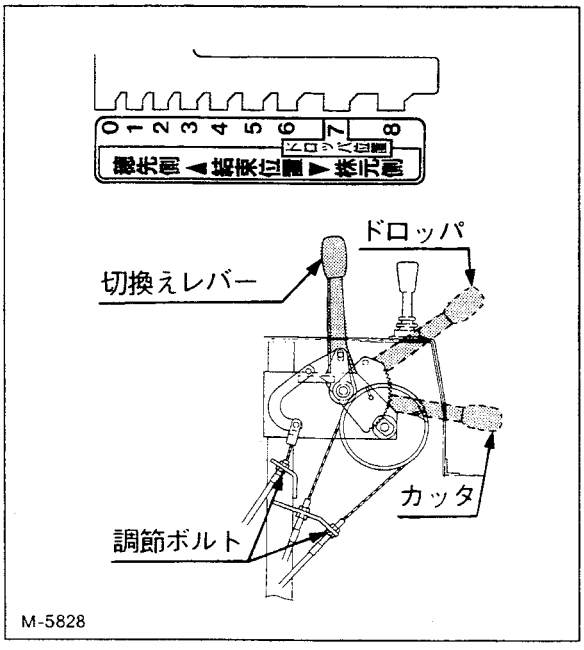


◆排わらレール2

切換えレバーを結束位置の株元側の８の位置にして

排わらレール２の出代	330～370㎜





■ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの点検

注 意

＊ワイヤハーネス及びバッテリ⊕コードが損傷していると，ショートを起すので必ず点検してください。
▶もし怠ると……
火災，損傷の危険があります。

ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの被覆は各部の角に接触，ネズミのかじりなどにより，損傷したり自然劣化することがありますので，下記の項目について定期的に点検してください。いたんだ配線は早めに交換・修理してください。

(1)ワイヤハーネスの損傷及びクランプにゆるみがないこと。
(2)ターミナル，ブロック（ソケット)の接続部のゆるみがないこと。
(3)各スイッチが確実に作動すること。

■電気配線とヒューズの点検・交換

◆電気配線の点検

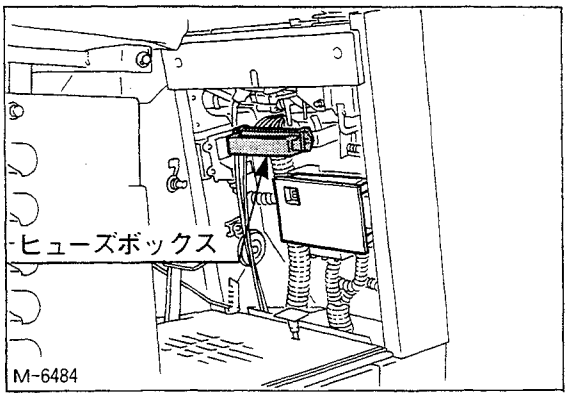
配線のターミナル(端子)部のゆるみは接続不良になり，また配線が損傷していると電気部品の性能を損なうだけでなくショート(短絡)，漏電又は焼損など思わぬ事故になることがあります。いたんだ配線は早いめに交換・修理してください。

重 要

＊ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金や銀紙などで代用せず，販売店かJA農協で点検・修理してください。

◆ヒューズの点検・交換

❶ヒューズボックスのふたを外します。
❷ヒューズを外します。
❸切れたものと同容量のヒューズと交換します。

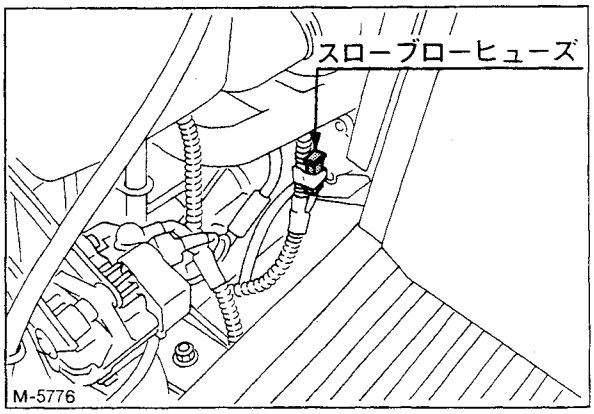


◆保護回路

30A	キャビン【Q仕様】	20A	マイコンユニット メータパネル
15A	マイコンユニット AESリレー	20A	フラッシャライト
5A	ラジオ【Q仕様】	20A	ライト【大特仕様】
20A	注油スイッチ オルタネータ 逆転ファン	15A	結束機
		25A	アンローダ
		10A	タッチシフト
15A	こぎ深さモータ	7.5A	ラジオ【Q仕様】
15A	トウミモータ		
15A	チャフモータ		
15A	車速モータ		

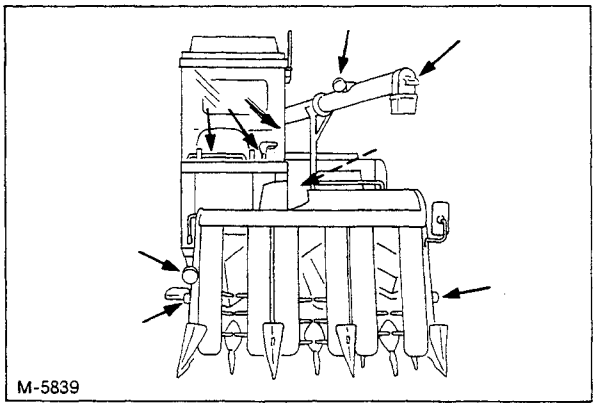
◆スローブローヒューズの点検・交換

スローブローヒューズは配線を保護するためのものです。他の部品と当らないようにしてください。もし切れた場合は，必ず切れた原因を調べ，決して代用品を使用せず，純正部品を使用してください。

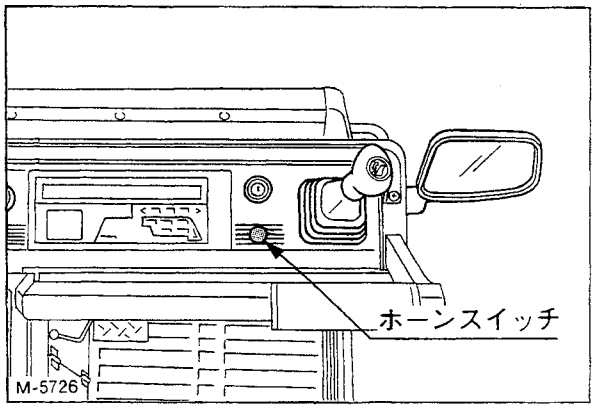


■ランプ（電球）の点検

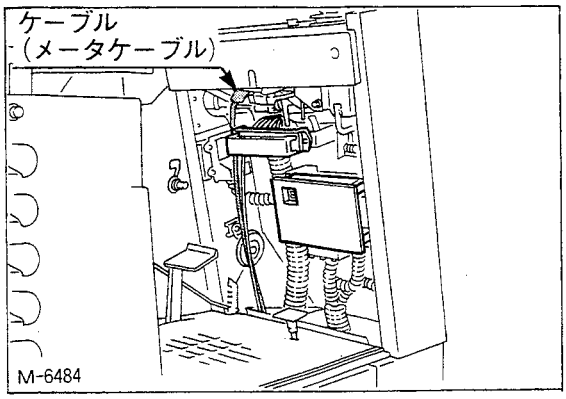
球切れがないか作業前に点検してください。



■ホーンスイッチの点検



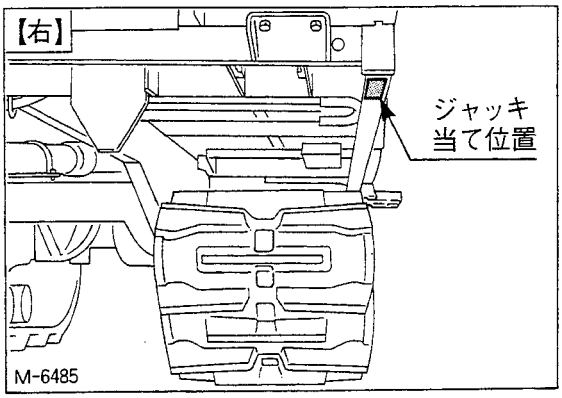
■ケーブル (メータケーブル)の点検

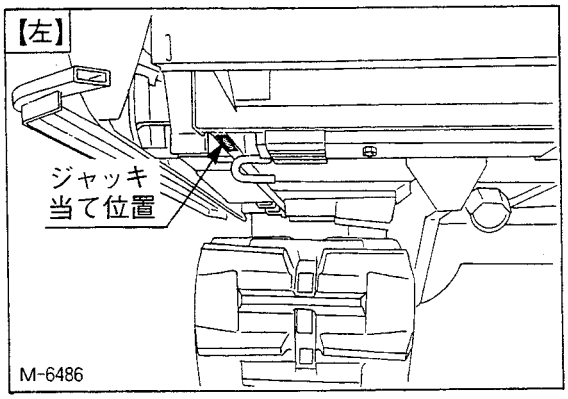


■クローラテンションの調整

❶クローラ張り用ナットをゆるめて，張りボルトを締めます。

❷フレームの後部（左・右）の **"ジャッキ当て位置"** にジャッキをセットしてジャッキアップしてください。





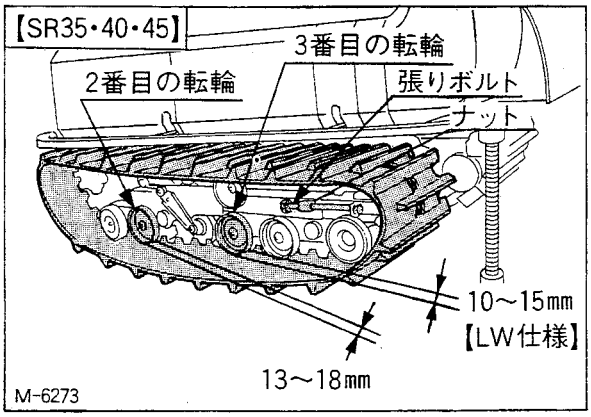
重 要

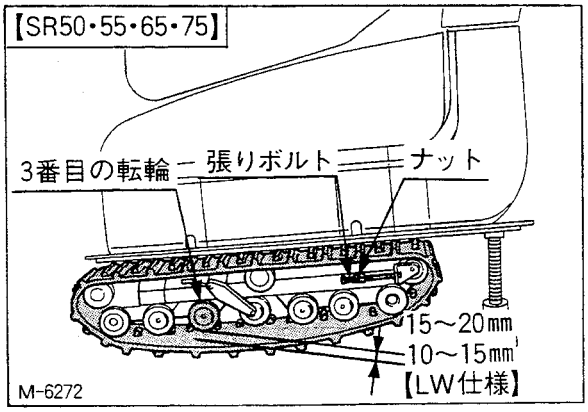
＊ジャッキをセットするときは，ロープ掛けフックや燃料タンクに触れないようにセットしてください。

❸前から3番目の転輪とクローラのすき間を調整します。

❹左右同じ張り具合になっているか確認してください。

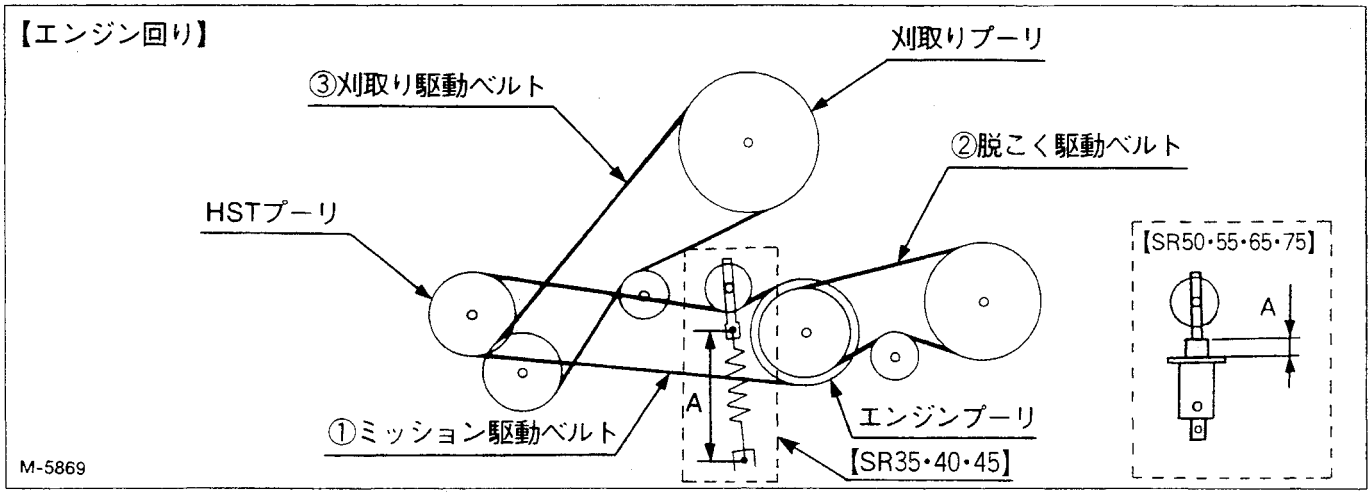
SR35・40・45	２番目の転輪～	13～18㎜以内
	３番目の転輪～	10～15㎜以内 【LW仕様】
SR50・55・65・75	３番目の転輪～	15～20㎜以内
		10～15㎜以内 【LW仕様】

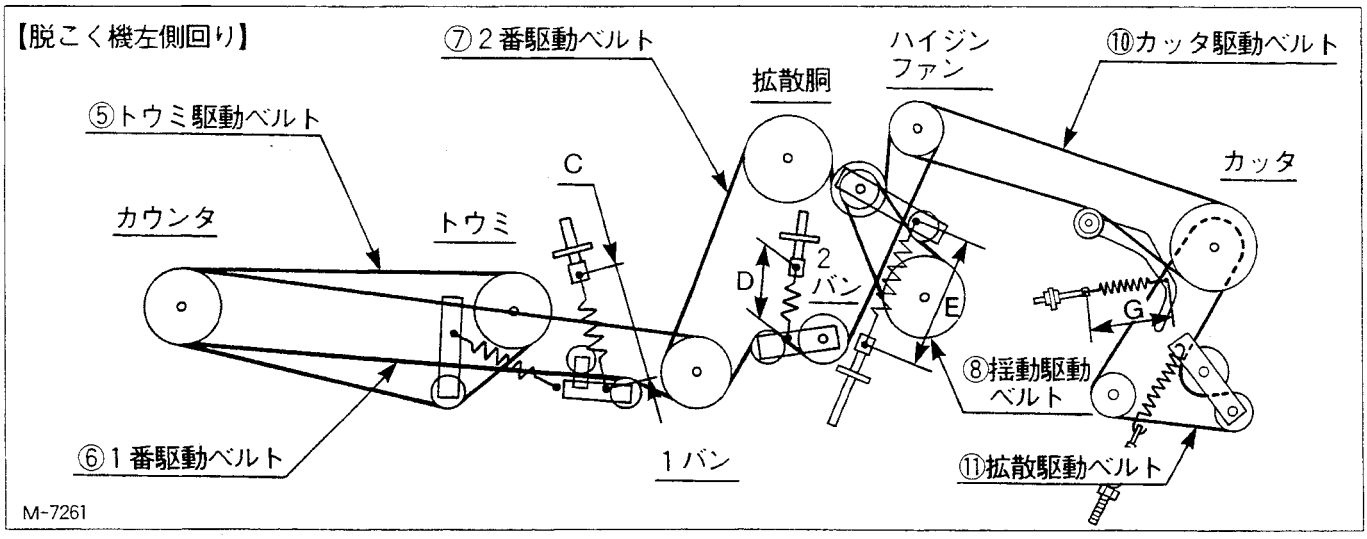


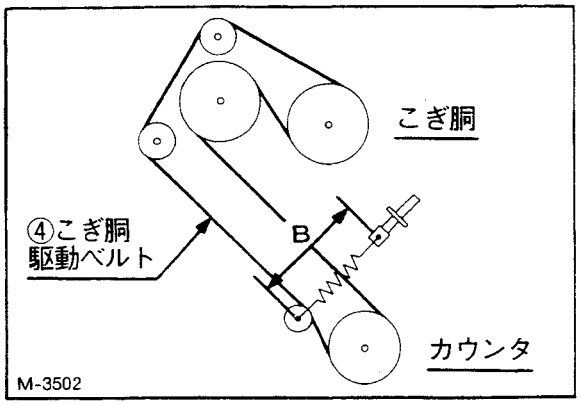


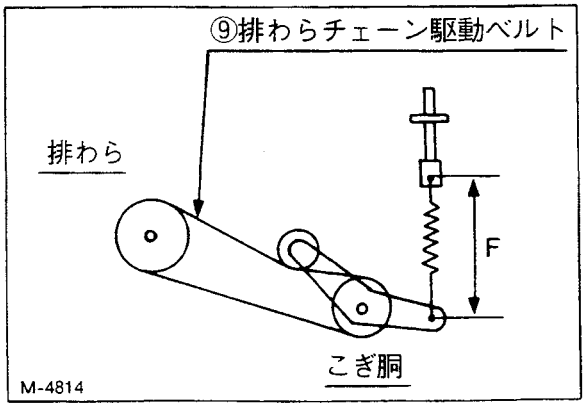
■各部のベルト調整

No.		ベルトの名称	サイズ							本数	スプリング取付け方法
			SR35	SR40	SR45	SR50	SR55	SR65	SR75		
エンジン回り	①	ミッション駆動ベルト	特C46コグ							2	118~224㎜（A寸法）
				特C45コグ						2	118~224㎜（A寸法）
						特B54	特B55			3	27～33㎜（A寸法）
	②	脱こく駆動ベルト	特C39							2	88ページ参照
						特B41T			特B41	3	88ページ参照
	③	刈取り駆動ベルト	特B40	特B44		特C44.5	特C54			1	88ページ参照
脱こく機回り	④	こぎ胴駆動ベルト	特C145							2	286～290㎜（B寸法）
				特C146						2	286～290㎜（B寸法）
						特C149				2	286～290㎜（B寸法）
	⑤	トウミ駆動ベルト	特殊B75							1	無調整
						特殊B85				1	無調整
									特殊B86	1	無調整
	⑥	1番駆動ベルト	特B110							1	160～164㎜（C寸法）
						特C119				1	160～164㎜（C寸法）
	⑦	2番駆動ベルト	特B108							1	165～169㎜（D寸法）
						特C110				1	175～179㎜（D寸法）
	⑧	揺動駆動ベルト	特B43							1	355～359㎜（E寸法）
						特B42				1	355～359㎜（E寸法）
	⑨	排わらチェーン駆動ベルト	特B39							1	145～149㎜（F寸法）
	⑩	カッタ駆動ベルト	特B55							1	167~172㎜（G寸法）
						特B56				1	167~172㎜（G寸法）
	⑪	拡散駆動ベルト 【拡散付きカッタ仕様】	AA54（六角ベルト）							1	140～145㎜ (スプリング掛けかえ)
グレンタンク回り	⑫	グレンタンク駆動ベルト	特B47							1	140～144㎜（H寸法）
						特C57コグ				1	198～202㎜（H寸法）
							特C56コグ			1	198～202㎜（H寸法）
	⑬	グレンタンク駆動ベルト （クラッチ）	特C56							1	131~135㎜（I寸法）
						特C69				1	283～287㎜（I寸法） （クラッチ入時）





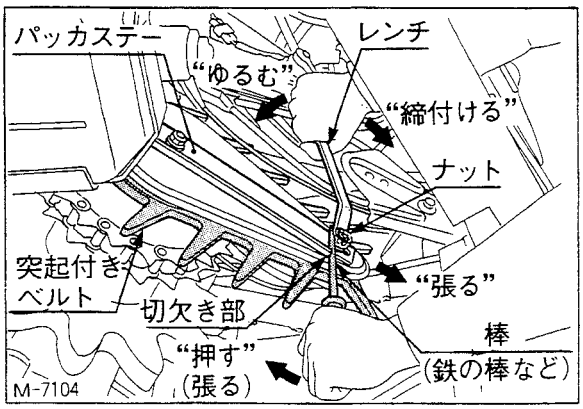




■突起付きベルトの調整

突起付きベルト前側の取付けナットをレンチでゆるめ，下図のように固い棒（鉄の棒など）を切欠き部に差込み，張り方向に押しながらレンチでナットを締付けます。

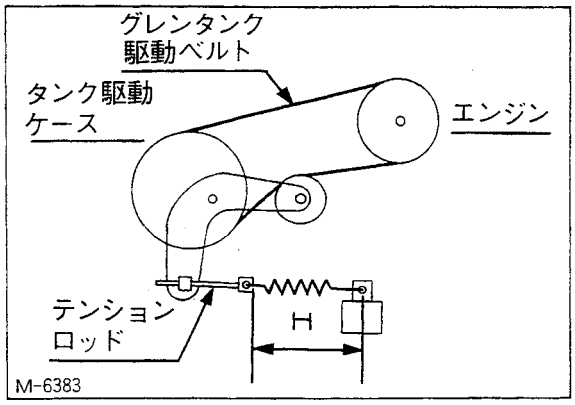
ベルト中央部のたわみ	3～4㎜



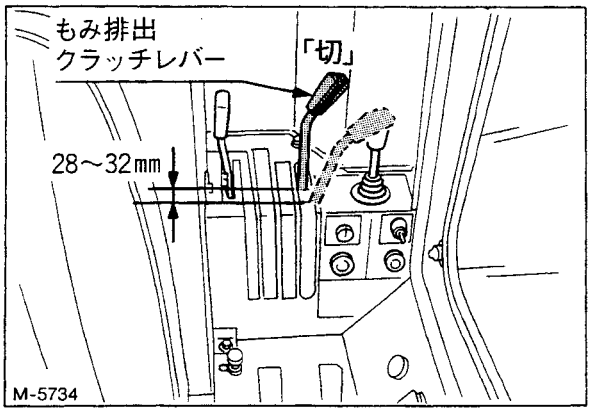
■グレンタンク駆動ベルト・もみ排出クラッチワイヤの調整

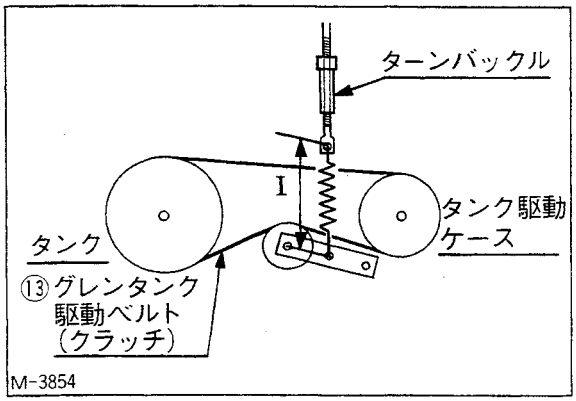
◆SR35・40・45

(1)テンションスプリングの長さ(フック内側間)が，H寸法(142㎜)になるようにテンションロッドで調整してください。



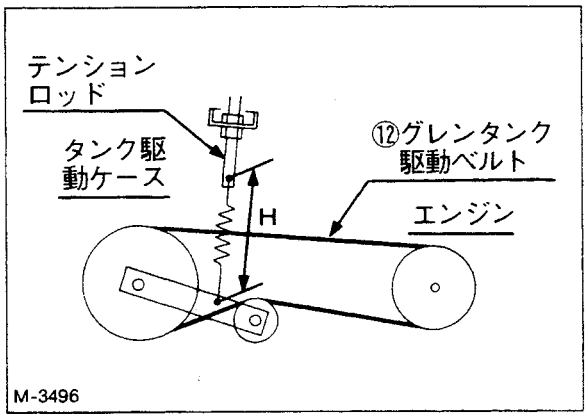
(2)もみ排出クラッチを**“入”**にした場合，テンションスプリングの長さが，I寸法（133㎜）になるようにターンバックルで調整してください。
もみ排出クラッチレバーを28～32㎜動かしたときに，テンション荷重がかかるように調整してください。



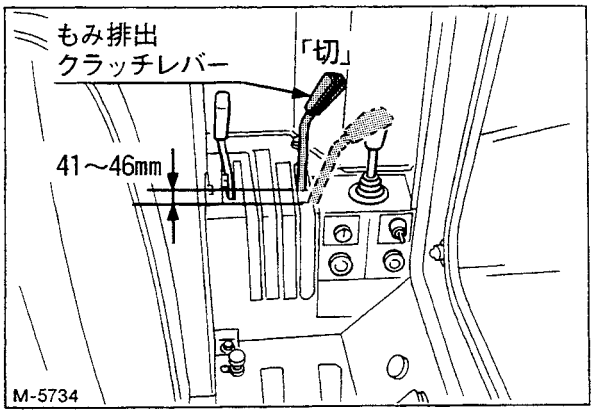


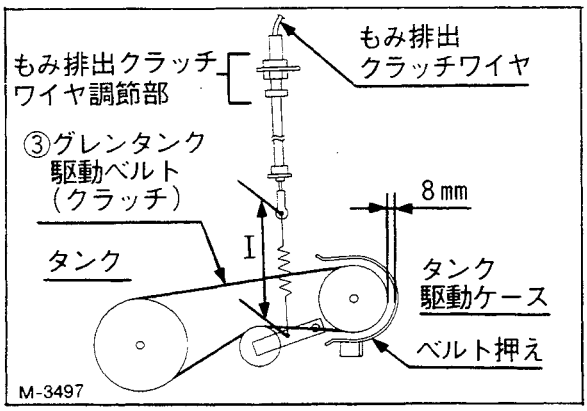
◆SR50・55・65・75

(1)テンションスプリングの長さ(フック内側間)が，H寸法(198～202㎜)になるようにテンションロッドで調整してください。



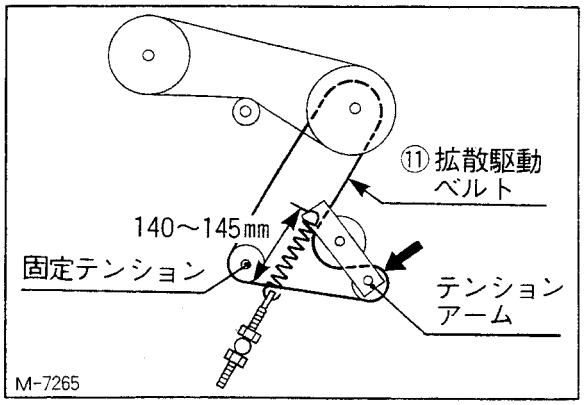
(2)もみ排出クラッチを**“入”**にした場合，テンションスプリングの長さが，I寸法（283～287㎜）になるようにターンバックルで調整してください。
もみ排出クラッチレバーを41～46㎜動かしたときに，テンション荷重がかかるように調整してください。





■拡散駆動ベルトの調整
【拡散付きカッタ仕様】

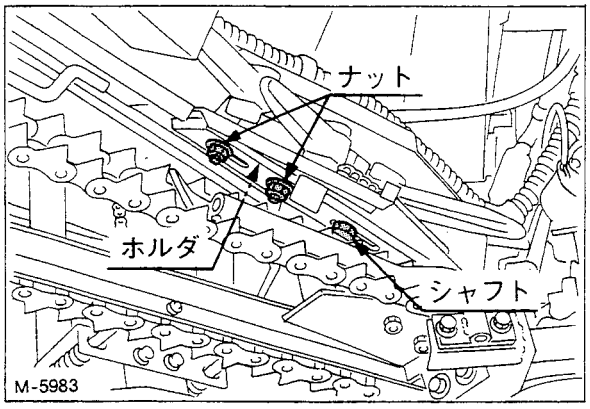
ベルトが伸びた場合は，テンションスプリングを掛け換えてください。

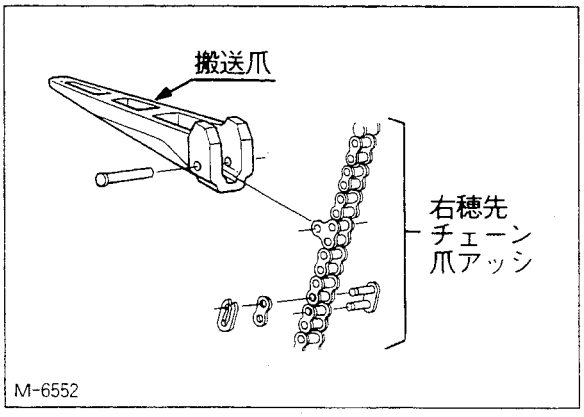


■右穂先チェーンの調整

重 要

＊自動テンションになっていますが，チェーンが伸びて，チェーン張力がなくなる前に，ホルダを調節して，チェーン張力を強めてください。



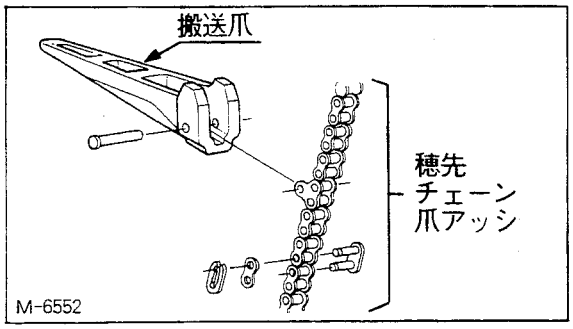


■左穂先チェーン・中穂先チェーン
【SR55･65･75】の調整

（**“交換”**の項参照）

重 要

＊チェーンが伸びて自動テンションがきかなくなったら，チェーン2リンク（25.4㎜）を外してください。

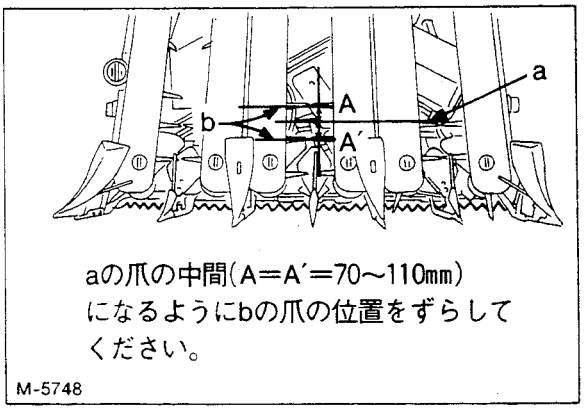


■引起しチェーンの調整

重 要

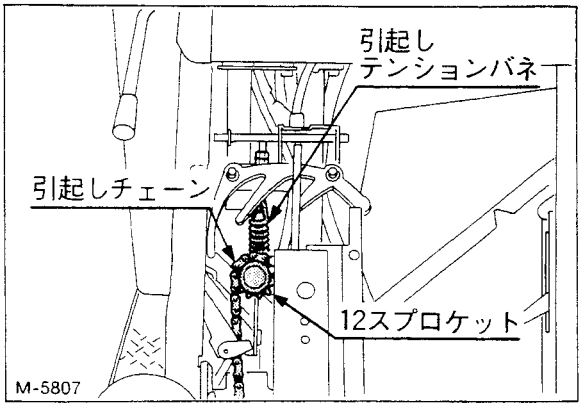
＊チェーンの張り代がなくなったとき，チェーン2リンク（25.4㎜）を外してください。

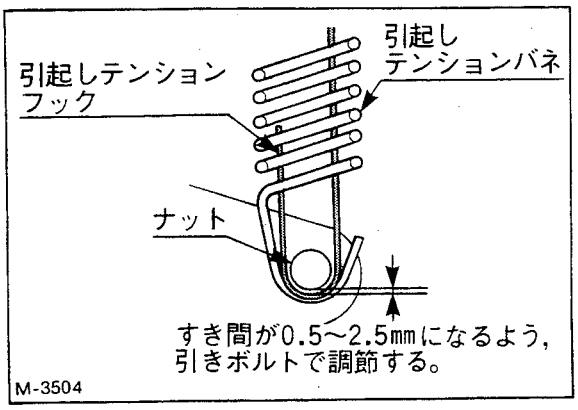
＊引起し爪の左右が接触しないよう，下図のように引起しチェーンを組付けてください。



＊間違って組付けると，爪起立時，左右の爪が当り破損します。

すき間	0.5～2.5㎜





■刈刃の調整

注 意

＊刃部に手を掛けないでください。不用意に刃が動くと危険です。

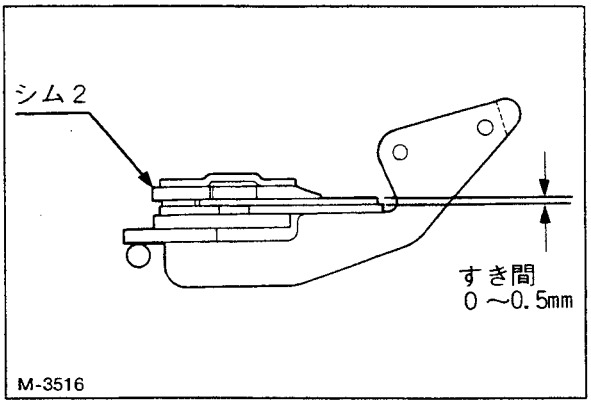
＊危険ですので，手袋をして，２人で刈刃の両端をもって，着脱作業をしてください。

◆刈刃のすき間調整

❶受刃台からナイフクリップを取外します。

❷泥などを取除きます。

❸刈刃と受刃のすき間が０～0.5mmになるよう調整し，刈刃が手で動くようにしてください。（シム２の増減で調整します）



◆刈刃クランクロッドの調整

❶刈刃の左右を内側へ最大移動するところで，刈取部の回転を停止します。

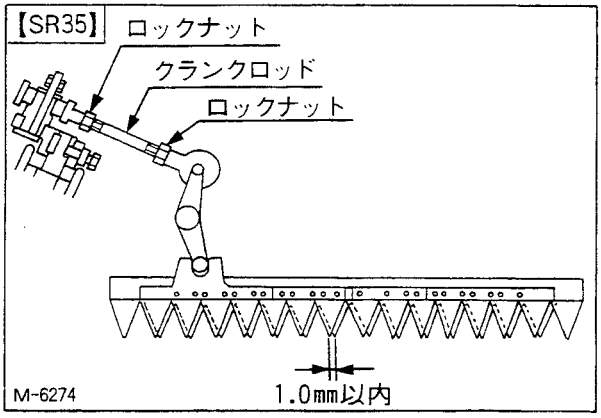
❷クランクロッドの左右のロックナット２個をゆるめます。
（左・右ネジがあるので注意してください）

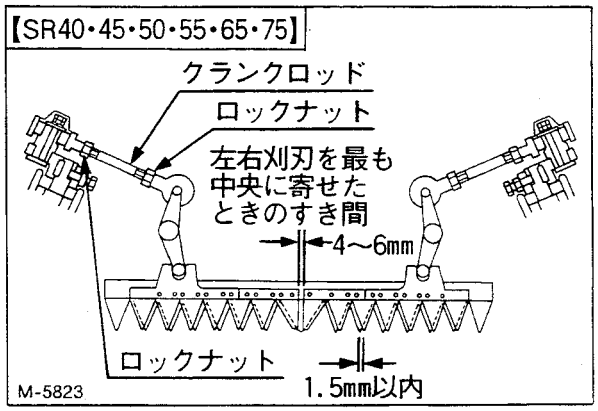
❸クランクロッドを回して，刈刃と受刃のセンタずれが1.5mm以内(SR35は1.0mm以内)になるよう，調整してください。

【SR40･45･50･55･65･75】

❹刈刃中央部で，左右の刈刃のすき間が４～６mmになっていることを確認してください。
すき間が少なければ，再度❸の調整をして，４～６mmになるように調整してください。

❺ロックナットを締付けます。
ネジロックを塗布してください。



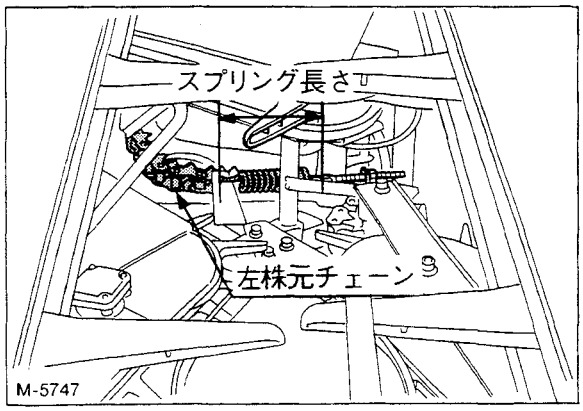


■左株元チェーンの調整

重 要

＊チェーンの張り代がなくなったとき，チェーン半コマ(33mm)を外してください。

スプリング長さ	140～144mm【SR35･40･45･50･55･65】 158～162mm【SR75】

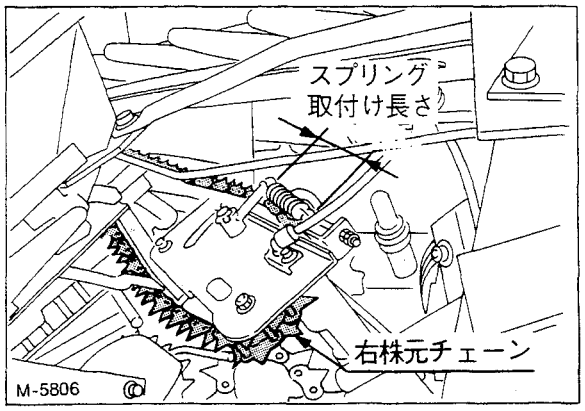


■右株元チェーンの調整

重 要

＊チェーンの張り代がなくなったとき，チェーン半コマ(33mm)を外してください。

スプリング 取付け長さ	125～129mm【SR35】 169～173mm【SR40･45･50･55･65･75】

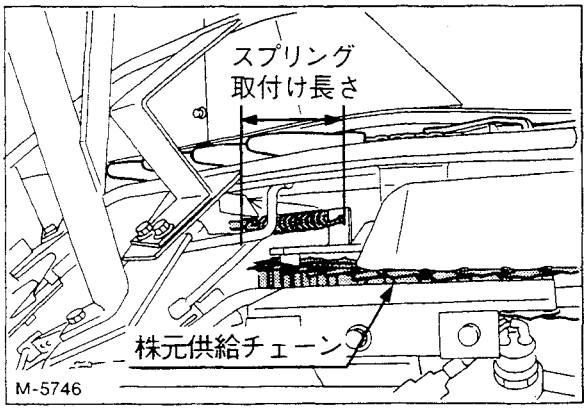


■株元供給チェーンの調整

重 要

＊チェーンの張り代がなくなったとき，チェーン半コマ（33mm）を外してください。

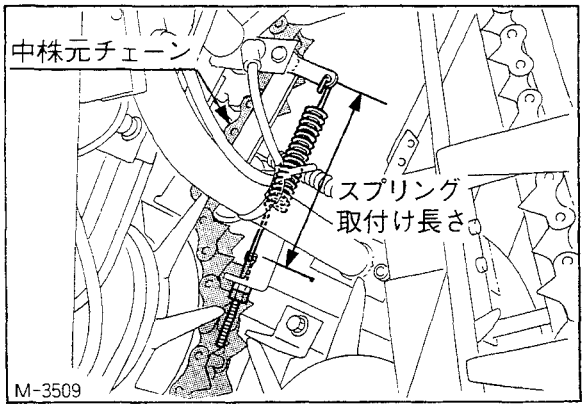
スプリング 取付け長さ	125～129mm【SR35】 165～169mm【SR40･45･50･55･65･75】



■中株元チェーンの調整【SR55･65･75】

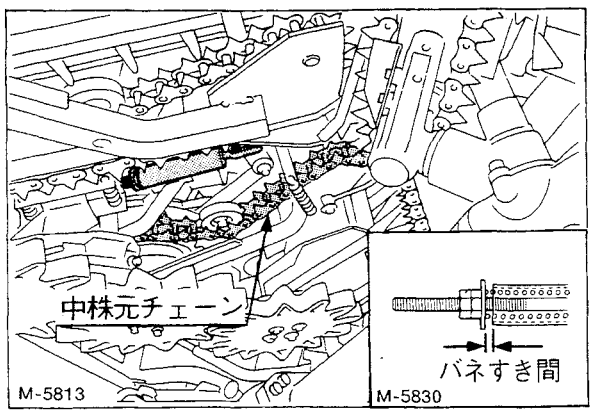
◆SR55・65

スプリング取付け長さ	169～173mm



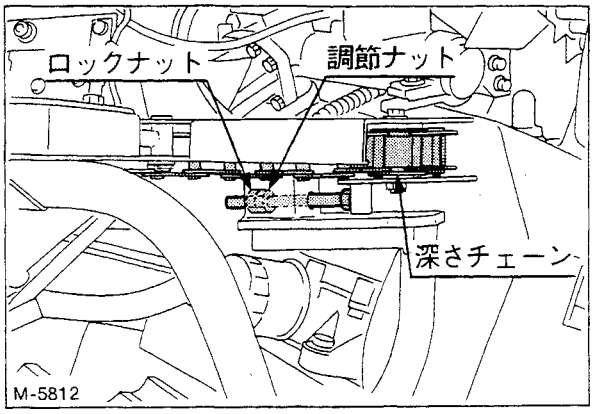
◆SR75

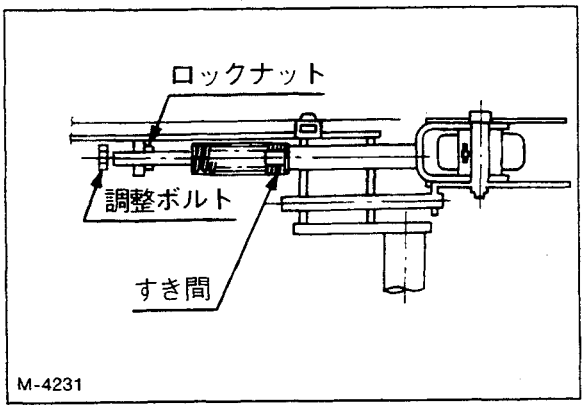
バネすき間	0.5～3.0mm



■深さチェーンの調整

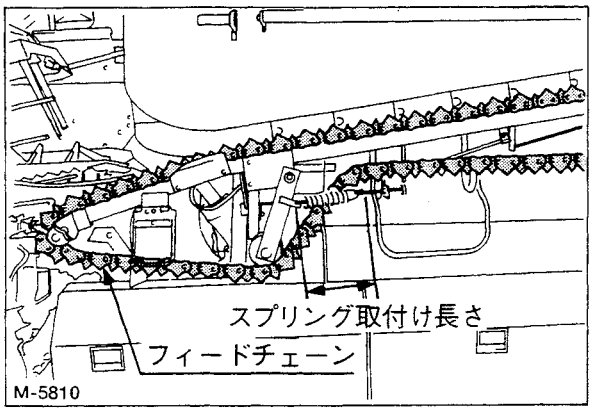
すき間	1～2㎜





■フィードチェーンの調整

スプリング取付け長さ	150～155㎜

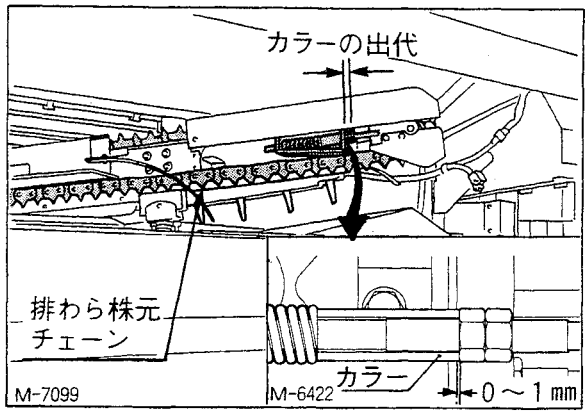


■排わら株元チェーンの調整

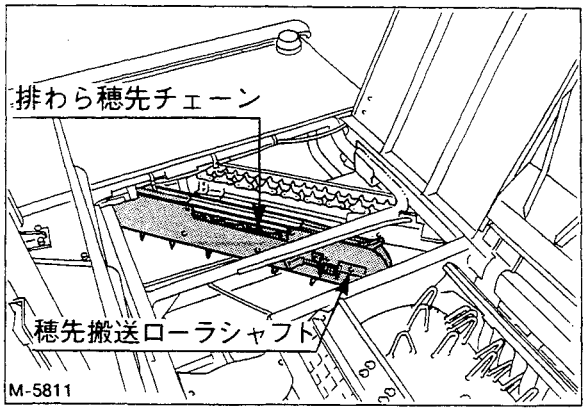
重 要

＊チェーンの張り代がなくなったとき，チェーン半コマ（33mm）を外してください。

カラーの出代	0～1㎜以下

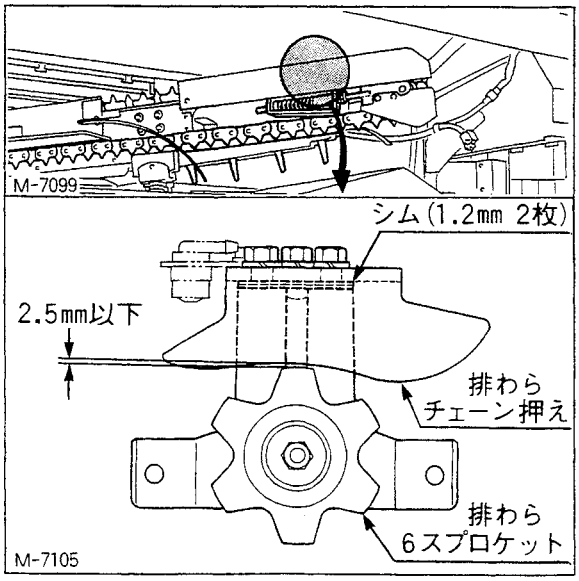


■排わら穂先チェーンの調整

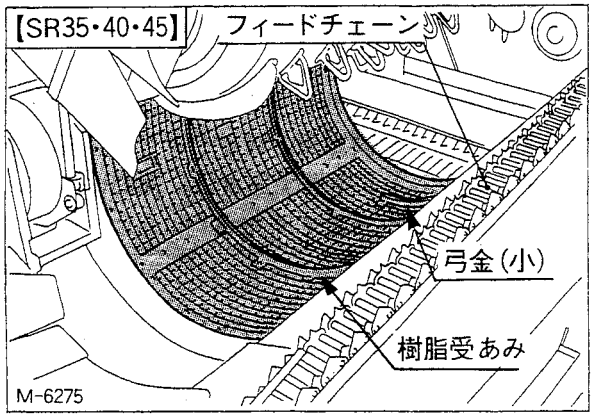


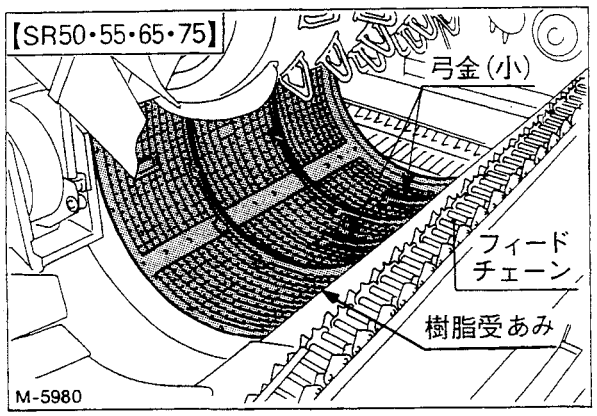
■排わらチェーン押えの調整

排わら６スプロケットと排わらチェーン押えのすき間が2.5㎜以上になったらシムを１枚抜いてください。



■樹脂受あみ（弓金・取付けボルト含む）の点検





◆受あみの調整のしかた

（樹脂あみを長く使っていただくために）

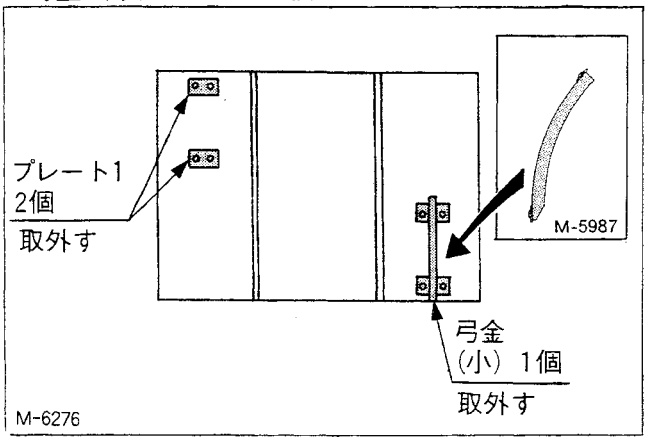
受あみは，長く使えるように180°回転させて使用することができます。受あみの一部が摩耗したとき，次の手順で部品を外して取付け位置を変えて，フレームを180°回転させ受あみを取付けてください。

【SR35・40・45】

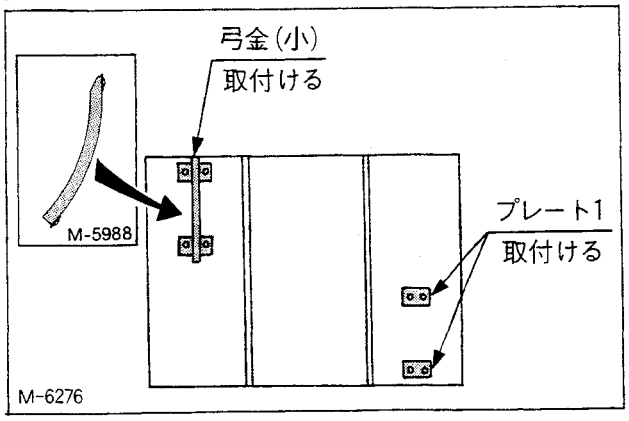
❶受あみから次の部品を取外します。

＊プレート1 ……2個

＊弓金（小）……1個



❷外した部品を次のように取付けます。



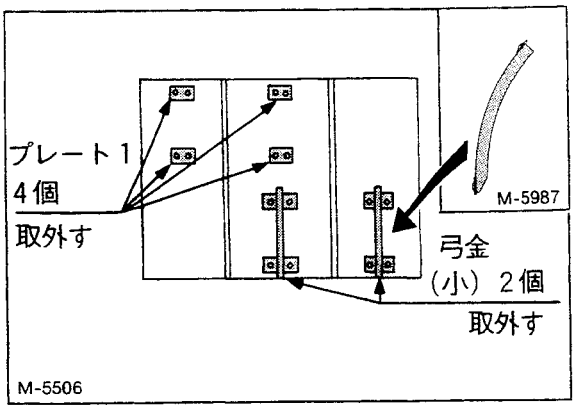
❸180°回転させて弓金(小)のある方をフィードチェーン側にして，コンバインに取付けます。

【SR50・55・65・75】

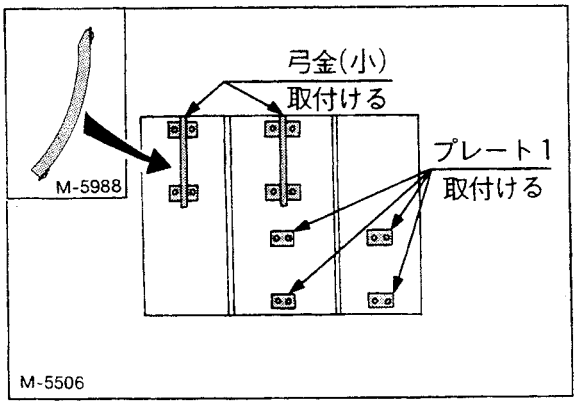
❶受あみから次の部品を取外します。

＊プレート1 ……4個

＊弓金（小）……2個



❷外した部品を次のように取付けます。



❸180°回転させて弓金(小)のある方をフィードチェーン側にして，コンバインに取付けます。

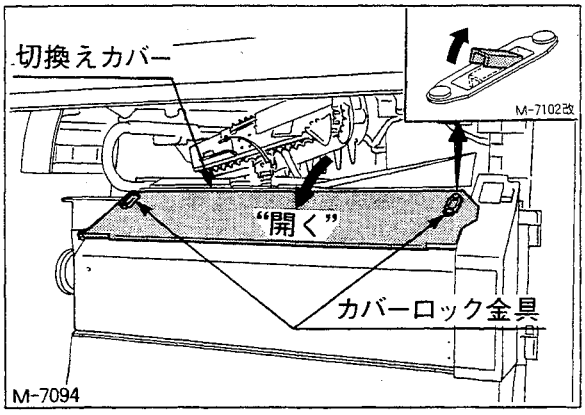
■カッタ刃の調整

警 告

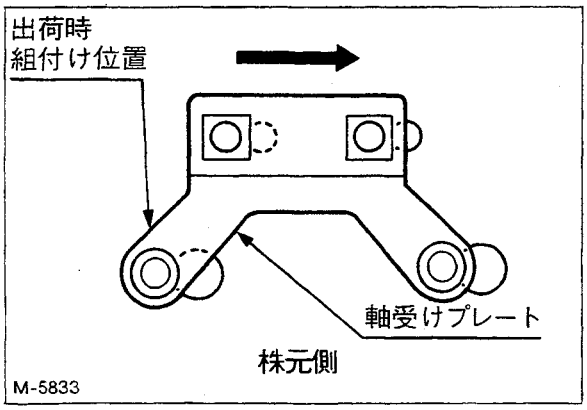
＊カッタ刃を調整するときは，エンジンを必ず止めてください。

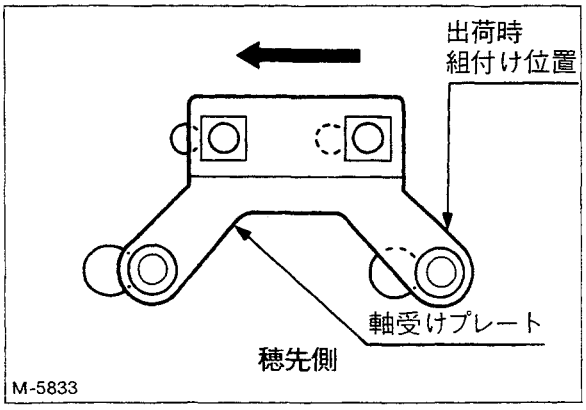
◆切断刃と供給刃のラップ代調節のしかた

❶左サイドカバーと右サイドカバーを外します。
❷カッタ駆動ベルトを外します。
❸カバーロック金具を引き，切換えカバーを開けます。



❹軸受プレートのM８ボルトを外し，矢印の方向に移動させて切断刃と供給刃のラップ代調整をしてください。調整後，M８ボルトで固定します。（株元側４個，穂先側４個）

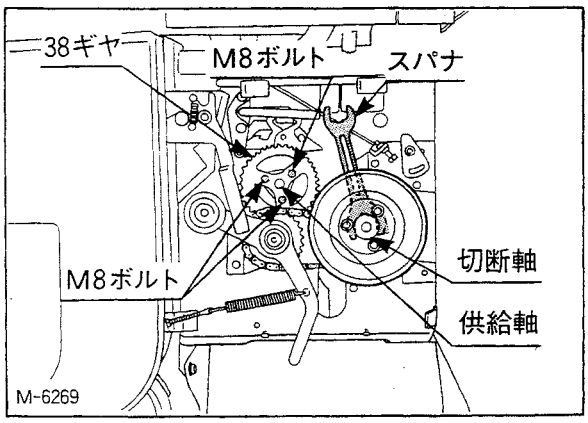




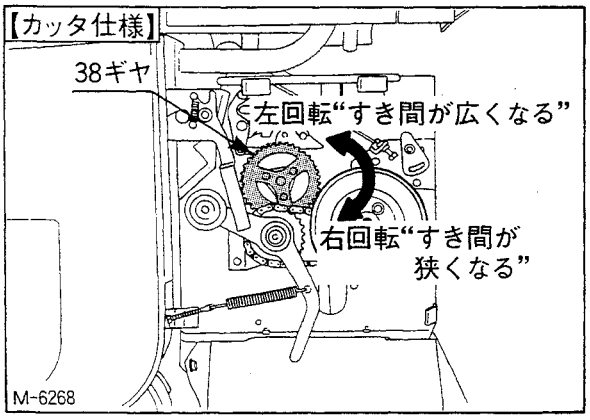
◆カッタ刃のすき間調整

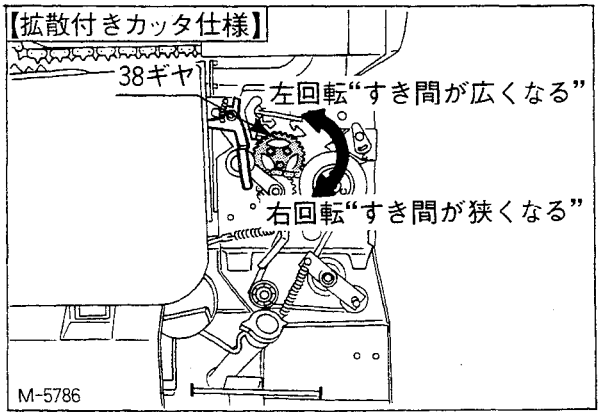
切断刃と供給刃のすき間が4.5～7.0㎜になるように調整してください。（100ページ参照）

❶カッタ駆動ベルトを外します。
❷供給軸側の38ギヤ固定用のM８ボルト（３個）を外します。M８ボルトを外すときは，図の位置（切断軸側）にスパナを掛けてください。



❸供給軸側の38ギヤを回してすき間を調整します。
＊右回転……すき間が狭くなります。
＊左回転……すき間が広くなります。





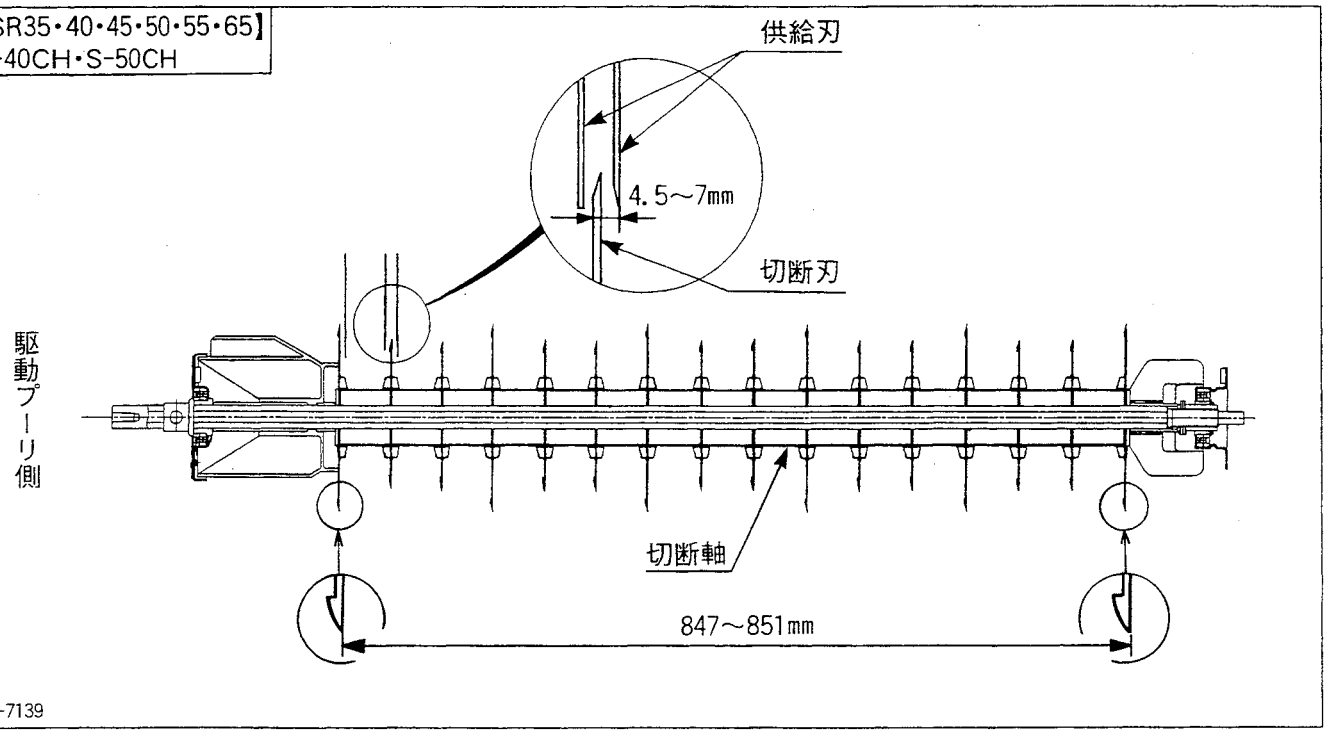
重 要

＊すき間を広くした（左回転）場合は必ず軸方向に押さえながら調整してください。
＊すき間は株元側と穂先側で測定してください。

❹調整が終わったらM８ボルト（３個）を必ず締付けてください。

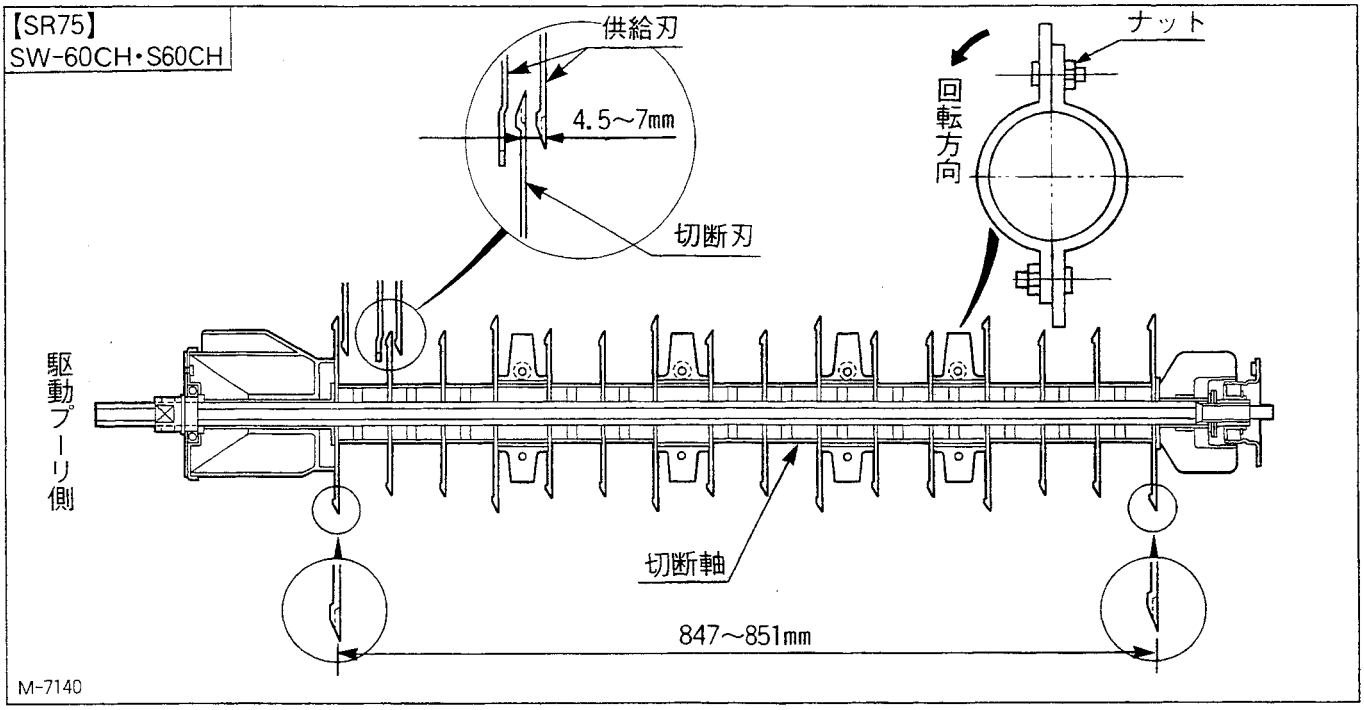
＊新品の切断刃に交換されたときは，必ず軸受けプレートを出荷時組付け位置に組付けてください。

【SR35・40・45・50・55・65】
S-40CH・S-50CH



M-7139

【SR75】
SW-60CH・S60CH

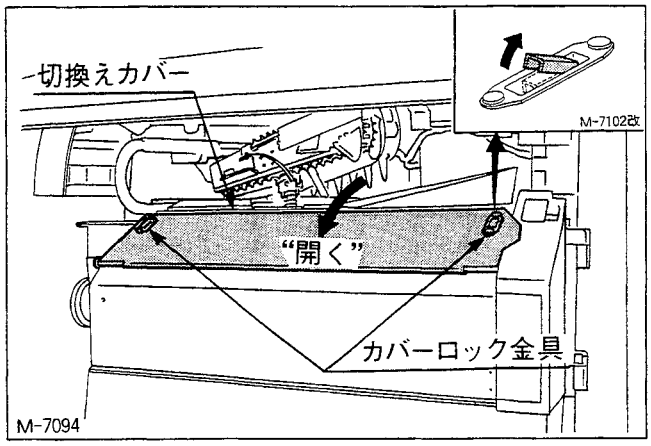


M-7140

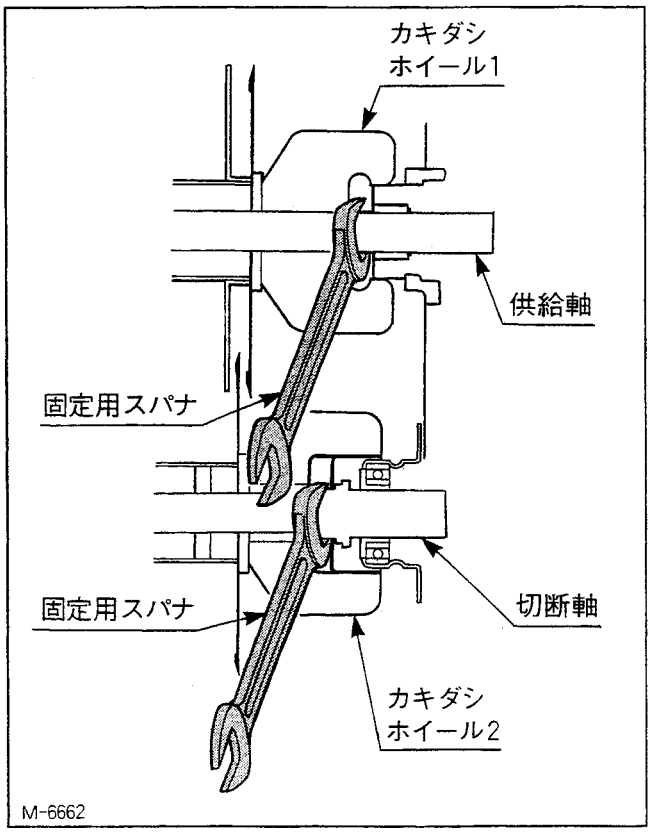
■切断軸，供給軸のナット増締め

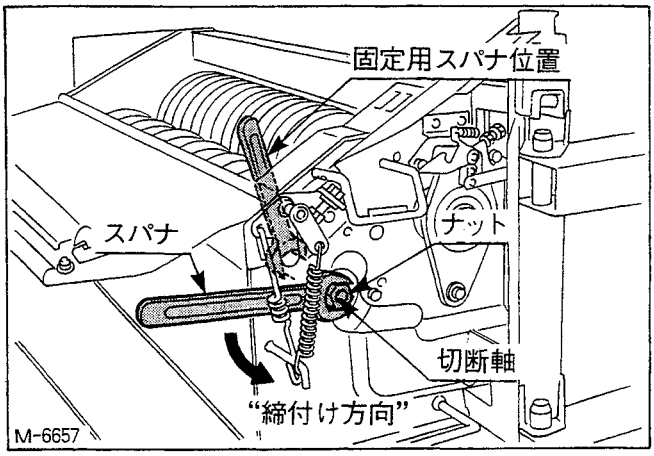
カッタ切断軸，供給軸のナットがゆるむ場合があるので定期的に点検してください。

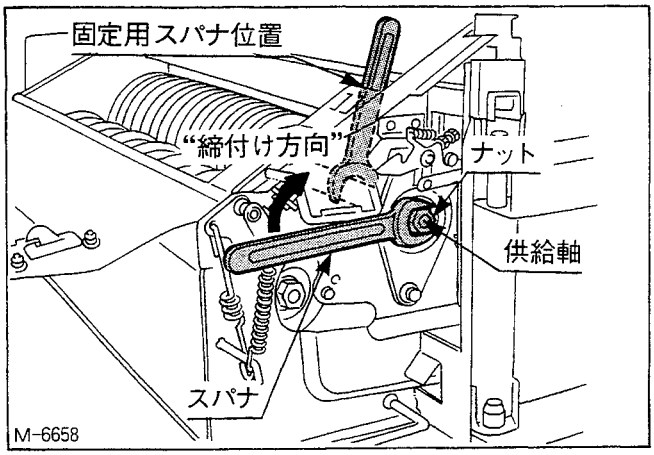
❶切換えカバーのカバーロック金具を引き，切換えカバーを開けます。



❷カキダシホイール1，2の六角部にスパナを掛けてそれぞれの軸を固定してから，六角ナットを締付けてください。

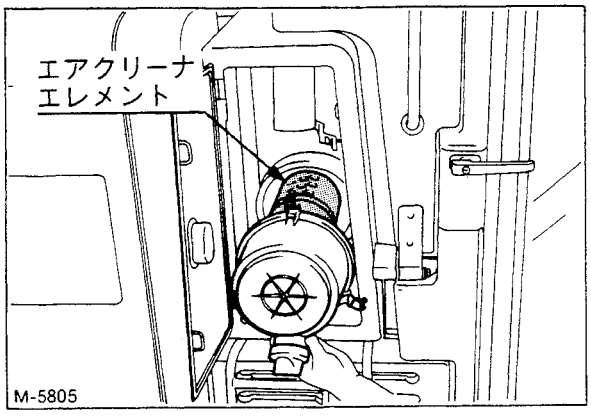






定期交換

■エアクリーナエレメントの交換



■ホース・パイプ類の交換

注 意

＊運転中ラジエータホースが外れると熱湯が吹出して危険です。

＊燃料系ゴムホースが破損していると燃料もれを起こしますので，必ず点検してください。

▶もし怠ると…

火災など傷害事故の危険があります。

オイルドレーンゴムホースが破損していると，エンジンが焼付きを起こします。

重 要

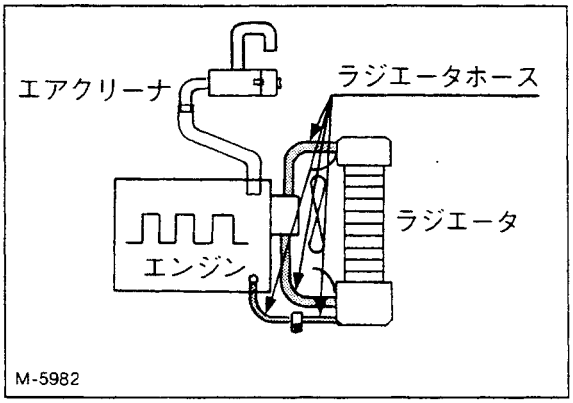
＊交換時にパイプや噴射ポンプなどにゴミが入らないように注意してください。ゴミが入ると，噴射ポンプの作動不良の原因になります。

◆ラジエータホースの交換

(1)ラジエータホースが膨れたり，固くなったり，ひび割れしているときにはホースを交換し，バンドを確実に締付けてください。

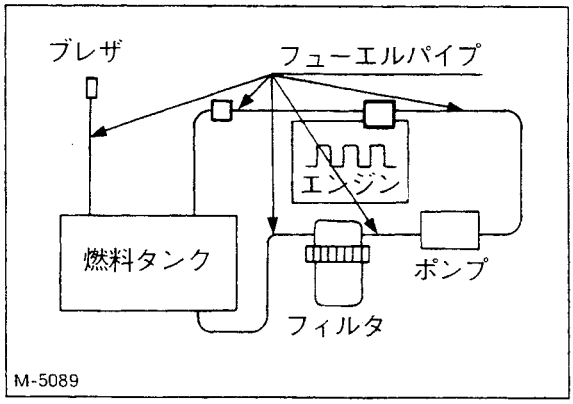
(2)2年ごとにラジエータホース及びバンドを交換してください。

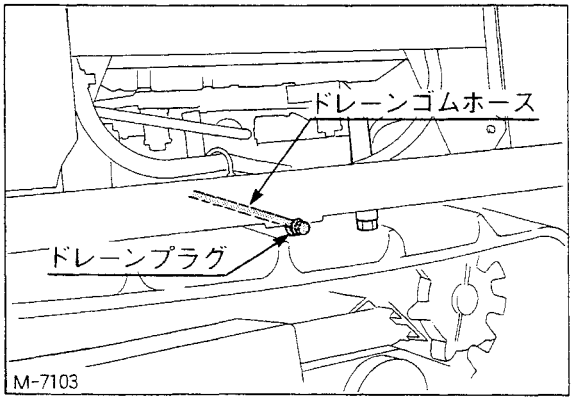
それ以前でもチェックしたとき，ラジエータホースが膨れたり，固くなったり，ひび割れしていれば交換してください。



◆フューエルパイプ及びオイルドレーン
ゴムホースの交換

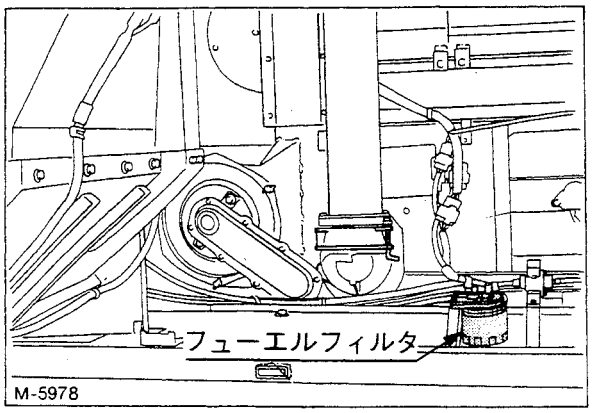
燃料系ゴムホース製品は，使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドと共に2年(オイルドレーンゴムホースは300時間又は2年)ごと又はいたんだときに新品と交換する必要があります。パイプ・ホース類がいたんだり締付けバンドがゆるんでいないか常に注意してください。





■フューエルフィルタの交換

フューエルフィルタのカートリッジは，手又は工具で外し交換をしてください。
新しいカートリッジを組付けたときは，パッキンに燃料を薄く塗布してからフィルタレンチを使用せず手で確実に締付けてください。

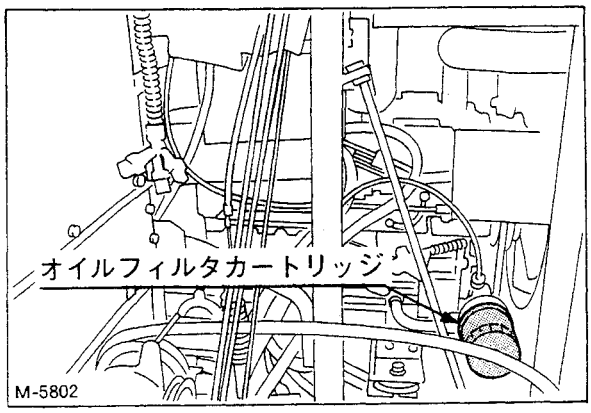


補 足

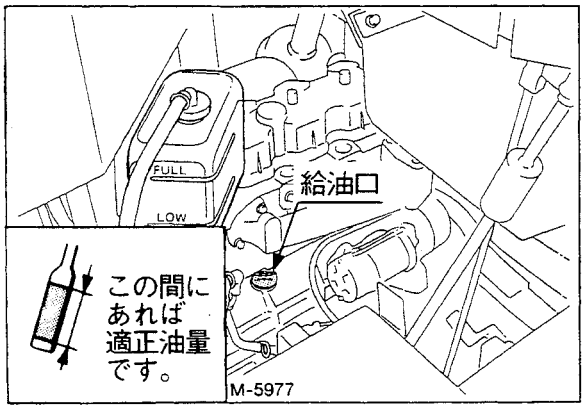
＊燃料内にチリやホコリなどが混入すると，燃料ポンプや噴射ノズルが摩耗します。
＊清掃は，燃料タンクを満杯にする前に行なってください。
＊交換後のエア抜きは自動で行なわれます。
メインスイッチを“入”にして５～10秒でエア抜きができます。

■エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

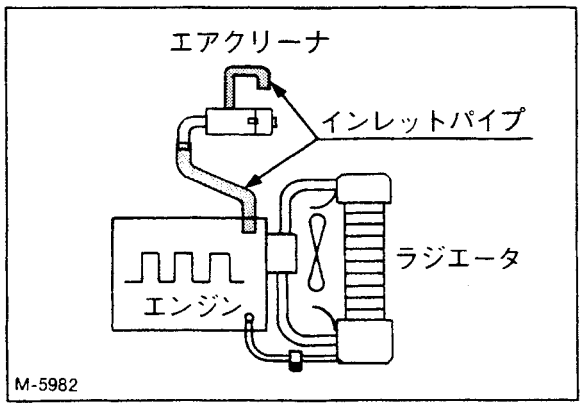
(1)エンジンオイルフィルタカートリッジを外します。
新しいカートリッジはオーリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けてください。



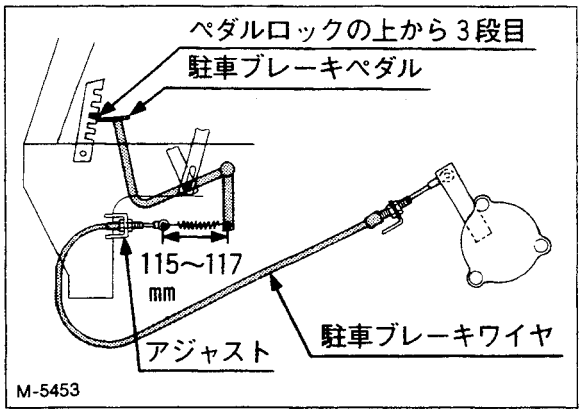
(2)カートリッジを交換すると，カートリッジに入る量だけエンジンオイルの油面が下がります。
オイルゲージの上の刻線までオイルを補給した後，５分程度エンジンを運転して各部を点検してからエンジンを止め，再度油量を確かめておいてください。



■インレットパイプ類の交換

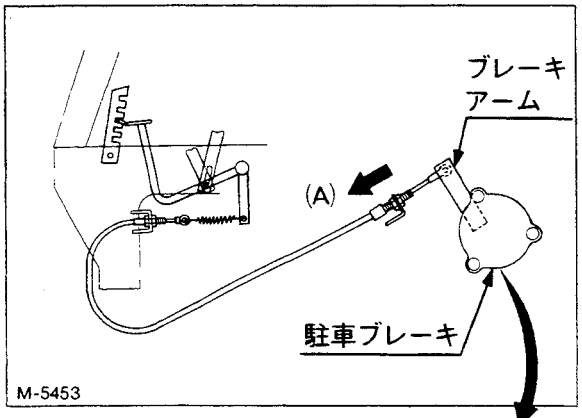


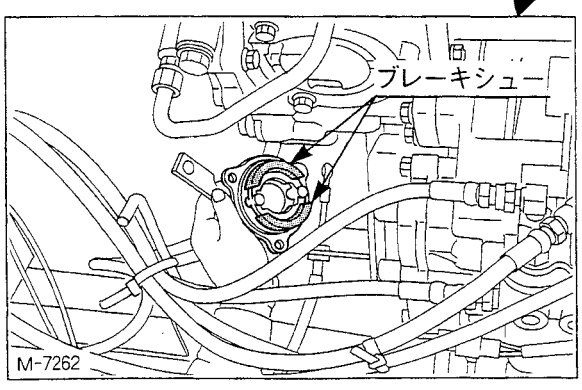
■駐車ブレーキワイヤの交換



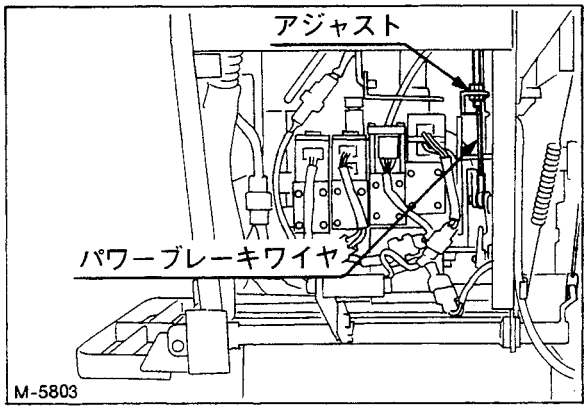
■駐車ブレーキシューの交換

駐車ブレーキを交換するときは，ブレーキアームを（A）方向に手でいっぱい引張った状態でボルト（M8，3本）を締込んでください。

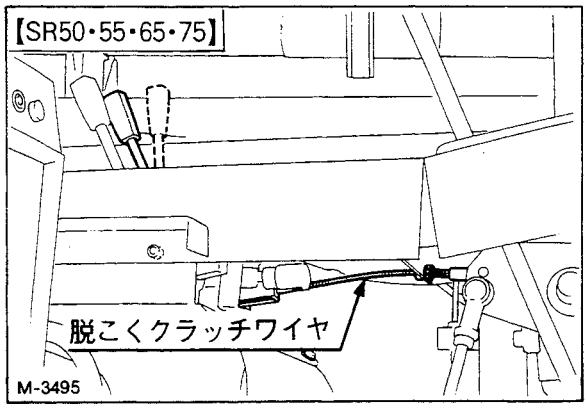




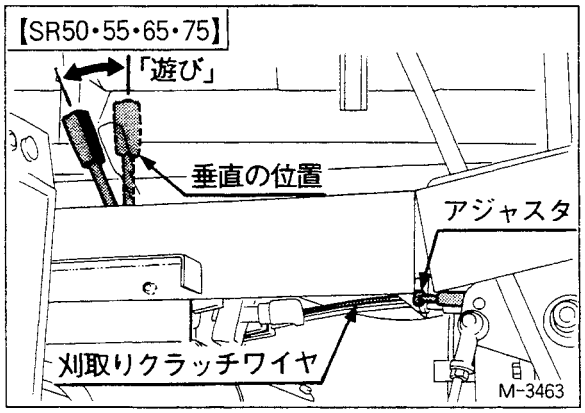
■パワーブレーキワイヤの交換



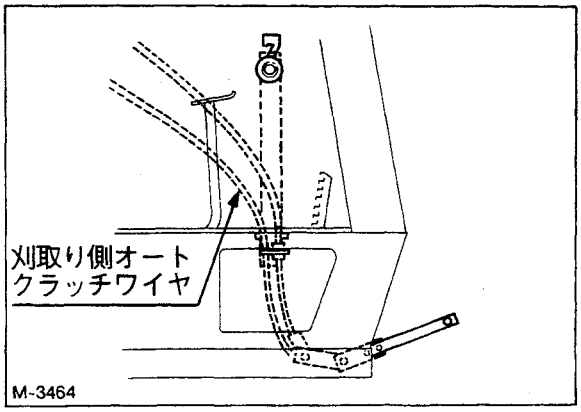
■脱こくクラッチワイヤの交換



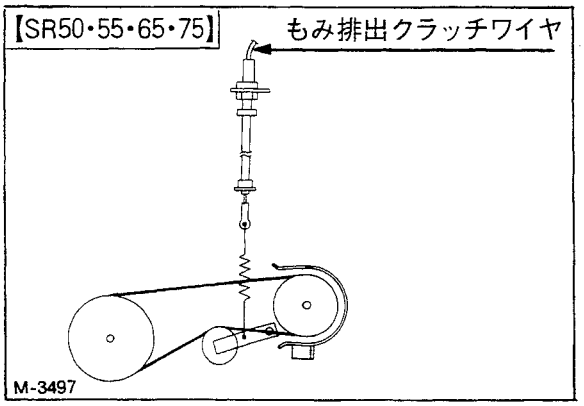
■刈取りクラッチワイヤの交換



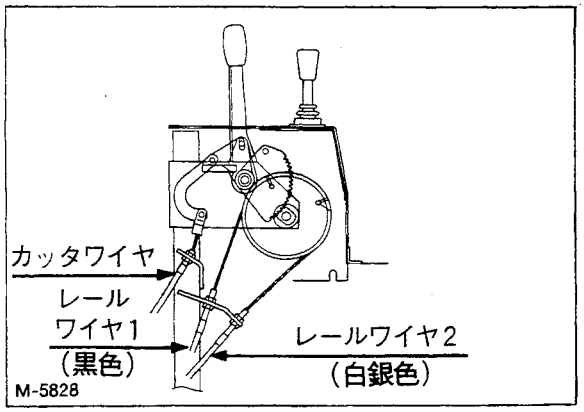
■刈取りオートクラッチワイヤの交換



■もみ排出クラッチワイヤの交換



■排わら切換えワイヤの交換



交換時に調整の項目を参照して，調整してください。

■HSTオイルフィルタ及び油圧オイル フィルタカートリッジの交換

重 要

＊HST及び油圧オイルフィルタは，必ず指定品番のものをご使用ください。

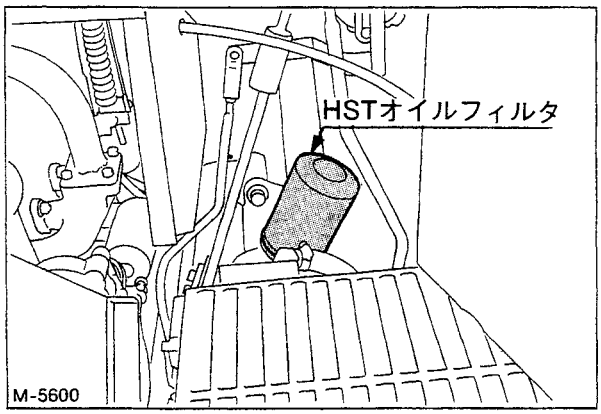
＊カートリッジの交換時，オイルタンクのオイルも交換してください。

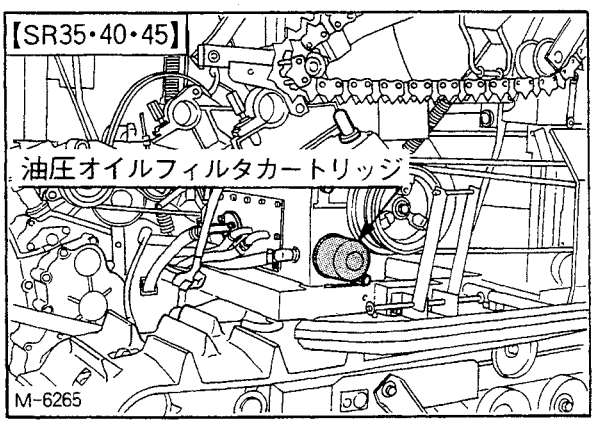
❶ドレーンプラグを抜いてタンク内のオイルを排油します。

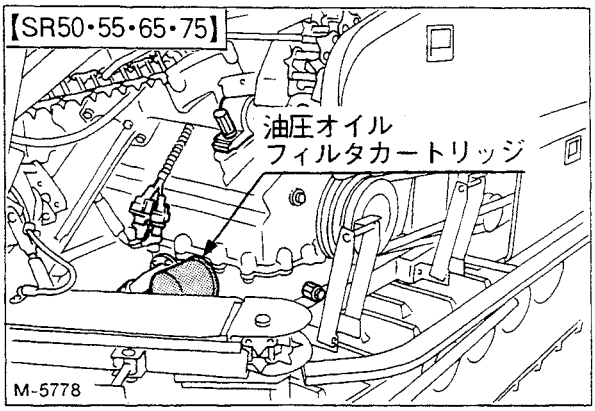
❷オイルフィルタを外します。

❸新しいカートリッジをフィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。（フィルタのガスケットにオイルを薄く塗る）

❹オイルフィルタは，最初は50時間使用後に，以後は300時間使用ごとに交換してください。



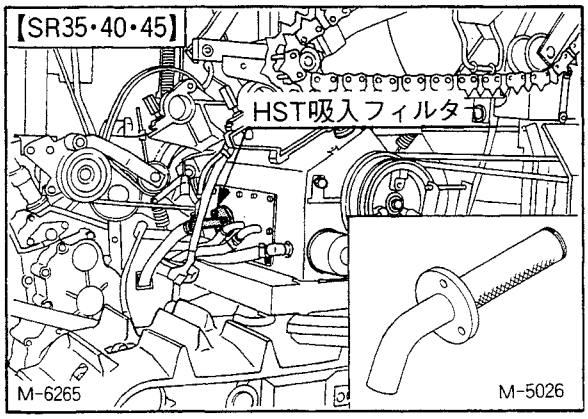


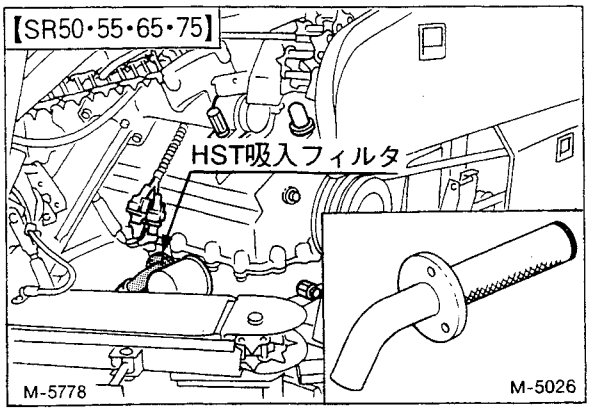


■HST吸入フィルタの洗浄・交換

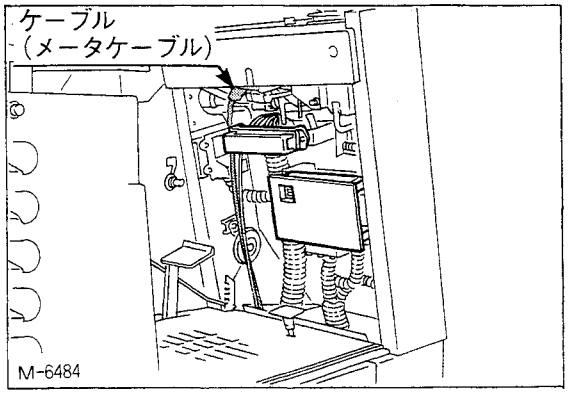
❶油圧オイルフィルタ交換時，同時にHST吸入フィルタの洗浄・交換をしてください。

❷洗浄は軽油などで，フィルタあみ面に付着したゴミをきれいに落してください。油圧ホースを抜いて，ボルト(M８×３本)を外すと，フィルタはオイルタンクより抜けます。





■ケーブル(メータケーブル)の交換



■足回り部品の定期交換

◆交換箇所

＊トラックローラ・フローティングシール・ボールベアリング

＊クローラガイド（前・後）

＊転輪・シール関係

(転輪のベアリングはオイルバス式です。分解時，約100cc給油してください。使用オイルクボタ純オイルM90又はM80B又はNEW･UDT又はスーパーUDT)

＊キャリアローラ・ローラシール・ボールベアリング

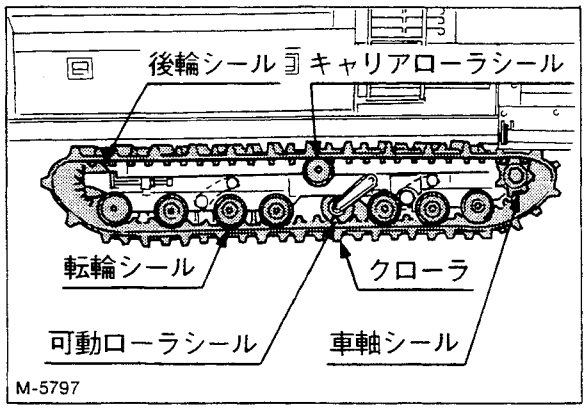
＊後輪・後輪シール・ボールベアリング

＊可動転輪・ローラシール

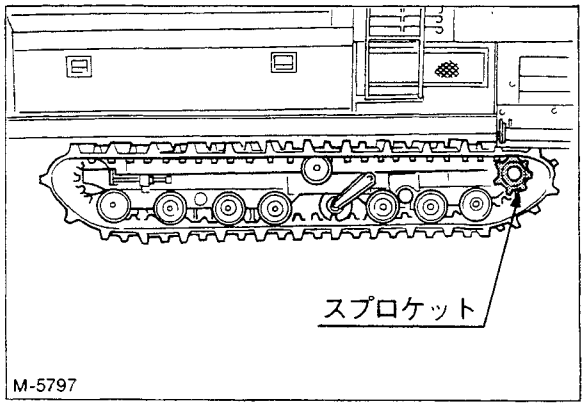
＊車軸（左・右）

＊車軸オイルシール

＊車軸カバー

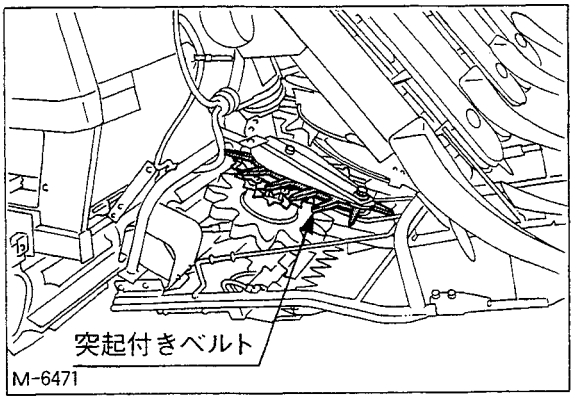


■駆動スプロケットの交換



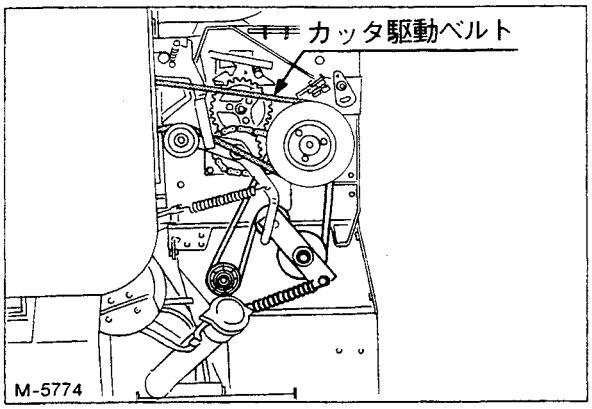
■突起付きベルトの交換

交換時に調整の項目を参照して調整してください。



■カッタ駆動ベルトの交換

交換時に調整の項目を参照して調整してください。

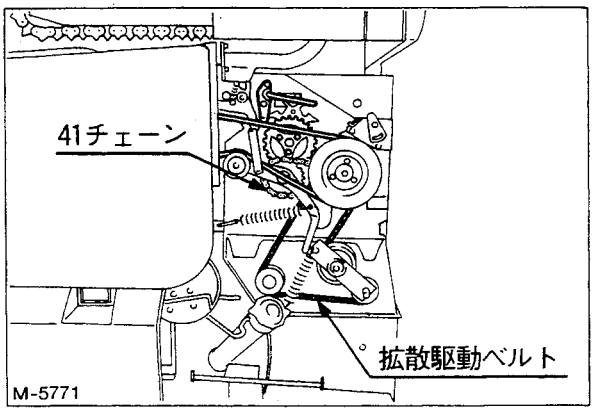


■拡散駆動ベルトの交換

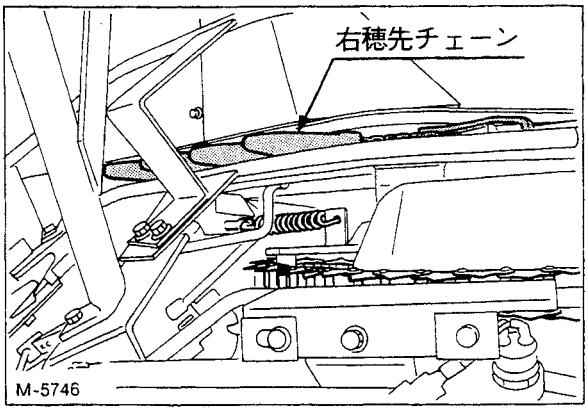
【拡散付きカッタ仕様】

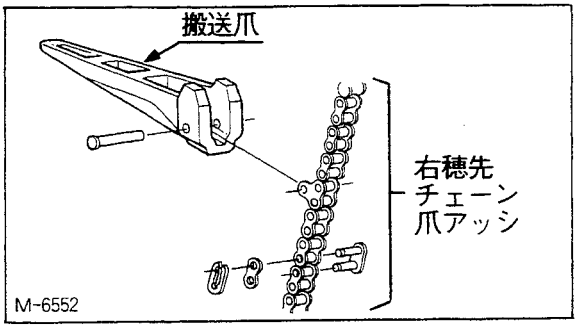
41チェーンを外してから拡散駆動ベルトを外してください。

交換時に調整の項目を参照して調整してください。

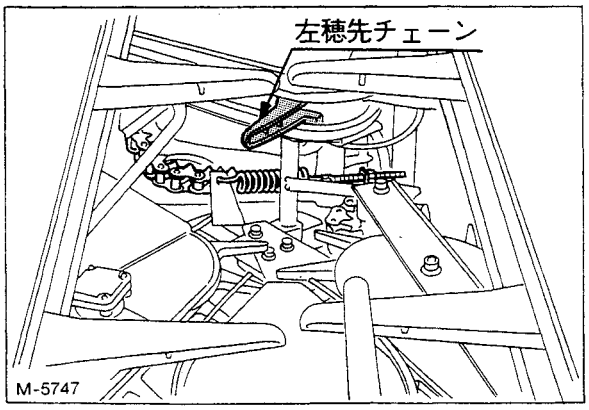


■右穂先チェーンの交換





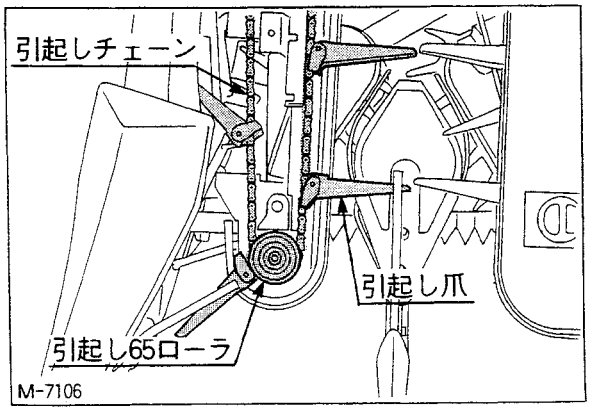
■左穂先チェーンの交換



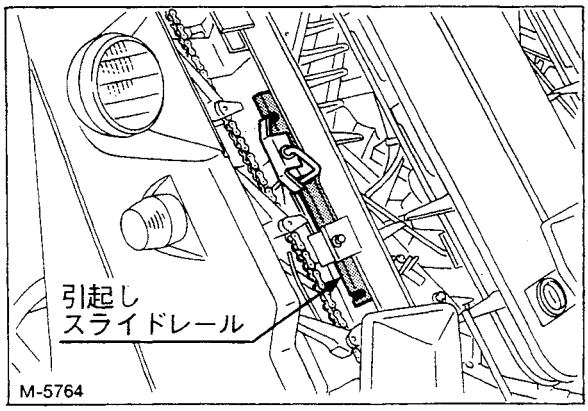
■引起しチェーンの交換

■引起し爪の交換

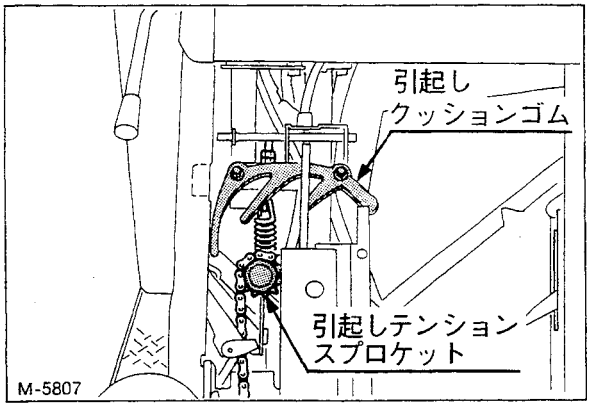
■引起し65ローラの交換



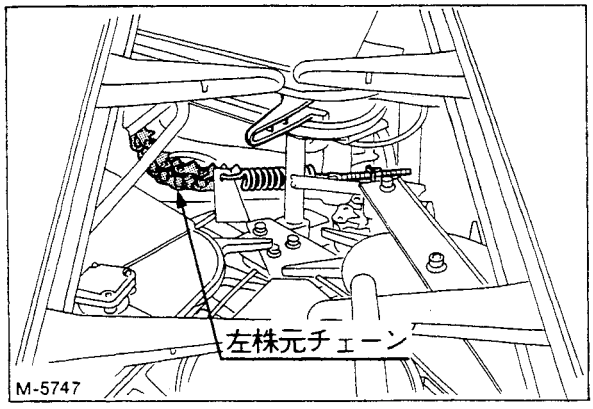
■引起しスライドレールの交換



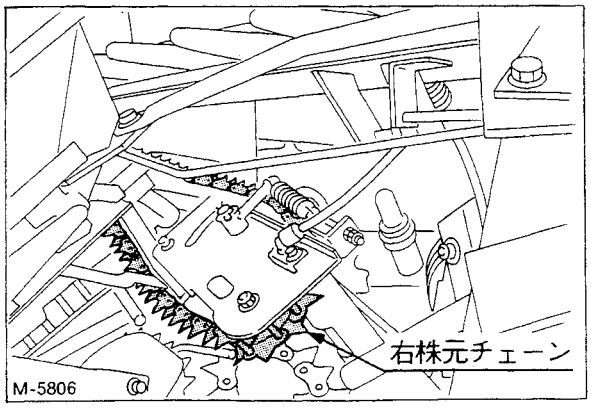
■引起しテンションスプロケットの交換
■引起しクッションゴムの交換



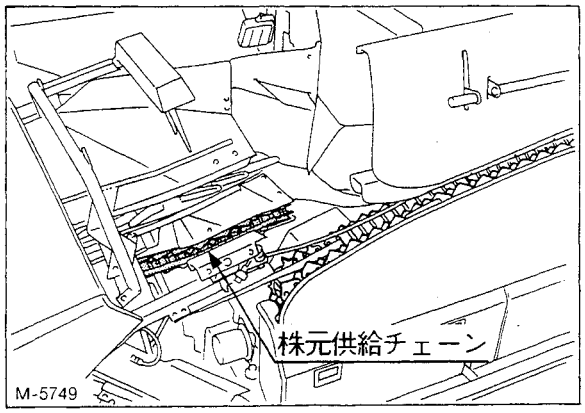
■左株元チェーンの交換



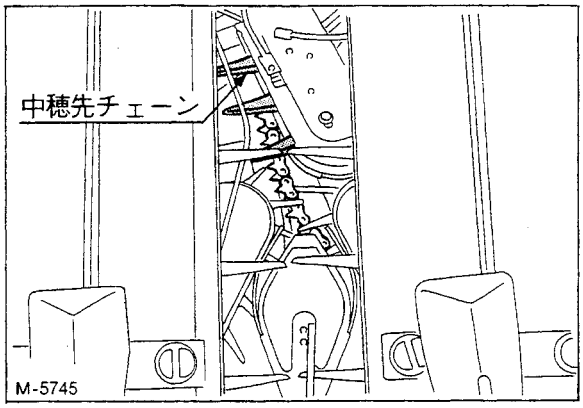
■右株元チェーンの交換



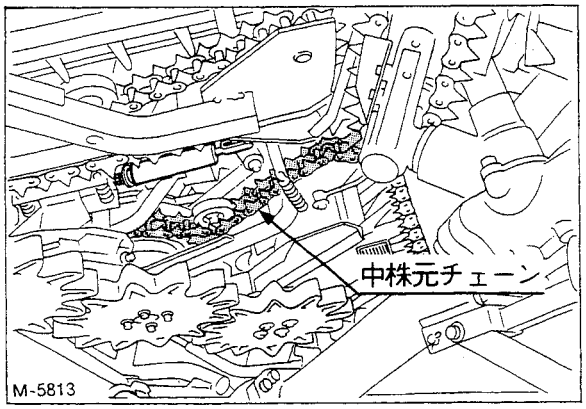
■株元供給チェーンの交換



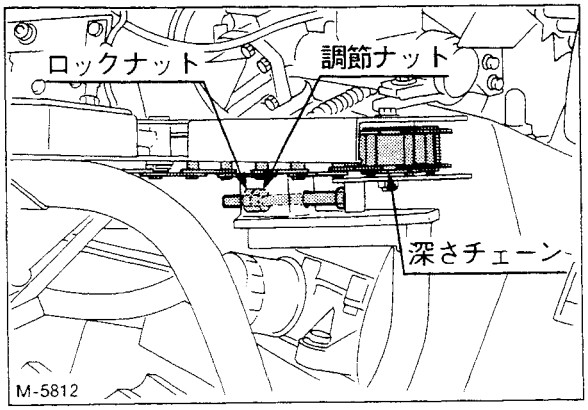
■中穂先チェーンの交換【SR55･65･75】



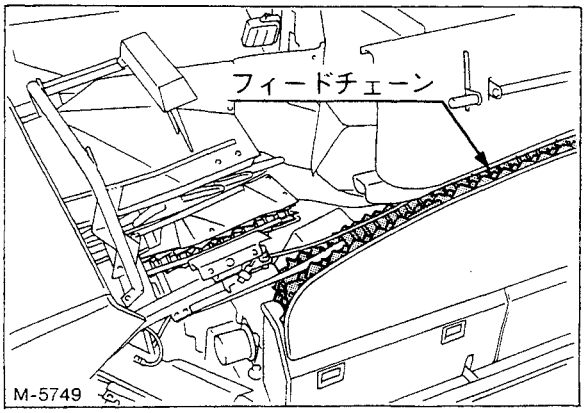
■中株元チェーンの交換【SR55･65･75】



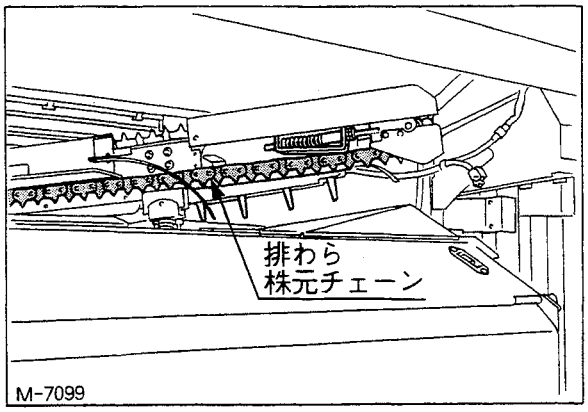
■深さチェーンの交換



■フィードチェーンの交換

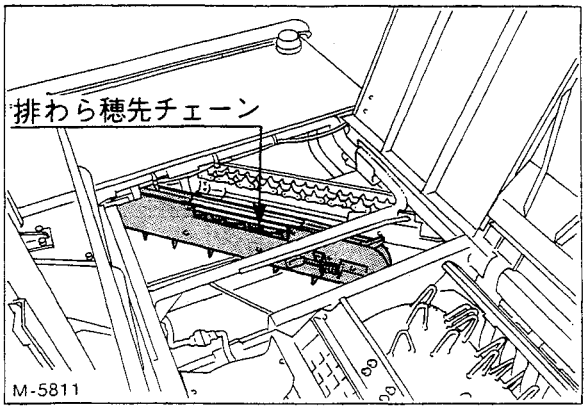


■排わら株元チェーンの交換

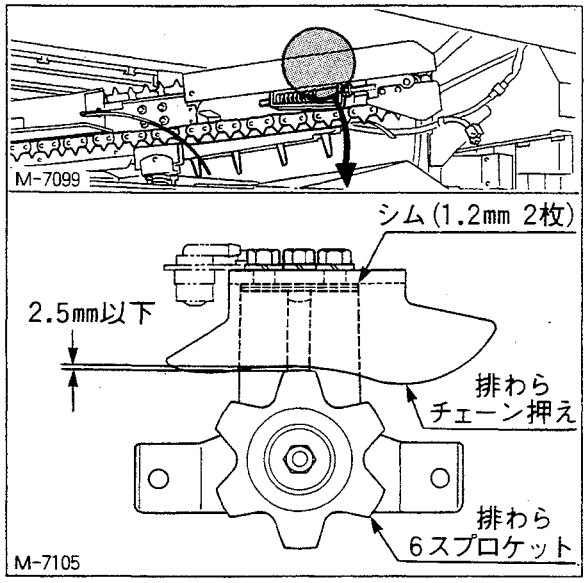


交換時に調整の項目を参照して，調整してください。

■排わら穂先チェーンの交換



■排わらチェーン押えの交換



交換時に調整の項目を参照して，調整してください。

■刈刃の交換

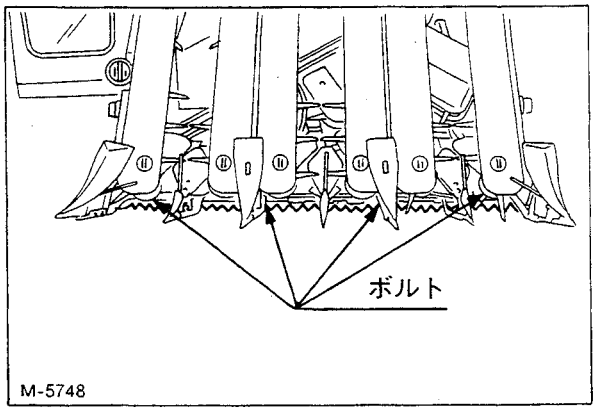
重　要

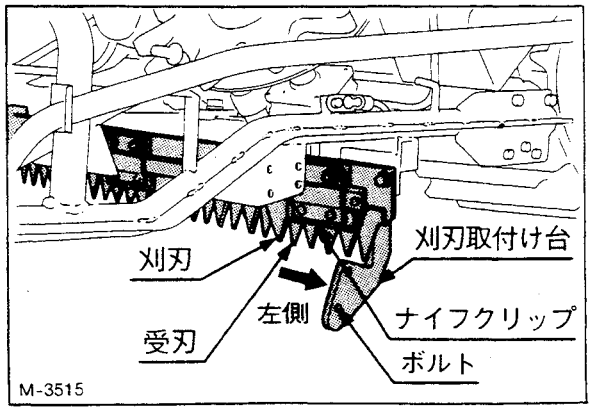
＊刃が摩耗すると刈跡が見苦しくなったり，刈取り搬送姿勢が悪くなって無駄な動力を費やしますので，刈刃全体を交換してください。

◆刈刃の取外し

❶刈刃取付け台のボルトを外して，刈刃が垂直になるまで回動します。

❷左側に移動して，止めピンから外します。



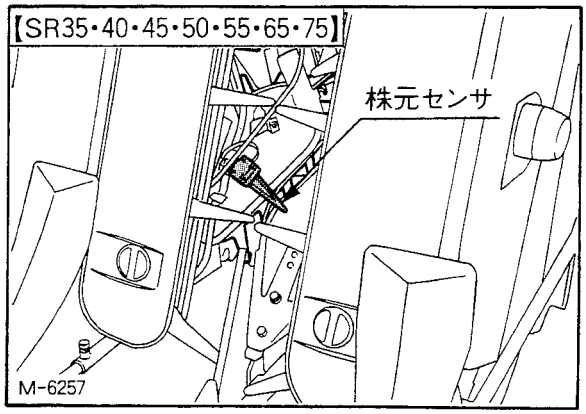


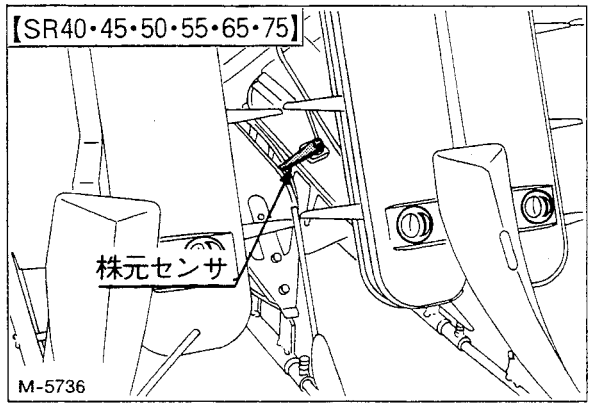
◆刈刃の取付け

(1)刈刃を垂直にして，右側の止めピンから差し込み，中央・左側の順に穴に合せてから，刈刃全体を右側に移動させます。

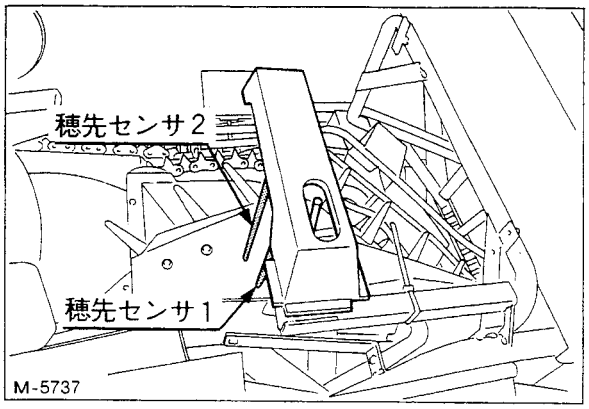
(2)刈刃取付け台の前を持上げ，左右のナイフヘッドとローラの位置を合わせてから，ボルト穴まで持上げてください。

■株元センサの交換





■穂先センサ（１・２）の交換

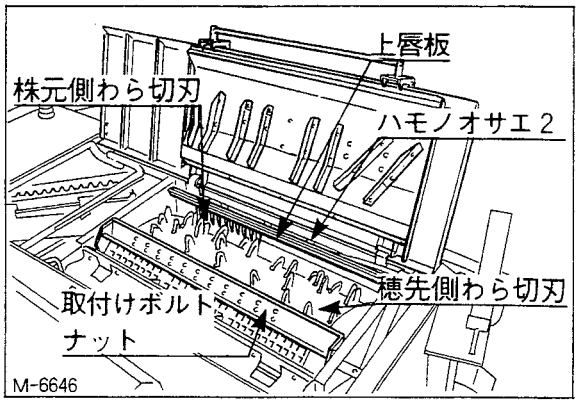


■わら切刃の交換

注　意

＊刃部に手を掛けないでください。不用意に刃が動くと危険です。

＊危険ですので，手袋をして，着脱作業をしてください。



◆穂先側のわら切刃の外しかた

重　要

＊こぎ室カバーを開けるときは，グレンタンクのアンローダを上げて行なってください。

❶こぎ室カバーを開けます。
❷わら切刃取付けボルト・ナットを外します。

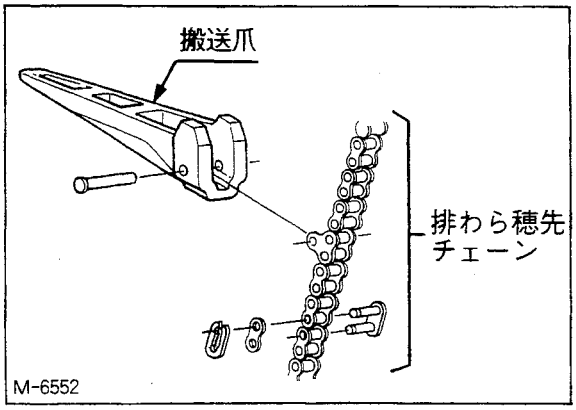
◆株元側のわら切刃の外しかた

重　要

＊わら切刃を取付けるときは，取付け方向を確認して，正しく取付けてください。

❶こぎ室カバーを開けます。
❷ハモノオサエ２の取付ボルトを外します。
❸ハモノオサエ２を上唇板から外します。
❹わら切刃取付けボルトを外します。

■排わら穂先搬送爪の交換

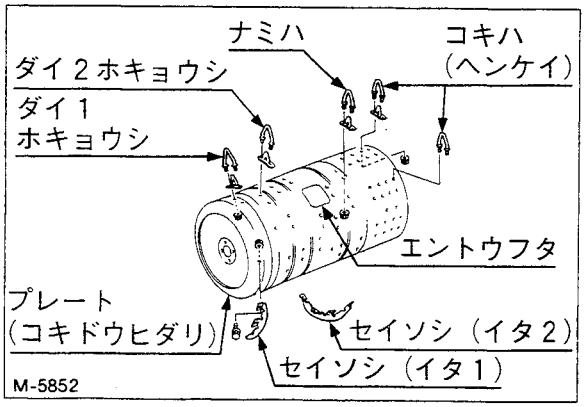


■こぎ歯の交換

重 要

＊こぎ胴をオープンするときは，グレンタンクのアンローダを上げてください。
＊こぎ胴をオープンしたときは，必ずオープンストッパで固定してください。

(1)こぎ胴をオープンしてください。



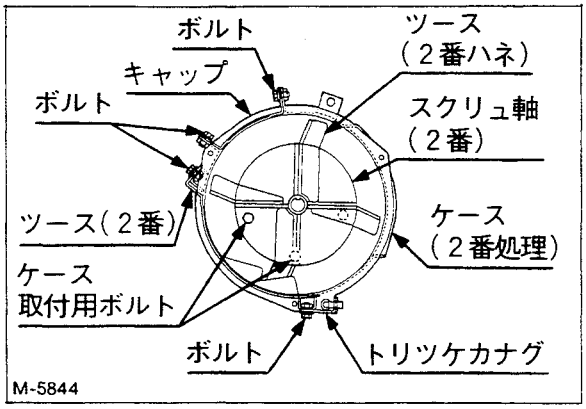
(2)エントウフタを外し(ボルト６本)こぎ歯のナットをエントウの内側から外してください。
(3)こぎ歯を新しい物と交換し上記の逆の手順で組付けてください。

■ツース（２番コテイバ）の交換

グレンタンクオープン（**“グレンタンクオープンの項”**参照）を行なってから，以下の操作をしてください。

◆ツース（２番）の交換

❶ツース（２番）の取付けボルト（４本）を外し，ツース（２番）を外してください。
❷キャップの取付けボルト（４本）を外して，キャップを外してください。
❸新しいツース（２番）を，トリツケカナグに仮りどめ（ボルト２本）した後，ケース（２番処理）に沿わせてください。
❹キャップ点検窓からツース（２番）が，ツース（２番ハネ）の中央にくるよう調節してボルト（４本）を締めてください。
❺キャップを取付けてください。

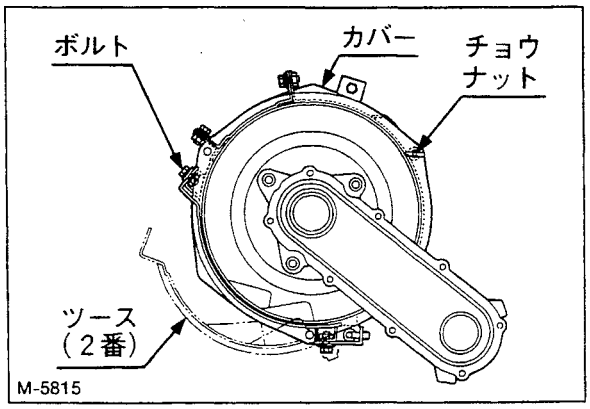


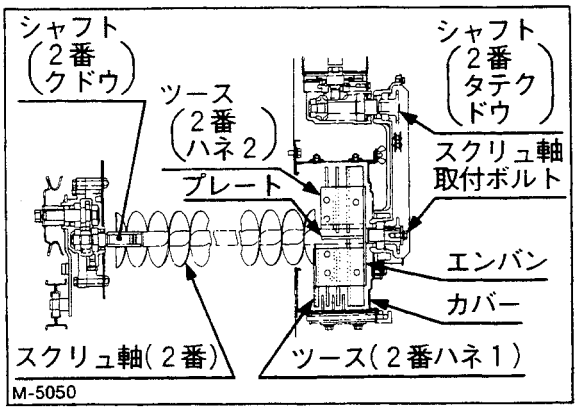
❻組付け後，必ず２番スクリュ軸を１回転させて，干渉しないことを確認してください。

◆ツース（２番ハネ）の交換と，ケース（２番処理）及び，スクリュ軸（２番）の交換

❶ツース（２番）の取付けボルト（２本）を外し，ツース（２番）を下げてください。
❷ケース（２番処理）のカバーを取付けているチョウナット（３ヶ）を外し，スクリュ軸（２番）を手前に抜いてください。
❸ケース（２番処理）を交換する場合は，ケース取付用ボルト４本を外して交換してください。
【1000時間時】
❹ツース（２番ハネ１，２）の取付けボルト（３本）を外し，ツース（２番ハネ１，２）を外してください。
❺スクリュ軸（２番）を交換する場合はスクリュ軸（２番）取付ボルトを外し，左側に抜いて交換してください。【1000時間時】

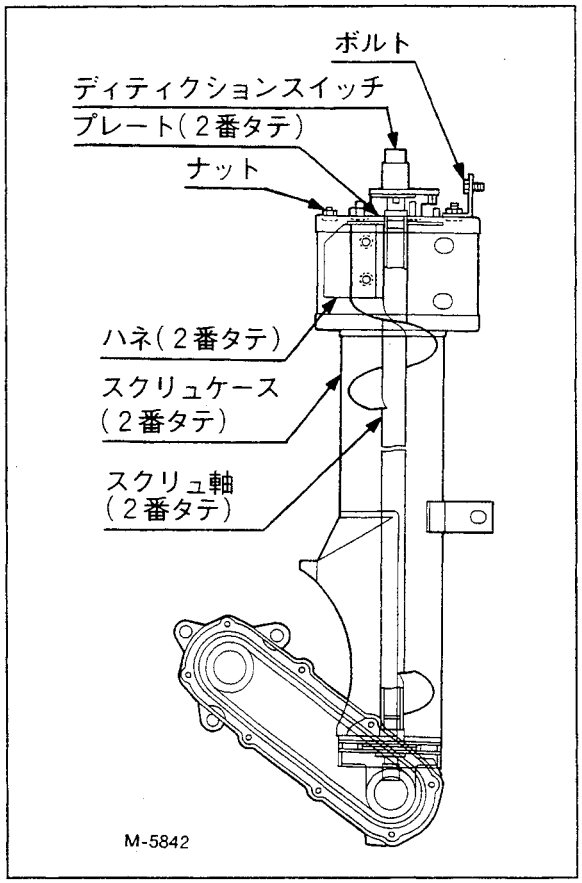
❻新しいツース（２番ハネ１，２）を，スクリュ軸（２番）のエンバンとプレートの部分に当てて取付けボルト（３本）を締めてください。
❼シャフト（２番駆動），シャフト（２番縦駆動タテクドウ）のスプライン部にグリースをぬってください。
❽スクリュ軸（２番）を押込んで組付けてください。
❾カバーのチョウナットを締めてください。
❿ツース（２番）の取付けボルト（２本）を締めてください。
⓫組付け後，必ずスクリュ軸（２番）を１回転させて，干渉しないことを確認してください。



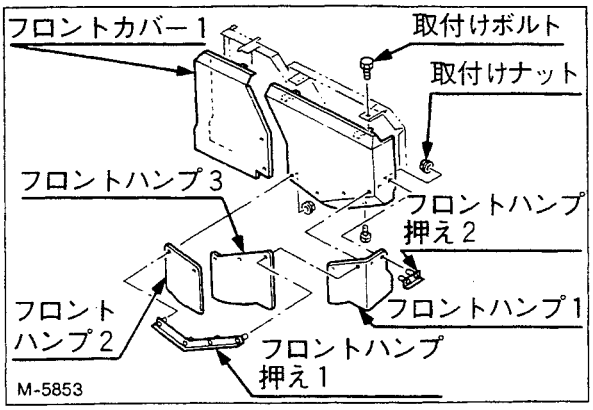


■スクリュ軸（２番タテ）の交換

❶プレート（２番タテ）の取付ナット（Ｍ６－３本）と取付けボルト（Ｍ８－２本）を外してください。
❷ハネ（２番タテ）をスクリュケース上方の切欠に合わせた後，上方にスクリュ軸（２番タテ）を引抜いてください。
❸ディティクションスイッチを外した後，プレート（２番タテ）を外し，ハネ（２番タテ）を外してください。
❹新しいスクリュ軸（２番タテ）に交換後，上記と逆の手順で組付けてください。その際，スクリュ軸（２番タテ）の下方スプライン部にグリースをぬってから組付けてください。



■フロントハンプの交換



❶フロントカバー1の取付けボルト（M8－2本，M6－2本）を外し，フロントカバー1を外してください。
❷フロントハンプ（1，2，3）の取付けナットを外し，ハンプを交換してください。
❸上記の逆の手順でハンプ及びカバーを取付けてください。

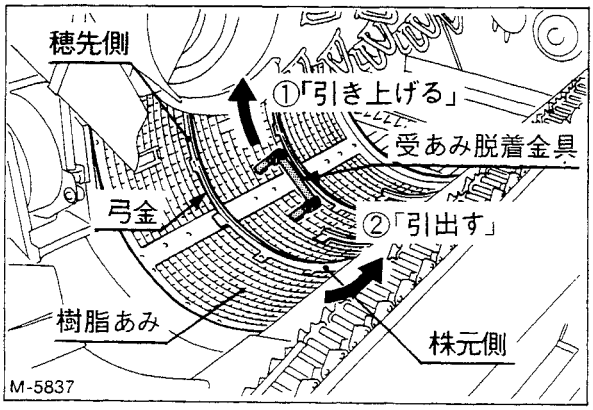
■樹脂受あみの交換
（弓金・取付けボルト含む）

◆外しかた

重 要

＊こぎ胴をオープンするときには，グレンタンクのアンローダを上げ，必ずオープンストッパで固定してください。
＊樹脂あみの交換のとき，同時に弓金及び，取付けボルトも交換してください。

❶こぎ胴をオープンしてください。
❷付属部品の中にある受あみ脱着金具を，受あみフレームに引掛けて受あみを引き上げたのち，手前上方に受あみを引出します。

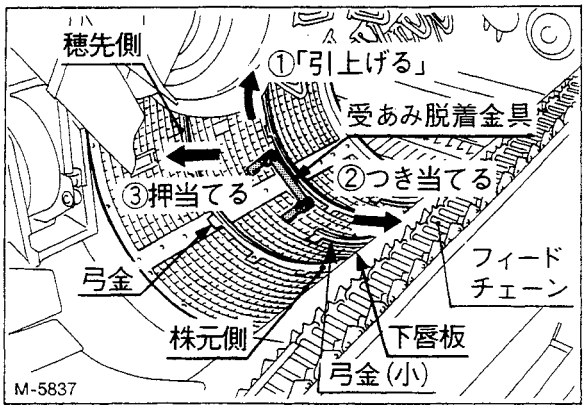


◆取付けかた

❶受あみ脱着金具を受あみフレームに引掛けて受あみを引上げてください。
❷受あみの株元側を下唇板につき当て穂先側を受あみガイドに押当ててください。

重 要

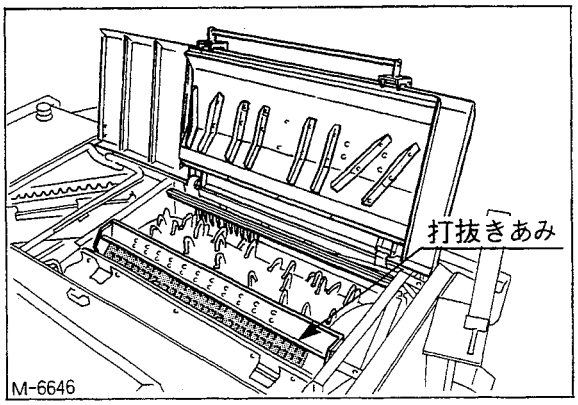
＊このとき，弓金(小)がフィードチェーン側にくるように組付けてください。



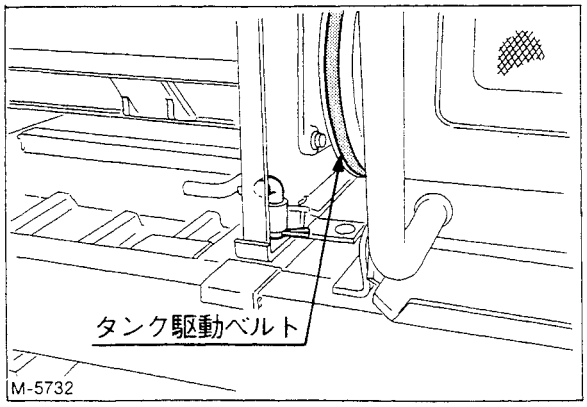
❸こぎ胴をセットしてください。

■打抜きあみの交換

❶わら切刃の交換を参照して穂先側のわら切刃を外してください。
❷打抜きあみの取付けナット（M6－10本）を外してあみを交換してください。



■グレンタンク駆動ベルトの交換



■縦スクリュ軸の交換

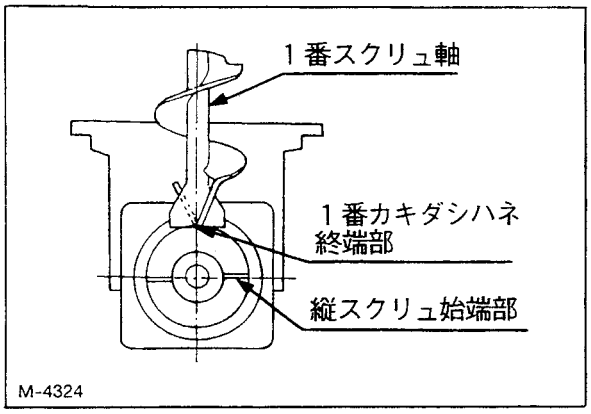
◆縦スクリュ交換組付け時の注意事項

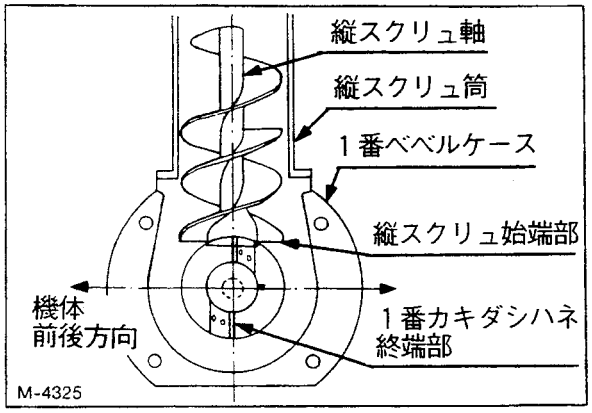
縦スクリュを抜き，再度組付けるときは，スクリュの位置が下記の位置になるように組付けてください。

❶1番カキダシハネ終端部が，機体前後方向に垂直になるようにセットします。

❷縦スクリュ始端部が，機体前後方向に平行になるようにセットします。

❸組付け後必ず縦スクリュを1回転させて，干渉しないことを確認してください。





■カッタ刃の交換のしかた

警　告

＊カッタ刃を交換するときは，エンジンを必ず止めてください。

＊手袋を使用し，直接カッタ刃に触れないでください。

＊切断軸完備を外すときは，2人でカッタ刃のない両端を持って脱着作業をしてください。

注　意

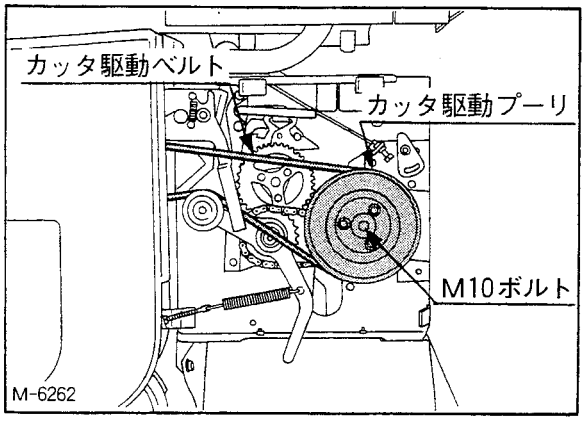
＊カッタミギサイドカバーを閉じる場合，必ずカッタ切換えカバーとフレームの板との間に入れてください。間違って上側に入れると，カッタ作業に切換えたとき，カバーが変形します。

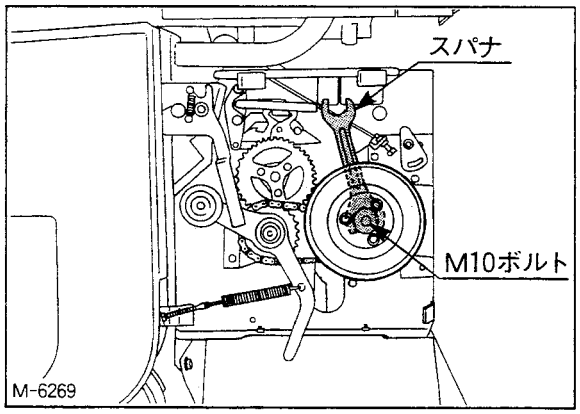
◆【カッタ仕様】

❶ヒダリサイドカバーとミギサイドカバーを外します。

❷カッタ駆動ベルトを外します。

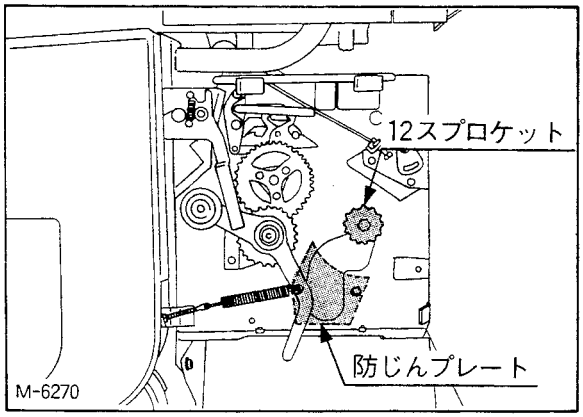
❸カッタ駆動プーリのM10ボルト（1個）を外します。M10ボルトを外すときは，図の位置（カッタ駆動プーリ側）にスパナを掛けてください。



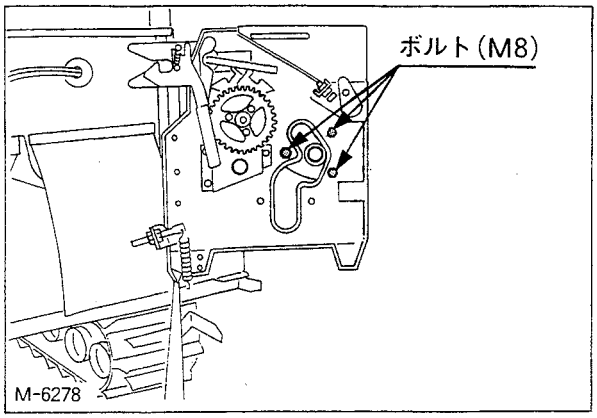


❹防じんプレートを外します。（M8ボルト2個）

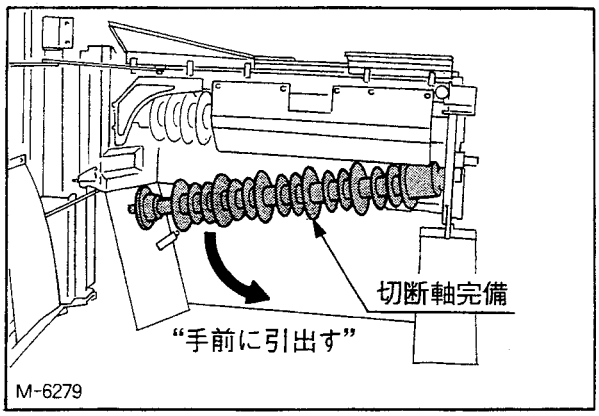
❺41チェーンを外し，12スプロケット，16カラーを外します。



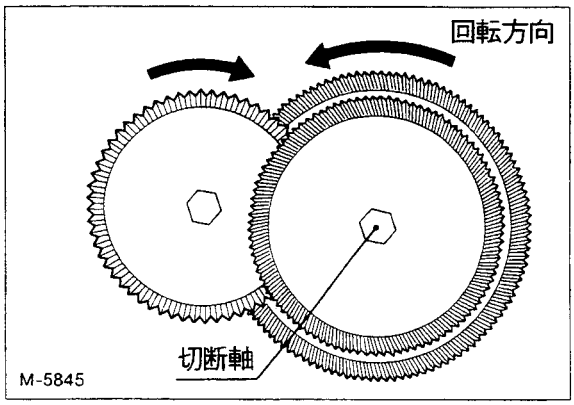
❻クランプを引きカッタを静かに開く。
❼軸受けのＭ８ボルトを外します。
（株元側３個，穂先側３個）



❽切断長切換えレバーを15cmにセットします。
❾穂先側の軸受けを下にずらしながら，切断軸完備を外します。このとき，刃にはじゅうぶん注意し，また重いので２人で作業してください。



❿軸を安定した所に置き，六角ナット左をゆるめ，順に分解します。（左ネジ）
⓫刃の交換ができたら，分解した順序を間違えないよう組立ててください。
なお，歯の向きと回転方向は下図のようになります。



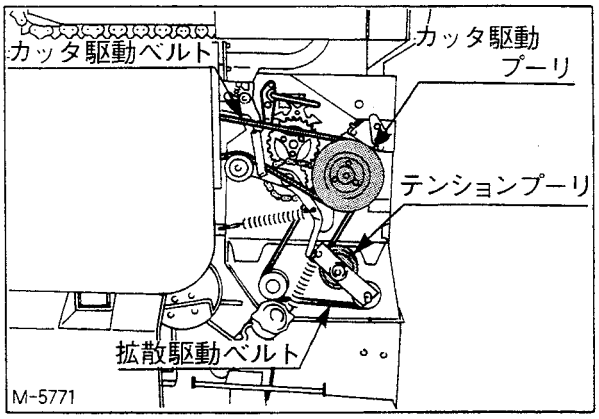
⓬刃の向き，切断刃と供給刃のすき間調整は，**“カッタ刃のすき間調整”**の項を参照してください。

補　足

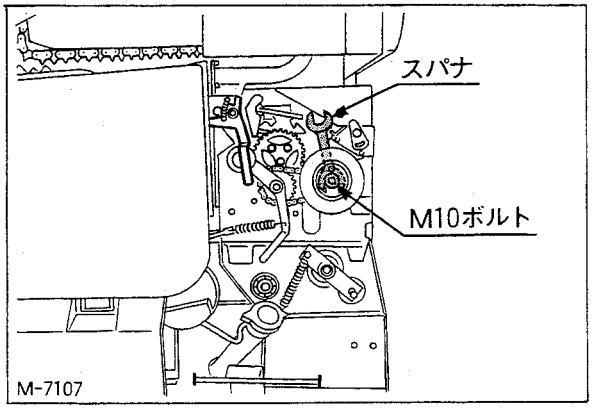
＊このカッタには，高耐久セラミック切断刃を使用していますので，従来の切断刃に比べ耐久性が非常に優れています。

◆【拡散付きカッタ仕様】

❶ヒダリサイドカバーとミギサイドカバーを外します。
❷カッタ駆動ベルトを外します。
❸拡散駆動ベルトをテンションプーリから外します。

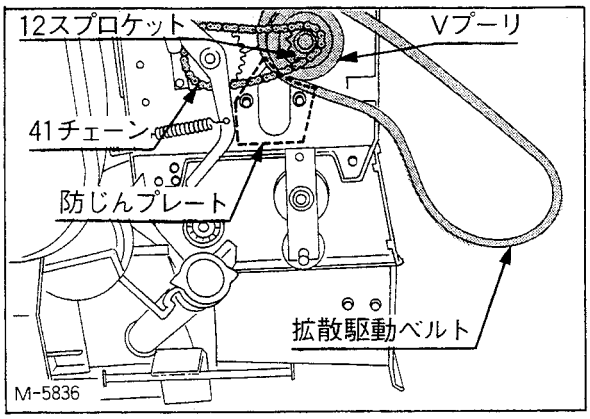


❹カッタ駆動プーリのM10ボルト（１個）を外します。M10ボルトを外すときは，図の位置（カッタ駆動プーリ側）にスパナを掛けてください。

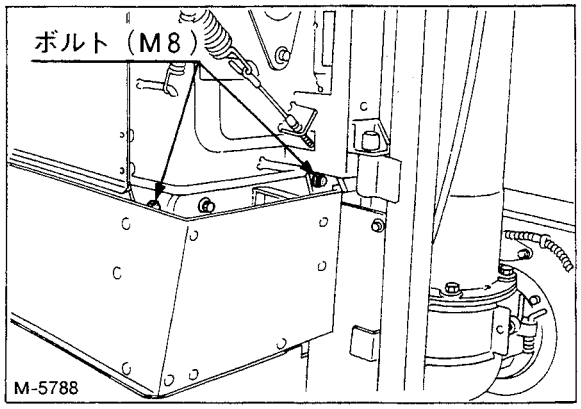


❺防じんプレートを外します。（Ｍ８ボルト２個）

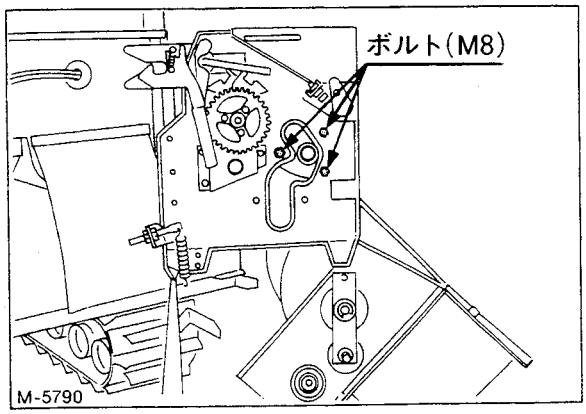
❻41チェーンを外し，12スプロケット，Vプーリ，拡散駆動ベルトを外します。



❼拡散装置のＭ８ボルトを外します。
（株元側４個，穂先側２個）

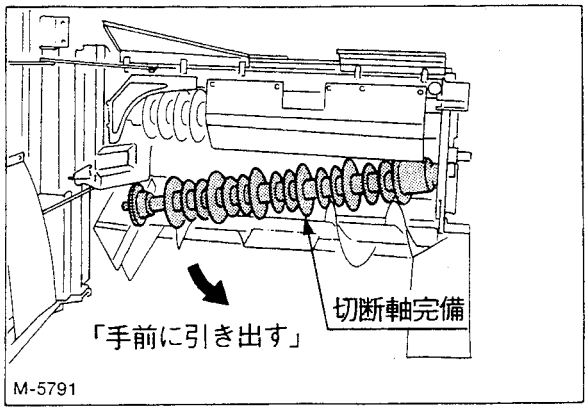


❽クランプを引きカッタを静かに開く。
❾軸受けのＭ８ボルトを外します。
（株元側３個，穂先側３個）

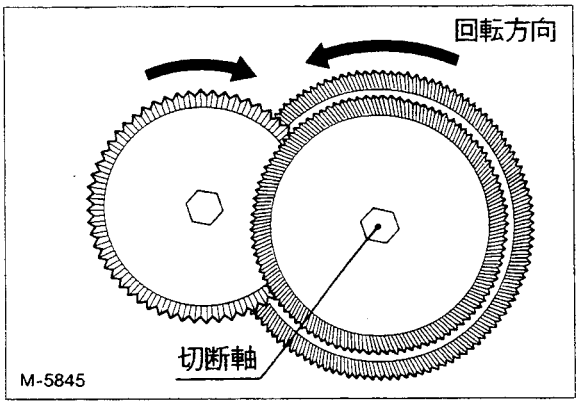


❿切断長切換えレバーを15cmにセットします。

⓫拡散装置をカッタにぶら下げた状態で穂先側の軸受けを下にずらしながら，切断軸完備を外します。



⓬軸を安定した所に置き，六角ナット左をゆるめ，順に分解します。（左ネジ）
⓭刃の交換ができたら，分解した順序を間違えないよう組立ててください。
なお，歯の向きと回転方向は下図のようになります。



⓮刃の向き，切断刃と供給刃のすき間調整は，**“カッタ刃のすき間調整”**の項を参照してください。

補　足

＊このカッタには高耐久セラミック切断刃を使用していますので従来の切断刃に比べ耐久性が非常に優れています。

長期格納のしかた

■各部の清掃と補修

(1)各部に付着した泥などの汚れをきれいに水洗いし，乾いた布で水分をふき取ってください。
(2)各回転部分や切刃部・ベルト・チェーンなどに巻付いた雑草やわらくずを，完全に取除いてください。
(3)各回転部分や摩擦しゅう動部分には，じゅうぶん注油し，錆びないよう配慮してください。
(4)各チェーンにもじゅうぶん注油して，錆びないよう配慮してください。
(5)各部にこく粒やわらくずが残っていると，ネズミの巣になったり配線部をかじられて，次の年の作業にさしつかえますからきれいに取除いてください。
(6)塗料のはがれた所には補修塗料を塗って，錆びがでないようにしてください。

■ラジエータ冷却水

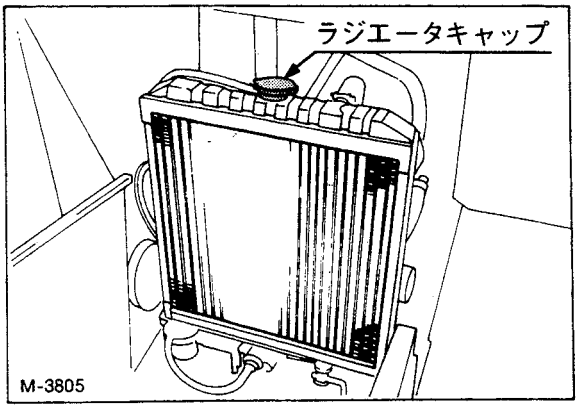
ラジエータの冷却水は冬期の凍結割れ防止のため，排水するか，不凍液（ロングライフクーラント）を水に混ぜて入れてください。冷却水を抜取るときは，次の要領で行なってください。

(1)冷却水には，不凍液（ロングライフクーラント）を適正量入れ（混合比は最高でも50%以下），よく水と混ぜ合せてからお使いください。
(2)不凍液の混合比を誤ると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはオーバヒートの原因になります。
(3)不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入すると，エンジン部品に悪影響を与えます。
(4)クボタ不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は２年間です。必ず２年で交換してください。

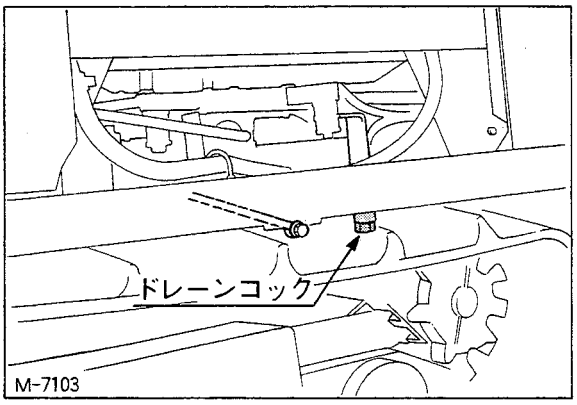
注　意

＊ラジエータキャップやリザーブタンクは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出することがありますので，停止後メインスイッチ“入”で水温計が“C”の位置であることを確認してからにしてください。

❶ラジエータのキャップを開きます。



❷排水用ドレーンコックを開きます。



❸リザーブタンクの排水は，ラジエータキャップのオーバフローパイプを外し排水します。
❹ドレーンコックは開いたままにし，キャップに**“水なし”**と書いた札をかけておきます。
❺排水・洗浄後，給水するときはドレーンコックを閉め，ラジエータをいっぱいにし，リザーブタンクに適量給水してください。

■バッテリ

危　険

＊バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは，すぐに水で洗い流してください。

▶もし怠ると・・・・・

希硫酸によってヤケドすることがあります。

＊バッテリに火気を近付けたり，ショートさせると爆発の危険がありますので注意してください。

補　足

＊バッテリは機体左側にあります。格納時にはバッテリの充電作業ができるよう，左側に間隔をあけておいてください。**【SR50･55･65･75】**
また長期格納時には必ずバッテリを外しておいてください。

バッテリは機体から取外して，液を規定量にしてから充電し，直射日光の当たらない乾燥したところに保存してください。
バッテリは保存中でも自然放電するので，夏は１箇月に１回，冬は２箇月に１回補充電する必要があります。また本機に取付けたまま保管するときは必ずアース側（⊖側）を外してください。
（**“バッテリの取外し，取付け方法”**の項参照）

■各種レバー類とその他

重　要

＊機体を洗う場合は，電装部品に水がかからないようにしてください。

(1)エンジンは，必ずアクセルレバーをいっぱい戻して止めておいてください。
(2)メインスイッチのキーは，必ず抜取って保管してください。
(3)刈取りクラッチレバー・脱こくクラッチレバーは**“切”**にしておいてください。
(4)戸外に置く場合は，雨水がかからないようにシートでおおっておいてください。
(5)麦/稲/漏れ調節ダイヤルを**“漏れ”**にし，トウミ調節ダイヤルを目盛**“O”**にして脱こく機を回し，エンジン最高回転で脱こく機を止めてください。
(6)次の箇所にグリースを補充してください。
＊車体水平制御アーム軸受け部
＊アンローダ部

使用者が行なってはいけない修理

下記部品に異常があるときはお買上げのＪＡ農協や販売店の修理工場に依頼してください。
結束部(ケッセツブカンビ)・電気系統の交換

使用済廃棄物の処分について

機械の廃油や，使用後のフィルムなどの廃棄物をむやみに捨てると環境汚染になります。
機械から廃油を抜く場合は，容器に受けてください。地面へのたれ流しや川，沼への廃棄は絶対にしないでください。
廃油・燃料・冷却水・冷媒・ブレーキ液・溶剤・フィルタ・バッテリ・その他有害物を捨てるときは，販売店，又は産業廃棄物処理業者に依頼してください。

コンバインの不調と処置

次のようなトラブルが起こったら！

ページ

ビービーと断続ブザーが鳴る 121

ビービーと断続ブザーが鳴ってエンジンが止まる 122

発進するとエンジンが止まる 【T仕様】 122

エンジンがかからない 123

作物を刈取らずに押倒していく 124

作物を搬送しない，搬送姿勢が乱れる 125

刈りあとが悪い 126

こぎ残りがでる 126

もみの飛散が多い 127

2番処理ケースが詰まる 127

選別が悪い 128

カッタの切れわらが長くなった 129

ファンランプ，チェックランプが点滅する 129

注 意

＊各部の調整，点検，交換などを行なうときは，エンジンを必ず止めてから行なってください。
＊各クラッチは，“切”にしてください。
＊エンジン始動時は合図をし，安全を確認してください。
＊運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。またオーバ ヒートなどの高温時は，エンジンを停止し，30分以上経過するまでエンジンカバーを開けないでください。熱湯が吹出したり，高温部でヤケドするおそれがあります。
＊刈刃やカッタの清掃時は刃部に注意してください。
＊燃料やオイルがこぼれた場合は，火気に注意しきれいにふき取ってください。

ビービーと断続ブザーが鳴る

すぐにすること			原　因	点検箇所	処　置	参照ページ
＊イージーチェッカとレベル表示ランプを見る。	負荷メータが点滅している。	減速する。	負荷がかかり過ぎている。	＊こぎ深さ調節レバー（自動のとき） ＊手動こぎ深さスイッチ（手動のとき）	＊こぎ深さ制御位置が適正か確認する。	13ページ
				わら切刃	＊わら切刃が摩耗していないか点検し，摩耗しているときは交換する。	111ページ
				こぎ室送じん	＊こぎ室送じん調節を**“標準”**又は**“開”**にする。	53ページ
	モミメータが点滅している。	刈取り作業を中止して，刈取りクラッチレバー，脱こくクラッチレバーを**“切”**にする。	グレンタンクが満杯。	グレンタンク	＊もみを排出する。	57ページ
	2番ランプが点滅している。		1番又は2番処理ケースが詰まっている。	1番スクリュ 2番処理ケース	＊ケース内及び筒の中のもみ・わらを取除く。	77ページ
	シーブメータが点滅している。		シーブ上に詰まりが発生している。	シーブケース	＊シーブ上のもみ・わらを取除く。	74ページ
	こぎ深さ警報ランプが点滅している。		こぎ深さセンサ部に浮わら・雑草がからんでいる。	こぎ深さセンサ	＊浮わら・雑草を取除く。	——
	水温ランプが点滅している。 ＊水温計がHの位置にある。 ＊ファンランプが点滅している。		冷却水の温度が上がりすぎている。	冷却水	＊冷却水の有無・漏れの点検をする。	18ページ
				ファンベルト	＊ゆるみ損傷がないか点検する。	86ページ
				防じんカバー ラジエータ オイルクーラフィン	＊泥やゴミが付着していれば取除く。	86ページ

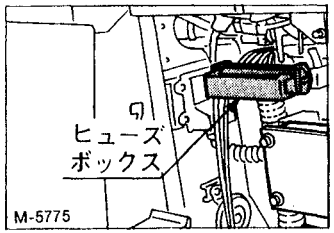
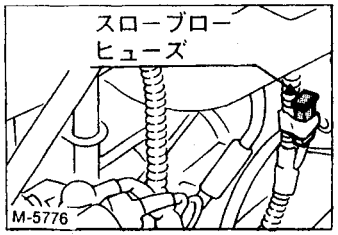
ビービーと断続ブザーが鳴ってエンジンが止まる

すぐにすること		原　　因	点検箇所	処　　置	参照ページ
＊刈取り作業を中止して，イージーチェッカをみる。 ＊刈取りクラッチレバー，脱こくクラッチレバーを“切”にする。	わら詰ランプが点滅している。	刈取り搬送チェーンが詰まっている。	刈取部	＊刈取部にわらが詰まっていないか点検し，詰まりがあれば取除く。	72ページ
		排わら搬送チェーンが詰まっている。	搬送部	＊搬送部（フィードチェーン，排わらチェーンのバトンタッチ部・カッタの入口部）にわらが詰まっていないか点検し，詰まりがあれば取除く。 ＊フィードチェーンの詰まりは，こぎ胴をオープンして取除く。	70ページ
		カッタ部が詰まっている。	カッタ部	＊カッタの刃が摩耗していないか点検し，摩耗している場合は交換する。	115ページ
		結束作業において，ビルにひもが巻付いているか又はひも切れ，ひもがなくなっている。	結節部 結束ひも	＊結節部にひも，わらなどが巻付いていないか点検し，巻付いていれば取除く。 ＊ひもがなければ補充する。	――

発進するとエンジンが止まる　【T仕様】

すぐにすること	原　　因	点検箇所	処　　置	参照ページ
＊旋回切換えレバーを見る。	切換えレバーが“スピンターン”“ソフトターン”のどちらにも確実に入っていない。	旋回切換えレバー	旋回切換えレバーを“スピンターン”“ソフトターン”のどちらかに確実に入れてから発進する。	11ページ

エンジンがかからない

すぐにすること	原因		点検箇所	処置	参照ページ
＊メインスイッチを“**切**”の位置にする。	セルモータは回る	燃料がない。	燃料ゲージ	＊燃料があるか点検し，ない場合は補給する。（**火気厳禁**）	4ページ
		フューエルフィルタ	フューエルフィルタ	＊フューエルフィルタの目詰まりがないか点検し，洗浄する。 ＊フューエルパイプの折れ，破損を点検し，異常があれば交換する。	104ページ
		燃料の種類	燃料の種類	＊ディーゼル軽油を補給する。	17ページ
	セルモータが回らない	主変速レバーが“**停止**”になっていない。	主変速レバー	＊主変速レバーを“**停止**”にする。 （主変速レバーを“**停止**”にしないと，安全スイッチが作動してエンジンは始動しない構造になっています。）	8,25ページ
		脱こくクラッチレバーが“**切**”になっていない。	脱こくクラッチレバー	＊脱こくクラッチレバーを“**切**”にする。 （脱こくクラッチレバーを“**切**”にしないと，安全スイッチが作動してエンジンは始動しない構造になっています。）	25ページ
		バッテリが上がっている。	バッテリ (ホーンの音が小さい)	＊補充電する。 ＊バッテリ液を点検し，不足の場合は市販のバッテリ精製水を補給する。	78ページ
		ヒューズ・スローブローヒューズが切れている。	ヒューズボックス スローブローヒューズ	＊点検し，切れている場合は予備ヒューズと取換える。（**アンペア数に注意**）  （スローブローヒューズはバッテリボックスの内側にあります。） 	89ページ

作物を刈取らずに押倒していく

すぐにすること	原　　因	点 検 箇 所	処　　置	参照ページ
＊刈取り作業を中止して，刈取りクラッチレバー・脱こくクラッチレバーを切る。 ＊エンジンを必ず止める。 **重 要** ＊株の抜けた作物は，根をカマで切り，直接脱こく機のフィードチェーンに供給してください。	刈刃や搬送部に根・株・泥・石や木片などの異物がかみ込んでいる。	刈刃部	＊異物を取除き，刈刃部を点検する。	――
		搬送部	＊異物を取除き，周辺を点検する。	――
	刈取り駆動ベルトがスリップしている。	刈取り駆動ベルト 刈取りクラッチ （オートクラッチがついていますので，刈取部を下げて点検する。）	＊刈取りクラッチを張る。	88ページ
	株の引抜きにより，搬送詰まりしている。	自動車体水平制御装置	**〔自動の場合〕** ＊刈取りフレームが地面に平行になるよう，傾斜角調節ダイヤルにより修正する。 **〔手動の場合〕** ＊手動操作レバーで，修正する。	15ページ
		デバイダ	＊デバイダの先端が同じ高さになるよう調節する。	48ページ
		作業速度	＊倒伏ほ場での作業速度は，デバイダが株に突込まないよう，操作のできる適正な速度で刈取ってください。	48ページ

作物を搬送しない，搬送姿勢が乱れる

すぐにすること	原　　因	点 検 箇 所	処　　置	参照ページ
＊刈取り作業を中止して，刈取りクラッチレバー・脱こくクラッチレバーを切る。 ＊エンジンを必ず止める。	チェーンや突起付ベルトがゆるんでいる。	チェーンのテンション 突起付ベルト	＊適正な張り調整を行なう。	93～98ページ
	こぎ深さ調節が適正でない。	＊自動こぎ深さ制御装置(自動のとき) ＊手動こぎ深さスイッチ(手動のとき)	＊こぎ深さ調節レバーを調整して，脱こく供給口の**“こぎ深さ指示マーク”**に穂先が合うように調節する。 (作業中確認してください)	37ページ
	引起し部で搬送姿勢が乱れる。	引起し変速レバー 副変速レバー	＊引起し変速レバー，副変速レバーを切換える。	48,53ページ
		スライドレール	＊引起しフレームのスライドレールを調整する。	48ページ
	低速作業で搬送姿勢が乱れる。	副変速レバー	＊通常は**“標準”**で作業しますが，あぜぎわ刈りなどで低速(0.1～0.3m/s)での作業時，フィードチェーンで株元が引張られる場合は，副変速レバー**“倒伏”**で作業してください。	53ページ

刈りあとが悪い

すぐにすること	原　　因	点 検 箇 所	処　　置	参照ページ
＊刈取り作業を中止して，刈取りクラッチ・脱こくクラッチを切る。 ＊エンジンを必ず止める。	刈刃部に土・草がたまっている。	刈刃部	＊取除く。	―
	刈刃が浮き上がっている。	刈刃部	＊刈刃と受刃のすき間を調節する。	98ページ
	刈刃が刃こぼれ又は折れている。	刈刃部	＊刈刃を交換する。	110ページ

こぎ残りがでる

すぐにすること	原　　因	点 検 箇 所	処　　置	参照ページ
＊刈取り作業を中止して，搬送部にある作物を流しきる。	こぎ深さが浅い。	＊こぎ深さ調節レバー（自動のとき） ＊手動こぎ深さスイッチ（手動のとき）	＊こぎ深さ制御位置調節レバーで，脱こく機入口の**“こぎ深さ指示ラベル”**の指示の位置に穂先を合せる。	37ページ
	エンジンの回転数が低い。	回転計	＊回転を見ながら，アクセルレバーで正規回転にする。	53ページ
	こぎ胴の回転数が低い。	脱こくクラッチのテンションスプリング こぎ胴のテンションスプリング	＊表をみてテンションを張る。	92ページ

もみの飛散が多い

すぐにすること	原　　因	点 検 箇 所	処　　置	参照ページ
＊刈取り作業を中止して，搬送部にある作物を流しきる。	エンジン回転数が高い。	回転計	＊回転計をみながら，アクセルレバーで正規回転にする。	53ページ
	こぎ室送じん調節が開きすぎ。	こぎ室送じん調節	＊こぎ室送じん調節を**“標準”**又は**“閉”**の方へ調節する。	53ページ
	脱こく制御の調節が不適当。	麦／稲／濡れ切換えスイッチ トウミ調節ダイヤル	＊麦／稲／濡れ切換えスイッチを作物の状態に合せる。 ＊トウミ調節ダイヤルを**“弱”**の方へ調節する。	13ページ
	シーブケース波板補助の調節が閉じすぎ。	シーブケース波板補助	＊シーブケース波板補助を機体前方へ調節する。	54ページ

2番処理ケースが詰まる

すぐにすること	原　　因	点 検 箇 所	処　　置	参照ページ
＊脱こくクラッチを切って，エンジンを止める。	2番処理ケースに異物かみこみ。	処理固定歯	＊処理固定歯を開けて異物を取除く。	77ページ
	2番スクリュの回転数が不足。	ベルトの張り	＊表を見て，テンションを張る。	92ページ

選別が悪い

すぐにすること	原　　因	点 検 箇 所	処　　置	参照ページ
[稲] ＊小枝梗が多い。 ＊穂切が多い。 [麦] ＊のげが取れない。 ＊稈が取れない。 (脱皮しない)	エンジン回転数が低い。	回転計	＊回転計をみながら，アクセルレバーで正規回転にする。	53ページ
	こぎ室送じん調節が開きすぎ。	こぎ室送じん調節	＊こぎ室送じん調節を**“標準”**又は**“閉”**の方向へ調節する。	53ページ
[稲・麦] 切わら・ゴミが入る。	エンジン回転数が低い。	回転計	＊回転計を見ながら，アクセルレバーで正規回転にする。	53ページ
	トウミ調節が弱すぎる。	トウミ調節ダイヤル	＊トウミ調節ダイヤルを**“強”**の方向へ調節する。	13ページ
	シーブケース波板補助の調節が開きすぎ。	シーブケース波板補助	＊シーブケース波板補助を機体後方へ調節する。	54ページ
	シーブケースの1番流し板部のハンプが正しく組込まれていない。	シーブケースの1番流し板のハンプ	＊シーブケースの1番流し板部のハンプを正しくセットする。	74ページ
[稲・麦] こく粒の傷みが多い。	エンジン回転数が高い。	回転計	＊回転計をみながらアクセルレバーで，指針を緑目盛の最下限に合せる。	53ページ
	こぎ室送じん調節が閉めすぎ。	こぎ室送じん調節	＊こぎ室送じん調節を**“開”**の方向へ調節する。	53ページ
	トウミ調節が強すぎる。	トウミ調節ダイヤル	＊トウミ調節ダイヤルを**“弱”**の方向へ調節する。	13ページ

カッタの切れわらが長くなった

すぐにすること	原　　因	点 検 箇 所	処　　置	参照ページ
＊刈取り作業を中止して，エンジンを必ず止める。	カッタの刃が切れない。	カッタの刃のラップ代	＊ラップ代が調節できない時は新しい刃と交換する。 ＊ジクウケプレートの取付け位置を調節して刃のラップ代を大きくする。	100ページ
	こぎ深さが深くなりすぎている。	＊こぎ深さ調節レバー（自動のとき） ＊手動こぎ深さスイッチ（手動のとき）	＊こぎ深さ調節レバーで脱こく機入口の**“こぎ深さ指示マーク”**の指示の位置に穂先を合せる。	37ページ
	カッタ刃のすき間が広い。	刃のすき間	＊すき間の調節	101ページ

ファンランプ，チェックランプが点滅する

すぐにすること	原　　因	点 検 箇 所	処　　置	参照ページ
＊刈取り作業を中止して，刈取りクラッチレバーを切る。 ＊エンジンを必ず止める。	＊自動装置の異常（チェックランプ） ＊正逆転ファン機構の異常（ファンランプ）	―	＊販売店・ＪＡ農協・弊社支店又は㈱クボタアグリにご相談ください。	―

付　表

主要諸元

【SR35】

農機型式名			クボタ　R9513G						
商品名			SR35G						
区分			SDW	SDMW	SSDRMW	SSDRMWQ	SDMTW	SSDRMTW	SDMTWQ
			——	SDMLW	SSDRMLW	——	SDMTLW	SSDRMTLW	SSDRMTLWQ
機体寸法	全長(mm)		4295						
	全幅(mm)		1850			2070	1850		2070
	全高(mm)		2270			2530	2270		2530
質量(kg)		G仕様	2535	2575	2585	2745	2585	2595	2745
			——	2620	2630	——	2630	2640	2800
エンジン	名称		クボタV2203-C-2						
	形式		水冷４サイクル４気筒立形ディーゼル						
	総排気量L(cc)		2.197 (2197)						
	出力/回転速度 kW/min^{-1} (PS/rpm)		25.7 (35) / 2500(2500)						
	使用燃料/タンク容量 (L)		ディーゼル軽油/50						
	始動方式		セルモータ式						
走行部	クローラ	中心距離(mm)	915						
		幅×接地長(mm)	400×1350	400×1368	400×1368	400×1368	400×1368	400×1368	400×1368
			——	450×1548	450×1548	——	450×1548	450×1548	450×1548
	平均接地圧 kPa(kg/cm^2)	G仕様	23.0(0.235)	23.1(0.235)	23.1(0.236)	24.6(0.251)	23.1(0.236)	25.2(0.237)	24.6(0.251)
			——	23.4(0.239)	18.5(0.189)	——	18.3(0.189)	18.6(0.189)	19.7(0.201)
	変速方式		スカイロードマチックHST						
	走行速度(m/s)	前進	(副変速) 倒伏：0～0.98　標準：0～1.40　走行：0～2.46						
		後進							
	旋回方式		ブレーキターン				スピン(ブレーキ)ターン，ソフトターン		
刈取部	刈幅(mm)		1150～1200						
	刈取り条数(条)		3						
	刃幅(mm)		1150						
	刈高さ範囲(mm)		35～150						
	適応作物範囲(全長)(mm)		550～1300						
	倒伏適応性(度)		追刈：85°以下・向刈：70°以下						
	変速段数 (刈取り・引起し)		走行副変速同調２段＋引起し２段						
脱こく部	脱こく方式		下こぎ，単胴，軸流式						
	こぎ胴	径×幅(mm)	424×800						
		回転数 min^{-1} (rpm)	480 (480)						
	処理胴 (1) 径×幅(mm)		240×100 (２番処理胴)						
	処理胴 (2) 径×幅(mm)		140×725 (拡散胴)						
	２番オーガ還元		○						
	受あみ		樹脂						
	選別方式		揺動・圧風・全幅吸引						
	メンテナンス		こぎ室受あみ工具なし脱着，２番受樋オープン，こぎ胴オープン，シーブケーススライド脱着						

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

【SR35】

農機型式名			クボタ　R9513G						
商品名			SR35G						
区分			SDW	SDMW	SSDRMW	SSDRMWQ	SDMTW	SSDRMTW	SDMTWQ
			——	SDMLW	SSDRMLW	——	SDMTLW	SSDRMTLW	SSDRMTLWQ
こく粒取出部	グレンタンク仕様	タンク容量(L)	900						
		排出方式・旋回範囲(度)	アンローダ・300						
		排出時間(秒)	約60						
		排出昇降範囲(度)	45						
		オーガ旋回・昇降方式	電動・油圧						
		タンクフルオープン	○						
わら処理部		工場出荷仕様	●カッタ　又は，●カッタ＋標準結束機 カッタ切断長さ：50／150mm切換え式　　切断刃：セラミック切断刃						
		オプション	標準結束機・ストンパ結束機・拡散装置・ドロッパ						
諸装置	自動化装置	自動こぎ深さ制御	○	○	○	○	○	○	○
		自動方向制御	○	○	○	○	○	○	○
		自動車速制御	○	○	○	○	○	○	○
		自動刈高さ制御	——	——	○	○	——	○	—— ○
		自動脱こく制御	○	○	○	○	○	○	○
		自動車体水平制御	——	○	○	○	○	○	○
		自動レール制御	——	——	○	○	——	○	—— ○
		エンジン正逆転ファン	——	——	——	——	——	——	——
		自動エンジン停止装置	○	○	○	○	○	○	○
		Gタンク仕様 アンローダ自動旋回	○	○	○	○	○	○	○
		刈取りオートクラッチ	○	○	○	○	○	○	○
	Gタンク仕様	張出しリモコン	——	——	——	——	——	——	——
		パイプロシャッタ	○	○	○	○	○	○	○
	ポジピタスイッチ		○	○	○	○	○	○	○
	キャビン		——	——	——	○	——	——	○
	集中注油装置		○	○	○	○	○	○	○
	警報装置		負荷，オーバヒート，供給詰まり，２番詰まり， こぎ深さ，チャフ詰まり，もみ満杯，排わら詰まり						
	HST操作力軽減装置		電磁式ブレーキ解除						
	メンテナンス		エンジンルームオープン，カッタオープン，刈刃オープン，こぎ胴オープン，グレンタンクオープン						
	作業能率(分/10a)		15～20						

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

【SR35G2】

農機型式名			クボタ　R9513G				
商品名			SR35G				
区分			2SDW	2SDMW	2SSDRMW	——	2SSDRMTW
			——	2SDMLW	——	2SDMTLW	2SSDRMTLW
機体寸法	全長(mm)		4295				
	全幅(mm)		1850				
	全高(mm)		2050				
質量(kg)		G仕様	2535	2575	2585	——	2595
			——	2620	——	2630	2640
エンジン	名称		クボタV2203-C-2				
	形式		水冷４サイクル４気筒立形ディーゼル				
	総排気量L(cc)		2.197 (2197)				
	出力/回転速度 kW/min^{-1} (PS/rpm)		25.7 (35) / 2500(2500)				
	使用燃料/タンク容量 (L)		ディーゼル軽油/50				
	始動方式		セルモータ式				
走行部	クローラ	中心距離 (mm)	915				
		幅×接地長 (mm)	400×1350	400×1368	400×1368	——	400×1368
			——	450×1548	——	450×1548	450×1548
	平均接地圧 kPa(kg/cm^2)	G仕様	23.0(0.235)	23.1(0.235)	23.1(0.236)	——	25.2(0.237)
			——	18.3(0.188)	——	18.3(0.189)	18.6(0.189)
	変速方式		スカイロードマチックHST				
	走行速度 (m/s)	前進	(副変速) 倒伏：0～0.98　標準：0～1.40　走行：0～2.46				
		後進					
	旋回方式		ブレーキターン			スピン(ブレーキ)ターン, ソフトターン	
刈取部	刈幅(mm)		1150～1200				
	刈取り条数 (条)		3				
	刃幅(mm)		1150				
	刈高さ範囲(mm)		35～150				
	適応作物範囲(全長)(mm)		550～1300				
	倒伏適応性(度)		追刈：85°以下・向刈：70°以下				
	変速段数 (刈取り・引起し)		走行副変速同調２段＋引起し２段				
脱こく部	脱こく方式		下こぎ，単胴，軸流式				
	こぎ胴	径×幅(mm)	424×800				
		回転数 min^{-1} (rpm)	480 (480)				
	処理胴 (1)　径×幅(mm)		240×100 (２番処理胴)				
	処理胴 (2)　径×幅(mm)		140×725 (拡散胴)				
	２番オーガ還元		○				
	受あみ		樹脂				
	選別方式		揺動・圧風・全幅吸引				
	メンテナンス		こぎ室受あみ工具なし脱着，２番受樋オープン，こぎ胴オープン，シーブケーススライド脱着				

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

【SR35G2】

農機型式名			クボタ　R9513G				
商品名			SR35G				
区分			2SDW	2SDMW	2SSDRMW	——	2SSDRMTW
			——	2SDMLW	——	2SDMTLW	2SSDRMTLW
こく粒取出部	グレンタンク仕様	タンク容量(L)	1000				
		排出方式・旋回範囲(度)	アンローダ・300				
		排出時間(秒)	約70				
		排出昇降範囲(度)	45				
		オーガ旋回・昇降方式	電動・油圧				
		タンクフルオープン	○				
わら処理部		工場出荷仕様	●カッタ　又は，●カッタ＋標準結束機 カッタ切断長さ：50／150mm切換え式　　切断刃：セラミック切断刃				
		オプション	標準結束機・ストンパ結束機・拡散装置・ドロッパ				
諸装置	自動化装置	自動こぎ深さ制御	○	○	○	○	○
		自動方向制御	○	○	○	○	○
		自動車速制御	○	○	○	○	○
		自動刈高さ制御	——	——	○	——	○
		自動脱こく制御	○	○	○	○	○
		自動車体水平制御	——	○	○	○	○
		自動レール制御	——	——	○	——	○
		エンジン正逆転ファン	——	——	——	——	——
		自動エンジン停止装置	○	○	○	○	○
		Gタンク仕様 アンローダ自動旋回	○	○	○	○	○
		刈取りオートクラッチ	○	○	○	○	○
	Gタンク仕様	張出しリモコン	○	○	○	○	○
		パイプロシャッタ	○	○	○	○	○
	ポジピタスイッチ		○	○	○	○	○
	キャビン		——	——	——	——	——
	集中注油装置		○	○	○	○	○
	警報装置		負荷，オーバヒート，供給詰まり，２番詰まり， こぎ深さ，チャフ詰まり，もみ満杯，排わら詰まり				
	HST操作力軽減装置		電磁式ブレーキ解除				
	メンテナンス		エンジンルームオープン，カッタオープン，刈刃オープン，こぎ胴オープン，グレンタンクオープン				
	作業能率(分/10a)		15～20				

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

【SR40】

農機型式名			クボタ　R9512G					
商品名			SR40G					
区分			SDW	SDMW	SSDRMW	SSDRMWQ	SDMTW	SSDRMTW	SDMTWQ
			——	SDMLW	SSDRMLW	——	SDMTLW	SSDRMTLW	SSDRMTLWQ
機体寸法	全長(mm)		4295 (Gタンクオーガ含む4445)						
	全幅(mm)		1850			2070	1850		2070
	全高(mm)		2270			2530	2270		2530
質量(kg)		G仕様	2655	2695	2705	2865	2705	2715	2865
			——	2740	2750	——	2750	2760	2920
エンジン	名称		クボタV2203-C-1						
	形式		水冷４サイクル４気筒立形ディーゼル						
	総排気量L(cc)		2.197 (2197)						
	出力/回転速度 kW/min^{-1} (PS/rpm)		29.4 (40) / 2600 (2600)						
	使用燃料/タンク容量 (L)		ディーゼル軽油/50						
	始動方式		セルモータ式						
走行部	クローラ	中心距離 (mm)	1000						
		幅×接地長 (mm)	450×1350	450×1368	450×1368	450×1368	450×1368	450×1368	450×1368
			——	450×1548	450×1548	——	450×1548	450×1548	450×1548
	平均接地圧 kPa(kg/cm^2)	G仕様	21.4(0.219)	21.5(0.219)	21.5(0.220)	22.8(0.233)	21.5(0.220)	21.6(0.221)	22.8(0.233)
			——	21.8(0.223)	19.3(0.197)	——	19.3(0.197)	19.4(0.198)	20.5(0.210)
	変速方式		スカイロードマチックHST						
	走行速度 (m/s)	前進	(副変速) 倒伏：0～0.98　標準：0～1.40　走行：0～2.46						
		後進							
	旋回方式		ブレーキターン				スピン(ブレーキ)ターン，ソフトターン		
刈取部	刈幅(mm)		1400～1450						
	刈取り条数 (条)		4						
	刃幅(mm)		1386						
	刈高さ範囲(mm)		35～150						
	適応作物範囲 (全長) (mm)	標準	550～1300						
		H仕様	500～1200						
	倒伏適応性(度)		追刈：85°以下・向刈：70°以下						
	変速段数 (刈取り・引起し)		走行副変速同調２段＋引起し２段						
脱こく部	脱こく方式		下こぎ，単胴，軸流式						
	こぎ胴	径×幅(mm)	424×800						
		回転数 min^{-1} (rpm)	480 (480)						
	処理胴 (1)	径×幅(mm)	240×100 (２番処理胴)						
	処理胴 (2)	径×幅(mm)	140×725 (拡散胴)						
	２番オーガ還元		○						
	受あみ		樹脂						
	選別方式		揺動・圧風・全幅吸引						
	メンテナンス		こぎ室受あみ工具なし脱着，２番受樋オープン，こぎ胴オープン，シーブケーススライド脱着						

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

【SR40】

農機型式名			クボタ R9512G						
商品名			SR40G						
区分			SDW	SDMW	SSDRMW	SSDRMWQ	SDMTW	SSDRMTW	SDMTWQ
			——	SDMLW	SSDRMLW	——	SDMTLW	SSDRMTLW	SSDRMTLWQ
こく粒取出部	グレンタンク仕様	タンク容量(L)	900						
		排出方式・旋回範囲(度)	アンローダ・300						
		排出時間(秒)	約60						
		排出昇降範囲(度)	45						
		オーガ旋回・昇降方式	電動・油圧						
		タンクフルオープン	○						
わら処理部		工場出荷仕様	●カッタ 又は，●カッタ＋標準結束機 カッタ切断長さ：50／150mm切換え式　切断刃：セラミック切断刃						
		オプション	標準結束機・ストンパ結束機・拡散装置・ドロッパ						
諸装置	自動化装置	自動こぎ深さ制御	○	○	○	○	○	○	○
		自動方向制御	○	○	○	○	○	○	○
		自動車速制御	○	○	○	○	○	○	○
		自動刈高さ制御	——	——	○	○	——	○	—— ○
		自動脱こく制御	○	○	○	○	○	○	○
		自動車体水平制御	——	○	○	○	○	○	○
		自動レール制御	——	——	○	○	——	○	—— ○
		エンジン正逆転ファン	——	——	——	——	——	——	——
		自動エンジン停止装置	○	○	○	○	○	○	○
		Gタンク仕様 アンローダ自動旋回	○	○	○	○	○	○	○
		刈取りオートクラッチ	○	○	○	○	○	○	○
	Gタンク仕様	張出しリモコン	——	——	——	——	——	——	——
		パイプロシャッタ	○	○	○	○	○	○	○
	ポジピタスイッチ		○	○	○	○	○	○	○
	キャビン		——	——	——	○	——	——	○
	集中注油装置		○	○	○	○	○	○	○
	警報装置		負荷，オーバヒート，供給詰まり，２番詰まり， こぎ深さ，チャフ詰まり，もみ満杯，排わら詰まり						
	HST操作力軽減装置		電磁式ブレーキ解除						
	メンテナンス		エンジンルームオープン,カッタオープン,刈刃オープン,こぎ胴オープン,グレンタンクオープン						
	作業能率(分/10a)		12～30						

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

【SR40G2】

農機型式名			クボタ　R9512G				
商品名			SR40G				
区分			2SDW	2SDMW	2SSDRMW	——	2SSDRMTW
			——	2SDMLW	——	2SDMTLW	2SSDRMTLW
機体寸法	全長(mm)		4295 (Gタンクオーガ含む4445)				
	全幅(mm)		1850				
	全高(mm)		2050				
質量(kg)	G仕様		2655	2695	2705	——	2715
			——	2740	——	2750	2760
エンジン	名称		クボタV2203-C-1				
	形式		水冷４サイクル４気筒立形ディーゼル				
	総排気量L(cc)		2.197 (2197)				
	出力/回転速度 kW/min^{-1} (PS/rpm)		29.4 (40) / 2600 (2600)				
	使用燃料/タンク容量 (L)		ディーゼル軽油 / 50				
	始動方式		セルモータ式				
走行部	クローラ	中心距離 (mm)	1000				
		幅×接地長 (mm)	450×1350	450×1368	450×1368	——	450×1368
			——	450×1548	——	450×1548	450×1548
	平均接地圧 kPa(kg/cm^2)	G仕様	21.4(0.219)	21.5(0.219)	21.5(0.220)	——	21.6(0.221)
			——	19.3(0.197)	——	19.3(0.197)	19.4(0.198)
	変速方式		スカイロードマチックHST				
	走行速度 (m/s)	前進	(副変速) 倒伏：0～0.98　標準：0～1.40　走行：0～2.46				
		後進					
	旋回方式		ブレーキターン			スピン(ブレーキ)ターン，ソフトターン	
刈取部	刈幅(mm)		1400～1450				
	刈取り条数 (条)		4				
	刃幅(mm)		1386				
	刈高さ範囲(mm)		35～150				
	適応作物範囲 (全長) (mm)	標準	550～1300				
		H仕様	500～1200				
	倒伏適応性(度)		追刈：85°以下・向刈：70°以下				
	変速段数 (刈取り・引起し)		走行副変速同調２段＋引起し２段				
脱こく部	脱こく方式		下こぎ，単胴，軸流式				
	こぎ胴	径×幅(mm)	424×800				
		回転数 min^{-1} (rpm)	480 (480)				
	処理胴 (1) 径×幅(mm)		240×100 (２番処理胴)				
	処理胴 (2) 径×幅(mm)		140×725 (拡散胴)				
	２番オーガ還元		○				
	受あみ		樹脂				
	選別方式		揺動・圧風・全幅吸引				
	メンテナンス		こぎ室受あみ工具なし脱着，２番受樋オープン，こぎ胴オープン，シーブケーススライド脱着				

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

【SR40G2】

農機型式名			クボタ　R9512G				
商品名			SR40G				
区分			2SDW	2SDMW	2SSDRMW	——	2SSDRMTW
			——	2SDMLW	——	2SDMTLW	2SSDRMTLW
こく粒取出部	グレンタンク仕様	タンク容量(L)	1000				
		排出方式・旋回範囲(度)	アンローダ・300				
		排出時間(秒)	約70				
		排出昇降範囲(度)	45				
		オーガ旋回・昇降方式	電動・油圧				
		タンクフルオープン	○				
わら処理部		工場出荷仕様	●カッタ　又は，●カッタ＋標準結束機 カッタ切断長さ：50／150mm切換え式　　切断刃：セラミック切断刃				
		オプション	標準結束機・ストンパ結束機・拡散装置・ドロッパ				
諸装置	自動化装置	自動こぎ深さ制御	○	○	○	○	○
		自動方向制御	○	○	○	○	○
		自動車速制御	○	○	○	○	○
		自動刈高さ制御	——	——	○	——	○
		自動脱こく制御	○	○	○	○	○
		自動車体水平制御	——	○	○	○	○
		自動レール制御	——	——	○	——	○
		エンジン正逆転ファン	——	——	——	——	——
		自動エンジン停止装置	○	○	○	○	○
		Gタンク仕様 アンローダ自動旋回	○	○	○	○	○
		刈取りオートクラッチ	○	○	○	○	○
	Gタンク仕様	張出しリモコン	○	○	○	○	○
		パイプロシャッタ	○	○	○	○	○
	ポジピタスイッチ		○	○	○	○	○
	キャビン		——	——	——	——	——
	集中注油装置		○	○	○	○	○
	警報装置		負荷，オーバヒート，供給詰まり，２番詰まり， こぎ深さ，チャフ詰まり，もみ満杯，排わら詰まり				
	HST操作力軽減装置		電磁式ブレーキ解除				
	メンテナンス		エンジンルームオープン,カッタオープン,刈刃オープン,こぎ胴オープン,グレンタンクオープン				
	作業能率(分/10a)		12～30				

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

【SR45】

農機型式名			クボタ　R9511G						
商品名			SR45G						
区分			SDW	SDMW	SSDRMW	SSDRMWQ	SDMTW	SSDRMTW	SDMTWQ
			——	SDMLW	SSDRMLW	——	SDMTLW	SSDRMTLW	SSDRMTLWQ
機体寸法	全長(mm)		4295 (Gタンクオーガ含む4445)						
	全幅(mm)		1850			2070	1850		2070
	全高(mm)		2270			2530	2270		2530
質量(kg)	G仕様		2695	2735	2745	2915	2745	2755	2905
			——	2780	2790	——	2790	2800	2960
エンジン	名称		クボタV2203-C						
	形式		水冷4サイクル4気筒立形ディーゼル						
	総排気量L(cc)		2.197 (2197)						
	出力/回転速度 kW/min^{-1} (PS/rpm)		33.1 (45) / 2700 (2700)						
	使用燃料/タンク容量 (L)		ディーゼル軽油/50						
	始動方式		セルモータ式						
走行部	クローラ	中心距離 (mm)	1000						
		幅×接地長 (mm)	450×1350	450×1368	450×1368	450×1368	450×1368	450×1368	450×1368
			——	450×1548	450×1548	——	450×1548	450×1548	450×1548
	平均接地圧 kPa(kg/cm^2)	G仕様	21.7(0.221)	21.8(0.222)	23.2(0.238)	23.1(0.236)	21.8(0.223)	21.9(0.223)	23.1(0.236)
			——	22.1(0.226)	19.6(0.200)	——	19.6(0.200)	19.7(0.201)	20.8(0.212)
	変速方式		スカイロードマチックHST						
	走行速度 (m/s)	前進	(副変速) 倒伏：0～0.98　標準：0～1.40　走行：0～2.46						
		後進							
	旋回方式		ブレーキターン				スピン(ブレーキ)ターン，ソフトターン		
刈取部	刈幅(mm)		1400～1450						
	刈取り条数 (条)		4						
	刃幅(mm)		1386						
	刈高さ範囲(mm)		35～150						
	適応作物範囲 (全長) (mm)	標準	550～1300						
		H仕様	500～1200						
	倒伏適応性(度)		追刈：85°以下・向刈：70°以下						
	変速段数 (刈取り・引起し)		走行副変速同調2段＋引起し2段						
脱こく部	脱こく方式		下こぎ，単胴，軸流式						
	こぎ胴	径×幅(mm)	424×800						
		回転数 min^{-1} (rpm)	505 (505)						
	処理胴 (1)	径×幅(mm)	240×100 (2番処理胴)						
	処理胴 (2)	径×幅(mm)	140×725 (拡散胴)						
	2番オーガ還元		○						
	受あみ		樹脂						
	選別方式		揺動・圧風・全幅吸引						
	メンテナンス		こぎ室受あみ工具なし脱着，2番受樋オープン，こぎ胴オープン，シーブケーススライド脱着						

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

【SR45】

農機型式名			クボタ　R9511G						
商品名			SR45G						
区分			SDW	SDMW	SSDRMW	SSDRMWQ	SDMTW	SSDRMTW	SDMTWQ
			——	SDMLW	SSDRMLW	——	SDMTLW	SSDRMTLW	SSDRMTLWQ
こく粒取出部	グレンタンク仕様	タンク容量(L)	1200						
		排出方式・旋回範囲(度)	アンローダ・300						
		排出時間(秒)	約90						
		排出昇降範囲(度)	45						
		オーガ旋回・昇降方式	電動・油圧						
		タンクフルオープン	○						
わら処理部		工場出荷仕様	●カッタ　又は，●カッタ＋標準結束機 カッタ切断長さ：50／150mm切換え式　　切断刃：セラミック切断刃						
		オプション	標準結束機・ストンパ結束機・拡散装置・ドロッパ						
諸装置	自動化装置	自動こぎ深さ制御	○	○	○	○	○	○	○
		自動方向制御	○	○	○	○	○	○	○
		自動車速制御	○	○	○	○	○	○	○
		自動刈高さ制御	——	——	○	○	——	○	—— ○
		自動脱こく制御	○	○	○	○	○	○	○
		自動車体水平制御	——	○	○	○	○	○	○
		自動レール制御	——	——	○	○	——	○	—— ○
		エンジン正逆転ファン	——	——	——	——	——	——	——
		自動エンジン停止装置	○	○	○	○	○	○	○
		Gタンク仕様 アンローダ自動旋回	○	○	○	○	○	○	○
		刈取りオートクラッチ	○	○	○	○	○	○	○
	Gタンク仕様	張出しリモコン	○	○	○	○	○	○	○
		パイプロシャッタ	○	○	○	○	○	○	○
	ポジピタスイッチ		○	○	○	○	○	○	○
	キャビン		——	——	——	○	——	——	○
	集中注油装置		○	○	○	○	○	○	○
	警報装置		負荷，オーバヒート，供給詰まり，２番詰まり， こぎ深さ，チャフ詰まり，もみ満杯，排わら詰まり						
	HST操作力軽減装置		電磁式ブレーキ解除						
	メンテナンス		エンジンルームオープン,カッタオープン,刈刃オープン,こぎ胴オープン,グレンタンクオープン						
	作業能率(分/10a)		12～25						

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

【SR50】

農機型式名			クボタ　R9510G						
商品名			SR50G						
区分			SDW	SDMW	SSDRMW	SSDRMWQ	SDMTW	SSDRMTW	SDMTWQ
			——	SDMLW	SSDRMLW	——	SDMTLW	SSDRMTLW	SSDRMTLWQ
機体寸法	全長(mm)		4575 (Gタンクオーガ含む4725)						
	全幅(mm)		1920			2070	1920		2070
	全高(mm)		2380			2670	2380		2670
質量(kg)			2880	2920	2930	3100	2930	2940	3090
		G仕様	——	2980	2990	——	2990	3000	3160
エンジン	名称		クボタF2803-C-1						
	形式		水冷4サイクル5気筒立形ディーゼル						
	総排気量L(cc)		2.746 (2746)						
	出力/回転速度 kW/min^{-1} (PS/rpm)		36.8 (50) / 2500 (2500)						
	使用燃料/タンク容量 (L)		ディーゼル軽油/50						
	始動方式		セルモータ式						
走行部	クローラ	中心距離 (mm)	1035						
		幅×接地長 (mm)	450×1510	450×1510	450×1510	450×1510	450×1510	450×1510	450×1510
			——	450×1780	450×1780	——	450×1780	450×1780	450×1780
	平均接地圧 kPa(kg/cm^2)	G仕様	20.8(0.212)	21.1(0.215)	21.2(0.216)	22.3(0.228)	21.2(0.216)	21.2(0.216)	22.3(0.227)
			——	21.5(0.219)	18.3(0.187)	——	18.3(0.187)	18.3(0.187)	19.3(0.197)
	変速方式		スカイロードマチックHST						
	走行速度 (m/s)	前進	(副変速) 倒伏：0～0.98　標準：0～1.40　走行：0～2.46						
		後進							
	旋回方式		ブレーキターン				スピン(ブレーキ)ターン，ソフトターン		
刈取部	刈幅(mm)		1400～1450						
	刈取り条数 (条)		4						
	刃幅(mm)		1386						
	刈高さ範囲(mm)		35～150						
	適応作物範囲 (全長) (mm)	標準	550～1300						
		H仕様	500～1200						
	倒伏適応性(度)		追刈：85°以下・向刈：70°以下						
	変速段数 (刈取り・引起し)		走行副変速同調2段＋引起し2段						
脱こく部	脱こく方式		下こぎ，単胴，軸流式						
	こぎ胴	径×幅(mm)	424×1000						
		回転数 min^{-1} (rpm)	505 (505)						
	処理胴 (1) 径×幅(mm)		240×100 (2番処理胴)						
	処理胴 (2) 径×幅(mm)		140×725 (拡散胴)						
	2番オーガ還元		○						
	受あみ		樹脂						
	選別方式		揺動・圧風・全幅吸引・ストローラック方式						
	メンテナンス		こぎ室受あみ工具なし脱着，2番受樋オープン，こぎ胴オープン，シーブケーススライド脱着						

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

【SR50】

農機型式名			クボタ　R9510G						
商品名			SR50G						
区分			SDW	SDMW	SSDRMW	SSDRMWQ	SDMTW	SSDRMTW	SDMTWQ
			——	SDMLW	SSDRMLW	——	SDMTLW	SSDRMTLW	SSDRMTLWQ
こく粒取出部	グレンタンク仕様	タンク容量(L)	1500						
		排出方式・旋回範囲(度)	アンローダ・300						
		排出時間(秒)	約100						
		排出昇降範囲(度)	45						
		オーガ旋回・昇降方式	電動・油圧						
		タンクフルオープン	○						
わら処理部		工場出荷仕様	●カッタ　又は，●カッタ＋標準結束機 カッタ切断長さ：50／150mm切換え式　　切断刃：セラミック切断刃						
		オプション	標準結束機・ストンパ結束機・拡散装置・ドロッパ						
諸装置	自動化装置	自動こぎ深さ制御	○	○	○	○	○	○	○
		自動方向制御	○	○	○	○	○	○	○
		自動車速制御	○	○	○	○	○	○	○
		自動刈高さ制御	——	——	○	○	——	○	—— ○
		自動脱こく制御	○	○	○	○	○	○	○
		自動車体水平制御	——	○	○	○	○	○	○
		自動レール制御	——	——	○	○	——	○	—— ○
		エンジン正逆転ファン	——	——	——	——	——	——	——
		自動エンジン停止装置	○	○	○	○	○	○	○
		Gタンク仕様 アンローダ自動旋回	○	○	○	○	○	○	○
		刈取りオートクラッチ	○	○	○	○	○	○	○
	Gタンク仕様	張出しリモコン	——	——	——	——	——	——	——
		パイプロシャッタ	○	○	○	○	○	○	○
	ポジピタスイッチ		○	○	○	○	○	○	○
	キャビン		——	——	——	○	——	——	○
	集中注油装置		○	○	○	○	○	○	○
	警報装置		負荷，オーバヒート，供給詰まり，２番詰まり， こぎ深さ，チャフ詰まり，もみ満杯，排わら詰まり						
	HST操作力軽減装置		電磁式ブレーキ解除						
	メンテナンス		エンジンルームオープン,カッタオープン,刈刃オープン,こぎ胴オープン,グレンタンクオープン						
	作業能率(分/10a)		12～17						

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

【SR55】

農機型式名			クボタ　R9509G						
商品名			SR55G						
区分			SDW	SDMW	SSDRMW	SSDRMWQ	SDMTW	SSDRMTW	SDMTWQ
			——	SDMLW	SSDRMLW	——	SDMTLW	SSDRMTLW	SSDRMTLWQ
機体寸法	全長(mm)		4575 (Gタンクオーガ含む4725)						
	全幅(mm)		1920			2150	1920		2150
	全高(mm)		2380			2670	2380		2670
質量(kg)	G仕様		2950	2990	3000	3170	3000	3010	3160
			——	3050	3060	——	3060	3070	3230
エンジン	名称		クボタF2803-C						
	形式		水冷４サイクル５気筒立形ディーゼル						
	総排気量L(cc)		2.746 (2746)						
	出力/回転速度 kW/min^{-1} (PS/rpm)		40.5 (55) / 2700 (2700)						
	使用燃料/タンク容量 (L)		ディーゼル軽油/50						
	始動方式		セルモータ式						
走行部	クローラ	中心距離 (mm)	1155						
		幅×接地長 (mm)	450×1510	450×1510	450×1510	450×1510	450×1510	450×1510	450×1510
			——	450×1780	450×1780	——	450×1780	450×1780	450×1780
	平均接地圧 kPa(kg/cm^2)	G仕様	21.3(0.217)	21.6(0.222)	21.7(0.221)	22.9(0.233)	21.7(0.221)	21.7(0.221)	22.8(0.233)
			——	22.0(0.224)	18.7(0.191)	——	18.7(0.191)	18.8(0.192)	19.8(0.202)
	変速方式		スカイロードマチックHST						
	走行速度 (m/s)	前進	(副変速) 倒伏：0～0.98　標準：0～1.40　走行：0～2.46						
		後進							
	旋回方式		ブレーキターン				スピン(ブレーキ)ターン，ソフトターン		
刈取部	刈幅(mm)		1650～1700						
	刈取り条数 (条)		5						
	刃幅(mm)		1636						
	刈高さ範囲(mm)		35～150						
	適応作物範囲 (全長) (mm)	標準	550～1300						
		H仕様	500～1200						
	倒伏適応性(度)		追刈：85°以下・向刈：70°以下						
	変速段数 (刈取り・引起し)		走行副変速同調２段＋引起し３段						
脱こく部	脱こく方式		下こぎ，単胴，軸流式						
	こぎ胴	径×幅(mm)	424×1000						
		回転数 min^{-1} (rpm)	505 (505)						
	処理胴 (1)	径×幅(mm)	240×100 (２番処理胴)						
	処理胴 (2)	径×幅(mm)	140×725 (拡散胴)						
	２番オーガ還元		○						
	受あみ		樹脂						
	選別方式		揺動・圧風・全幅吸引・ストローラック方式						
	メンテナンス		こぎ室受あみ工具なし脱着，２番受樋オープン，こぎ胴オープン，シーブケーススライド脱着						

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

【SR55】

農機型式名			クボタ　R9509G						
商品名			SR55G						
区分			SDW	SDMW	SSDRMW	SSDRMWQ	SDMTW	SSDRMTW	SDMTWQ
			——	SDMLW	SSDRMLW	——	SDMTLW	SSDRMTLW	SSDRMTLWQ
こく粒取出部	グレンタンク仕様	タンク容量(L)	1500						
		排出方式・旋回範囲(度)	アンローダ・300						
		排出時間(秒)	約100						
		排出昇降範囲(度)	45						
		オーガ旋回・昇降方式	電動・油圧						
		タンクフルオープン	○						
わら処理部		工場出荷仕様	●カッタ　又は，●カッタ＋標準結束機 カッタ切断長さ：50／150mm切換え式　　切断刃：セラミック切断刃						
		オプション	標準結束機・ストンパ結束機・拡散装置・ドロッパ						
諸装置	自動化装置	自動こぎ深さ制御	○	○	○	○	○	○	○
		自動方向制御	○	○	○	○	○	○	○
		自動車速制御	○	○	○	○	○	○	○
		自動刈高さ制御	——	——	○	○	——	○	—— ○
		自動脱こく制御	○	○	○	○	○	○	○
		自動車体水平制御	——	○	○	○	○	○	○
		自動レール制御	——	——	○	○	——	○	—— ○
		エンジン正逆転ファン	——	——	——	——	——	——	——
		自動エンジン停止装置	○	○	○	○	○	○	○
		Gタンク仕様 アンローダ自動旋回	○	○	○	○	○	○	○
		刈取りオートクラッチ	○	○	○	○	○	○	○
	Gタンク仕様	張出しリモコン	——	——	——	——	——	——	——
		パイプロシャッタ	○	○	○	○	○	○	○
	ポジピタスイッチ		○	○	○	○	○	○	○
	キャビン		——	——	——	○	——	——	○
	集中注油装置		○	○	○	○	○	○	○
	警報装置		負荷，オーバヒート，供給詰まり，２番詰まり， こぎ深さ，チャフ詰まり，もみ満杯，排わら詰まり						
	HST操作力軽減装置		電磁式ブレーキ解除						
	メンテナンス		エンジンルームオープン,カッタオープン,刈刃オープン,こぎ胴オープン,グレンタンクオープン						
	作業能率(分/10a)		10～20						

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

【SR65】

農機型式名		クボタ　R9508G						
商品名		SR65G						
区分		SDW	SDMW	SSDRMW	SSDRMWQ	SDMTW	SSDRMTW	SDMTWQ
		——	SDMLW	SSDRMLW	——	SDMTLW	SSDRMTLW	SSDRMTLWQ
機体寸法	全長(mm)	4575 (Gタンクオーガ含む4725)						
	全幅(mm)	1920			2070	1920		2070
	全高(mm)	2380			2670	2380		2670
質量(kg)	G仕様	2960	3000	3010	3180	3010	3020	3170
		——	3060	3070	——	3070	3080	3240
エンジン	名称	クボタF2503-TE-C-1						
	形式	水冷４サイクル５気筒立形ディーゼル(ターボ)						
	総排気量L(cc)	2.499 (2499)						
	出力/回転速度 kW/min^{-1} (PS/rpm)	47.8 (65) / 2700 (2700)						
	使用燃料/タンク容量 (L)	ディーゼル軽油/50						
	始動方式	セルモータ式						
走行部	クローラ 中心距離(mm)	1155						
	クローラ 幅×接地長(mm)	450×1510	450×1510	450×1510	450×1510	450×1510	450×1510	450×1510
		——	450×1780	450×1780	——	450×1780	450×1780	450×1780
	平均接地圧 kPa(kg/cm^2) G仕様	21.4(0.218)	21.7(0.222)	21.7(0.222)	22.9(0.234)	21.7(0.221)	21.8(0.222)	22.9(0.233)
		——	22.1(0.225)	18.8(0.192)	——	18.8(0.192)	18.8(0.192)	19.8(0.202)
	変速方式	スカイロードマチックHST						
	走行速度(m/s) 前進	(副変速) 倒伏：0～0.98　標準：0～1.40　走行：0～2.46						
	走行速度(m/s) 後進							
	旋回方式	ブレーキターン				スピン(ブレーキ)ターン，ソフトターン		
刈取部	刈幅(mm)	1650～1700						
	刈取り条数(条)	5						
	刃幅(mm)	1636						
	刈高さ範囲(mm)	35～150						
	適応作物範囲(全長)(mm) 標準	550～1300						
	適応作物範囲(全長)(mm) H仕様	500～1200						
	倒伏適応性(度)	追刈：85°以下・向刈：70°以下						
	変速段数(刈取り・引起し)	走行副変速同調２段＋引起し３段						
脱こく部	脱こく方式	下こぎ，単胴，軸流式						
	こぎ胴 径×幅(mm)	424×1000						
	こぎ胴 回転数 min^{-1} (rpm)	505 (505)						
	処理胴(1) 径×幅(mm)	240×100 (２番処理胴)						
	処理胴(2) 径×幅(mm)	140×725 (拡散胴)						
	２番オーガ還元	○						
	受あみ	樹脂						
	選別方式	揺動・圧風・全幅吸引・ストローラック方式						
	メンテナンス	こぎ室受あみ工具なし脱着，２番受樋オープン，こぎ胴オープン，シーブケーススライド脱着						

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

【SR65】

農機型式名			クボタ　R9508G						
商品名			SR65G						
区分			SDW	SDMW	SSDRMW	SSDRMWQ	SDMTW	SSDRMTW	SDMTWQ
			——	SDMLW	SSDRMLW	——	SDMTLW	SSDRMTLW	SSDRMTLWQ
こく粒取出部	グレンタンク仕様	タンク容量(L)	1500						
		排出方式・旋回範囲(度)	アンローダ・300						
		排出時間(秒)	約100						
		排出昇降範囲(度)	45						
		オーガ旋回・昇降方式	電動・油圧						
		タンクフルオープン	○						
わら処理部		工場出荷仕様	●カッタ　又は，●カッタ＋標準結束機 カッタ切断長さ：50／150mm切換え式　　切断刃：セラミック切断刃						
		オプション	標準結束機・ストンパ結束機・拡散装置・ドロッパ						
諸装置	自動化装置	自動こぎ深さ制御	○	○	○	○	○	○	○
		自動方向制御	○	○	○	○	○	○	○
		自動車速制御	○	○	○	○	○	○	○
		自動刈高さ制御	——	——	○	○	——	○	—— ○
		自動脱こく制御	○	○	○	○	○	○	○
		自動車体水平制御	——	○	○	○	○	○	○
		自動レール制御	——	——	○	○	——	○	—— ○
		エンジン正逆転ファン	○	○	○	○	○	○	○
		自動エンジン停止装置	○	○	○	○	○	○	○
		Gタンク仕様 アンローダ自動旋回	○	○	○	○	○	○	○
		刈取りオートクラッチ	○	○	○	○	○	○	○
	Gタンク仕様	張出しリモコン	——	——	——	——	——	——	——
		バイブロシャッタ	○	○	○	○	○	○	○
	ポジピタスイッチ		○	○	○	○	○	○	○
	キャビン		——	——	——	○	——	——	○
	集中注油装置		○	○	○	○	○	○	○
	警報装置		負荷，オーバヒート，供給詰まり，２番詰まり， こぎ深さ，チャフ詰まり，もみ満杯，排わら詰まり						
	HST操作力軽減装置		電磁式ブレーキ解除						
	メンテナンス		エンジンルームオープン，カッタオープン，刈刃オープン，こぎ胴オープン， グレンタンクオープン，エンジン正逆転ファン						
	作業能率(分/10a)		10～15						

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

【SR75】

農機型式名			クボタ　R9405G					
商品名			SR75G					
区分		SDW	SDMW	SSDRMW	SSDRMTWQ	SDMTW	SSDRMTW	SDMTWQ
		——	SDMLW	SSDRMLW	SSDRMWQ	SDMTLW	SSDRMTLW	SSDRMTLWQ
機体寸法	全長(mm)	4675 (Gタンクオーガ含む4825)						
	全幅(mm)	2070			2150	2070		2150
	全高(mm)	2380			2670	2380		2670
質量(kg)	G仕様	3185	3225	3235	3405	3235	3245	3395
		——	3285	3295		3295	3305	3465
エンジン	名称	クボタF2503-TE-C						
	形式	水冷４サイクル５気筒立形ディーゼル(ターボ)						
	総排気量L(cc)	2.499 (2499)						
	出力/回転速度 kW/min^{-1} (PS/rpm)	55.2 (75) / 2800 (2800)						
	使用燃料/タンク容量 (L)	ディーゼル軽油/50						
	始動方式	セルモータ式						
走行部	クローラ 中心距離(mm)	1155						
	クローラ 幅×接地長(mm)	500×1510	500×1510	500×1510	500×1510	500×1510	500×1510	500×1510
		——	500×1780	500×1780	500×1510	500×1780	500×1780	500×1780
	平均接地圧 kPa(kg/cm^2) G仕様	20.7(0.211)	20.9(0.213)	21.0(0.214)	22.1(0.226)	21.0(0.214)	21.1(0.215)	22.0(0.225)
		——	18.1(0.185)	18.1(0.185)		18.1(0.185)	18.2(0.186)	19.1(0.195)
	変速方式	スカイロードマチックHST						
	走行速度(m/s) 前進/後進	倒伏：0～0.98　標準：0～1.40　走行：0～2.46						
	旋回方式	ブレーキターン				スピン(ブレーキ)ターン，ソフトターン		
刈取部	刈幅(mm)	1975～2025						
	刈取り条数(条)	6						
	刃幅(mm)	1936						
	刈高さ範囲(mm)	35～150						
	適応作物範囲(全長)(mm) 標準	550～1300						
	適応作物範囲(全長)(mm) H仕様	500～1200						
	倒伏適応性(度)	追刈：85°以下・向刈：70°以下						
	変速段数(刈取り・引起し)	走行副変速同調２段＋引起し３段						
脱こく部	脱こく方式	下こぎ，単胴，軸流式						
	こぎ胴 径×幅(mm)	424×1000						
	こぎ胴 回転数 min^{-1} (rpm)	505 (505)						
	処理胴(1) 径×幅(mm)	240×100 (２番処理胴)						
	処理胴(2) 径×幅(mm)	140×725 (拡散胴)						
	２番オーガ還元	○						
	受あみ	樹脂						
	選別方式	揺動・圧風・全幅吸引・ストローラック方式						
	メンテナンス	こぎ室受あみ工具なし脱着，２番受樋オープン，こぎ胴オープン，シーブケーススライド脱着						

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

【SR75】

農機型式名			クボタ R9405G						
商品名			SR75G						
区分			SDW	SDMW	SSDRMW	SSDRMTWQ	SDMTW	SSDRMTW	SDMTWQ
			—	SDMLW	SSDRMLW	SSDRMWQ	SDMTLW	SSDRMTLW	SSDRMTLWQ
こく粒取出部	グレンタンク仕様	タンク容量(L)	1850						
		排出方式・旋回範囲(度)	アンローダ・300						
		排出時間(秒)	約120						
		排出昇降範囲(度)	45						
		オーガ旋回・昇降方式	電動・油圧						
		タンクフルオープン	○						
わら処理部		工場出荷仕様	●カッタ＋拡散装置　又は、●カッタ＋拡散装置＋標準結束機 カッタ切断長さ：50／150mm切換え式　　切断刃：セラミック切断刃						
		オプション	標準結束機・ストンパ結束機・ドロッパ						
諸装置	自動化装置	自動こぎ深さ制御	○	○	○	○	○	○	○
		自動方向制御	○	○	○	○	○	○	○
		自動車速制御	○	○	○	○	○	○	○
		自動刈高さ制御	—	—	○	○	—	○	— ○
		自動脱こく制御	○	○	○	○	○	○	○
		自動車体水平制御	—	○	○	○	○	○	○
		自動レール制御	—	—	○	○	—	○	— ○
		エンジン正逆転ファン	○	○	○	○	○	○	○
		自動エンジン停止装置	○	○	○	○	○	○	○
		Gタンク仕様 アンローダ自動旋回	○	○	○	○	○	○	○
		刈取りオートクラッチ	○	○	○	○	○	○	○
	Gタンク仕様	張出しリモコン	○	○	○	○	○	○	○
		パイプロシャッタ	○	○	○	○	○	○	○
	ポジピタスイッチ		○	○	○	○	○	○	○
	キャビン		—	—	—	○	—	—	○
	集中注油装置		○	○	○	○	○	○	○
	警報装置		負荷，オーバヒート，供給詰まり，２番詰まり， こぎ深さ，チャフ詰まり，もみ満杯，排わら詰まり						
	HST操作力軽減装置		電磁式ブレーキ解除						
	メンテナンス		エンジンルームオープン，カッタオープン，刈刃オープン， グレンタンクオープン，エンジン正逆転ファン						
	作業能率(分/10a)		9～13						

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

付属部品

次の部品が付属していますのでお調べください。

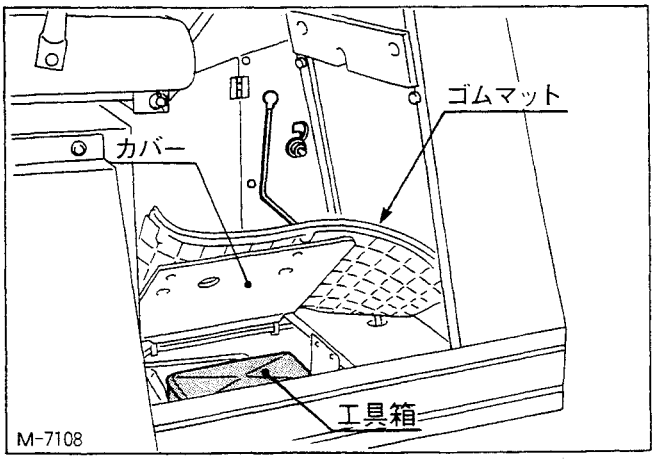
＊サービスブック	1
＊取扱説明書	1
＊ボディカバー	1
＊小物部品	1セット
＊刈取りスタンド	1セット
＊受あみ脱着金具	1
＊分草ガイド	1 (SR35･55･65)
＊分草ガイド	2 (SR75)
＊プレート（ナミイタホジョ２）	1 (SR50･55･65･75)
＊プレート（ストロラックウエ）	1 (SR55･65･75)
＊プレート（２，ハモノオサエ）	1
＊ガイド（ソウジン５）	1 (SR50･55･65･75)
＊ワラキリハ	5 (SR50･55･65･75)
＊刈取り下降速度切換ワイヤハーネス	1 (SR35)

＊工具

８－10スパナ	1
10－12スパナ	1
12－14スパナ	1
14－17スパナ	1
12－14ボックススパナ	1
ハンドル	1
⊕ドライバ	1
⊖ドライバ	1
プライヤ	1
油差し	1
じょうご	1
給油パイプ	1
10L型レンチ	1 (SR50･55･65･75)
12L型レンチ	1 (SR50･55･65･75)
14L型レンチ	1 (SR50･55･65･75)

補 足

＊工具箱(標準装備品)は，運転席席下(足元)に設置してあります。ゴムマットをめくり，カバーを開いてください。



特別付属品（別売）

■50mm／150mm切換えカッタ

50mmと150mmに切断することができます。

品　番	品　名	搭載型式
57747-00000	S-40CH	SR35･SR40･SR45
57746-00000	S-50CH	SR50･SR55･SR65
57745-00000	S-60CH	SR75

■カッタ後部装着用標準結束機

品　番	品　名	搭載型式
57962-00000	NK-50SY	SR35･SR40･SR45･SR50
57961-00000	NK-75SY	SR55･SR65･SR75

■カッタ後部装着用ストンパ結束機

品　番	品　名	搭載型式
57986-00000	NK-50SR	SR35･SR40･SR45･SR50
57985-00000	NK-75SR	SR55･SR65･SR75

■拡散装置

カッタで切断したわらを拡散及び条散布をすることができます。

品　番	品　名
57298-00000	W-60

■ドロッパ

着脱が簡単で，手元切換えがついています。

品　番	品　名
57289-00000	D-60

■標準結束機後付集束ドロッパ

NKシリーズの標準結束機に装着して，結束たばを１度につき３～４束を集束します。

品　番	品　名	搭載型式
57871-00000	DNK-75　集束ドロッパ	SR40·SR45·SR50 SR55·SR65·SR75
57873-00000	DNK-3　集束ドロッパ	SR35

■スイスイデバイダ

倒伏した作物が能率よく刈取りできます。

	品　番	品　名
３連	58170-00000	SRM75スイスイデバイダ【SR75】
	58172-00000	SRM65スイスイデバイダ【SR65】
２連	58174-00000	SRM50スイスイデバイダ【SR35·40·45·50】
１連	58171-00000	SRM75-Rスイスイデバイダ【SR75】
	58173-00000	SRM65-Rスイスイデバイダ【SR55·65】
	58175-00000	SRM50-Rスイスイデバイダ【SR40·45·50】
	58176-00000	SRM35-Rスイスイデバイダ【SR35】

■種子用交換部品

	品　番	品　名
①	53982-9130-0	コウカンブヒン,アッシ(シュシヨウ1)【SR50·55·65·75】
②	53982-9170-0	コウカンブヒン,アッシ(シュシヨウ2)【SR50·55·65·75】
－	53987-9130-0	コウカンブヒン,アッシ(シュシヨウ3)【SR35·40·45】

※【SR50·55·65·75】は，本機機番｛車台番号(１ページ参照)｝により部品が異なりますのでよくお確かめください。

	品　番	対象型式(車台番号)
①	53982-9130-0	●SR75(10001～10564) ●SR65(10001～10185) ●SR55(10001～10159) ●SR50(10001～10198)
②	53982-9170-0	●SR75(10565～)●SR55(10160～) ●SR65(10186～)●SR50(10199～)

■防じんカバー

運転席側へ飛散してくるゴミやちりを防ぐカバーです。

品　番	品　名
59700-9501-0	カバー，アッシ（ボウジン）【SR75】
59750-9501-0	カバー，アッシ（ボウジン）【SR55·65】
59780-9501-0	カバー，アッシ（ボウジン）【SR50】
59800-9501-0	カバー，アッシ（ボウジン）【SR40·45】
59839-9501-0	カバー，アッシ（ボウジン）【SR35】

■ハネ，アッシ

麦作業において，カッタ部へのくい込みが悪い場合使用してください。

品　番	品　名
57746-91101	ハネ，アッシ(53×165カキダシ)

■グレンタンク用延長アンローダ

品　番	品　名
55095-9101-0	延長アンローダアッシ【SR40·45】
55094-9101-0	延長アンローダアッシ【SR35】

■キャノピ

グレンタンク装着型の雨よけ，日よけです。

品　番	品　名
55230-95010	CP-75キャノピ【SR50·55·65·75】
55240-95010	CP-45キャノピ【SR35·40·45】

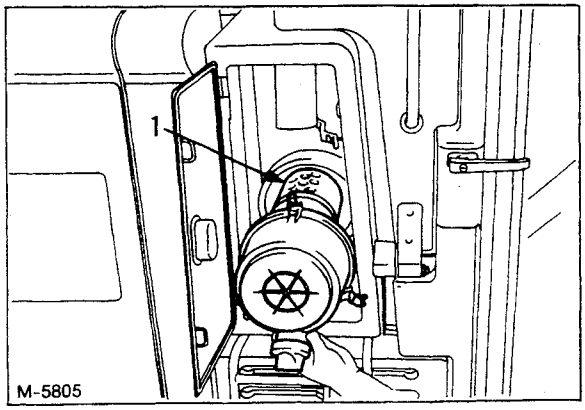
※SR40G2仕様除く

■結束ひも

	品　名	品　番
小径ひも	ヒモ(ジュート・テザック)	50080-9441-1
	ヒモ(ジュート・コイズミ)	50080-9442-1
	ヒモ(ハッポウ・テザック)	50080-9421-1
	ヒモ(ハッポウ・コイズミ)	50080-9422-1
	ヒモ(ハッポウ・ツカサ)	50080-9423-1
	ヒモ(ハッポウ・ダイニチ)	50080-9424-1
大径ひも	ヒモ(ジュートダイケイ・テザック)	57961-9441-1
	ヒモ(ハッポウダイケイ・テザック)	57961-9421-1
	ヒモ(ハッポウダイケイ・ダイニチ)	57961-9424-1

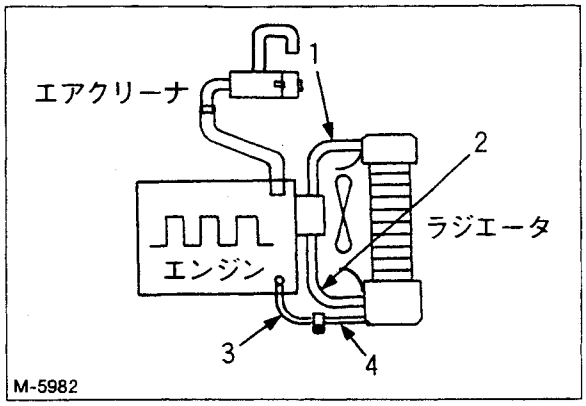
消耗部品

◆エアクリーナエレメント



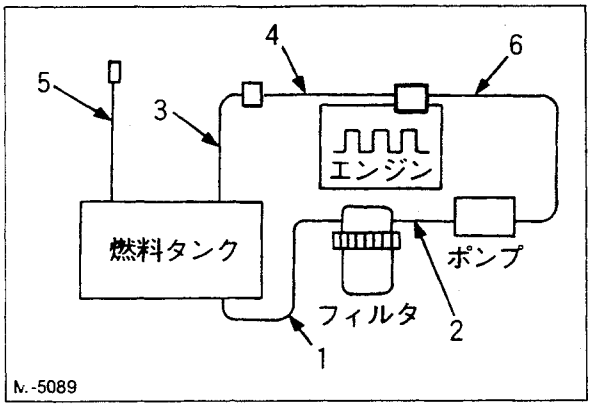
図番	品　名	品　番	適用機種
1	エアクリーナ エレメント	59800-2611-0	SR35·40·45
1	エアクリーナ エレメント	59700-2611-2	SR50·55·65·75

◆ラジエータホース



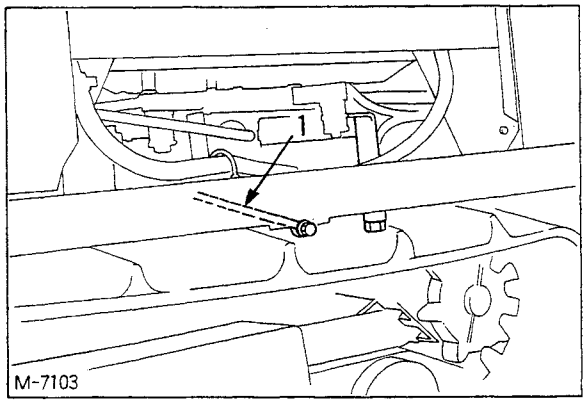
図番	品　名	品　番	適用機種
1	ホース(1，ウォータ)	52791-2527-0	SR35·40·45
1	ホース(1，ウォータ)	59766-2555-0	SR50·55
1	ホース(1，ウォータ)	59700-2555-0	SR65·75
2	ホース(2，ウォータ)	59700-2556-0	SR50·55·65·75
2	ホース(2，ウォータ)	59800-2528-0	SR35·40·45
3	ホース (ウォータリターン)	52791-2529-0	SR35·40·45
3	ホース(3，ウォータ)	59700-2557-0	SR50·55·65·75
4	ホース(4，ウォータ)	59700-2558-0	SR50·55·65·75

◆フューエルパイプ



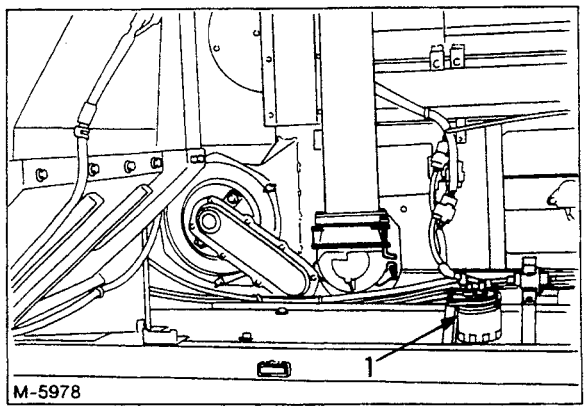
図番	品　名	品　番	適用機種
1	チューブ，アッシ (1，フューエル)	59800-2575-0	SR35·40·45
1	チューブ，アッシ (1，フューエル)	59700-2681-0	SR50·55·65·75
2	チューブ，アッシ (2，フューエル)	59700-2683-0	全機種
3	チューブ，アッシ (3，フューエル)	59800-2577-0	SR35·40·45
3	チューブ，アッシ (4，フューエル)	58600-2687-2	SR50·55·65·75
4	チューブ，アッシ (5，フューエル)	58600-2688-0	SR50·55·65·75
5	チューブ，アッシ (5，フューエル)	58600-2691-0	全機種
6	チューブ，アッシ (1，フューエル)	59800-2578-0	SR35·40·45
6	チューブ，アッシ (4，フューエル)	59700-2691-0	SR50·55·65·75

◆オイルドレーンゴムホース



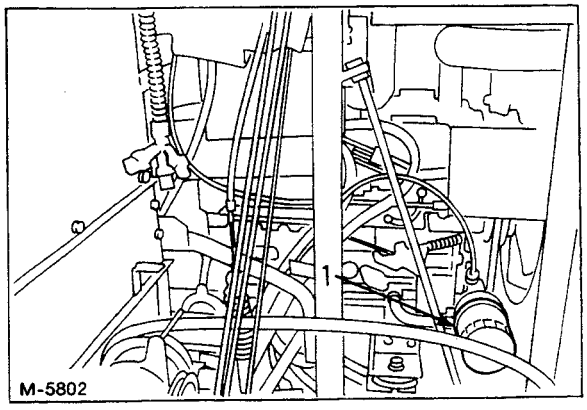
図番	品　名	品　番	適用機種
1	ホース(オイルドレーン)	52791-2116-0	SR35
1	オイルドレーンホース	52500-2116-0	SR40·45·55· 65·75
1	ホース(オイルドレーン)	59700-2116-0	SR50

◆フューエルフィルタアッシ



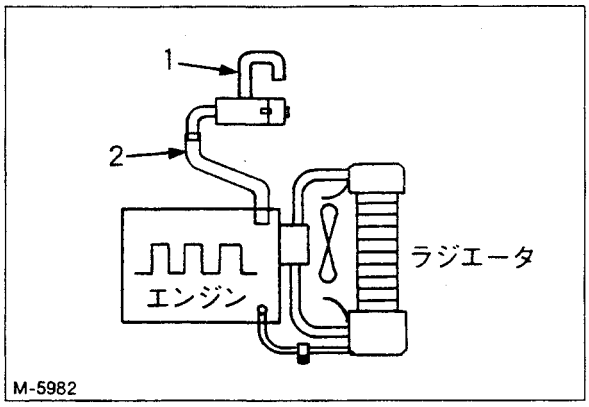
図番	品　名	品　番	適用機種
1	フューエルフィルタアッシ	59800-2675-0	SR35·40·45
1	フューエルフィルタアッシ	52200-2675-0	SR50·55·65·75

◆オイルフィルタカートリッジ



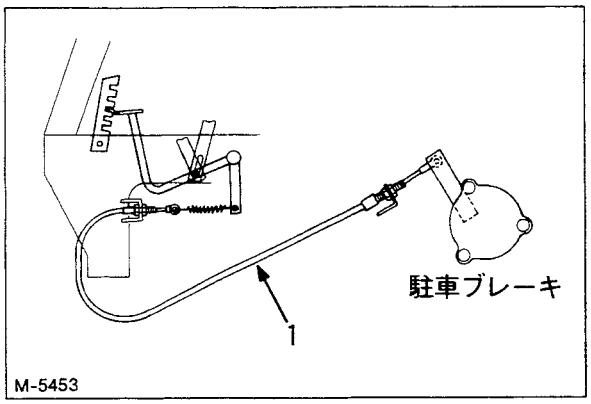
図番	品　名	品　番	適用機種
1	オイルフィルタカートリッジ	17321-3243-0	全機種

◆インレットパイプ



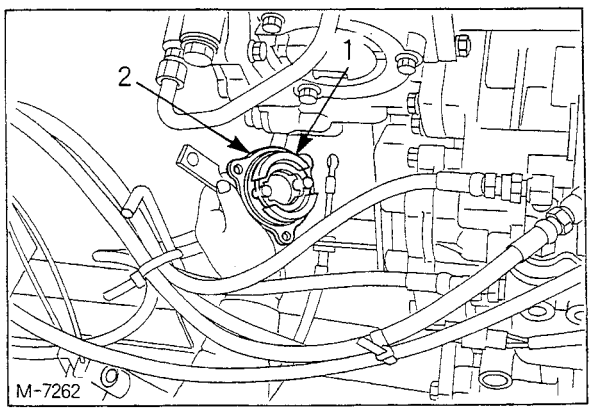
図番	品　名	品　番	適用機種
1	ホース(1,インレット)	59800-2541-0	SR35·40·45
1	ホース(1,インレット)	59700-2623-2	SR50·55·65·75
2	ホース(2,インレット)	59800-2542-0	SR35·40·45
2	ホース(2,インレット)	59766-2624-0	SR50·55·65·75

◆駐車ブレーキワイヤ



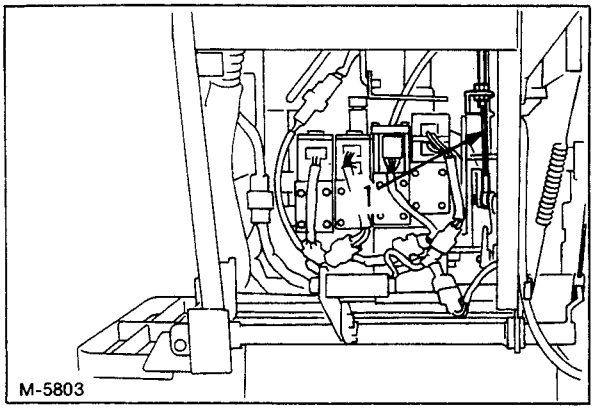
図番	品　名	品　番	適用機種
1	駐車ブレーキワイヤ	52270-3216-2	全機種

◆駐車ブレーキシュー



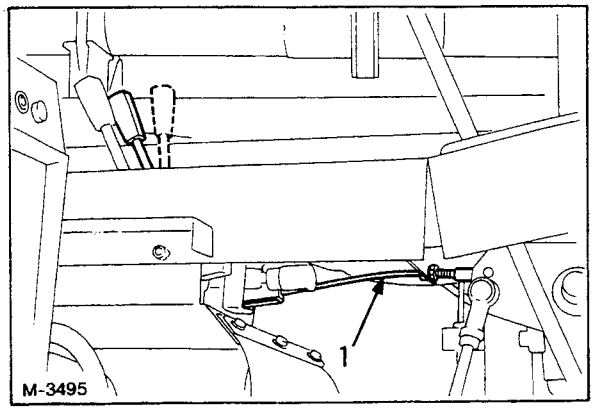
図番	品　名	品　番	適用機種
1	ブレーキシュー(チュウシャ)	52270-1838-0	全機種
2	ブレーキドラム(チュウシャ)	52270-1839-0	全機種

◆パワーブレーキワイヤ



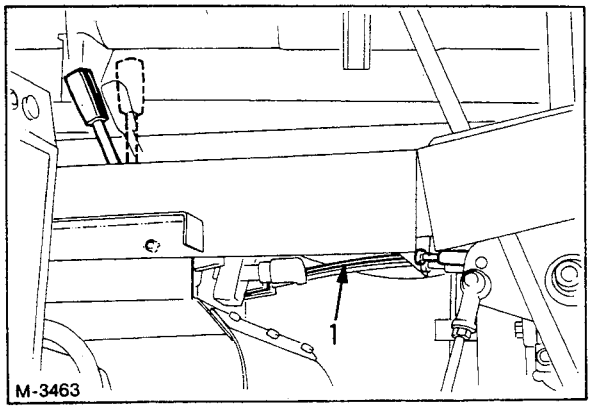
図番	品　名	品　番	適用機種
1	パワーブレーキワイヤ	52200-3363-3	全機種

◆脱こくクラッチワイヤ



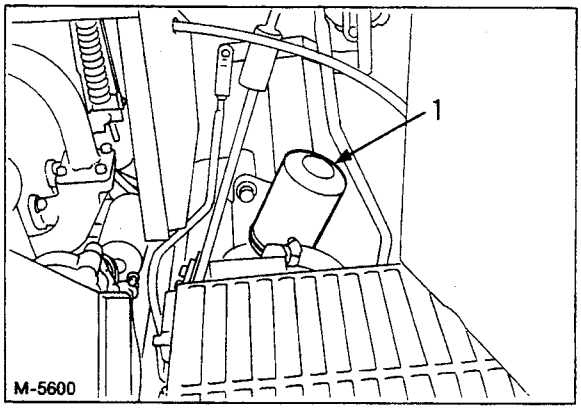
図番	品　名	品　番	適用機種
1	脱こくクラッチワイヤ	58600-3165-0	SR50·55·65·75

◆刈取りクラッチワイヤ



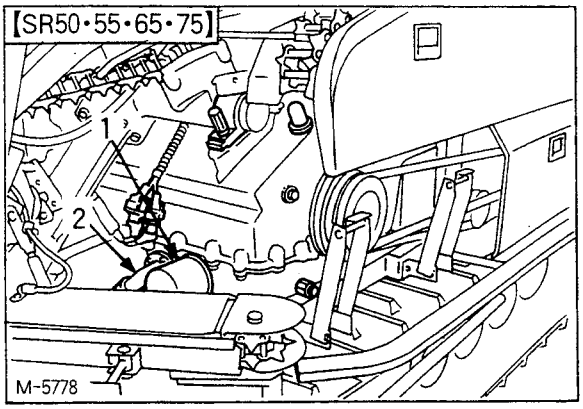
図番	品　名	品　番	適用機種
1	刈取りクラッチワイヤ	59700-3164-3	SR50·55·65·75

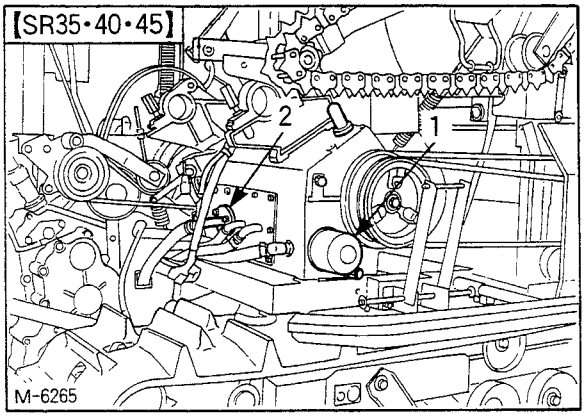
◆HSTオイルフィルタ



図番	品　名	品　番	適用機種
1	HSTオイルフィルタ	32701-3795-0	全機種

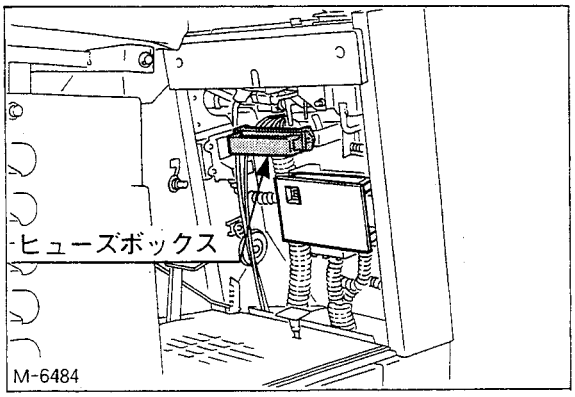
◆油圧オイルフィルタカートリッジ





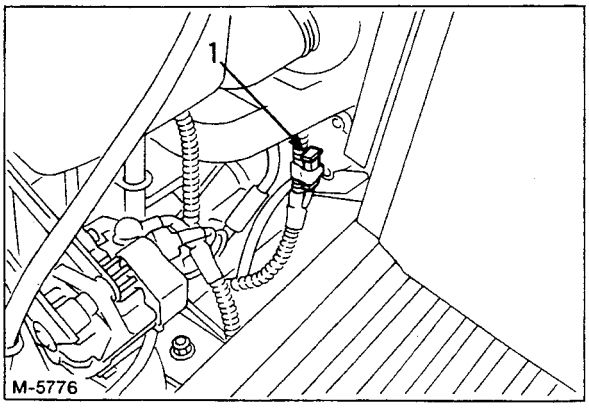
図番	品　名	品　番	適用機種
1	油圧オイルフィルタ カートリッジ	52200-1224-0	SR50·55·65·75
1	油圧オイルフィルタ	52500-1215-0	SR35·40·45
2	HST吸入フィルタ	58600-2751-2	SR50·55·65·75
2	HST吸入フィルタ	52849-2751-3	SR35·40·45

◆ヒューズ



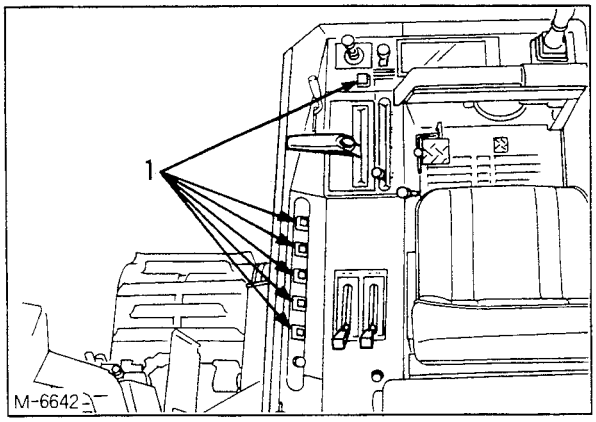
図番	品　名	品　番	適用機種
1	ヒューズ５A	37410-5552-0	全機種
2	ヒューズ7.5A	58622-4148-0	全機種
3	ヒューズ10A	36730-7555-0	全機種
4	ヒューズ15A	35820-7556-0	全機種
5	ヒューズ20A	36919-5665-0	全機種
6	ヒューズ25A	56605-4215-0	全機種
7	ヒューズ30A	52241-1162-0	全機種

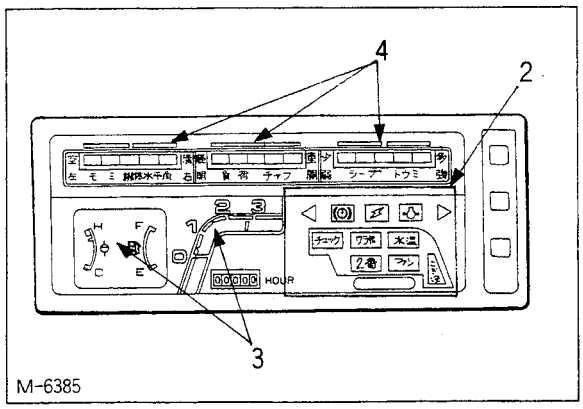
◆スローブローヒューズ

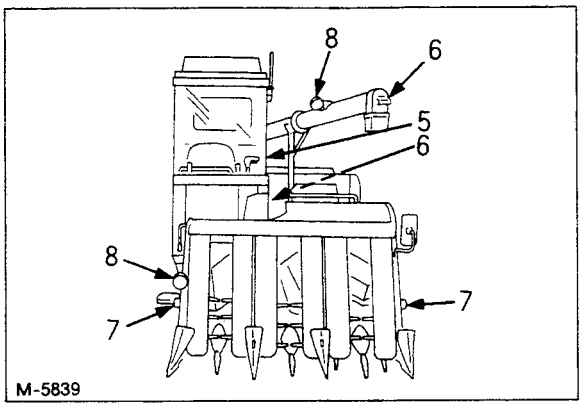


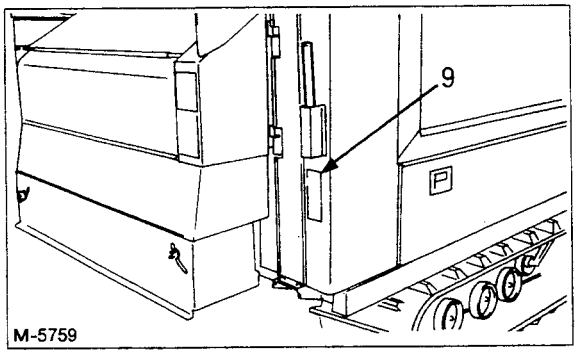
図番	品　名	品　番	適用機種
1	スローブローヒューズ	52200-4117-0	全機種

◆ランプ(電球)



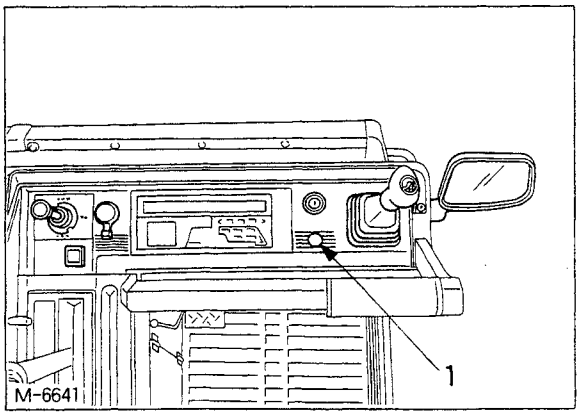






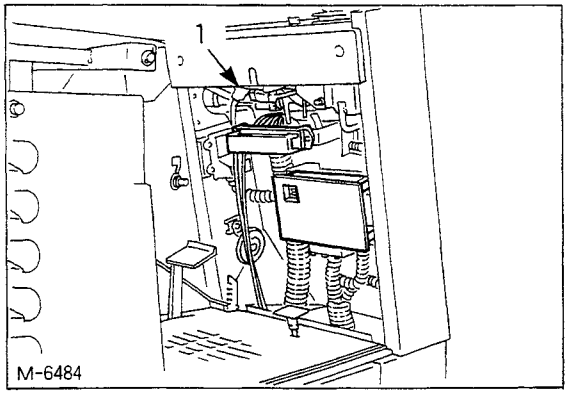
図番	品　名	品　番	適用機種
1	バルブ	52200-4233-0	SR75
1	ランプ付きスイッチ	59800-4251-0	SR35·40·45·50·55·65
2	バルブ	52300-4142-0	全機種
3	バルブ３W	52200-4152-0	全機種
4	バルブLCD	52200-4154-0	全機種
5	バルブ	66611-5513-0	全機種
6	バルブ(25W)	52200-4187-0	全機種
7	ランプバルブ	36200-7517-0	全機種
8	ランプバルブ	68311-5344-0	全機種
9	ランプバルブ	34150-3421-0	全機種

◆ブザー



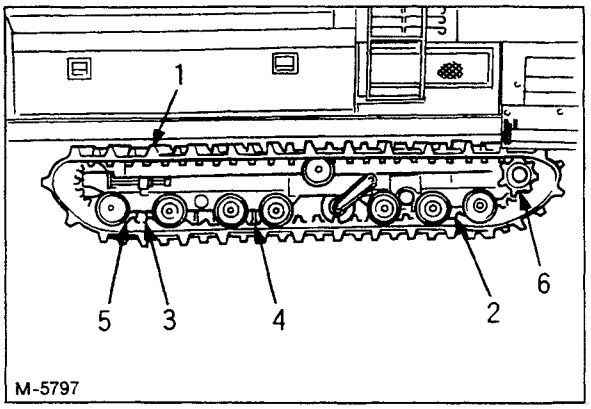
図番	品　名	品　番	適用機種
1	ホーンスイッチ	38240-3241-0	全機種

◆ケーブル(メータケーブル)



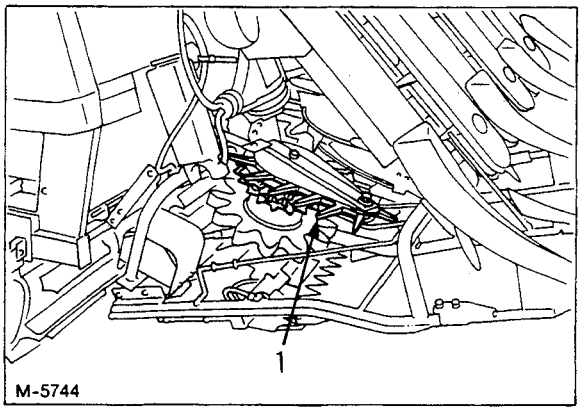
図番	品　名	品　番	適用機種
1	メータケーブル	52200-4155-2	SR50·55·65·75
1	メータケーブル	58511-4181-0	SR35·40·45

◆クローラ
◆クローラガイド



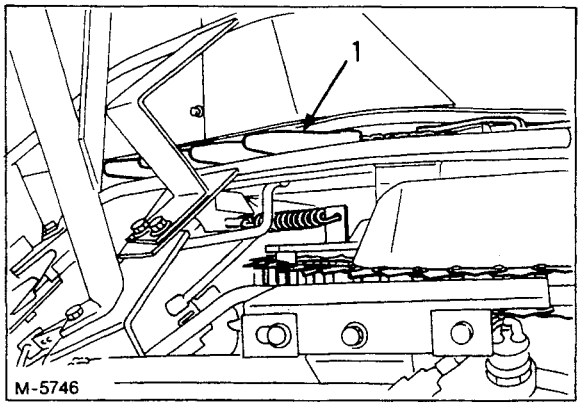
図番	品　名	品　番	適用機種
1	クローラ(400W，ゴム)	59839-2151-0	SR35 (S)
1	クローラ(450W，ゴム)	59800-2151-0	SR40·45 (S)
1	クローラ(450LW,ゴム)	59800-2152-0	SR35·40·45 (L)
1	クローラ(450W，ゴム)	59750-2312-0	SR50·55·65 (S)
1	クローラ(450LW,ゴム)	59750-2311-0	SR50·55·65 (L)
1	クローラ(500W，ゴム)	59700-2312-0	SR75 (S)
1	クローラ(500LW,ゴム)	59700-2311-0	SR75 (L)
2	ガイド(マエ,クローラ)	59800-2361-0	SR35·40·45 (L·S)
2	クローラガイド，マエ	52200-2341-0	SR50·55·65·75 (L·S)
3	ガイド (ウシロ，クローラ)	59800-2367-0	SR35·40·45 (S)
3	クローラガイド，ウシロ	52200-2342-0	SR50·55·65·75 (S)
4	ガイド(ナカ,クローラ)	59800-2364-0	SR35·40·45 (L)
4	ガイド (クローラ，ウシロ1)	52270-2342-0	SR50·55·65·75 (L)
5	ガイド (ウシロ，クローラ)	59800-2367-0	SR35·40·45 (L·S)
5	ガイド (クローラ，ウシロ2)	52270-2343-0	SR50·55·65·75 (L)
6	クドウスプロケット	52501-1645-0	SR35·40·45 (L·S)
6	ドライブローラ	59700-1645-0	SR50·55·65·75 (L·S)

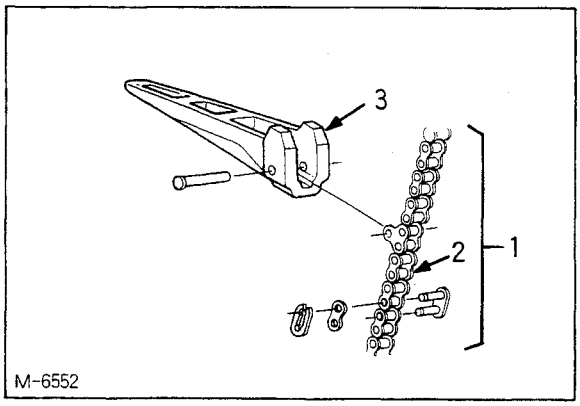
◆突起付きベルト



図番	品　名	品　番	適用機種
1	突起付きベルト	59780-6213-0	SR35·40·45·50
1	突起付きベルト	59700-6213-0	SR55·65·75

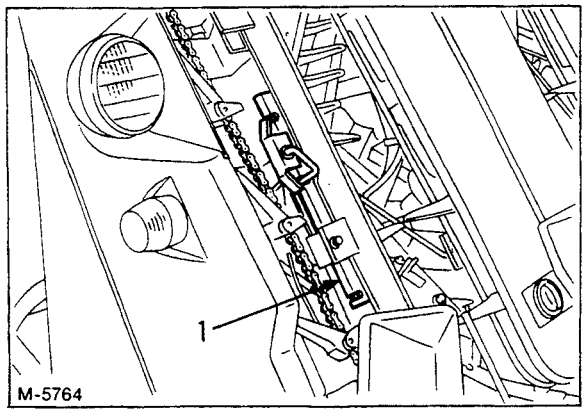
◆右穂先チェーン





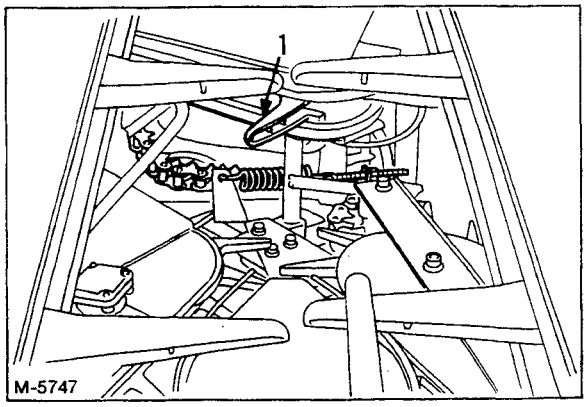
図番	品　名	品　番	適用機種
1	チェーンアッシ (R，ホサキツメ)	59839-6703-0	SR35
1	ミギホサキチェーンツメアッシ	52800-6703-0	SR40·45·50
1	ミギホサキチェーンツメアッシ	52200-6703-2	SR55·65
1	チェーンアッシ (R，ホサキツメ)	59700-6701-0	SR75
2	チェーンアッシ (R，ホサキツメ)	59839-6703-0	SR35
2	ミギホサキチェーンツメアッシ	52800-6730-0	SR40·45·50
		52200-6730-0	SR55·65
		59700-6710-0	SR75
3	ヒキオコシツメ	56713-5422-0	全機種

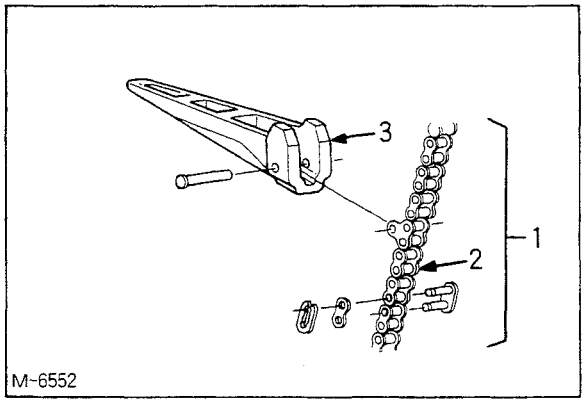
◆引起しスライドレール



図番	品　名	品　番	適用機種
1	引起しスライドレール	59700-5333-0	全機種

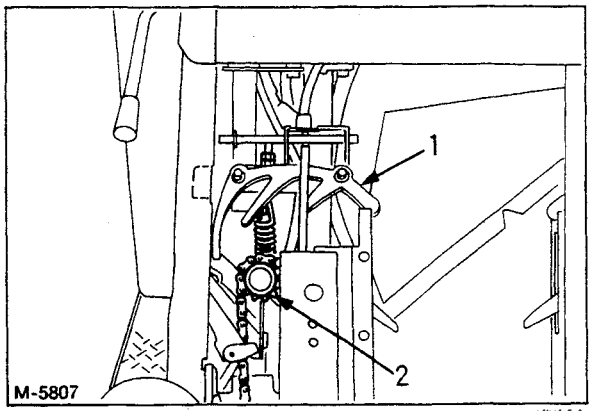
◆左穂先チェーン





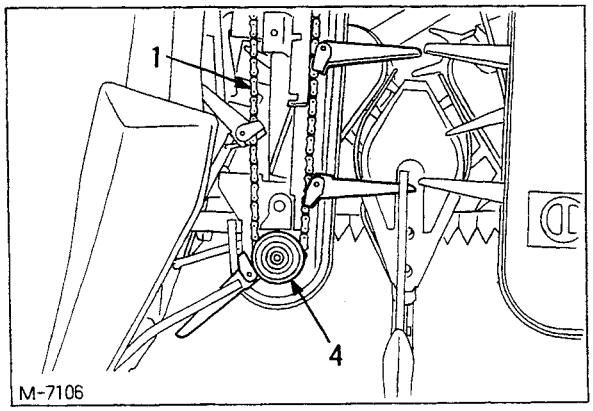
図番	品　名	品　番	適用機種
1	ヒダリホサキチェーンツメアッシ	56713-6501-2	SR35
1	ヒダリホサキチェーンツメアッシ	52800-6501-0	SR40·45·50
1	ヒダリホサキチェーンツメアッシ	52200-6501-0	SR55·65
1	チェーンアッシ (L，ホサキツメ)	59700-6501-0	SR75
2	ヒダリホサキチェーンアッシ	56713-6520-2	SR35
		52800-6520-0	SR40·45·50
		52200-6520-1	SR55·65
2	チェーンアッシ (L，ホサキ)	59700-6520-0	SR75
3	ハンソウツメ	56713-6523-0	全機種

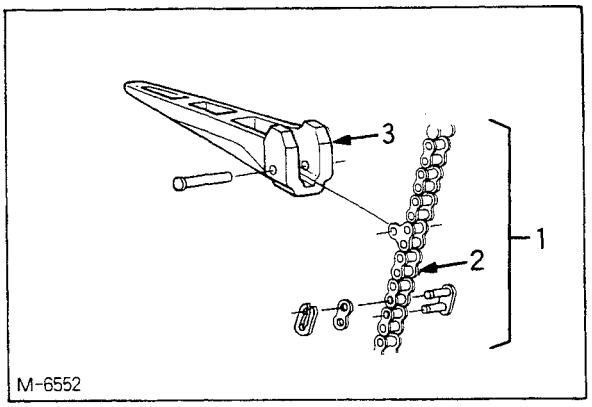
◆引起しクッションゴム
◆引起しテンションスプロケット



図番	品　名	品　番	適用機種
1	引起しクッションゴム	52200-5423-0	全機種
2	スプロケット アッシ(12)	59700-5414-0	全機種

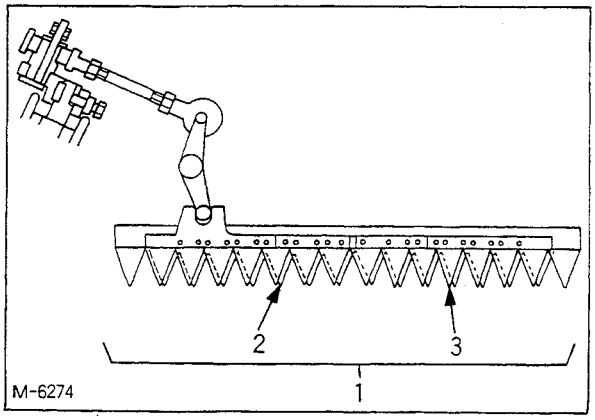
◆引起しチェーン
◆引起し65ローラ

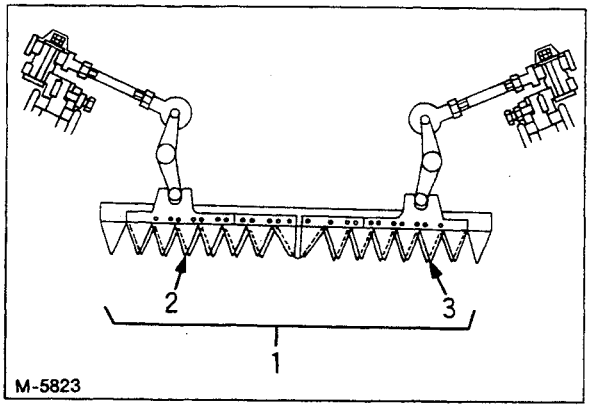




図番	品　名	品　番	適用機種
1	ヒキオコシチェーン ツメアッシ	52200-5401-0	全機種
2	ヒキオコシチェーン アッシ	52200-5410-0	全機種
3	ヒキオコシ爪	56713-5422-0	全機種
4	ローラ，アッシ(65)	59750-5416-0	全機種

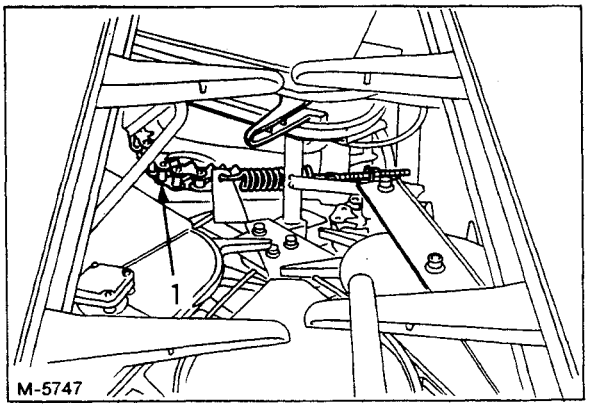
◆刈刃





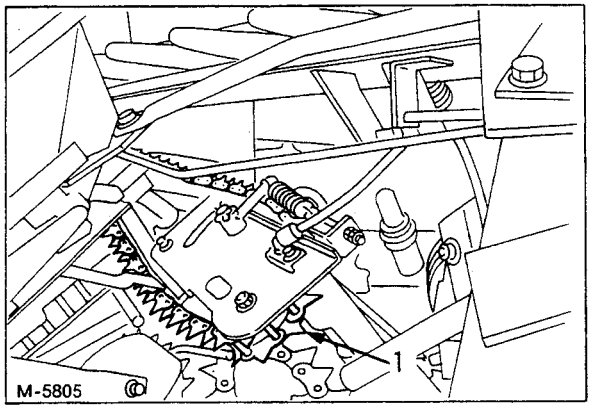
図番	品　名	品　番	適用機種
1	刈刃アッシ	59839-5901-0	SR35
1	刈刃アッシ	59780-5901-0	SR40·45·50
1	刈刃アッシ	59750-5901-0	SR55·65
1	刈刃アッシ	59700-5900-0	SR75
2	刈刃アッシ(R)	59700-5901-0	SR75
3	刈刃アッシ(L)	59700-5902-0	SR75

◆左株元チェーン



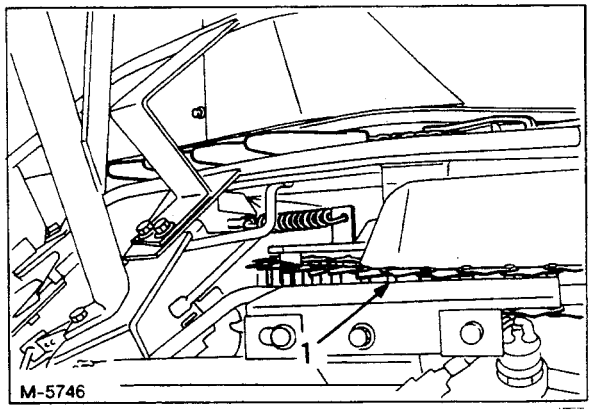
図番	品　名	品　番	適用機種
1	チェーンアッシ (35，ヒダリ)	52500-6320-0	SR35
1	チェーンアッシ(46)	52953-6320-0	SR40·45·50
1	チェーンアッシ (57，ミギ)	56713-6360-0	SR55·65
1	チェーンアッシ (65，ヒダリ)	59700-6320-0	SR75

◆右株元チェーン



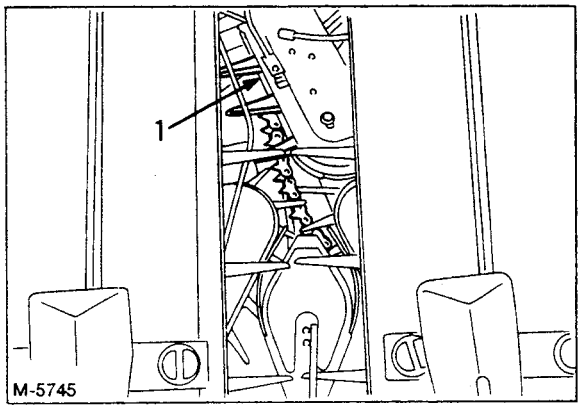
図番	品　名	品　番	適用機種
1	チェンアッシ (57，ミギ)	56713-6360-0	SR35
1	ミギカブモトチェン67	52800-6361-0	SR40·45·50
1	チェンアッシ (81，ミギ)	52200-6360-0	SR55·65
1	チェンアッシ (88，ミギ)	59700-6360-0	SR75

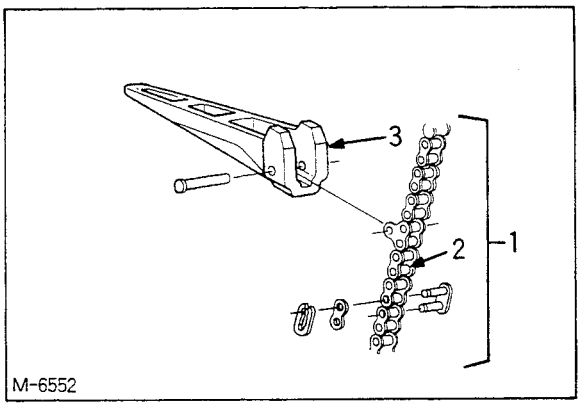
◆株元供給チェーン



図番	品　名	品　番	適用機種
1	チェーンアッシ (37，キョウキュウ)	59750-6610-0	SR35·40·45·50·55·65
1	チェーンアッシ (37，キョウキュウ)	56713-6610-0	SR75

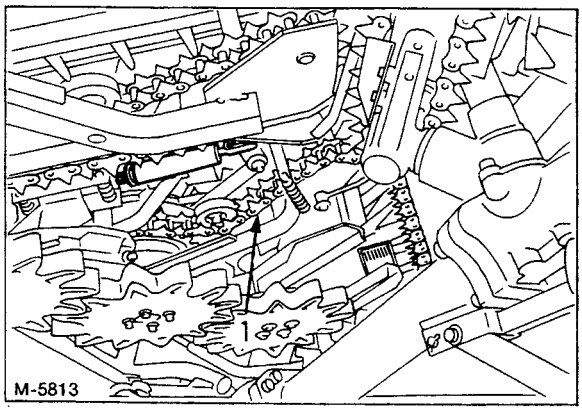
◆中穂先チェーン





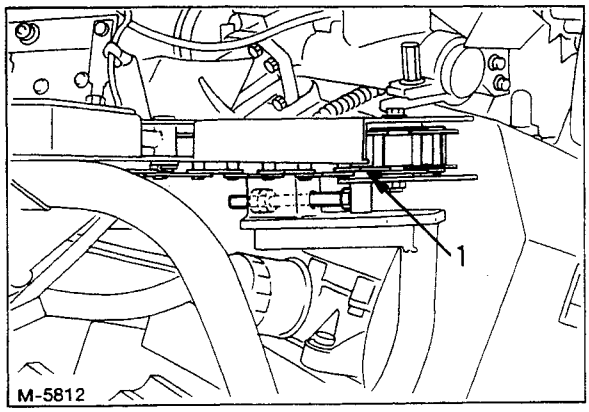
図番	品　名	品　番	適用機種
1	ナカホサキチェンツメアッシ	52200-6905-0	SR55·65·75
2	ナカホサキチェンアッシ	52200-6950-0	SR55·65·75
3	ハンソウ爪	56713-6523-0	SR55·65·75

◆中株元チェーン



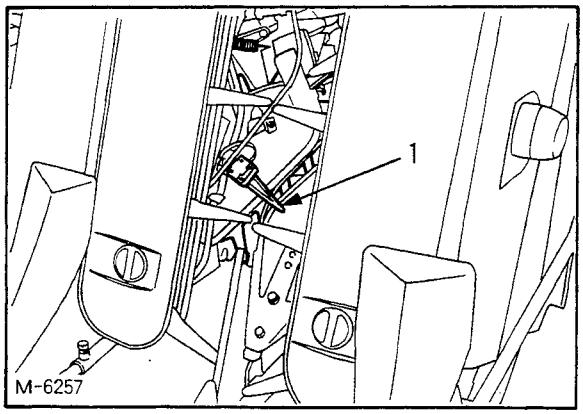
図番	品　名	品　番	適用機種
1	チェン，アッシ (32，ナカ)	52200-6910-4	SR55·65
1	チェン，アッシ (39，ナカ)	59700-6910-0	SR75

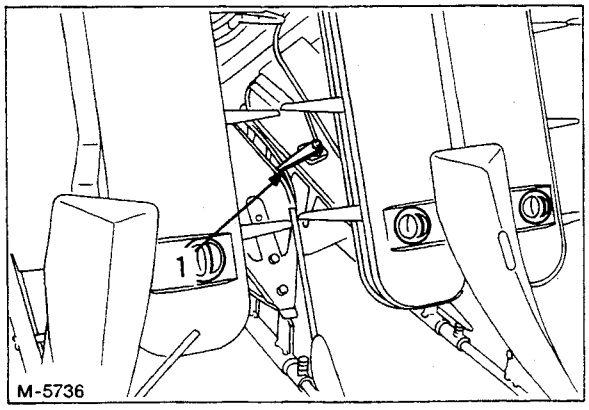
◆深さチェーン



図番	品　名	品　番	適用機種
1	チェン，アッシ (44，フカサ)	56713-7130-0	SR35
1	チェン，アッシ (46，フカサ)	52200-7130-4	SR40·45·50· 55·65·75

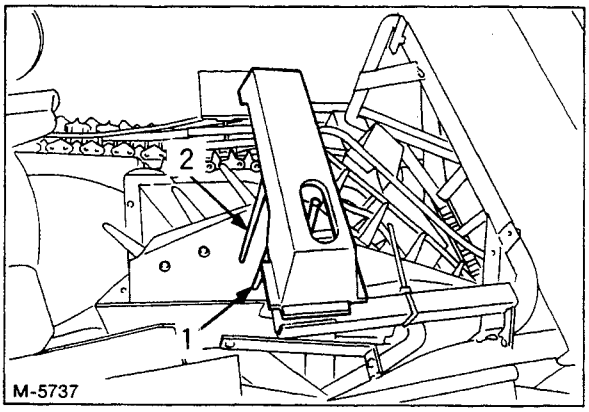
◆株元センサ





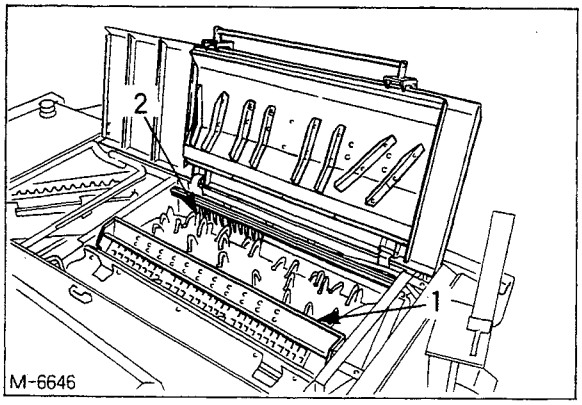
図番	品　名	品　番	適用機種
1	スイッチ，アッシ (カブモト)	59700-7503-0	全機種

◆穂先センサ(1,2)



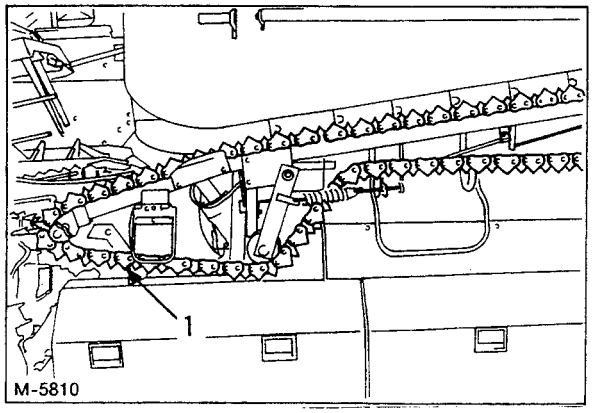
図番	品　名	品　番	適用機種
1	センサ，アッシ (2，ホサキ)	59839-7570-0	SR35
1	センサ，アッシ (1，ホサキ)	59700-7560-2	SR40·45·50· 55·65·75
2	センサ，アッシ (1，ホサキ)	59839-7560-0	SR35
2	ホサキセンサアッシ2	52600-9560-0	SR40·45·50· 55·65·75

◆わら切刃



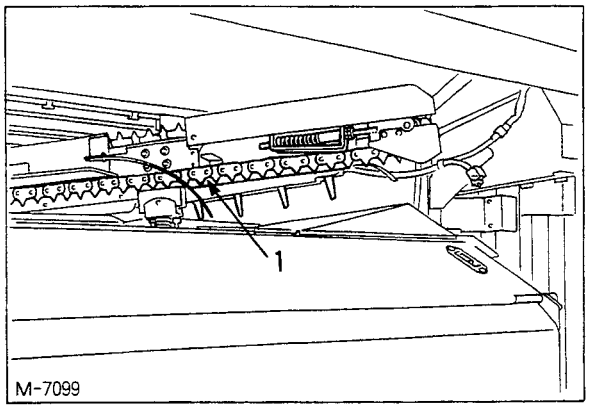
図番	品　名	品　番	適用機種
1	ワラキリハ	53843-2123-0	全機種
2	ワラキリハ	53567-1319-0	全機種

◆フィードチェーン



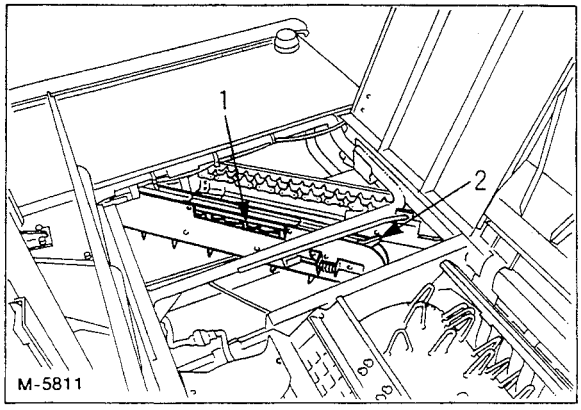
図番	品　名	品　番	適用機種
1	チェーン，アッシ(フィード)	53987-4211-0	SR35
1	チェーン，アッシ(フィード)	53985-4211-0	SR40･45
1	フィードチェーンアッシ	53962-4225-0	SR50
1	チェーン(フィード)，アッシ	53971-5341-0	SR55･65･75

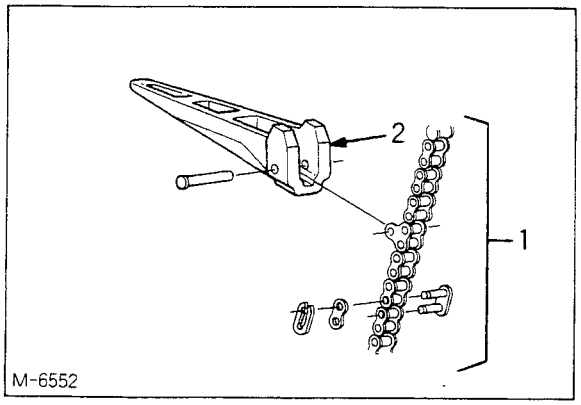
◆排わら株元チェーン



図番	品　名	品　番	適用機種
1	チェーン(ハイワラ)	53981-4311-0	全機種

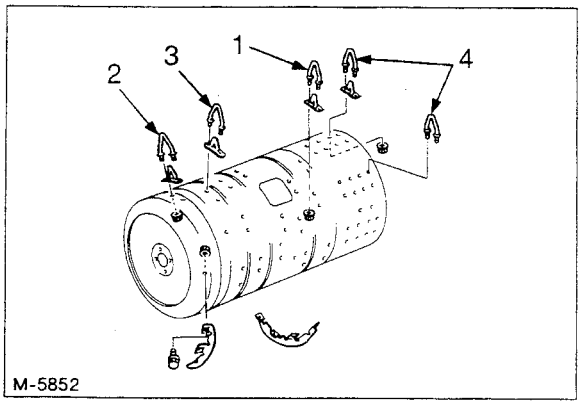
◆排わら穂先チェーン





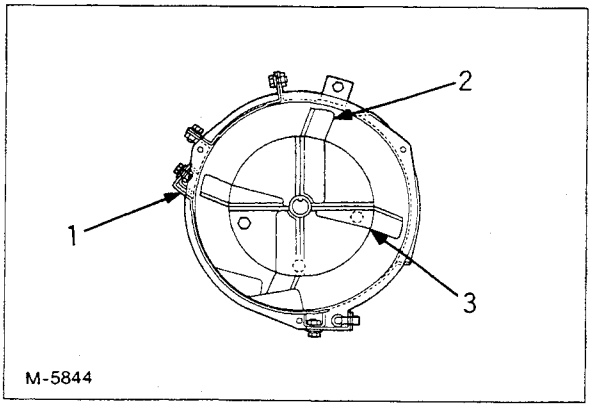
図番	品　名	品　番	適用機種
1	排わら穂先チェン，アッシ	53961-4410-2	全機種
2	ハンソウヅメ	53961-4421-0	全機種

◆こぎ歯



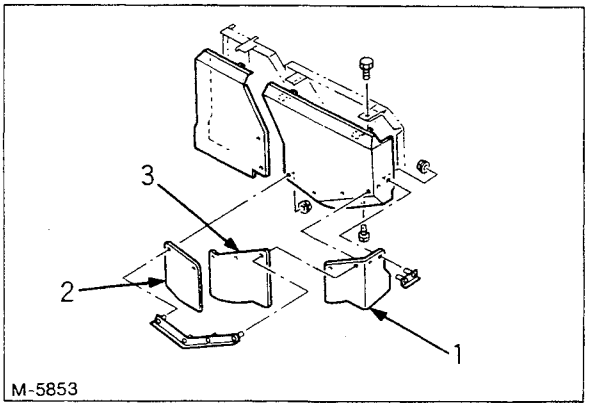
図番	品　名	品　番	適用機種
1	ナミハ	53821-2248-3	全機種
2	ダイ１ホキョウシ	53821-2244-0	全機種
3	ダイ２ホキョウシ	53821-2247-0	全機種
4	コキハ(ヘンケイ)	53981-2251-0	全機種

◆ツース（２番コテイバ）
◆ツース（２番ハネ）



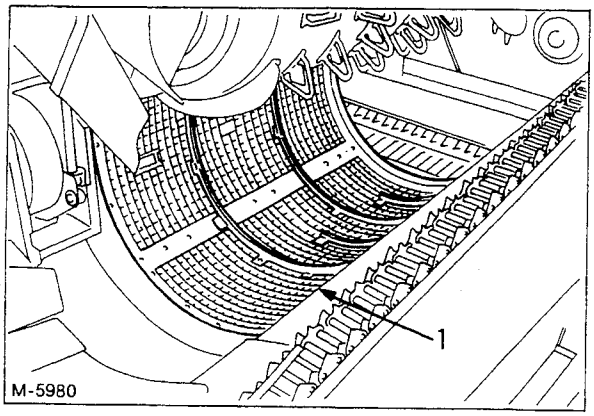
図番	品　名	品　番	適用機種
1	ツース(２バン)	53981-3136-0	全機種
2	ツース(２バンハネ １)	53971-3133-2	全機種
3	ツース(２バンハネ ２)	53971-3134-2	全機種

◆フロントハンプ



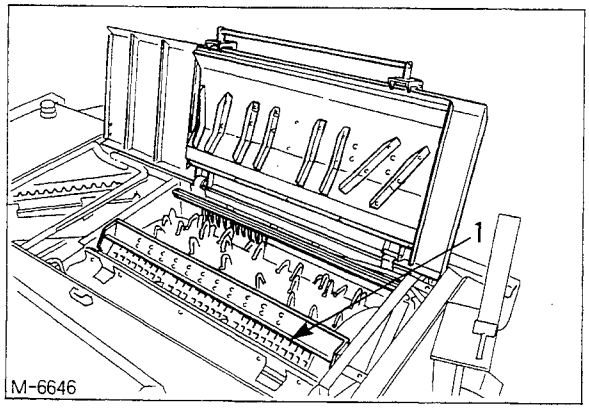
図番	品　名	品　番	適用機種
1	フロントハンプ１	53961-6114-0	全機種
2	フロントハンプ２	53961-6115-0	全機種
3	フロントハンプ３	53961-6116-0	全機種

◆樹脂受あみ



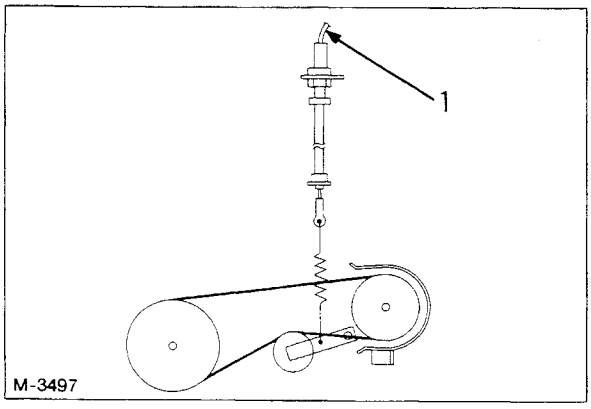
図番	品　名	品　番	適用機種
1	コンケーブ,アッシ(12)	53987-2120-0	SR35･40
1	コンケーブ,アッシ(15)	53985-2120-0	SR45
1	コンケーブ,アッシ(15)	53981-2120-4	SR50･55･65
1	コンケーブ,アッシ(15-17)	53981-2190-0	SR75

◆打抜きあみ



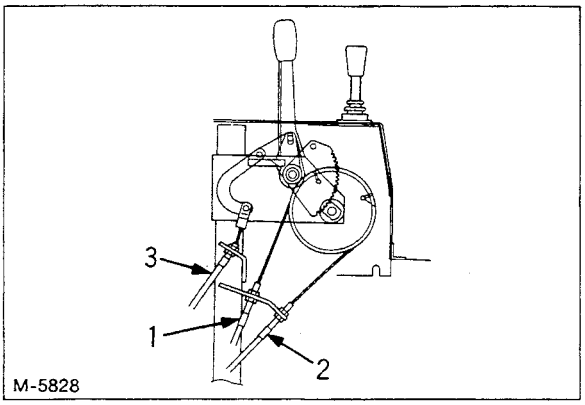
図番	品　名	品　番	適用機種
1	ライナ(ウチヌキアミ)	53985-2124-0	SR35･40･45
1	ライナ(ウチヌキアミ)	53981-2124-0	SR50･55･65･75

◆もみ排出クラッチワイヤ



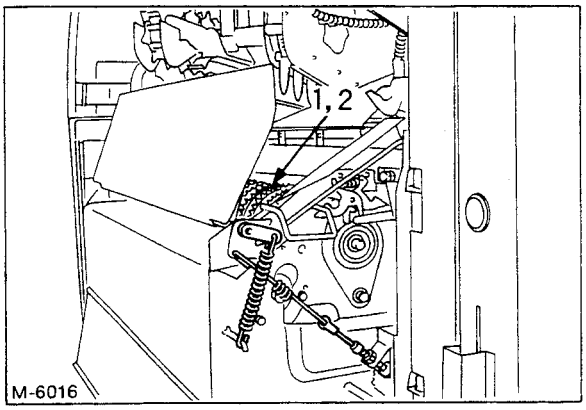
図番	品　名	品　番	適用機種
1	ワイヤ (タンククラッチ)	59715-8135-2	SR50･55･65･75

◆排わら切換えワイヤ



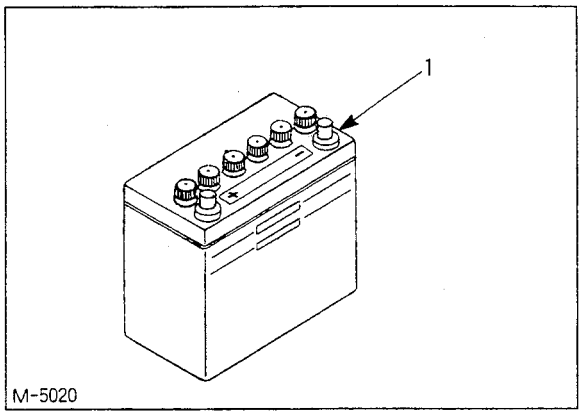
図番	品　名	品　番	適用機種
1	ケーブル(1，レール)黒色	53981-4622-0	SR50·55·65·75
		53881-4622-0	SR35·40·45
2	ケーブル(2，レール)白銀色	53981-4623-0	SR50·55·65·75
		53881-4623-0	SR35·40·45
3	ケーブル(カッタ)	53981-4614-0	SR50·55·65·75
		53881-4614-0	SR35·40·45

◆カッタ刃



図番	品　名	品　番	適用機種
1	セツダンバ(200×21セラミック)	57781-9121-2	全機種
2	セツダンバ(170×21セラミック)	57781-9111-2	全機種

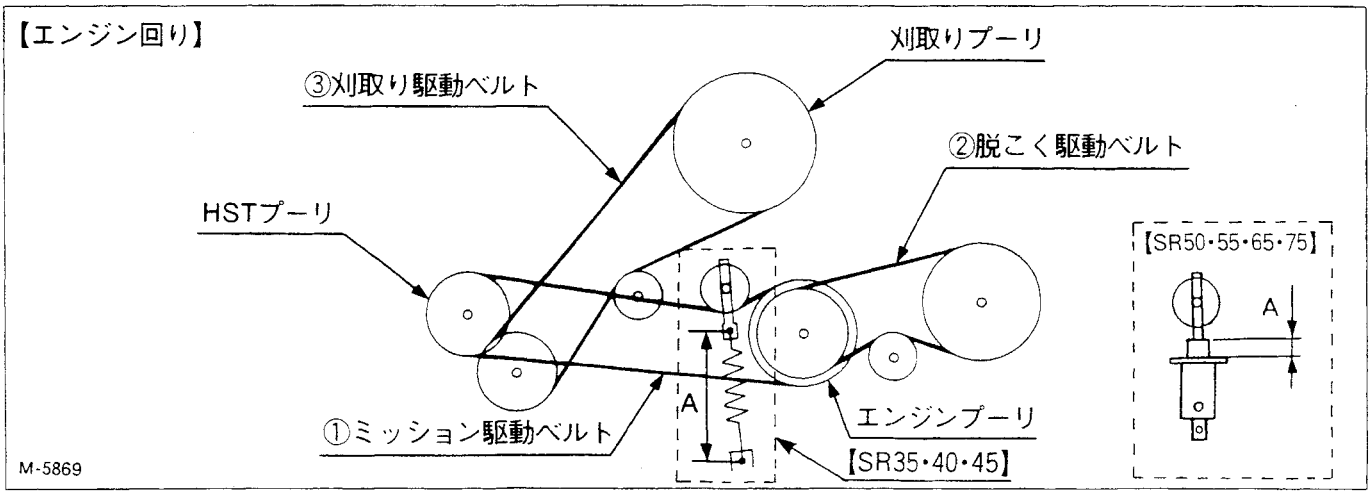
◆バッテリ

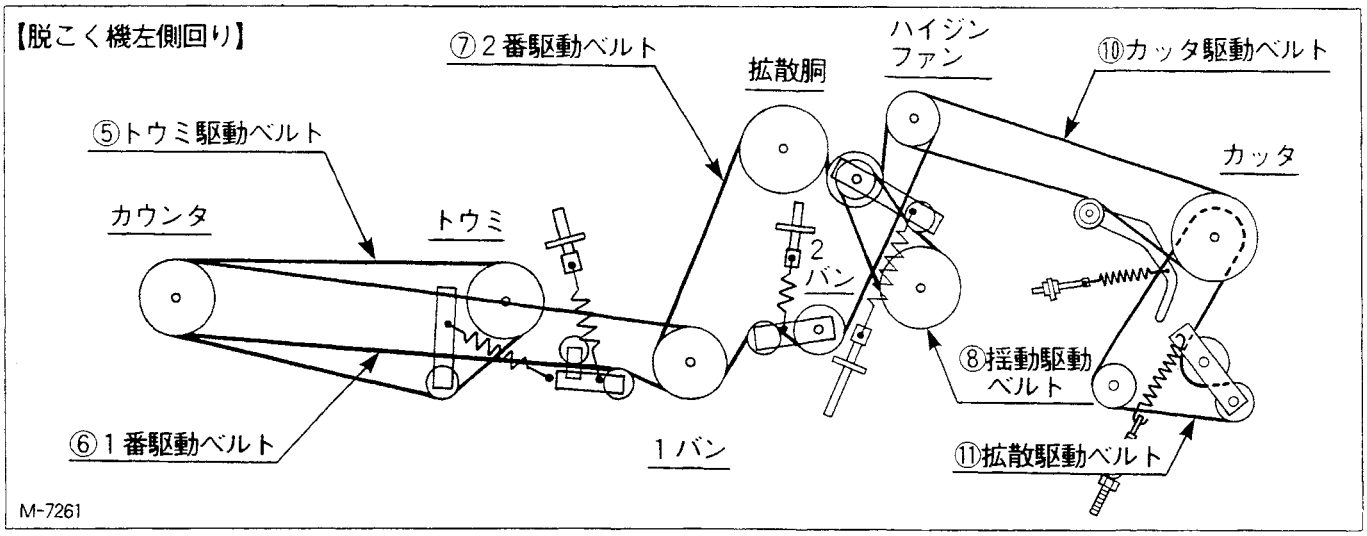


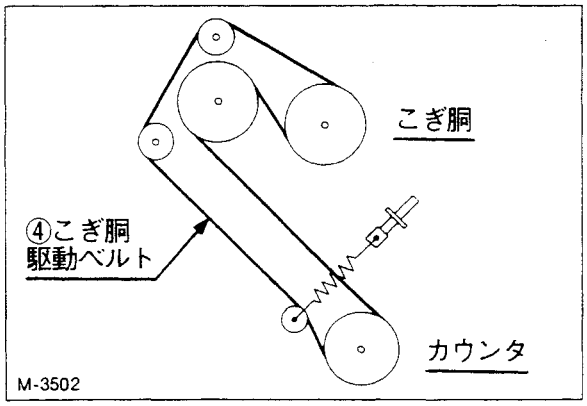
図番	品　名	品　番	適用機種
1	バッテリ(95D31R-MF)	59800-4117-0	SR35·40·45
1	バッテリ(105E41R-MF)	33550-7431-0	SR50·55·65·75

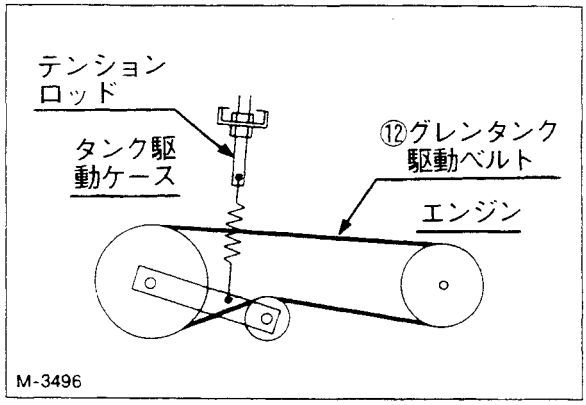
◆結束ひも

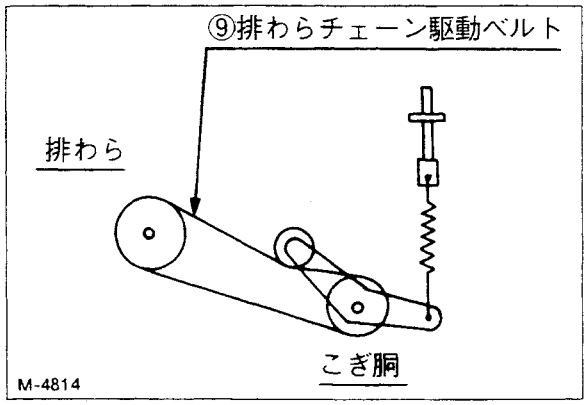
	品　名	品　番
小径ひも	ヒモ(ジュート・テザック)	50080-9441-1
	ヒモ(ジュート・コイズミ)	50080-9442-1
	ヒモ(ハッポウ・テザック)	50080-9421-1
	ヒモ(ハッポウ・コイズミ)	50080-9422-1
	ヒモ(ハッポウ・ツカサ)	50080-9423-1
	ヒモ(ハッポウ・ダイニチ)	50080-9424-1
大径ひも	ヒモ(ジュートダイケイ・テザック)	57961-9441-1
	ヒモ(ハッポウダイケイ・テザック)	57961-9421-1
	ヒモ(ハッポウダイケイ・ダイニチ)	57961-9424-1

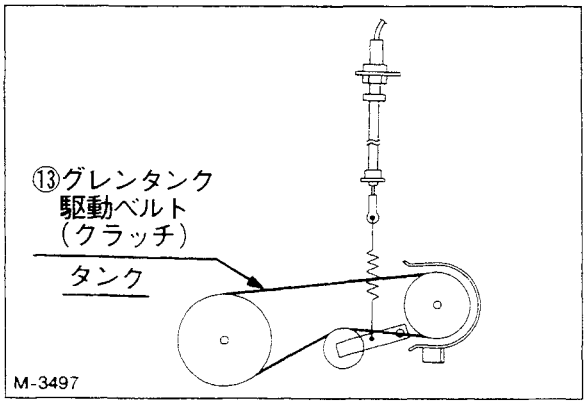

【エンジン回り】
刈取りプーリ
③刈取り駆動ベルト
②脱こく駆動ベルト
HSTプーリ
【SR50・55・65・75】
A
①ミッション駆動ベルト
A
エンジンプーリ
【SR35・40・45】
M-5869


【脱こく機左側回り】
⑦2番駆動ベルト
拡散胴
ハイジン
ファン
⑩カッタ駆動ベルト
⑤トウミ駆動ベルト
カッタ
カウンタ
トウミ
2
バン
⑧揺動駆動
ベルト
⑥1番駆動ベルト
1バン
⑪拡散駆動ベルト
M-7261


こぎ胴
④こぎ胴
駆動ベルト
カウンタ
M-3502


テンション
ロッド
タンク駆
動ケース
⑫グレンタンク
駆動ベルト
エンジン
M-3496


⑨排わらチェーン駆動ベルト
排わら
こぎ胴
M-4814

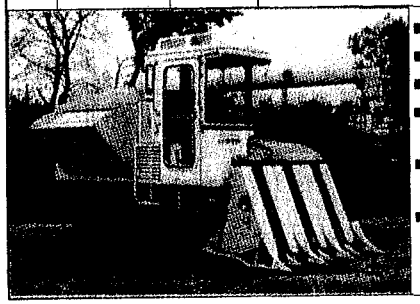

⑬グレンタンク
駆動ベルト
(クラッチ)
タンク
M-3497

No.		ベルトの名称	サイズ							品番
			SR35	SR40	SR45	SR50	SR55	SR65	SR75	
エンジン回り	①	ミッション駆動ベルト	特C46 コグ							59839-1142-2
				特C45コグ						59800-1142-2
						特B54				52270-1146-1
							特B55			59700-1146-1
	②	脱こく駆動ベルト		特C39						59800-1192-1
						特B41T				52200-1157-1
									特B41	59700-1157-1
	③	刈取駆動ベルト	特B40							59839-1288-1
				特B44						59800-1288-1
						特C44.5				52870-1175-1
							特C54			52270-1175-1
脱こく機回り	④	こぎ胴駆動ベルト	特C145							53873-7111-2
				特C146						53985-7111-1
						特C149				53961-7111-1
	⑤	トウミ駆動ベルト		特殊B75						53985-7114-1
						特殊B85				53971-7114-2
									特殊B86	53981-7114-1
	⑥	1番駆動ベルト		特B110						53985-7113-1
						特C119				53981-7113-2
	⑦	2番駆動ベルト		特B108						53881-7112-1
						特C110				53981-7112-1
	⑧	揺動駆動ベルト		特B43						53985-7115-1
						特B42				53961-7115-2
	⑨	排わらチェーン駆動ベルト				特B39				53973-7117-2
	⑩	カッタ駆動ベルト		特B55						57781-5255-1
						特B56				57787-5255-2
	⑪	拡散駆動ベルト【拡散付カッタ仕様】				AA54（六角ベルト）				57298-7218-1
グレンタンク回り	⑫	グレンタンク駆動ベルト		特B47						59820-8124-2
						特C57 コグ				53771-7114-1
							特C56コグ			53671-1591-1
	⑬	グレンタンク駆動ベルト（クラッチ）		特C56						59820-8137-1
						特C69				59715-8137-1

コンバイン(自脱型)検査成績表

合格番号	94077	型式名	クボタ R9405G
		依頼者名	株式会社クボタ
		住所	大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

三十前系特験
平成7年1月
生物系特定産業技術
研究推進機構



- 乗用型，6条刈
- 穀粒処理方式：タンク式
- 機関出力：55.2kW {75PS} /2800rpm
- 走行変速方式：HSTによる無段変速(主変速)
  ギヤ変速3段(副変速)
- 走行速度：前　進0～2.39m/s
  後　進0～2.39m/s
- 自動方向制御装置，自動刈高さ制御装置，自動こぎ深さ制御装置，自動車速制御装置，自動選別制御装置，自動車体水平制御装置

Ⅰ 主要諸元・構造

1. 機体の大きさ(作業状態，カッタ付き)
- 全長：482cm(アンローダ先端～カッタ後部)
- 全幅：283cm(グレンタンク～左分草桿)
- 全高：279cm(キャビン)
- 質量：3449kg

2. 機関
- 型式名：クボタF2503-TE-C
- 種類：水冷4サイクル5気筒ディーゼル
- 出力：55.2kW {75PS} /2800rpm
- 始動方式：セルモータ式

3. 走行部
- 形式：ゴムクローラ
- 主変速：HST(無段)
- 副変速：3段
- 走行速度：前進
  0～0.98，0～1.40，0～2.39m/s
  後進
  0～0.98，0～1.40，0～2.39m/s
  (機関定格回転数における計算値)

4. 前処理部
- デバイダ最外側先端間隔：198cm
- 昇降方式：油圧式(刈刃の高さ　-1～50cm)

(1) 引起し装置
- 形式：タインドチェーン方式

(2) 刈取装置
- 形式：往復動刃
- 刃幅：193.6cm

(3) 搬送装置
突起付Vベルト，スターホイル，
タインドチェーン，搬送チェーン

5. 脱穀・選別部
こぎ胴，揺動板(篩)，2番処理機構，
圧風ファン，吸引ファン
- 脱穀方式：下こぎ式
- こぎ胴の径と幅：42.4×100.2cm
- こぎ胴回転数：稲　504rpm，麦　504rpm

6. 穀粒処理部
- 処理方式：タンク式
- 呼称容量：1800ℓ(満杯容量)

7. 排わら処理装置
ディスク形カッタ
集束装置

Ⅱ 検査成績

1. 作業の性能

(1) 能率試験(試験場所：埼玉県北足立郡吹上町)

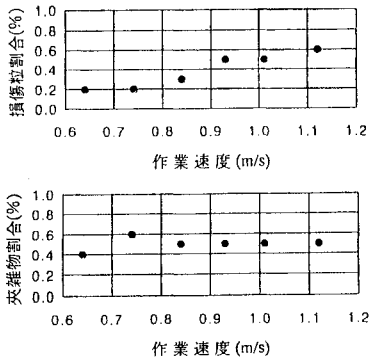
供試作物・品種	作物条件 条間×株間	作物全長	含水率 穀粒	含水率 わら	概略もみ収量(含水率15%換算)
水稲　朝の光	31×17cm	100cm	18.2%	62.1%	570kg/10a

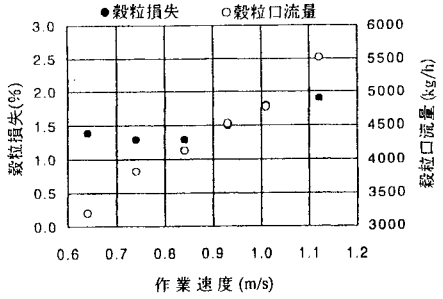
供試ほ場区画	機械刈面積	作業方法	作業速度	穀粒口流量	正味ほ場作業量	ほ場作業量
70.4×61.4m	4315m²	6条左回り刈り	1.08m/s	4128kg/h	56.1a/h	47.9a/h(注)

(注)ほ場4隅の手刈時間とその手こぎ時間を含めた場合の作業量は，47.7a/hであった。

(2) 精度試験(試験場所：埼玉県北足立郡吹上町)

供試作物・品種	作物条件 条間×株間	作物全長	含水率 穀粒	含水率 わら	概略もみ収量(含水率15%換算)
水稲　朝の光	30×16cm	104cm	23.6%	65.9%	690kg/10a





2. 騒　音：87dB(A)
3. 安全装備：可動部・高温部・突起部の防護カバー，昇降部の落下防止装置，その他の装置
4. その他：自動方向制御装置，自動刈高さ制御装置，自動こぎ深さ制御装置，自動選別制御装置，自動車体水平制御装置は円滑に作動した。

正味ほ場作業量：機械刈面積を正味作業時間(刈取及びそれに伴う回行に要する時間)で除した単位時間当たりの作業面積をいう。

ほ場作業量：機械刈面積を収穫開始から終了までの全作業時間で除した単位時間作当たりの作業面積をいう。なお，作業人員は運転者1名である。

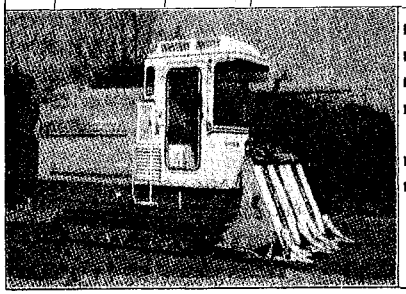
騒　音：刈取作業時の運転者耳元での騒音レベル値。

Ⅲ 付　記

本機は、高性能農業機械等の試験研究、実用化の促進及び導入に関する基本方針(平成5年8月30日農林水産大臣公表)に定められたコンバインの第Ⅲ類自脱型に属するものである。

コンバイン(自脱型)検査成績表

合格番号	95091	型式名	クボタ　R9508G
		依頼者名	株式会社クボタ
		住所	大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号



- 乗用型，5条刈
- 穀粒処理方式：タンク式
- 機関出力：47.8kW{65PS}/2700 rpm
- 走行変速方式：HSTによる無段変速(主変速)
  ギヤ変速3段(副変速)
- 走行速度：前進0～2.39m/s，後進0～2.39m/s
- 自動方向制御装置，自動刈高さ制御装置，自動こぎ深さ制御装置，全量供給機構，自動選別制御装置，自動車速制御装置，自動車体水平制御装置

Ⅰ 主要諸元・構造

1. 機体の大きさ(作業状態，カッタ付き)
- 全長：488 cm(アンローダ先端～カッタ後部)
- 全幅：232 cm(バックミラー～左分草桿)
- 全高：276 cm(キャビン)
- 質量：3322kg

2. 機関
- 型式名：クボタF2503－TE－C1
- 種類：水冷4サイクル5気筒ディーゼル
- 出力：47.8kW{65PS}/2700 rpm
- 始動方式：セルモータ式

3. 走行部
- 形式：ゴムクローラ
- 主変速：HST(無段)
- 副変速：3段
- 走行速度：前進
  0～0.98，0～1.40，0～2.39m/s
  後進
  0～0.98，0～1.40，0～2.39m/s
  (機関定格回転数における計算値)

4. 前処理部
- デバイダ最外側先端間隔：165 cm
- 昇降方式：油圧式(刈刃の高さ －1～46 cm)

(1) 引起し装置
- 形式：タインドチェーン方式

(2) 刈取装置
- 形式：往復動刃
- 刃幅：163.6 cm

(3) 搬送装置
突起付Vベルト，スターホイル，タインドチェーン，搬送チェーン

5. 脱穀・選別部
こぎ胴，揺動板(篩)，拡散胴，2番処理機構，圧風ファン，吸引ファン
- 脱穀方式：下こぎ式
- こぎ胴の径と幅：42.4×100.2 cm
- こぎ胴回転数：504 rpm

6. 穀粒処理部
- 処理方式：タンク式
- 呼称容量：1500 l(満杯容量)

7. 排わら処理装置
ディスク形カッタ
集束装置，結束装置

Ⅱ 検査成績

1. 作業の性能
(1) 能率試験(試験場所：埼玉県北足立郡吹上町)

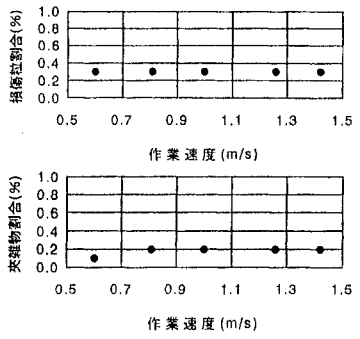
供試作物・品種	作物条件 条間×株間	作物全長	含水率 穀粒	含水率 わら	概略もみ収量(含水率15%換算)
水稲　朝の光	30×15cm	102cm	24.1%	63.1%	760kg/10a

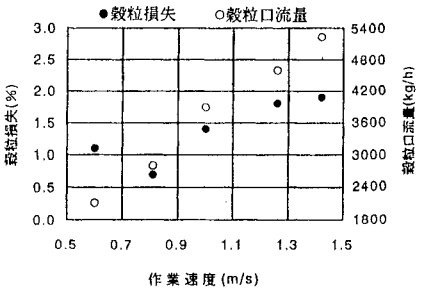
供試ほ場区画	機械刈面積	作業方法	作業速度	穀粒口流量	正味ほ場作業量	ほ場作業量
72.0×54.7m	3934m²	5条左回り刈り	1.37m/s	5938kg/h	52.9a/h	43.4a/h(注)

(注)ほ場4隅の手刈時間とその手こぎ時間を含めた場合の作業量は，40.4a/hであった。

(2) 精度試験(試験場所：埼玉県北足立郡吹上町)

供試作物・品種	作物条件 条間×株間	作物全長	含水率 穀粒	含水率 わら	概略もみ収量(含水率15%換算)
水稲　朝の光	30×19cm	94cm	20.3%	62.8%	660kg/10a





- 騒　音：89dB(A)
- 安全装備：可動部・高温部・突起部の防護カバー，昇降部の落下防止装置，その他の装置
- その他：自動方向制御装置，自動刈高さ制御装置，自動こぎ深さ制御装置，全量供給機構，自動選別制御装置，自動車速制御装置，自動車体水平制御装置は円滑に作動した。

正味ほ場作業量：機械刈面積を正味作業時間(刈取及びそれに伴う回行に要する時間)で除した単位時間当たりの作業面積をいう。

ほ場作業量：機械刈面積を収穫開始から終了までの全作業時間で除した単位時間作当たりの作業面積をいう。なお，作業人員は運転者1名である。

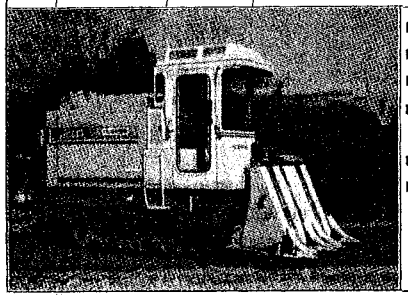
騒音：刈取作業時の運転者耳元での騒音レベル値。

Ⅲ 付記

本機は、高性能農業機械等の試験研究、実用化の促進及び導入に関する基本方針(平成5年8月30日農林水産大臣公表)に定められたコンバインの第Ⅲ類自脱型に属するものである。

コンバイン(自脱型)検査成績表

合格番号	95090	型式名	クボタ　R9509G
		依頼者名	株式会社クボタ
		住所	大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号



- 乗用型，5条刈
- 穀粒処理方式：タンク式
- 機関出力：40.5kW{55PS}/2700 rpm
- 走行変速方式：HSTによる無段変速(主変速)
  ギヤ変速3段(副変速)
- 走行速度：前進0～2.39m/s，後進0～2.39m/s
- 自動方向制御装置，自動刈高さ制御装置，自動こぎ深さ制御装置，全量供給機構，自動選別制御装置，自動車速制御装置，自動車体水平制御装置

Ⅰ 主要諸元・構造

1. 機体の大きさ(作業状態，カッタ付き)
- 全長：488 cm(アンローダ先端～カッタ後部)
- 全幅：232 cm(バックミラー～左分草桿)
- 全高：276 cm(キャビン)
- 質量：3304kg

2. 機関
- 型式名：クボタF2803－C
- 種類：水冷4サイクル5気筒ディーゼル
- 出力：40.5kW{55PS}/2700 rpm
- 始動方式：セルモータ式

3. 走行部
- 形式：ゴムクローラ
- 主変速：HST(無段)
- 副変速：3段
- 走行速度：前進
  0～0.98，0～1.40，0～2.39m/s
  後進
  0～0.98，0～1.40，0～2.39m/s
  (機関定格回転数における計算値)

4. 前処理部
- デバイダ最外側先端間隔：165 cm
- 昇降方式：油圧式(刈刃の高さ －1～46 cm)

(1) 引起し装置
- 形式：タインドチェーン方式

(2) 刈取装置
- 形式：往復動刃
- 刃幅：163.6 cm

(3) 搬送装置
突起付Vベルト，スターホイル，タインドチェーン，搬送チェーン

5. 脱穀・選別部
こぎ胴，揺動板(篩)，拡散胴，2番処理機構，圧風ファン，吸引ファン
- 脱穀方式：下こぎ式
- こぎ胴の径と幅：42.4×100.2 cm
- こぎ胴回転数：504 rpm

6. 穀粒処理部
- 処理方式：タンク式
- 呼称容量：1500 l (満杯容量)

7. 排わら処理装置
ディスク形カッタ
集束装置，結束装置

Ⅱ 検査成績

1. 作業の性能
(1) 能率試験(試験場所：埼玉県北足立郡吹上町)

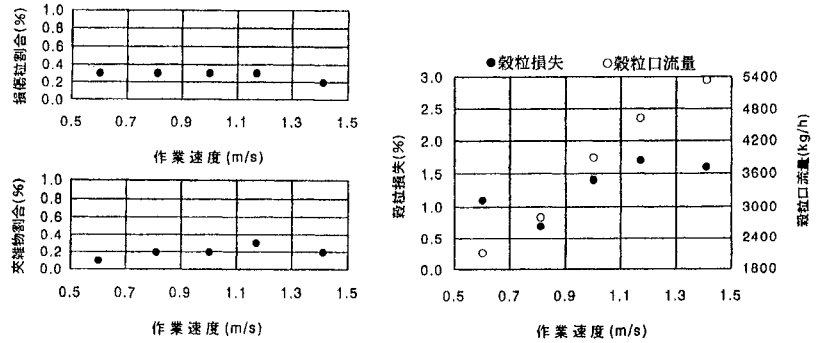
供試作物・品種	作物条件 条間×株間	作物全長	含水率 穀粒	含水率 わら	概略もみ収量(含水率15%換算)
水稲　朝の光	29×17cm	98cm	22.2%	61.1%	680kg/10a

供試ほ場区画	機械刈面積	作業方法	作業速度	穀粒口流量	正味ほ場作業量	ほ場作業量
67.3×46.4m	3120m²	5条左回り刈り	1.18m/s	4615kg/h	48.6a/h	41.6a/h(注)

(注)ほ場4隅の手刈時間とその手こぎ時間を含めた場合の作業量は，39.5a/hであった。

(2) 精度試験(試験場所：埼玉県北足立郡吹上町)

供試作物・品種	作物条件 条間×株間	作物全長	含水率 穀粒	含水率 わら	概略もみ収量(含水率15%換算)
水稲　朝の光	30×19cm	94cm	20.3%	62.8%	660kg/10a



2. 騒　　音：90dB(A)
3. 安全装備：可動部・高温部・突起部の防護カバー，昇降部の落下防止装置，その他の装置
4. そ の 他：自動方向制御装置，自動刈高さ制御装置，自動こぎ深さ制御装置，全量供給機構，自動選別制御装置，自動車速制御装置，自動車体水平制御装置は円滑に作動した。

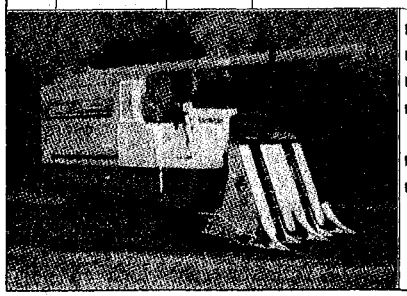
正味ほ場作業量：機械刈面積を正味作業時間(刈取及びそれに伴う回行に要する時間)で除した単位時間当たりの作業面積をいう。
ほ場作業量：機械刈面積を収穫開始から終了までの全作業時間で除した単位時間作当たりの作業面積をいう。なお，作業人員は運転者1名である。
騒　　音：刈取作業時の運転者耳元での騒音レベル値。

Ⅲ 付　　記

本機は、高性能農業機械等の試験研究、実用化の促進及び導入に関する基本方針(平成5年8月30日農林水産大臣公表)に定められたコンバインの第Ⅲ類自脱型に属するものである。

コンバイン(自脱型)検査成績表

合格番号	95089	型式名	クボタ　R9510G
		依頼者名	株式会社クボタ
		住所	大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号



- 乗用型，4条刈
- 穀粒処理方式：タンク式
- 機関出力：36.8kW{50PS}/2500 rpm
- 走行変速方式：HSTによる無段変速(主変速)
  ギヤ変速3段(副変速)
- 走行速度：前進0～2.39m/s，後進0～2.39m/s
- 自動方向制御装置，自動刈高さ制御装置，自動こぎ深さ制御装置，全量供給機構，自動選別制御装置，自動車速制御装置，自動車体水平制御装置

Ⅰ 主要諸元・構造

1. 機体の大きさ(作業状態，カッタ付き)
- 全長：491 cm(アンローダ先端～カッタ後部)
- 全幅：223 cm(ステップ～左分草桿)
- 全高：255 cm(アンローダ)
- 質量：3091kg

2. 機関
- 型式名：クボタF2803－C－1
- 種類：水冷4サイクル5気筒ディーゼル
- 出力：36.8kW{50PS}/2500 rpm
- 始動方式：セルモータ式

3. 走行部
- 形式：ゴムクローラ
- 主変速：HST(無段)
- 副変速：3段
- 走行速度：前進
  0～0.98，0～1.40，0～2.39m/s
  後進
  0～0.98，0～1.40，0～2.39m/s
  (機関定格回転数における計算値)

4. 前処理部
- デバイダ最外側先端間隔：140 cm
- 昇降方式：油圧式(刈刃の高さ　1～48 cm)

(1) 引起し装置
- 形式：タインドチェーン方式

(2) 刈取装置
- 形式：往復動刃
- 刃幅：138.6 cm

(3) 搬送装置
突起付Vベルト，スターホイル，タインドチェーン，搬送チェーン

5. 脱穀・選別部
こぎ胴，揺動板(篩)，拡散胴，2番処理機構，圧風ファン，吸引ファン
- 脱穀方式：下こぎ式
- こぎ胴の径と幅：42.4×100.2 cm
- こぎ胴回転数：504 rpm

6. 穀粒処理部
- 処理方式：タンク式
- 呼称容量：1500 l (満杯容量)

7. 排わら処理装置
ディスク形カッタ
集束装置，結束装置

Ⅱ 検査成績

1. 作業の性能

(1) 能率試験(試験場所：埼玉県北足立郡吹上町)

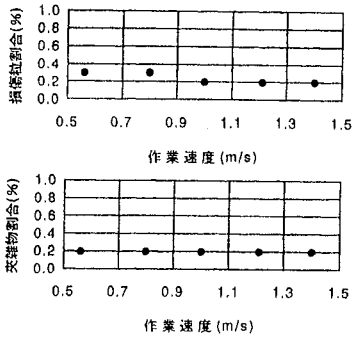
供試作物・品種	条間×株間	作物全長	作物条件 含水率 穀粒	作物条件 含水率 わら	概略もみ収量(含水率15%換算)
水稲　朝の光	30×18cm	98cm	20.6%	58.8%	720kg/10a

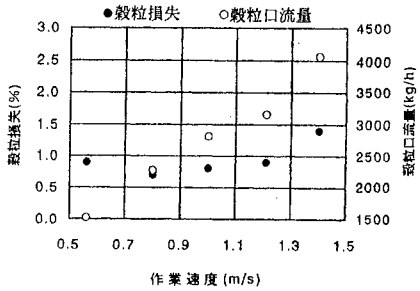
供試ほ場区画	機械刈面積	作業方法	作業速度	穀粒口流量	正味ほ場作業量	ほ場作業量
70.0×42.8m	2982m²	4条左回り刈り	1.40m/s	4428kg/h	44.0a/h	37.8a/h(注)

(注)ほ場4隅の手刈時間とその手こぎ時間を含めた場合の作業量は，31.3a/hであった。

(2) 精度試験(試験場所：埼玉県北足立郡吹上町)

供試作物・品種	条間×株間	作物全長	作物条件 含水率 穀粒	作物条件 含水率 わら	概略もみ収量(含水率15%換算)
水稲　朝の光	30×19cm	91cm	20.0%	62.6%	600kg/10a





2. 騒　　音：93dB(A)
3. 安全装備：可動部・高温部・突起部の防護カバー，昇降部の落下防止装置，その他の装置
4. そ の 他：自動方向制御装置，自動刈高さ制御装置，自動こぎ深さ制御装置，全量供給機構，自動選別制御装置，自動車速制御装置，自動車体水平制御装置は円滑に作動した。

正味ほ場作業量：機械刈面積を正味作業時間(刈取及びそれに伴う回行に要する時間)で除した単位時間当たりの作業面積をいう。
ほ場作業量：機械刈面積を収穫開始から終了までの全作業時間で除した単位時間作当たりの作業面積をいう。なお，作業人員は運転者1名である。
騒　　音：刈取作業時の運転者耳元での騒音レベル値。

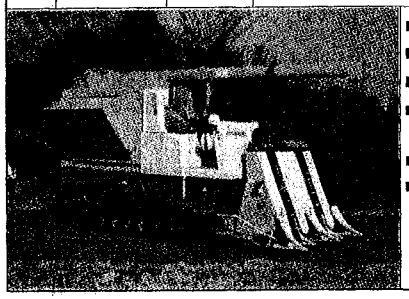
Ⅲ 付　　記

本機は、高性能農業機械等の試験研究、実用化の促進及び導入に関する基本方針(平成5年8月30日農林水産大臣公表)に定められたコンバインの第Ⅱ類自脱型に属するものである。

コンバイン(自脱型)検査成績表

合格番号	95088	型式名	クボタ R9511G
		依頼者名	株式会社クボタ
		住所	大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

平成8年2月29日 生物系特定産業技術研究推進機構



- 乗用型，4条刈
- 穀粒処理方式：タンク式
- 機関出力：33.1kW[45PS]/2700 rpm
- 走行変速方式：HSTによる無段変速(主変速)
  ギヤ変速3段(副変速)
- 走行速度：前進0～2.39m/s，後進0～2.39m/s
- 自動方向制御装置，自動刈高さ制御装置，自動こぎ深さ制御装置，全量供給機構，自動選別制御装置，自動車速制御装置，自動車体水平制御装置

Ⅰ 主要諸元・構造

1. 機体の大きさ(作業状態，カッタ付き)
- 全長：452 cm(アンローダ先端～カッタ後部)
- 全幅：260 cm(グレンタンク～左分草桿)
- 全高：249 cm(アンローダ)
- 質量：2814kg

2. 機関
- 型式名：クボタV2203－C
- 種類：水冷4サイクル4気筒ディーゼル
- 出力：33.1kW[45PS]/2700 rpm
- 始動方式：セルモータ式

3. 走行部
- 形式：ゴムクローラ
- 主変速：HST(無段)
- 副変速：3段
- 走行速度：前進
  0～0.98，0～1.40，0～2.39m/s
  後進
  0～0.98，0～1.40，0～2.39m/s
  (機関定格回転数における計算値)

4. 前処理部
- デバイダ最外側先端間隔：140m
- 昇降方式：油圧式(刈刃の高さ －1～49 cm)

(1) 引起し装置
- 形式：タインドチェーン方式

(2) 刈取装置
- 形式：往復動刃
- 刃幅：138.6 cm

(3) 搬送装置
突起付Vベルト，スターホイル，タインドチェーン，搬送チェーン

5. 脱穀・選別部
こぎ胴，揺動板(篩)，拡散胴，2番処理機構，圧風ファン，吸引ファン
- 脱穀方式：下こぎ式
- こぎ胴の径と幅：42.4×80.2 cm
- こぎ胴回転数：504 rpm

6. 穀粒処理部
- 処理方式：タンク式
- 呼称容量：1200 l (満杯容量)

7. 排わら処理装置
ディスク形カッタ
集束装置，結束装置

Ⅱ 検査成績

1．作業の性能

(1) 能率試験(試験場所：埼玉県北足立郡吹上町)

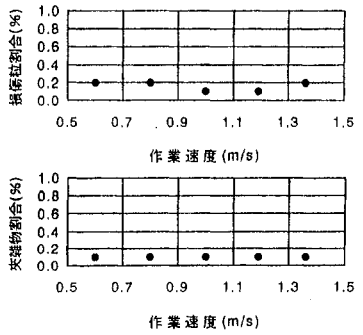
供試作物・品種	条間×株間	作物全長	作物条件 含水率 穀粒	作物条件 含水率 わら	概略もみ収量(含水率15%換算)
水稲 朝の光	30×17cm	99cm	22.0%	66.0%	690kg/10a

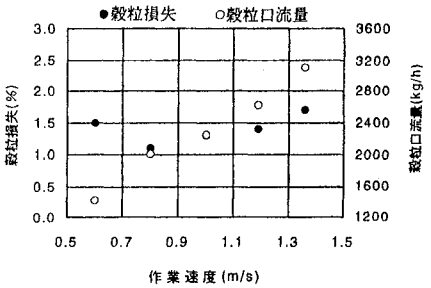
供試ほ場区画	機械刈面積	作業方法	作業速度	穀粒口流量	正味ほ場作業量	ほ場作業量
70.7×58.7m	4140m²	4条左回り刈り	1.28m/s	3883kg/h	41.2a/h	35.7a/h(注)

(注)ほ場4隅の手刈時間とその手こぎ時間を含めた場合の作業量は，32.7a/hであった。

(2) 精度試験(試験場所：埼玉県北足立郡吹上町)

供試作物・品種	条間×株間	作物全長	作物条件 含水率 穀粒	作物条件 含水率 わら	概略もみ収量(含水率15%換算)
水稲 朝の光	29×16cm	84cm	20.7%	65.2%	500kg/10a





2．騒　　音：91dB(A)

3．安全装備：可動部・高温部・突起部の防護カバー，昇降部の落下防止装置，その他の装置

4．そ の 他：自動方向制御装置，自動刈高さ制御装置，自動こぎ深さ制御装置，全量供給機構，自動選別制御装置，自動車速制御装置，自動車体水平制御装置は円滑に作動した。

正味ほ場作業量：機械刈面積を正味作業時間(刈取及びそれに伴う回行に要する時間)で除した単位時間当たりの作業面積をいう。

ほ場作業量：機械刈面積を収穫開始から終了までの全作業時間で除した単位時間作当たりの作業面積をいう。なお，作業人員は運転者1名である。

騒　　音：刈取作業時の運転者耳元での騒音レベル値。

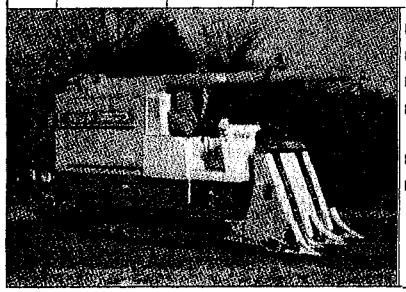
Ⅲ 付　　記

本機は、高性能農業機械等の試験研究、実用化の促進及び導入に関する基本方針(平成5年8月30日農林水産大臣公表)に定められたコンバインの第Ⅱ類自脱型に属するものである。

コンバイン(自脱型)検査成績表

合格番号	95087	型式名	クボタ　R9512G
		依頼者名	株式会社クボタ
		住所	大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

平成5年2月9日 生物系特定産業技術研究推進機構



- 乗用型，4条刈
- 穀粒処理方式：タンク式
- 機関出力：29.4kW{40PS}/2500 rpm
- 走行変速方式：HSTによる無段変速(主変速)
  ギヤ変速3段(副変速)
- 走行速度：前進0～2.39m/s，後進0～2.39m/s
- 自動方向制御装置，自動刈高さ制御装置，自動こぎ深さ制御装置，全量供給機構，自動選別制御装置，自動車速制御装置，自動車体水平制御装置

Ⅰ 主要諸元・構造

1．機体の大きさ(作業状態，カッタ付き)

- 全長：440cm(アンローダ先端～カッタ後部)
- 全幅：217cm(ステップ～左分草桿)
- 全高：252cm(アンローダ)
- 質量：2791kg

2．機関

- 型式名：クボタV2203－C－1
- 種類：水冷4サイクル4気筒ディーゼル
- 出力：29.4kW{40PS}/2500 rpm
- 始動方式：セルモータ式

3．走行部

- 形式：ゴムクローラ
- 主変速：HST(無段)
- 副変速：3段
- 走行速度：前進
  0～0.98，0～1.40，0～2.39m/s
  後進
  0～0.98，0～1.40，0～2.39m/s
  (機関定格回転数における計算値)

4．前処理部

- デバイダ最外側先端間隔：140cm
- 昇降方式：油圧式(刈刃の高さ　1～51cm)

(1) 引起し装置
- 形式：タインドチェーン方式

(2) 刈取装置
- 形式：往復動刃
- 刃幅：138.6cm

(3) 搬送装置
突起付Vベルト，スターホイル，タインドチェーン，搬送チェーン

5．脱穀・選別部

こぎ胴，揺動板(簡)，拡散胴，2番処理機構，圧風ファン，吸引ファン

- 脱穀方式：下こぎ式
- こぎ胴の径と幅：42.4×80.2cm
- こぎ胴回転数：480rpm

6．穀粒処理部

- 処理方式：タンク式
- 呼称容量：900 l (満杯容量)

7．排わら処理装置

ディスク形カッタ
集束装置，結束装置

Ⅱ 検査成績

1．作業の性能

(1) 能率試験(試験場所：埼玉県北足立郡吹上町)

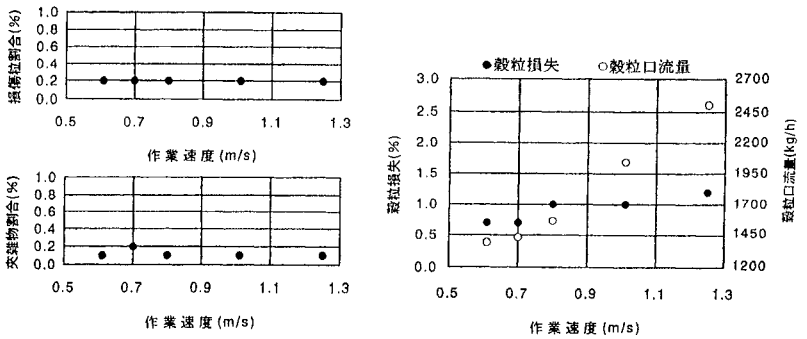
供試作物・品種	作物条件 条間×株間	作物全長	含水率 穀粒	含水率 わら	概略もみ収量(含水率15%換算)
水稲　朝の光	30×18cm	98cm	20.4%	61.9%	710kg/10a

供試ほ場区画	機械刈面積	作業方法	作業速度	穀粒口流量	正味ほ場作業量	ほ場作業量
69.9×38.6m	2690m²	4条左回り刈り	1.13m/s	3441kg/h	36.3a/h	31.7a/h(注)

(注)ほ場4隅の手刈時間とその手こぎ時間を含めた場合の作業量は，28.1a/hであった。

(2) 精度試験(試験場所：埼玉県北足立郡吹上町)

供試作物・品種	作物条件 条間×株間	作物全長	含水率 穀粒	含水率 わら	概略もみ収量(含水率15%換算)
水稲　朝の光	29×16cm	84cm	20.7%	65.2%	500kg/10a



2．騒　　音：90dB(A)

3．安全装備：可動部・高温部・突起部の防護カバー，昇降部の落下防止装置，その他の装置

4．そ の 他：自動方向制御装置，自動刈高さ制御装置，自動こぎ深さ制御装置，全量供給機構，自動選別制御装置，自動車速制御装置，自動車体水平制御装置は円滑に作動した。

正味ほ場作業量：機械刈面積を正味作業時間(刈取及びそれに伴う回行に要する時間)で除した単位時間当たりの作業面積をいう。

ほ場作業量：機械刈面積を収穫開始から終了までの全作業時間で除した単位時間作当たりの作業面積をいう。なお，作業人員は運転者1名である。

騒　　音：刈取作業時の運転者耳元での騒音レベル値。

Ⅲ 付　　記

本機は、高性能農業機械等の試験研究、実用化の促進及び導入に関する基本方針(平成5年8月30日農林水産大臣公表)に定められたコンバインの第Ⅱ類自脱型に属するものである。

コンバイン(自脱型)検査成績表

合格番号	95086	型式名	クボタ　R9513G
		依頼者名	株式会社クボタ
		住所	大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

平成3年2月27日
生物系特定産業技術研究推進機構

- 乗用型，3条刈
- 穀粒処理方式：タンク式
- 機関出力：25.7kW{35PS}/2500 rpm
- 走行変速方式：HSTによる無段変速(主変速)
  ギヤ変速3段(副変速)
- 走行速度：前進0～2.39m/s，後進0～2.39m/s
- 自動方向制御装置，自動刈高さ制御装置，自動こぎ深さ制御装置，全量供給機構，自動選別制御装置，自動車速制御装置，自動車体水平制御装置

Ⅰ 主要諸元・構造

1. 機体の大きさ(作業状態，カッタ付き)
- 全長：430 cm(アンローダ先端～カッタ後部)
- 全幅：206 cm(ステップ～左分草桿)
- 全高：248 cm(アンローダ)
- 質量：2707kg

2. 機関
- 型式名：クボタV2203－C－2
- 種類：水冷4サイクル4気筒ディーゼル
- 出力：25.7kW{35PS}/2500 rpm
- 始動方式：セルモータ式

3. 走行部
- 形式：ゴムクローラ
- 主変速：HST(無段)
- 副変速：3段
- 走行速度：前進
  0～0.98，0～1.40，0～2.39m/s
  後進
  0～0.98，0～1.40，0～2.39m/s
  (機関定格回転数における計算値)

4. 前処理部
- デバイダ最外側先端間隔：115 cm
- 昇降方式：油圧式(刈刃の高さ －1～40 cm)

(1) 引起し装置
- 形式：タインドチェーン方式

(2) 刈取装置
- 形式：往復動刃
- 刃幅：115 cm

(3) 搬送装置
突起付Vベルト，スターホイル，タインドチェーン，搬送チェーン

5. 脱穀・選別部
こぎ胴，揺動板(篩)，拡散胴，2番処理機構，圧風ファン，吸引ファン
- 脱穀方式：下こぎ式
- こぎ胴の径と幅：42.4×80.2 cm
- こぎ胴回転数：480 rpm

6. 穀粒処理部
- 処理方式：タンク式
- 呼称容量：900 l (満杯容量)

7. 排わら処理装置
ディスク形カッタ
集束装置，結束装置

Ⅱ 検査成績

1. 作業の性能

(1) 能率試験(試験場所：埼玉県北足立郡吹上町)

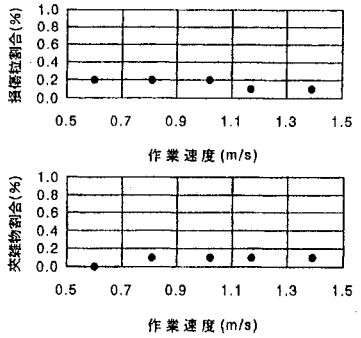
供試作物・品種	作物条件 条間×株間	作物全長	含水率 穀粒	含水率 わら	概略もみ収量(含水率15%換算)
水稲　朝の光	30×17cm	95cm	20.6%	61.9%	640kg/10a

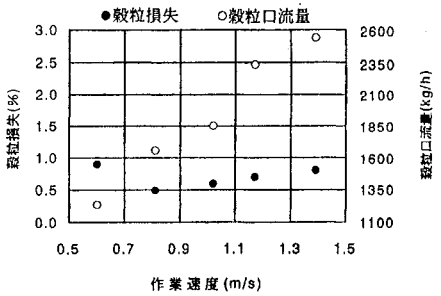
供試ほ場区画	機械刈面積	作業方法	作業速度	穀粒口流量	正味ほ場作業量	ほ場作業量
70.1×28.5m	1989m²	3条左回り刈り	1.34m/s	2771kg/h	29.4a/h	26.2a/h(注)

(注)ほ場4隅の手刈時間とその手こぎ時間を含めた場合の作業量は，23.5a/hであった。

(2) 精度試験(試験場所：埼玉県北足立郡吹上町)

供試作物・品種	作物条件 条間×株間	作物全長	含水率 穀粒	含水率 わら	概略もみ収量(含水率15%換算)
水稲　朝の光	29×16cm	88cm	21.8%	64.7%	600kg/10a





2. 騒　　音：91dB(A)
3. 安全装備：可動部・高温部・突起部の防護カバー，昇降部の落下防止装置，その他の装置
4. そ の 他：自動方向制御装置，自動刈高さ制御装置，自動こぎ深さ制御装置，全量供給機構，自動選別制御装置，自動車速制御装置，自動車体水平制御装置は円滑に作動した。

正味ほ場作業量：機械刈面積を正味作業時間(刈取及びそれに伴う回行に要する時間)で除した単位時間当たりの作業面積をいう。
ほ場作業量：機械刈面積を収穫開始から終了までの全作業時間で除した単位時間作当たりの作業面積をいう。なお，作業人員は運転者1名である。
騒　　音：刈取作業時の運転者耳元での騒音レベル値。

Ⅲ 付　　記

本機は、高性能農業機械等の試験研究、実用化の促進及び導入に関する基本方針(平成5年8月30日農林水産大臣公表)に定められたコンバインの第Ⅰ類自脱型に属するものである。

クボタ純オイル

■オイルは クボタ純オイル をお使いください。

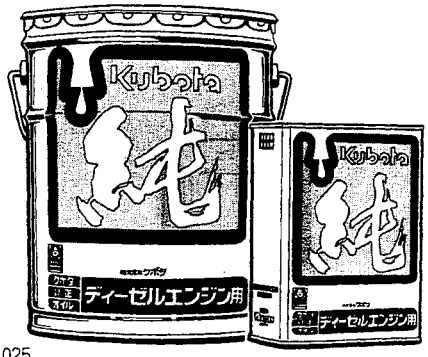
オイルは，コンバインの開発研究から生まれたクボタ純オイルを，必ずお使いください。
市販のオイルをご使用になりますと，あなたの大切なコンバインの寿命を縮めることがあります。

お買求めは，販売店又はＪＡ農協へご用命ください。

●エンジンには…

■クボタ純オイル

D30又はD10W30
ターボ付エンジンはD10W30スーパーCD，
又はD30スーパーCD
（ディーゼルエンジン用）



Z-1025　20ℓ　4ℓ

●ギヤーケース，脱こく機，結束機には…

■クボタ純オイル

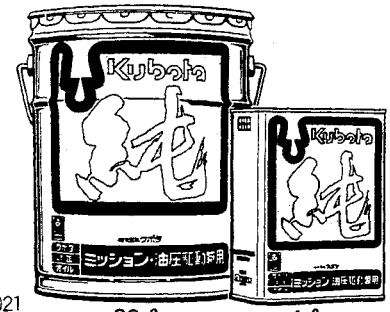
M90又は80B

Z-1023　20ℓ　4ℓ

●ミッションオイル，オイルタンク（HST）には…

■クボタ純オイル

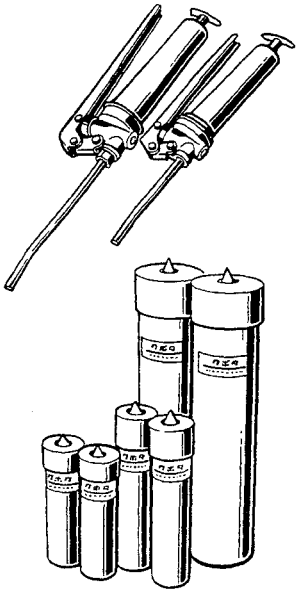
NEW･UDT又はスーパーUDT
（ミッション・油圧兼用）



Z-1021　20ℓ　4ℓ

●グリースアップには…

■クボタスペアグリース



Z-1026　60　100　400

ラットガード

ラットガード クボタ純正品

ネズミよけスプレー塗料

品　番	品　名
07909-24590	ラットガード

■ネズミよけ塗料は…

- 機械の配線コード，ベルト，管，ホースなどへ
- ネズミの巣となりそうなところへ
- かじられたくないものを保管するカバー・袋・箱・ケースなどへ
- 家具・建具・調度品などへ

■ネズミよけ塗料の効果的なご使用は…

- ネズミが物を噛る場合の習性は，かどの部分から噛り始めます。決して平面部分から噛り始めることはありませんので，かどの部分を重点的に**ネズミよけ塗料**を塗布してください。
- 電線・管などの断面積の円形のもの，又は細いものは２～３cmの距離からノズルを軽く押えながら全体的に塗布してください。
- ネズミの通路を防ぐ場合は，ウエス・紙などでフタをし，その上から**ネズミよけ塗料**を塗布してください。
- ネズミの巣となりそうなところへは，その周辺から中心に向って，厚めに**ネズミよけ塗料**を塗布してください。

■ネズミよけ塗料の適用範囲は…

- ネズミはもちろんのこと，モグラ，イタチ，ウサギ，鹿などの動物にも効果があります。

■塗布の有効期間は…

- 塗布する厚み，場所などの条件により有効期間は異なりますが，容器に表示の量(１カンで2.8㎡)を使用した場合，次の効果があります。

	条件の良いところ	標　準	条件の悪いところ
味覚効果	1.5年～2年	1年～1.5年	6ヵ月～1年
臭気効果	8ヵ月～1年	6～8ヵ月	3～6ヵ月

※条件の悪いところは，
直射日光の当たるところ。風雨にさらされやすいところ。湿気の多いところなどです。

※条件の悪いところでは，容器に表示の量より厚めに塗布してください。有効期間が長くなります。

M-1027改　　420ｍℓ

注　意

＊ネズミよけ塗料は，殺鼠剤ではありません。ネズミにかじられそうなところへ塗布することにより，ネズミの害から守るための製品です。

＊ご使用に際しては，製品に記載の注意事項を守ってください。

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は製造打ち切り後９年といたします。
ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的には上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因となります。

株式会社クボタ

本社	大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号	〒556	電(06)	648-2111
東京本社	東京都中央区日本橋室町３丁目１番３号	〒103	電(03)	3245-3111
北海道支社	札幌市中央区北３条西３丁目１番地44(札幌富士ビル)	〒060	電(011)	214-3111
東北支社	仙台市青葉区本町２丁目15番11号	〒980	電(022)	267-9000
中部支社	名古屋市中村区名駅３丁目22番８号(大東海ビル)	〒450	電(052)	564-5111
九州支社	福岡市博多区博多駅前３丁目２番８号(住友生命博多ビル)	〒812	電(092)	473-2401
札幌支店	札幌市西区西町北16丁目１番１号	〒063	電(011)	662-2121
仙台支店	名取市田高字原182番地の１	〒981-12	電(022)	384-5151
東京支店	浦和市西堀５丁目２番36号	〒338	電(048)	862-1121
大阪支店	大阪府堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号	〒590	電(0722)	41-8506
岡山支店	岡山市宍甘275番地	〒703	電(0862)	79-4511
福岡支店	福岡市東区和白丘２丁目２番76号	〒811-02	電(092)	606-3161
堺製造所	堺市石津北町64番地	〒590	電(0722)	41-1121
宇都宮工場	宇都宮市平出工業団地22番地２	〒321	電(0286)	61-1111
筑波工場	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-24	電(0297)	52-5112
枚方製造所	枚方市中宮大池１丁目１番１号	〒573	電(0720)	40-1121
西日本総合部品センター	堺市築港新町３丁８番	〒592	電(0722)	45-8601
東日本総合部品センター	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-24	電(0297)	52-0510
北海道部品センター	北海道北広島市大曲工業団地３丁目１番地	〒061-12	電(011)	376-2335
九州部品センター	福岡市東区和白丘２-２-76	〒811-02	電(092)	606-3161

株式会社クボタアグリ東北

秋田事業所	秋田市寺内字大小路207-54	〒011	電(0188)	45-1601
仙台事業所	宮城県名取市田高字原182-１	〒981-12	電(022)	384-5151

株式会社クボタアグリ東京

東京事業所	浦和市西堀５-２-36	〒338	電(048)	862-1121
新潟事業所	新潟市上所上１-14-15	〒950	電(025)	285-1261

株式会社クボタアグリ大阪

金沢事業所	石川県松任市下柏野町956-１	〒924	電(0762)	75-1121
名古屋事業所	愛知県一宮市観音町１-１	〒491	電(0586)	24-5111
大阪事業所	大阪府堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号	〒590	電(0722)	41-8550

株式会社クボタアグリ中四国

米子事業所	米子市米原７丁目１番１号	〒683	電(0859)	33-5011
岡山事業所	岡山市宍甘275	〒703	電(0862)	79-4511
高松事業所	香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-３	〒769-01	電(0878)	74-5091

株式会社クボタアグリ九州

福岡事業所	福岡市東区和白丘２-２-76	〒811-02	電(092)	606-3161
熊本事業所	熊本県下益城郡富合町大字廻江846-１	〒861-41	電(096)	357-6181

品番　59700—8552—1

Kubota